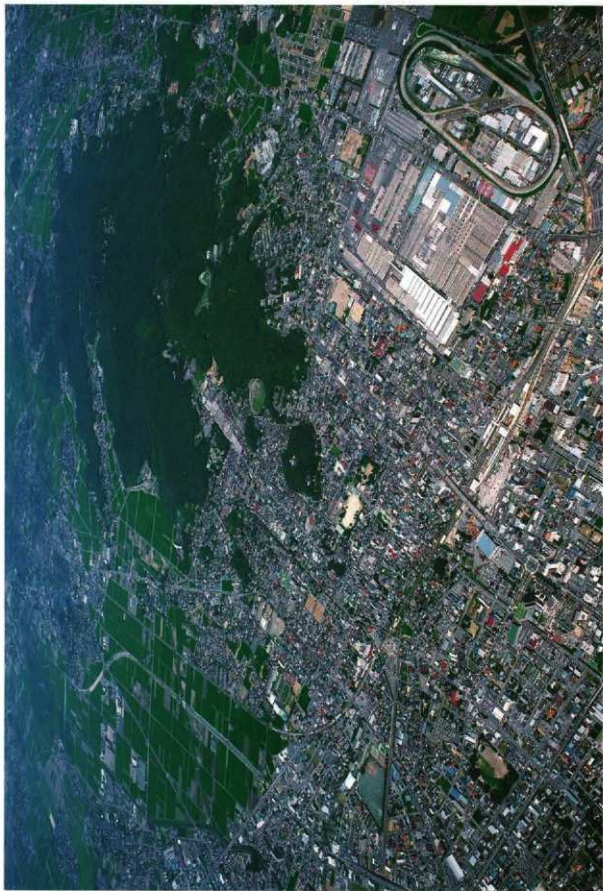


塚 畑 遺 跡
宮 内 遺 跡
稲 荷 前 遺 跡
三 島 木 遺 跡
城 ノ 内 遺 跡

東武鉄道伊勢崎線外2線
太田駅付近連続立体交差事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集

2006

群 馬 県 県 土 整 備 局
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



「空から群馬」太田市中心街 上毛新聞社刊から

序

本書は東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に先立って、平成12～15年度に互り発掘調査が行われた『塚畑遺跡・宮内遺跡・稲荷前遺跡・三島木遺跡・城内遺跡』についての報告書で、先般出版した第1集『浜町遺跡』に続くものであります。群馬県県土整備局(旧県土木部)太田土木事務所から委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査及び整理事業を実施しました。

周辺を見渡すと、金山丘陵や八王子丘陵には古墳群、須恵器古窯跡・製鉄炉跡、平坦地には寺井庵寺や入谷遺跡などの古代官衙があったことが分かっています。また、近年次々に行われている河川改修、土地改良工事、主要幹線道の改築工事、北関東自動車道建設に伴う発掘調査により、律令時代の幹線道路であった東山道駅路跡の経路が明らかになり、太田市北部の歴史が徐々に解明されつつあるところであります。

今回、本事業に伴い東武鉄道線路沿いに、細く長く発掘調査が行われ、縄文時代から近世に至る様々な遺構、遺物が発見されました。太田市市史に報告されている中世大鳥城の堀に繋がる堀も追加確認することができました。堀からは、中世の生活を想い描くことができる板碑や内耳鍋なども出土しています。太田市の市街地に立地する集落・城館の変遷を知る上でも貴重な資料の発見であると言えます。

遺跡の発掘調査から本報告書の刊行に至るまでには、県土整備局太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、太田市都市開発部市街地整備課、並びに、東武鉄道株式会社をはじめとする諸機関、さらに、地元関係者や発掘調査等に関わった皆様に大変なご尽力を賜りました。ここに心から感謝申し上げますとともに、本報告書や調査資料が広く歴史の究明に活用されることを念願します。

平成18年1月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 高橋 勇夫

例 言

1. 本報告書は、平成12～15年度に行われた東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に伴う「塚畑遺跡」「宮内遺跡」「稲荷前遺跡」「三島木遺跡」「城ノ内遺跡」の発掘調査報告書である。連続立体交差事業と発掘調査遺跡・調査区の関係は後記別表を参照されたい。

2. 遺跡は、群馬県太田市本町・西本町・浜町・大高町に所在する。

3. 事業主体 群馬県県土整備局太田土木事務所

4. 調査・整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 調査期間	塚畑遺跡	平成13年 9月 28日	～平成13年 12月 28日	1,316㎡
	宮内遺跡 第1期	平成12年 6月 19日	～平成12年 12月 31日	920㎡
	第2期	平成15年 2月 3日	～平成15年 3月 3日	(浜町第3期)
	稲荷前遺跡	平成12年 7月 1日	～平成12年 11月 6日	60㎡
	三島木遺跡	平成12年 11月 1日	～平成13年 3月 31日	466㎡
	城ノ内遺跡	平成12年 11月 1日	～平成13年 3月 31日	990㎡
	浜町遺跡 第1期	平成12年 11月 1日	～平成13年 3月 31日	301㎡
	第2期	平成13年 8月 5日	～平成13年 12月 31日	300㎡
	第3期	平成14年 7月 10日	～平成15年 3月 31日	1,868㎡
	第4期	平成15年 4月 1日	～平成15年 8月 30日	600㎡
	調査面積			6,821㎡

6. 発掘調査・整理事業の体制は次のとおりである。

事務担当 小野宇三郎・吉田 豊・住谷永市・高橋勇夫・木村裕紀・赤山容造・神保佑史・津金沢吉茂・住谷 進・萩原利通・渡辺 健・矢崎俊夫・水田 稔・能登 健・平野進一・巾 隆之・右島和夫・真下高幸・西田健彦・中東耕志・佐藤明人・中沢 悟・相京建史・井川達雄・坂本敏夫・大島信夫・植原恒夫・丸岡道雄・宮前結城雄・小山健夫・国定 均・笠原秀樹・小山健夫・高橋房雄・竹内 宏・須田朋子・吉田有光・阿久澤玄洋・今泉大作・清水秀紀・栗原幸代・柳岡良宏・森下弘美・片岡徳雄・田中健一・大澤友治・吉田恵子・並木綾子・佐藤聖行・内山佳子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・今井もと子・中沢恵子・金子三枝子・松下次男・吉田 茂・藤原正義・武藤秀典

調査担当 能登 健・相京建史・斎藤和之・高井佳弘・伊平 敬・大塚俊和・庭山邦幸・根岸 仁・廣津英一・渡辺弘幸・杉田茂俊・久保 学・小林大悟

整理担当 庭山邦幸・鈴木幹子・桑原恵美子・高梨房江・南雲素子・田中晩美・丸橋富美子・伊東悦子・関口照子・大竹由美子・狩野清美・渡辺弘幸

器械実測 田中精子・酒井史恵・富沢スミ江

保存処理・木器処理 関 邦一・土橋まり子・小村浩一・小池 緑・大野容子・津久井桂一・田中のふ子・森田智子・佐々木茂美

7. 整理期間 平成16年 4月 1日 ～平成18年 3月30日

8. 本報告書の作成担当

編集・執筆 庭山邦幸・渡辺弘幸

遺物観察 縄文土器 山口逸弘

石器、石材鑑定 松村和男

中・近世陶磁器 大西雅広

土師器、須恵器 井川達雄

掘立柱建物 飯森康広

遺物写真撮影 佐藤元彦

遺構写真撮影 前記発掘調査担当者

航空写真撮影 ㈱パスコ・㈱シン技術コンサル

地上測量 ㈱小出測量設計事務所・㈱測設・㈱アコン測量設計

遺構・遺物トレース ㈱支研測量設計・㈱測研

9. 出土遺物並びに測量図・写真等の記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

厳しい気候時においても発掘調査に従事していただいた発掘作業員各位に感謝の意を表したい。

凡 例

1. 遺構番号

本報告書における遺構名称・遺構番号は遺構測量図・出土遺物注記等との整合性を保つため原則として、発掘調査時に付した番号を踏襲した。そのため一部において欠番が生じた。また、遺構名が重複した場合や元々欠番であった場合などは、改めて番号を付した。

2. 調査区番号について

塚廻遺跡、稲荷前遺跡、三高木遺跡、城ノ内遺跡は、調査区単独で1遺跡となっている。宮内遺跡は工事の進捗と住宅の撤去等の都合により、複数年度にわたって調査しており、調査担当も変更している。そのため、調査区ごとに報告を行っている。特に平成12年度の調査は、遺跡名が調査区名になっているため、本報告書においては、宮内遺跡1区とし、平成14年度の調査対象地区を宮内遺跡2区とした。

3. 主軸と方位

本報告書の遺構図・全体図に記された方位記号を示す北は、磁北ではなく座標上の真北を示し、主軸角度等の計算においてもこれを基準として用いた。

4. 図の縮尺

本報告書に掲載の挿図の縮尺は、原則として下記のとおりとした。例外については、挿図内に縮尺を記した。

遺構実測図	住居跡	1:60	住居の竈	1:30	掘立柱建物跡	1:60		
	土坑・井戸	1:40	溝(平面)	1:100	溝(断面)	1:40、1:100		
遺物実測図	土器	1:3	石器	1:3	石製模造品	1:1	大形遺物	1:4、1:6

5. 挿図用トーン



6. 写真図版

遺物の写真は、原則として1:3の縮尺とし、大形遺物1:4、石製模造品1:1で掲載した。これ以外の場合については、その都度縮尺を掲載してある。

7. 色調

遺構土層断面及び遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に拠った。

8. その他

遺構(特に住居竈)の遺存状態がきわめて悪い場合には、遺構図をあえて割愛し、住居平面図のみとした。

9. 遺構の位置を示す数値は、その遺構がかかる国家座標(日本測地系)の南東隅の数値である。

10. 本書で使用した地形図は下記の通りである。

国土地理院	地形図1/25,000	「桐生」	「上野境」
太田市都市計画図	1/2,500、1/5,000		

11. 本書に記載されている市町村名は、平成15年度以前のものを使用している。

第1表 遺跡・調査区・事業一覧表

遺跡名	宮内遺跡	稲荷前遺跡	三角木遺跡	城ノ内遺跡	埴原遺跡	浜町遺跡
所在地	群馬県太田市本町、浜町	群馬県太田市西本町	群馬県太田市西本町	群馬県太田市大島町	群馬県太田市西本町	群馬県太田市本町、浜町、西本町
事業名	東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立休文芸事業					
調査区名	宮内、2区 埴原跡、宮内1区、2区	女L	女L	女L	調査跡、浜町4区	浜町0区、1区、2区、3区、5区、6区
調査面積	1,190㎡	60㎡	496㎡	990㎡	1,316㎡	2,796㎡
調査期間	第1期 平成12年6月19日 ～平成12年12月31日 第2期 平成12年2月3日 ～平成15年3月3日	平成12年7月1日 ～平成12年11月6日	平成12年11月1日 ～平成13年3月31日	平成13年11月1日 ～平成13年3月31日	平成13年9月28日 ～平成13年12月26日	第1期 平成12年11月1日 ～平成13年3月31日 第2期 平成13年8月5日 ～平成13年12月26日 第3期 平成14年7月10日 ～平成15年3月31日 第4期 平成15年4月1日 ～平成15年8月30日
調査担当者	第1期 専門員 高井佳弘 大塚隆和 砂田茂俊 調査研究員 小林大悟 第2期 専門員 高井佳弘 大塚隆和 砂田茂俊 調査研究員 小林大悟 第3期 専門員 高井佳弘 伊半敬 砂田茂俊 調査研究員 小林大悟 第4期 専門員 高井佳弘 伊半敬 砂田茂俊 調査研究員 小林大悟	調査研究部長 船登 巖 調査研究部六課長 相沢雄立 専門員 高井佳弘 調査研究員 大塚隆和 砂田茂俊 調査研究員 小林大悟	調査研究部六課長 相沢雄立 調査研究員 小林大悟	調査研究員 小林大悟 コノサル 原 眞	専門員 高藤和之 砂田茂俊 専門員 高藤和之 伊半敬 砂田茂俊 専門員 高藤和之 伊半敬 砂田茂俊 専門員 高藤和之 伊半敬 砂田茂俊	第1期 久保 亨 調査研究員 高藤和之 砂田茂俊 専門員 高藤和之 砂田茂俊 第3期 高藤和之 伊半敬 砂田茂俊 専門員 高藤和之 伊半敬 砂田茂俊 第4期 高藤和之 伊半敬 砂田茂俊 専門員 高藤和之 伊半敬 砂田茂俊

目 次

扉	
口絵 1「空から群馬」太田市中心街 上毛新聞社刊から	
序	
例 言	
凡 例	
遺跡・調査区・事業一覧表	
目 次	
遺構別索引(挿図・表・図版目次)	
第1章 発掘調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	*
第2節 調査の経過	*
第3節 整理作業の経過	4
第2章 調査の方法	5
第1節 調査区の設定	*
第2節 遺構名称	*
第3節 調査の手順	*
第4節 基本土層	6
第3章 周辺の環境	7
第1節 地理的環境	*
第2節 歴史的環境	9
第4章 遺跡各節	15
第1節 塚畑遺跡	*
I. 遺跡の概要	*
II. 遺構と遺物	18
1. 竪穴住居跡	*
2. 土坑跡	30
3. 溝跡	39
4. 掘立柱建物跡	42
5. 櫓列跡	43
6. 井戸跡	44
7. ビット跡	*
8. 遺構外出土遺物	47
塚畑遺跡遺物観察表	48
第2節 宮内遺跡	53
I. 宮内遺跡1区の概要	*
II. 1区の遺構と遺物	57
1. 竪穴住居跡	*
2. 竪穴状遺構跡	65
3. 土坑跡	66
4. 溝跡	71
5. 掘立柱建物跡	72
6. 櫓列跡	75
7. ビット跡	76
8. 縄文包含層	81
9. 1区の遺構外出土遺物	84

III. 宮内遺跡2区の概要	86
IV. 2区の遺構と遺物	87
1. 竪穴住居跡	*
2. 土坑跡	108
3. 溝跡	114
4. ビット跡	117
5. 2区の遺構外出土遺物	118
宮内遺跡遺物観察表	119
第3節 稲荷前遺跡	137
I. 遺跡の位置及び調査の経過	*
II. 遺跡の概要	*
III. 遺構と遺物	139
1. 竪穴住居跡	*
2. 土坑跡	140
3. 溝跡	141
4. 遺構外出土遺物	*
稲荷前遺跡遺物観察表	142
第4節 三島木遺跡	143
I. 遺跡の概要	*
II. 遺構と遺物	145
1. 竪穴住居跡	*
2. 土坑跡	*
3. 溝跡	149
4. 掘立柱建物跡	152
5. ビット跡	153
6. 遺構外出土遺物	154
三島木遺跡遺物観察表	*
第5節 城ノ内遺跡	157
I. 遺跡の概要	*
II. 遺構と遺物	160
1. 竪穴住居跡	*
2. 土坑跡	166
3. 溝跡	179
4. 掘立柱建物跡	189
5. ビット跡	192
6. 遺構外出土遺物	194
城ノ内遺跡遺物観察表	197
報告書抄録	205
写真図版	
検出遺構	
出土遺物	

付 図 全体図

- 付図1 塚畑・三島木遺跡全体図(1/200)
 遺跡位置図(1/5,000)
 付図2 宮内遺跡全体図(1/200)
 付図3 城ノ内遺跡全体図(1/200)

挿 図 目 次

第1図 周辺地形分類図	8	第44図 1号井戸 平・断面図(1/40)	44
第2図 周辺道路分布図(S=1:25000)	14	第45図 ビット位置図(S=1:200)	45・46
第3図 麻畑遺跡調査区位置図	16	第46図 遺構外 出土遺物(1/3)	47
第4図 麻畑遺跡調査区座標設定図(S=1:2000)	17	第47図 宮内遺跡調査区位置図	51
第5図 1号住居 平・断面図(1/60)	18	第48図 宮内遺跡調査区座標設定図(S=1:600)	55
第6図 2号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1)(1/3)	19	第49図 宮内遺跡1区遺構全体概略図(S=1:300)	56
第7図 2号住居遺・掘り方 平・断面図(1/30)、出土遺物(2)(1/3)	20	第50図 1区1号住居 平・断面図(1/60)	57
第8図 2号住居 出土遺物(3)(1/3)	21	第51図 1区1号住居掘り方 平面図(1/60)、出土遺物(1)(1/3)	58
第9図 2号住居 出土遺物(4)(1/3)	22	第52図 1区1号住居 出土遺物(2)(1/3)	59
第10図 3号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1)(1/3)	23	第53図 1区2号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	60
第11図 3号住居遺・掘り方 平・断面図(1/30)、出土遺物(2)(1/3)	24	第54図 1区3号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	61
第12図 4号住居 平・断面図(1/60)、掘・掘り方 平・断面図(1/30)	25	第55図 1区4号住居 平・断面図(1/60)	62
第13図 4号住居 出土遺物(1/3)	26	第56図 1区5号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	63
第14図 5号住居 平・断面図(1/60)	27	第57図 1区6号住居遺・掘り方 平・断面図(1/60)(1/30)、出土遺物(1/3)	64
第15図 6号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	28	第58図 1区6号住居 出土遺物(1/3)	65
第16図 7号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	29	第59図 1区1号竪立柱遺構 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	66
第17図 1号土坑 平・断面図(1/40)	30	第60図 1区1~3号土坑 平・断面図(1/40)	66
第18図 1号土坑 出土遺物(1/3)	31	第61図 1区2・3号土坑 出土遺物(1/3)	67
第19図 2号土坑 平・断面図(1/40)	32	第62図 1区4号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3)	67
第20図 4・29号土坑 平・断面図(1/40)	33	第63図 1区5号土坑 平・断面図(1/40)	68
第21図 4・29号土坑 出土遺物(1/3)	32	第64図 1区5号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3)	68
第22図 9号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3)	34	第65図 1区6・7号土坑 平・断面図(1/40)、7号土坑出土遺物(1/3)	68
第23図 3号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3)	33	第66図 1区8号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3)	69
第24図 5号土坑 平・断面図(1/40)	34	第67図 1区9号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3)	69
第25図 6号土坑 平・断面図(1/40)	35	第68図 1区10号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3)	70
第26図 7号土坑 平・断面図(1/40)	34	第69図 1区1-2号溝 平・断面図(1/60)、1号溝出土遺物(1/3)	71
第27図 10号土坑 平・断面図(1/40)	35	第70図 1区1号竪立柱遺構 平・断面図(1/60)	72
第28図 11号土坑 平・断面図(1/40)	36	第71図 1区2号竪立柱遺構 平・断面図(1/60)	73・74
第29図 12号土坑 平・断面図(1/40)	35	第72図 1区1号横判 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	75
第30図 13号土坑 平・断面図(1/40)	36	第73図 1区2号横判 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	76
第31図 14号土坑 平・断面図(1/40)	37	第74図 1区35号ビット 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3)	77
第32図 15号土坑 平・断面図(1/40)	36	第75図 1区7-16・29-36-48号ビット 出土遺物(1/3)	78
第33図 16号土坑 平・断面図(1/40)	37	第76図 1区ビット位置図(S=1:300)	80
第34図 17号土坑 平・断面図(1/40)	37	第77図 1区縄文包含層 平・断面図(1/60)、出土遺物(1)(1/3)	81
第35図 18号土坑 平・断面図(1/40)	37	第78図 1区縄文包含層 出土遺物(2)(1/3)	82
第36図 19号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3)	38	第79図 1区縄文包含層 出土遺物(3)(1/3)	83
第37図 21号土坑 平・断面図(1/40)	38	第80図 1区遺構外 出土遺物(1)(1/3)	84
第38図 1号溝 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3)	39	第81図 1区遺構外 出土遺物(2)(1/3・1/1)	85
第39図 2号溝 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	40	第82図 宮内遺跡2区遺構全体概略図(S=1:300)	86
第40図 3・4号溝 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3・1/1)	41	第83図 2区1号住居遺・掘り方 平・断面図(1/30)	87
第41図 1号竪立柱遺構 平・断面図(1/60)	42	第84図 2区1号住居掘り方 平・断面図(1/60)	88
第42図 1号横判 平・断面図(1/60)	43	第85図 2区1号住居 出土遺物(1/3)	89
第43図 2号横判 平・断面図(1/60)	44	第86図 2区2号住居 平・断面図(1/60)	90

第87回	2区2号住居・掘り方 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3) …… 91	第132回	3号土坑 平・断面図(1/40) …… 147
第88回	2区3号住居・掘り方 平・断面図(1/60) …… 92	第133回	4号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… *
第89回	2区3号住居 出土遺物(1/3) …… 93	第134回	5号土坑 平・断面図(1/40) …… *
第90回	2区4・5号住居・掘り方 平・断面図(1/60) …… 94	第135回	6号土坑 平・断面図(1/40) …… 148
第91回	2区4号住居・掘り方 平・断面図(1/30)、出土遺物(1/3) …… 95	第136回	7号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… *
第92回	2区4号住居 出土遺物(2)、5号住居 出土遺物(1/3) …… 96	第137回	1~3号溝 平・断面図(1/60) …… 150
第93回	2区6号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3) …… 97	第138回	4・5号溝 出土遺物(1/3) …… *
第94回	2区6号住居掘り方 平・断面図(1/60) …… 98	第139回	4・5号溝 平・断面図(1/60) …… 151
第95回	2区7号住居・掘り方 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3) …… 99	第140回	6号溝 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3) …… *
第96回	2区8号住居 平・断面図(1/60) …… 100	第141回	7・8号溝 平・断面図(1/60)、7号溝 出土遺物(1/3) …… 152
第97回	2区8号住居掘り方・掘り方 平・断面図(1/60・1/30) …… 101	第142回	1号掘立柱建物 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3) …… 153
第98回	2区8号住居 出土遺物(1/3) …… 102	第143回	遺構外 出土遺物(1/3) …… 154
第99回	2区9号住居 平・断面図(1/60) …… 103	第144回	城/内遺跡調査区位置図 …… 158
第100回	2区9号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3) …… 104	第145回	城/内遺跡調査区東柵設定図(S=1:600) …… 159
第101回	5区10号住居・掘り方 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3) …… 105	第146回	1区1号住居 平・断面図(1/60) …… 160
第102回	2区11号住居・掘り方 平・断面図(1/30) …… 106	第147回	1区1号住居 出土遺物(1/3) …… 161
第103回	2区12号住居 出土遺物(1/3) …… *	第148回	1区2号住居 平・断面図(1/60) …… *
第104回	2区12号住居・掘り方・掘り方 平・断面図(1/60・1/30) …… 107	第149回	1区2号住居 出土遺物(1/3) …… 162
第105回	2区1~3号土坑 平・断面図(1/40)、3号土坑遺物(1/3) …… 108	第150回	1区3号住居 平・断面図(1/60) …… *
第106回	2区4号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… 109	第151回	1区4号住居 平・断面図(1/60) …… 163
第107回	2区5号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… *	第152回	1区5号住居・堀 平・断面図(1/60・1/30) …… 164
第108回	2区5号土坑 出土遺物(2)(1/3) …… 110	第153回	1区5号住居 出土遺物(1/3) …… 165
第109回	2区6~8号土坑 平・断面図(1/40)、6号土坑出土遺物(1/3) …… *	第154回	1区6号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3) …… 166
第110回	2区9号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… 111	第155回	1区3号土坑 平・断面図(1/40) …… 167
第111回	2区10号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… *	第156回	1区4・5号土坑 平・断面図(1/40) …… *
第112回	2区11~15号土坑 平・断面図(1/40)、11号土坑遺物(1/3) …… 112	第157回	1区6号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… *
第113回	2区16号土坑 平・断面図(1/40) …… 113	第158回	1区7号土坑 平・断面図(1/40) …… 168
第114回	2区1・2号溝 出土遺物(1/3) …… 114	第159回	1区8号土坑 平・断面図(1/40) …… *
第115回	2区1~3号溝 平・断面図(1/60) …… 115	第160回	1区9号土坑 平・断面図(1/40) …… *
第116回	2区4号溝 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3) …… 116	第161回	1区9号土坑 出土遺物(1/3) …… 169
第117回	2区ピット設置図(S=1:300)、5号ピット出土遺物(1/3) …… 117	第162回	1区10号土坑 平・断面図(1/40) …… *
第118回	2区遺構外 出土遺物(1/3) …… 118	第163回	1区10号土坑 出土遺物(1/3) …… 170
第119回	稲荷前遺跡調査区東柵設定図 …… 137	第164回	1区11号土坑 平・断面図(1/40) …… 171
第120回	稲荷前遺跡調査区位置図 …… 138	第165回	1区12号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… *
第121回	稲荷前遺跡調査区全体略図(S=1:100) …… 139	第166回	1区13号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… *
第122回	1号住居 出土遺物(1/3) …… *	第167回	1区13号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(2)(1/3) …… 172
第123回	1号住居 平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3) …… 140	第168回	1区14号土坑 平・断面図(1/40) …… *
第124回	1号土坑 平・断面図(1/40) …… 141	第169回	1区15号土坑 出土遺物(1/3) …… *
第125回	1号溝 平・断面図(1/60) …… *	第170回	1区15号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(2)(1/3) …… 173
第126回	遺構外 出土遺物(1/3) …… *	第171回	1区15号土坑 出土遺物(3)(1/3) …… 174
第127回	三島水道跡調査区東柵設定図(S=1:800) …… 143	第172回	1区16号土坑 平・断面図(1/40) …… *
第128回	三島水道跡調査区位置図 …… 144	第173回	1区17号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… 175
第129回	1号住居 平・断面図(1/60) …… 145	第174回	1区18号土坑 平・断面図(1/40) …… *
第130回	1号土坑 平・断面図(1/40) …… 146	第175回	1区18号土坑 出土遺物(1/3) …… 176
第131回	2号土坑 平・断面図(1/40) …… *	第176回	1区19号土坑 平・断面図(1/40)、出土遺物(1/3) …… *

第177回	1区29号土坑	平・断面図(1/40)	176	第189回	1区4号溝	出土遺物(2)(1/3・1/4)	184
第178回	1区21号土坑	出土遺物(1)(1/3)	*	第190回	1区4-5号溝	平・断面図(1/100)、出土遺物(1/4)	185・186
第179回	1区21号土坑	平・断面図(1/40)、出土遺物(2)(1/3)	177	第191回	2区6号溝	平・断面図(1/60)	187
第180回	1区22号土坑	平・断面図(1/40)	*	第192回	2区7・8号溝	平・断面図(1/60)	188
第181回	1区23号土坑	平・断面図(1/40)	*	第193回	2区9号溝	平・断面図(1/60)	*
第182回	1区24号土坑	平・断面図(1/40)	*	第194回	1区1号掘立柱建物	平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	189
第183回	1区25・30号土坑・2区26～29号土坑	平・断面図(1/40)	178	第195回	1区2号掘立柱建物	平・断面図(1/60)	190
第184回	1区1号溝	平・断面図(1/60)	180	第196回	1区3号掘立柱建物	平・断面図(1/60)	191
第185回	1区2号溝	出土遺物(1)(1/3)	*	第197回	1区51・53号ピット	出土遺物(1/3)	192
第186回	1区2号溝	平・断面図(1/80)、出土遺物(2)(1/3)	181	第198回	遺構外	出土遺物(1)(1/3)	194
第187回	1区3号溝	平・断面図(1/60)、出土遺物(1/3)	182	第199回	遺構外	出土遺物(2)(1/3)	196
第188回	1区4号溝	出土遺物(1)(1/3)	183	第200回	遺構外	出土遺物(3)(1/3・1/1)	196

表 目 次

第1表	遺跡・調査区・事業一覧表	巻頭	第15表	宮内遺跡2区土坑跡一覧表	113
第2表	周辺遺跡一覧表	13	第16表	宮内遺跡2区ピット跡一覧表	117
第3表	塚原遺跡土坑跡一覧表	38	第17表	宮内遺跡遺物観察表	119
第4表	塚原遺跡1号掘立柱建物計測表	42	第18表	細荷前遺跡遺物観察表	142
第5表	塚原遺跡1号櫓列計測表	43	第19表	三島木遺跡土坑跡一覧表	148
第6表	塚原遺跡2号櫓列計測表	*	第20表	三島木遺跡1号掘立柱建物計測表	153
第7表	塚原遺跡ピット跡一覧表	45・46	第21表	三島木遺跡ピット跡一覧表	154
第8表	塚原遺跡遺物観察表	48	第22表	三島木遺跡遺物観察表	*
第9表	宮内遺跡1区土坑跡一覧表	70	第23表	城ノ内遺跡土坑跡一覧表	179
第10表	宮内遺跡1区1号掘立柱建物計測表	74	第24表	城ノ内遺跡1号掘立柱建物計測表	189
第11表	宮内遺跡1区2号掘立柱建物計測表	*	第25表	城ノ内遺跡2号掘立柱建物計測表	190
第12表	宮内遺跡1号櫓列計測表	75	第26表	城ノ内遺跡3号掘立柱建物計測表	191
第13表	宮内遺跡2号櫓列計測表	76	第27表	城ノ内遺跡ピット跡一覧表	192
第14表	宮内遺跡1区ピット跡一覧表	78・79	第28表	城ノ内遺跡遺物観察表	197

写 真 図 版

「空から群馬」太田市中心街	上毛新聞社刊から	156
三島木遺跡全景	東から	156

写真図版目次

PL 1	塚原遺跡全景 (東から)	宮内遺跡2区1号住居全景 (北から)	
	塚原遺跡1号住居全景 (南から)	宮内遺跡2区1号住居掘り方全景 (北から)	
PL 2	塚原遺跡2号住居全景 (北から)	PL 17	宮内遺跡2区1号住居掘り方全景 (南から)
	塚原遺跡2号住居断層全景 (西から)		宮内遺跡2区2号住居掘り方全景 (南から)
	塚原遺跡2号住居居間遺物出土状況 (西から)		宮内遺跡2区2号住居断層出土状況 (東から)
	塚原遺跡4号住居居間遺物出土状況 (南から)		宮内遺跡2区2号住居断層全景 (北西から)
PL 3	塚原遺跡4号住居断層全景 (西から)		宮内遺跡2区2号住居掘り方全景 (西から)
	塚原遺跡6号住居断層 (西から)		宮内遺跡2区3号住居断層 (西から)
	塚原遺跡7号住居断層 (南から)		宮内遺跡2区3号住居掘り方全景 (西から)
	塚原遺跡1号井戸断層 (南から)		宮内遺跡2区3号住居居間遺物出土状況 (西から)
	塚原遺跡4号土坑断層 (南から)	PL 18	宮内遺跡2区4-5号住居断層 (南東から)
	塚原遺跡1号雁立柱建物P3・1号櫓列P3全景 (北から)		宮内遺跡2区4-5号住居掘り方全景 (南東から)
PL 4	塚原遺跡12号土坑断層 (南から)		宮内遺跡2区4-5号住居居間遺物出土状況 (南東から)
	塚原遺跡13号土坑断層 (北から)		宮内遺跡2区4号住居断層全景 (南から)
	塚原遺跡16号土坑断層 (南から)		宮内遺跡2区4号住居居間穴断層 (南から)
	塚原遺跡19号土坑遺物出土状況 (北から)		宮内遺跡2区6号住居断層 (南東から)
	塚原遺跡3-4号溝断層 (南から)		宮内遺跡2区7号住居断層 (南から)
PL 5	塚原遺跡2号住居 出土遺物(1)	PL 19	宮内遺跡2区7号住居掘り方全景 (南から)
PL 6	塚原遺跡2号住居 出土遺物(2)		宮内遺跡2区8号住居断層 (東から)
	塚原遺跡3号住居 出土遺物		宮内遺跡2区8号住居掘り方全景 (東から)
PL 7	塚原遺跡4号住居 出土遺物		宮内遺跡2区8号住居居間遺物出土状況 (東から)
	塚原遺跡6号住居 出土遺物		宮内遺跡2区8号住居断層 (東から)
	塚原遺跡7号住居 出土遺物		宮内遺跡2区8号住居掘り方全景 (東から)
	塚原遺跡1号土坑 出土遺物		宮内遺跡2区9号住居断層 (東から)
PL 8	塚原遺跡3号土坑 出土遺物	PL 20	宮内遺跡2区9号住居掘り方全景 (東から)
	塚原遺跡4号土坑 出土遺物		宮内遺跡2区10号住居断層 (東から)
	塚原遺跡9号土坑 出土遺物		宮内遺跡2区10号住居掘り方全景 (東から)
	塚原遺跡19号土坑 出土遺物		宮内遺跡2区10号住居居間遺物出土状況 (東から)
	塚原遺跡20号土坑 出土遺物		宮内遺跡2区11号住居断層 (南から)
	塚原遺跡1号溝 粘土遺物		宮内遺跡2区12号住居断層 (北から)
	塚原遺跡2号溝 粘土遺物		宮内遺跡2区12号住居掘り方全景 (北から)
	塚原遺跡3号溝 粘土遺物		宮内遺跡2区12号住居断層 (南から)
	塚原遺跡4号溝 粘土遺物		宮内遺跡2区12号住居掘り方全景 (南から)
PL 9	塚原遺跡遺構群 粘土遺物	PL 21	宮内遺跡2区1号土坑断層 (南から)
PL 10	宮内遺跡岡田断層 (西から)		宮内遺跡2区2号土坑断層 (南から)
PL 11	宮内遺跡岡田断層 (東から)		宮内遺跡2区4号土坑断層 (西から)
	宮内遺跡家原断層 (東から)		宮内遺跡2区5号土坑断層 (南から)
PL 12	宮内遺跡中央部断層 (西から)		宮内遺跡2区5号土坑遺物出土状況 (東から)
	宮内遺跡1区1号住居断層 (北東から)		宮内遺跡2区6号土坑断層 (南から)
	宮内遺跡1区1号住居居間遺物出土状況 (北東から)		宮内遺跡2区7号土坑断層 (南から)
	宮内遺跡1区1号住居掘り方断層 (北東から)		宮内遺跡2区8号土坑断層 (南から)
PL 13	宮内遺跡1区2-3号住居居間遺物出土状況 (南東から)	PL 22	宮内遺跡2区9号土坑遺物出土状況 (南から)
	宮内遺跡1区2号住居掘り方断層 (南東から)		宮内遺跡2区10号土坑断層 (東から)
	宮内遺跡1区4号住居断層 (南東から)		宮内遺跡2区11号土坑断層 (西から)
	宮内遺跡1区5号住居掘り方断層 (東から)		宮内遺跡2区12号土坑断層 (東から)
	宮内遺跡1区6号住居断層 (南東から)		宮内遺跡2区13号土坑断層 (西から)
	宮内遺跡1区6号住居掘り方断層 (南東から)		宮内遺跡2区14号土坑断層 (西から)
	宮内遺跡1区6号住居居間遺物出土状況 (南東から)		宮内遺跡2区15号土坑断層 (南から)
	宮内遺跡1区6号住居断層 (南東から)		宮内遺跡2区16号土坑断層 (南から)
PL 14	宮内遺跡1区6号住居断層 (南東から)	PL 23	宮内遺跡2区1号溝断層 (南から)
	宮内遺跡1区1号火竈穴遺物断層 (東から)		宮内遺跡2区2号溝断層 (南から)
	宮内遺跡1区1-3号土坑断層 (南から)		宮内遺跡2区4号溝断層 (東から)
	宮内遺跡1区4号土坑断層 (南西から)	PL 24	宮内遺跡1区1号住居 出土遺物
	宮内遺跡1区5号土坑遺物出土状況 (南から)		宮内遺跡1区2号住居 出土遺物
	宮内遺跡1区5号土坑断層 (北から)	PL 25	宮内遺跡1区3号住居 出土遺物
	宮内遺跡1区6-8号土坑断層 (南から)		宮内遺跡1区5号住居 出土遺物
	宮内遺跡1区9号土坑断層 (南から)		宮内遺跡1区6号住居 出土遺物
	宮内遺跡1区10号土坑断層 (南から)		宮内遺跡1区1号型穴遺構 出土遺物
PL 15	宮内遺跡1区1-2号溝断層 (東から)		宮内遺跡1区2号土坑 出土遺物
	宮内遺跡1区1号雁立柱建物断層 (南東から)		宮内遺跡1区3号土坑 出土遺物
	宮内遺跡1区32号ピット断層 (北から)		宮内遺跡1区4号土坑 出土遺物
	宮内遺跡1区33号ピット遺物出土状況 (北から)		宮内遺跡1区5号土坑 出土遺物
	宮内遺跡1区35号ピット遺物出土状況 (北西から)		宮内遺跡1区7号土坑 出土遺物
	宮内遺跡1区35号ピット断層 (北西から)		宮内遺跡1区8号土坑 出土遺物
	宮内遺跡1区縄文包含層断層 (南から)	PL 26	宮内遺跡1区9号土坑 出土遺物
PL 16	宮内遺跡2区全景 (東から)		宮内遺跡1区10号土坑 出土遺物

宮内道跡1区1号溝 出土遺物
宮内道跡1区1号溝内 出土遺物
宮内道跡1区2号溝内 出土遺物
宮内道跡1区25号ピット 出土遺物
宮内道跡1区7号ピット 出土遺物
宮内道跡1区16号ピット 出土遺物
宮内道跡1区29号ピット 出土遺物
宮内道跡1区36号ピット 出土遺物
宮内道跡1区48号ピット 出土遺物
PL27 宮内道跡1区縄文包合層 出土遺物(1)
PL28 宮内道跡1区縄文包合層 出土遺物(2)
PL29 宮内道跡1区遺構外 出土遺物(1)
PL30 宮内道跡1区遺構外 出土遺物(2)
宮内道跡2区1号住居 出土遺物
宮内道跡2区2号住居 出土遺物
宮内道跡2区3号住居 出土遺物
宮内道跡2区4号住居 出土遺物
宮内道跡2区5号住居 出土遺物
宮内道跡2区6号住居 出土遺物
宮内道跡2区7号住居 出土遺物
宮内道跡2区8号住居 出土遺物
宮内道跡2区9号住居 出土遺物
宮内道跡2区10号住居 出土遺物
宮内道跡2区12号住居 出土遺物
宮内道跡2区3号土坑 出土遺物
宮内道跡2区4号土坑 出土遺物
宮内道跡2区5号土坑 出土遺物
宮内道跡2区9号土坑 出土遺物
宮内道跡2区10号土坑 出土遺物
宮内道跡2区11号土坑 出土遺物
宮内道跡2区1号溝 出土遺物
宮内道跡2区2号溝 出土遺物
宮内道跡2区4号溝 出土遺物
宮内道跡2区5号ピット 出土遺物
宮内道跡2区グリッド 出土遺物
宮内道跡2区遺構外 出土遺物
PL35 稲荷前遺跡全景 (西から)
稲荷前遺跡1号住居全景 (東から)
稲荷前遺跡1号住居覆土全景 (西から)
稲荷前遺跡1号土坑全景 (南から)
稲荷前遺跡1号溝全景 (南から)
PL36 稲荷前遺跡 作業風景
稲荷前遺跡1号住居 出土遺物
稲荷前遺跡遺構外 出土遺物
PL37 三島本道跡東側全景 (北から)
三島本道跡西側全景 (南東から)
PL38 三島本道跡1号住居掘り方全景 (西から)
三島本道跡1号土坑全景 (東から)
三島本道跡3号土坑遺物出土状況 (南から)
三島本道跡4号土坑遺物出土状況 (南から)
三島本道跡4号土坑全景 (南から)
三島本道跡5号土坑全景 (北西から)
三島本道跡6号土坑全景 (北西から)
三島本道跡7号土坑全景 (南から)
PL39 三島本道跡1・2・3号溝全景 (西から)
三島本道跡4・5号溝全景 (西から)
三島本道跡6号溝全景 (東から)
三島本道跡7・8号溝全景 (北から)
三島本道跡1号掘立柱建物全景 (西から)
三島本道跡1号掘立柱建物P2土層断面 (西から)
三島本道跡1号掘立柱建物P5土層断面 (西から)
PL40 三島本道跡東側全景 (東から)
三島本道跡4号土坑 出土遺物
三島本道跡7号土坑 出土遺物
三島本道跡4号溝 出土遺物
三島本道跡5号溝 出土遺物
三島本道跡6号溝 出土遺物
三島本道跡7号溝 出土遺物
三島本道跡1号掘立柱建物 出土遺物
三島本道跡遺構外 出土遺物

PL41 城ノ内道跡北側全景 (北から)
城ノ内道跡北側全景 (南から)
PL42 城ノ内道跡1区1号住居掘り方全景 (西から)
城ノ内道跡1区2号住居掘り方全景 (西から)
城ノ内道跡1区3号住居掘り方全景 (西から)
城ノ内道跡1区4号住居掘り方全景 (西から)
城ノ内道跡1区5号住居掘り方全景 (西から)
城ノ内道跡1区5号住居掘り方全景 (南西から)
城ノ内道跡1区5号住居掘り方全景 (南から)
PL43 城ノ内道跡1区6号住居・18号土坑全景 (東から)
城ノ内道跡1区3号土坑全景 (南から)
城ノ内道跡1区4・5号土坑全景 (南から)
城ノ内道跡1区6号土坑遺物出土状況 (西から)
城ノ内道跡1区9号土坑遺物出土状況 (東から)
城ノ内道跡1区9号土坑全景 (北から)
城ノ内道跡1区10号土坑遺物出土状況 (北から)
PL44 城ノ内道跡1区15号土坑全景 (西から)
城ノ内道跡1区18号土坑全景 (東から)
城ノ内道跡1区19号土坑全景 (北から)
城ノ内道跡1区20号土坑(含50号ピット)全景 (西から)
城ノ内道跡1区25号土坑全景 (東から)
城ノ内道跡2区26号土坑全景 (西から)
城ノ内道跡2区27号土坑全景 (西から)
城ノ内道跡2区29号土坑全景 (西から)
城ノ内道跡1区30号土坑全景 (西から)
PL45 城ノ内道跡1区1号溝全景 (西から)
城ノ内道跡1区2号溝全景 (西から)
城ノ内道跡1区3号溝全景 (西から)
城ノ内道跡1区4号溝全景 (南から)
城ノ内道跡1区5号溝全景 (西から)
城ノ内道跡1区6号溝全景 (西から)
城ノ内道跡1区7号溝全景 (北から)
城ノ内道跡1区8号溝全景 (西から)
PL46 城ノ内道跡1区9号溝全景 (北から)
城ノ内道跡1区1号掘立柱建物全景 (北から)
城ノ内道跡1区2・3号掘立柱建物全景 (西から)
城ノ内道跡1区遺構外遺物出土状況 (西から)
城ノ内道跡北側全景 (北から)
PL47 城ノ内道跡1区1号住居 出土遺物
城ノ内道跡1区2号住居 出土遺物
城ノ内道跡1区5号住居 出土遺物(1)
PL48 城ノ内道跡1区5号住居 出土遺物(2)
城ノ内道跡1区6号住居 出土遺物
城ノ内道跡1区6号土坑 出土遺物
城ノ内道跡1区9号土坑 出土遺物(1)
PL49 城ノ内道跡1区9号土坑 出土遺物(2)
城ノ内道跡1区10号土坑 出土遺物(1)
PL50 城ノ内道跡1区10号土坑 出土遺物(2)
城ノ内道跡1区12号土坑 出土遺物
城ノ内道跡1区13号土坑 出土遺物
城ノ内道跡1区14号土坑 出土遺物(1)
PL51 城ノ内道跡1区15号土坑 出土遺物(2)
城ノ内道跡1区17号土坑 出土遺物
城ノ内道跡1区18号土坑 出土遺物
城ノ内道跡1区19号土坑 出土遺物
城ノ内道跡1区21号土坑 出土遺物
城ノ内道跡1区2号溝 出土遺物
PL52 城ノ内道跡1区3号溝 出土遺物
城ノ内道跡1区4号溝 出土遺物
PL53 城ノ内道跡1区5号溝 出土遺物
城ノ内道跡1区1号掘立柱建物 出土遺物
城ノ内道跡1区51号ピット 出土遺物
城ノ内道跡1区53号ピット 出土遺物
城ノ内道跡遺構外 出土遺物(1)
PL54 城ノ内道跡遺構外 出土遺物(2)

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査に至る経緯

本報告書を含む6遺跡〔塚畑・宮内・稲荷前・三島木・城ノ内・浜町〕の調査は、東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差工事の工程、八瀬川河川改修工事（県土木事業）、区画整理事業に伴う諸工事や試掘調査の進展、特に市街地のため用地買収・物件取居の進捗状況の影響を強く受け、平成12年～平成15年までの4次にわたり調査を実施した。そのため、調査も連続している土地としての調査はできず、飛び地のように実施せざるを得なかった。また、遺跡地は東武鉄道の旧線路跡と沿線市街地のため、踏切、排水路や生活用道路があり、その部分は、未調査となっている。

浜町遺跡は太田市の市街地にあり、古墳時代前期から平安時代初頭にかけての集落跡として周知の埋蔵文化財包含地の遺跡である。本遺跡は金山丘陵の南側で八瀬川を挟み東西岸の微高地に位置している。本来八瀬川はこの微高地と金山丘陵の間を流れていたが、後世の用水活用によってこの微高地を縦断する流路となっている。また、城ノ内遺跡は金山丘陵の南西に位置し、周知の埋蔵文化財包含地である「城ノ内遺跡」及び「大鳥城跡」の西辺部にあたる。明治42年（1909）浅草から通じる東武線が延長された。大正6年（1917）日本最初の民間飛行機工場の「飛行機研究所」が中嶋知久平により金山南麓に創立され、太田の産業構造が大きく変化した。戦中、産業として大きな役割を果たし、人口も急増した。戦後は、敗戦による衰退期を乗り越え、昭和35年（1960）に首都圏市街地開発地域の指定を受けると、積極的に工業団地の造成が行われ、工場の誘致が行われた。また、昭和37年（1962）から太田駅南側の水田地帯を新市街地として開発するための大規模な区画整理事業が行われ、公共機関の集中化も図られた。その後も工業団地が南部・西部・東部に造成され県内第1の工業都市に成長している。さらに、人口も県下でも有数の激増地域になっている。このため市とし

ても市内全域における道路整備、区画整理などが大きな課題となり、太田市総合計画に基づき、着々と整備事業を進めている。しかし、近年の交通量の増加による慢性的な交通渋滞の発生があり、市内を南北に分断している線路を立体交差の建設によって解消を図ろうと計画がもちあがった。

東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に先立って、平成12年5月に群馬県教育委員会が埋蔵文化財の試掘調査を実施し、第1期工事分として、太田市新島町の宮内遺跡（東武伊勢崎線高架工事対象範囲）に関わる東武小泉線の中町までの約3.6km間について建設を実施することになり、同年6月に群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した。

第2節 調査の経過

東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に伴う発掘は、宮内遺跡（平成12年6月～12月、平成15年2月～3月）、稲荷前遺跡（平成12年7月～11月）、三島木・城ノ内遺跡（平成12年11月～平成13年3月）、塚畑遺跡（平成13年9月～12月）、浜町遺跡（平成12年11月～平成13年3月、平成13年8月～12月、平成14年7月～平成15年8月）の6遺跡について発掘調査が行われた。

平成12年度

平成12年度の発掘調査を初年度として第1次調査を2回に分けて実施した。平成12年5月に試掘調査を群馬県教育委員会が実施し、協議の上、平成12年6月19日より、宮内遺跡〔太田市浜町6-12〕から第1期発掘調査を開始した。用地買収・物件取居の進捗状況の関係から東側のみ発掘調査の実施であった。調査区東側の低地部では、顕著な遺構を見ることができなかったが、調査区西側の微高地上には、縄文時代から中・近世までの遺構を調査することができた。8月25日に遺構調査を終了し、埋め戻し作業を行い12月31日に第1期調査を終了した。同年東武桐生線の高架工事予定地区について、群馬県教育委員会が7月に試掘調査を実施し、発掘調査

調査の経過

を必要とする場所が確認された。そのため、同年7月1日から稲荷前遺跡〔太田市西本町10〕の第2期発掘調査を開始し、三島木遺跡〔太田市西本町64-21〕、城ノ内遺跡〔太田市大島町130〕、浜町遺跡〔太田市本町58-7〕の調査を連続して実施した。稲荷前遺跡では、緊急調査であったため、調査担当者が不足し、部長・課長・他担当の応援を得ながら調査を実施した。遺構の遺存状態が良くなく、住居1軒・溝1条・土坑1基であった。11月6日には全調査を終了することができた。続いて11月15日より三島木遺跡の表土掘削を開始した。本遺跡では、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物1棟、溝8条、土坑7基を調査することができた。11月21日より城ノ内遺跡の表土掘削を開始し、三島木遺跡・城ノ内遺跡を並行して調査を行った。12月11日・12日に三島木遺跡の埋め戻しを行い、三島木遺跡調査を終了した。城ノ内遺跡では、12月15日に調査区を太田駅方面に向かって10m程拡張した。12月21日に本年調査した部分の全景写真を撮影し、旧石器試掘調査を行い、12月25日には埋め戻しを実施する。平成13年1月9日より、調査区南側の表土掘削を開始し調査を再開した。全調査区から竪穴住居跡6軒、掘立柱建物3軒、溝9条、土坑28基、ピット62基を調査することができた。1月16日には遺構調査を終了することができ、旧石器試掘調査を実施した。2月2日には城ノ内遺跡の埋め戻しを確認し、調査工程を全て終了することができた。浜町遺跡の調査は、1月9日より、表土掘削をはじめ、1月11日より作業員を投入して遺構調査を開始した。竪穴住居跡1軒、土坑10基、ピット19基を調査することができた。1月16日には調査区全景写真の撮影を行った。その後旧石器試掘調査を実施し、1月18日に終了、1月22日には埋め戻しも終え、3月31日に全調査を終了した。

調査対象地域はいずれも東武鉄道太田駅の近くにあるため、原地形は、開発によって大きく改変されていた。そのため、コンクリート基礎やゴミ穴などが多くあること、表面が削平されていることで、遺

構の遺存状態が良くなかった。また、いずれの遺跡もローム土を客土としているため地山との判断はつきづらく、ローム薄移層と思われる層の上面での遺構確認は厳しく、ローム面まで表土掘削を実施した。平成13年度

平成13年8月8日太田市市街整備課にて、群馬県太田土木事務所、太田市、㈱東武鉄道、㈱鉄建・㈱佐田建設JV、文化課、群馬県埋蔵文化財調査事業団の6者により、浜町遺跡調査に関する打ち合わせを実施し、第2次調査の日程確認を行った。第2次調査も2回に分けて行われた。第1期調査の調査区は、八瀬川の西岸から東武伊勢崎線の鉄道線路敷の北側に沿う、延長60mの区間、浜町遺跡1区であり、送電線の鉄塔の移動に伴う本島病院駐車場整備の実施に伴い急遽調査する必要が生じた。そのため、平成12年5月の群馬県教育委員会の試掘調査結果をもとに、平成13年9月5日より着手した。9月6日から表土掘削を実施し、竪穴住居跡7軒、竪穴状遺構3軒、溝1条、土坑17基、ピット3基を調査した。9月22日には埋め戻しを行い、第1期調査を終了した。並行して群馬県教育委員会の試掘調査が実施され、八瀬川の東岸から東武伊勢崎線の線路敷の北側に沿う延長100m区間、浜町遺跡2区と、東武桐生線の線路敷内と北側仮設立体工事部分の延長55m区間（浜町3区）、東武伊勢崎線沿線の太田駅より西に500m程、群馬県立太田高校の南側にあたる100m区間、塚畑遺跡(1)の本調査が決定された。9月25日、群馬県太田土木事務所、太田市、㈱東武鉄道、㈱鉄建・㈱佐田建設JV、文化課、群馬県埋蔵文化財調査事業団の6者により、第2期調査の打ち合わせを実施し、10月1日より上記部分の調査を行うことが確認された。なお、用地買収・物件収居の進捗状況の関係から、塚畑遺跡から調査に取りかかった。当初塚畑遺跡は浜町4区として調査したが、文化課との調整で塚畑遺跡と名称の変更が行われた。掘土の関係から西側より調査を実施し、縄文時代から近・現代にいたる遺構の調査をすることができた。10月18日に㈱鉄建・

㈱佐田建設JVと今後の工程について打ち合わせを行い、10月30日より浜町遺跡2区の表土掘削、11月1日より塚畑遺跡の埋め戻しを実施することを確認した。10月31日に塚畑遺跡の調査は終了し、11月1日より浜町遺跡2区の調査に取りかかった。2区の調査は排水置き場の関係から2回に分けて実施し、西側から調査を行い、溝、土坑、ピットを確認できた。11月8日より東側部分の調査に取りかかり、11月15日には、遺構調査を終了することができた。同11月20日より浜町遺跡3区の調査と2区の埋め戻しを行った。11月26日より作業員を投入して調査を実施、12月17日には調査区全景写真の撮影を行い、12月31日に3区の調査を終了することができた。

平成13年度の調査も平成12年度の調査と同様に、東武鉄道伊勢崎線の敷設と住宅開発によって原地形は大きく変更されており、遺構の遺存状態は良くなかった。

平成14年度

平成14年7月4日太田市役所別館にて群馬県太田土木事務所、太田市、御東武鉄道、㈱鉄建・㈱佐田建設JV、文化課、群馬県埋蔵文化財調査事業団の6者により、浜町遺跡・宮内遺跡調査に関する打ち合わせを実施した。これにより平成14年8月1日より第3次調査にはいることを確認した。今年度の調査も2期に分けて調査を行った。平成14年8月1日から浜町遺跡5区東側部分・西側部分の調査を第1期調査、平成15年2月3日から宮内遺跡2区、同3月3日より浜町遺跡6区西側部分調査を第2期調査とした。

平成14年8月5日に太田市教育委員会文化財課、太田市都市整備課に浜町遺跡の調査に関わる調整を実施し、住居撤去との兼ね合いも踏まえ、協議の上8月21日より浜町遺跡5区東側部分の表土掘削、8月22日より作業員による調査予定となる。8月20日太田市都市整備課との立ち会いのもと調査範囲を確認し、8月21日より表土掘削を行い、調査区西側より調査を開始した。調査区の東側は比較的

遺構が薄く、9月12日には再度確認を行うが遺構はなかった。一方西側は非常に濃密に遺構が分布しており、調査に時間が必要であった。10月1日には台風の接近、その後の影響のため調査を一時中断した。10月3日より調査を再開した。10月8日より調査区中央部の調査を実施する。住居の撤去作業の終了とともに発掘調査を行うことになっているため、表土掘削、発掘調査、埋め戻し作業を並行して実施した。10月29日には太田市ふれあいセンターにて群馬県太田土木事務所、太田市、御東武鉄道、㈱鉄建・㈱佐田建設JV、文化課、群馬県埋蔵文化財調査事業団の6者により、浜町遺跡調査工程会議が行われ、11月末までに現調査区と住宅撤去跡地の調査を終了する方向で確認された。悪天候のために作業がやや遅れ、12月4日作業員による遺構調査の終了を行うことができた。12月5日調査区全景写真を実施し、浜町遺跡5区の調査を終了することができた。用地買収・物件取居の関係から一旦調査を中断して平成15年2月3日より第2期調査を実施した。宮内遺跡2区の表土掘削を開始し、調査を再開した。宮内遺跡2区も、竪穴住居跡12軒、土坑16基、溝4条、ピット6基を調査することができた。3月5日に宮内遺跡2区調査区全景写真を実施し、3月6日に調査を終了した。並行して、浜町遺跡6区の西側部分の表土掘削を行い、3月10日より作業員による調査を行った。3月11日には、宮内遺跡2区を埋め戻し浜町遺跡6区西側部分の表土掘削を終了した。なお、浜町遺跡6区西側部分は、浜町遺跡1区の東側にあたるため、調査範囲の確認を行った。浜町遺跡6区西側では竪穴住居跡、土坑、溝を確認し調査を行うことができた。ただ、用地買収・物件取居の進捗状況のため、東側については来年度の継続調査となった。3月31日で第3次調査は終了となった。第1次調査、第2次調査と同様に第3次調査の浜町遺跡・宮内遺跡の調査区は、開発による上位からの擾乱を受け、遺構面の遺存状態は良くなかった。

調査の経過

平成15年度

第4次調査は、第3次調査の継続として平成15年4月から浜町遺跡5区中央部分と浜町遺跡6区東側部分の調査を行った。

平成15年4月4日関係機関への挨拶を行い、4月8日前担当との引継を行った。4月10日には群馬県太田土木事務所と打ち合わせを行い、4月14日から、浜町遺跡6区の調査を本格的に実施した。前年度の継続調査であったが、竪穴住居跡22軒、土坑19基、溝8条、ピット2基を調査した。4月21日には浜町遺跡5区の表土掘削を開始し、5区・6区の並行調査となった。5月2日に浜町遺跡6区を調査を終了し、埋め戻しを実施することができた。浜町5区中央部は、前年度調査区と同様に遺構が濃密にあり、竪穴住居跡18軒、土坑20基、溝4条、ピット22基を調査することができた。この調査区も上位からの攪乱を受け、遺構面の遺存状態は良くなかった。また、調査区の幅が狭いこと、この地区が古墳時代から平安時代を通しての集落地であったこと、そのため遺構の重複が多かったことなどから、全体を確認できた竪穴住居跡は、僅かに4軒であった。

5月28日から浜町遺跡5区の埋め戻しを開始し、8月30日をもって調査を終了することができた。本調査の終了をもって、平成12年度から実施されてきた今回の事業に関する埋蔵文化財発掘調査はすべて終了した。

第3節 整理作業の経過

東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に伴う整理作業は、浜町遺跡、塚畑遺跡・宮内遺跡・稲荷前遺跡・三島木遺跡・城ノ内遺跡の6遺跡について行われた。

平成16年度

平成16年4月1日から基礎整理作業開始。5月中旬から浜町遺跡出土遺物接合作業開始。並行して、6月上旬から浜町遺跡遺構図面修正作業開始。6月中旬から遺物復元・彩色作業開始。6月下旬1回目

の遺物写真撮影準備・7月初め浜町遺跡出土遺物写真撮影。7月上旬、スリースペース実測委託用遺物準備。7月中旬から引き続き遺物接合と遺構図面修正作業継続。8月上旬、遺物復元・彩色開始。8月中旬から浜町遺跡出土遺物の実測・拓本開始。並行して、10月中旬から塚畑遺跡ラフレイアウト作製。10月下旬2回目の遺物写真撮影準備・撮影。11月から遺物実測・拓本・写真整理。11月中旬から遺物接合・復元・彩色。11月下旬3回目遺物写真撮影準備・撮影、遺物実測。平成17年1月遺物接合・復元・彩色・撮影準備。1月下旬遺物写真撮影・実測。2月上旬浜町遺跡5区遺物整理、浜町遺跡報告書用レイアウト開始。中旬から遺物トレース・拓本・実測。3月中旬から浜町遺跡版下作成・写真レイアウト。3月下旬浜町遺跡出土遺物整理。

平成17年度

4月上旬基礎整理。中旬から浜町遺跡遺物写真発注準備・遺物拓本貼り込み・レイアウト・版下準備・遺物図トレース。5月中旬から版下作成と並行して浜町遺跡遺構写真発注準備・遺物写真本貼り。下旬浜町遺跡入札準備開始。5月末から城ノ内遺跡出土遺物接合開始、撮影準備。6月末遺物写真撮影。

7月に入り、稲荷前遺跡・三島木遺跡・城ノ内遺跡の遺物実測・拓本・遺構図面修正開始。中旬宮内遺跡・塚畑遺跡図版作成・写真レイアウト。8月中旬浜町遺跡仮台帳作製。9月から「塚畑・宮内・稲荷前・三島木・城ノ内遺跡」の報告書入札準備・入札。浜町遺跡初稿の校正開始。9月末、「浜町遺跡」2回目の校正。10月「浜町遺跡」報告書刊行。

「塚畑・宮内・稲荷前・三島木・城ノ内遺跡」の報告書発行をもって、東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に伴う発掘調査及び整理作業は終了した。

第2章 調査の方法

第1節 調査区の設定

連続立体工事の工程、八瀬川河川改修工事(県土木事業)、区画整理事業に伴う諸工事や試掘調査の進展、特に市街地のため用地買収・物件取居の進捗状況により発掘調査が行われた。そのため、年度ごとに分割調査した浜町遺跡、宮内遺跡については、発掘した年度ごとに区の設定を行った。宮内遺跡は、平成12年度に東側の調査を行い、調査区名を宮内遺跡1区とした。平成14年度に西側の調査を行い、調査区名を宮内遺跡2区とした。浜町遺跡は、4年間にわたり調査が行われたため、調査実施地区順に地区名を割り振った。平成12年の調査については、遺跡名を地区名とした。平成13年の調査では、調査を実施した順に調査地区を浜町遺跡1区、塚畑遺跡(浜町4区)、浜町遺跡2区、浜町遺跡3区と設定した。平成14年・15年に浜町遺跡5区と浜町遺跡6区の調査が行われた。当初浜町遺跡4区という地区名は、群馬県教育委員会との協議の結果、塚畑遺跡となった。また、平成12年11月から始まった稲荷前遺跡、三島木遺跡、城ノ内遺跡については、調査面積も狭く年度を分けずに行うことができたので、調査区は遺跡単位とした。

グリッドの設定については、各遺跡・調査区間に調査対象外地を挟み、位置的に離れているため、遺構平面図化の照合が容易に読み取れるように日本測地系Ⅴ系の旧国家座標を用い、名称には通常、グリッドとして設定するアルファベットと算用数字の組み合わせを用いた任意の範囲設定をせず、X・Y座標値の下3桁をそのまま用いて打設した杭を呼称した。また、調査時に任意の範囲内において遺物を取り上げる必要が生じた際には、範囲の対角線2地点の座標値を併記することで、取り上げ範囲を明示した。

第2節 遺構名称

稲荷前遺跡、三島木遺跡、城ノ内遺跡、塚畑遺跡

の4遺跡については、遺跡ごとに検出遺構の名称を○号住居跡・○号溝跡等の名称を用いた。宮内遺跡、浜町遺跡遺構番号は、検出遺構の名称を、区ごとに○区○号住居跡・○区○号溝跡等の名称を用いた。また、重複を避けるため、区番号と遺構番号を合わせて呼称した。

第3節 調査の手順

1. 表土掘削については、試掘調査の結果に基づき、遺構確認面と判断された深さまで、大型掘削機械を用いて表土掘削を行った。
2. 表土掘削後、調査区内に記録用測量杭を前述の国家座標軸に沿って、測量会社に委託し打設した。
3. 遺構の掘削については、遺構確認面での検出の後、埋没土の観察用断面を残して、2~4分割の掘削を行い、掘削途中で出土する遺物については、遺構の時期・性格を判別するに至る遺物を残し、遺構単位で取り上げた。
4. 遺構の記録測量については、原則として堅穴住居跡・土坑跡・井戸跡・掘立柱建物跡等の平面図を1/20、溝跡の平面及び全体図は1/40、堅穴住居遺跡は1/10の縮尺で電子測量機器を用いて図化を計った。遺構断面の図化に際しては平面図と同縮尺を用い、主に手作業で図化を計った。
5. 遺構記録写真の撮影については、6×7判・6×6判中型カメラと35mm一眼レフカメラでのモノクロネガ撮影、35mm一眼レフカメラでのカラーリバーサル撮影を行い、高度全体写真の撮影には、ラジコンヘリコプターによる遠隔撮影と高所作業車を用いて撮影を行った。
6. 出土遺物については、平成12年度から平成14年度において、調査現場で付着土の洗浄後、遺跡名・出土遺構名と取り上げ番号を白色顔料並びに黒色インクにて注記した。また、一部の土器については、平成15年度に業者に委託して付着土の洗浄、遺跡名・出土遺構名と取り上げ番号を白色顔料並びに黒色インクにて注記した。

第4節 基本土層

全遺跡調査は、東武鉄道の旧路線と沿線の住宅街であるため、東武鉄道伊勢崎線沿いの宮内遺跡・浜町遺跡・稲荷前遺跡・塚畑遺跡は概ね東西に細長く、同側線沿いの城ノ内遺跡・三島木遺跡は南北に細長い。東武鉄道敷設前は、一部市街地と水田地帯であったが、鉄道と市街地造成のため各遺跡地内及び周辺は、開発による影響を強く受け、台地部は一部削平され、低地部は盛土をされている。そのため、各遺跡地内及び周辺での堆積土壌は様ではない。調査時の状況は、旧路線のため碎石によって覆われている部分と住宅地の耕地部分になっていた。各遺跡地の立地及び概ねの土地利用は、宮内遺跡東

側はやや低地部で、宮内遺跡中央部及び西側と浜町遺跡は微高地上の古墳時代遺構の集落と溝、塚畑遺跡・稲荷前遺跡は微高地縁辺部で古墳時代遺構の集落と溝となっており、時代の変遷とともに市街地化されたと考えられる。また、城ノ内遺跡・三島木遺跡は沖積層の低地部から微高地縁辺に位置し、古墳時代遺構の集落と中世の堀として利用され、時代の変遷とともに水田化されたと考えられる。以上のことから基本土層は、大きく台地部と低地部に分けることができる。低地部では、沖積低地だったためかローム漸移層を確認できなかった。一方、台地部では、上部が削平されており、表土直下で遺構確認面であった。

基本土層

I	黒色土層……………表土、旧路線：鉄道敷設時埋設土及び上部バラス、碎石。 住宅跡地：砂質で締まり弱く、ゴミ及びバラスを含む。
II	黒褐色土層……………中世～近世土層
III	暗褐色土層……………白色粒（榛名ニッ岳軽石と浅間C軽石）を含む。 また、ローム粒・ロームブロックを多く含む。
IV	褐色土層……………砂質、ローム粒・ロームブロックを多く含む。（ローム漸移層）
V	にぶい黄褐色ローム土層…水性堆積ローム土。ややシルト化。
VI	黄褐色砂質ローム土層…ローム土。砂を多く含む。
VII	ローム～黄色シルト土層

低地部	基本土層	台地部
I	I	I
II	II	III
III	III	IV
V	IV	V
VI	V	VI
VII	VI	VII
	VII	

第3章 周辺の環境

第1節 地理的環境

本報告書に記載の5つの遺跡地は明治42年(1909)に開通した東武鉄道太田駅の西側で、東武鉄道桐生線・伊勢崎線沿線の住宅密集地域にある。塚塚遺跡は東武伊勢崎線沿い群馬県立太田高等学校の南側に位置する。宮内遺跡は太田駅西側、国道407号高架橋の西側に位置する。稲荷前遺跡は東武桐生線沿線で県道小島・太田線の西側に位置する。三島木遺跡は東武桐生線沿線で、群馬県立太田女子高等学校の南西側に位置する。城ノ内遺跡は東武桐生線沿線で三島木遺跡より三枚橋駅方面に向かって150m程に位置する。

太田市は群馬県の南東部に位置し、北東は渡良瀬川を挟んで栃木県足利市と南は利根川を挟んで埼玉県大里郡妻沼町と県境をなしている。地形的に観ると市域の大半は平坦な地形を成し、北側から茶臼山丘陵が張り出している。平坦部は、更新世扇状地を含む洪積台地と沖積低地からなる地形となり、金山の南麓の市街地中心部でやや高く、北西から南東へと緩やかに傾斜している。遺跡付近の標高は43m～46m程を測る。本遺跡地付近の地形を概観すると、北は金山丘陵と大間々扇状地の先端部、東は菰川台地・竜舞台地、西は由良台地に囲まれた南東に伸びる扇端低地、南は沖積低地を挟み新井・飯塚・矢島・高林台地となっている。現在では、金山丘陵の西辺に沿うように八瀬川が遺跡地のある微高地中央部を南北に横断し、微高地縁部部南側を流れ国道407号線と平行して南下している。また、蛇川が由良台地の東端を北西から南東方向へ流れている。

大間々扇状地は、渡良瀬川が更新世に形成した関東地方有数の大型扇状地である。大間々町を扇頂として太田市北西部から新田町、埴町を経て伊勢崎市東部に至る海拔50m～60m付近を扇端とする、南北約18km、扇端の幅約13kmの扇形の範囲に発達している。形成時代を異にする5つの地形面で構成される合成扇状地であるが、その中でも扇状地の西

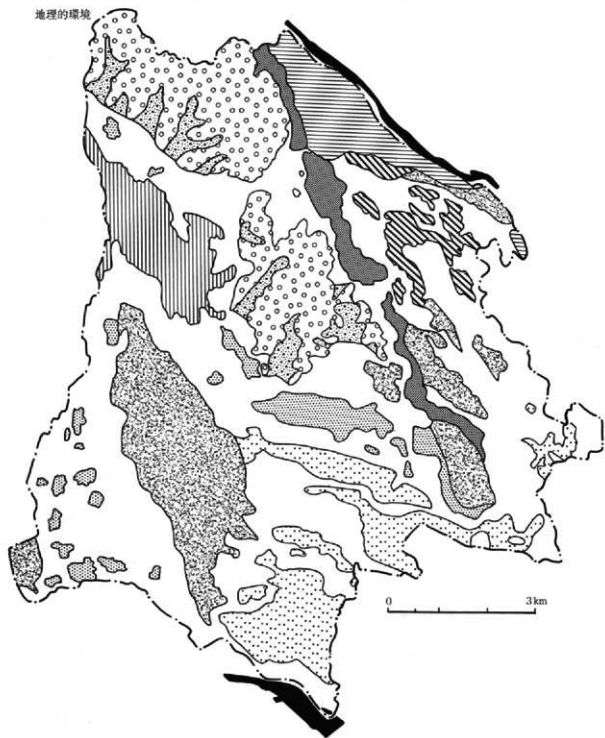
半分を占める桐原面と、ほぼ東半分を占める藪塚面が最も広く、本扇状地の主体を成している。藪塚面は、扇頂から扇端まで連続して典型的な扇状地を形成する範囲と扇端の南方に広がる沖積低地(扇端低地)の中に島状に散在するものと二分できる。後者を藪塚面Bと呼び、藪塚面形成後関東ローム層が降下堆積している時に浸食し尽くされずに残った微高地と考えられる。藪塚面Bは、上部ローム層の一部または河川の影響を受けた2次堆積(再堆積)の上部ローム層が見られ、沖積台地とは区別することができる。本遺跡地は、この藪塚面Bと周辺の沖積低地に位置する。

本遺跡地の南側から利根川に至る地域には新井・飯塚・矢島・高林の4つの洪積台地がほぼ東西方向に位置し、台地間は沖積低地となっている。

金山丘陵はかつては八王子丘陵と一続きのものと考えられるが、今は吉沢字萩原の極低い鞍部を境にして離れている。山頂部を中心とした孤立山塊としての地形が読みとれ、最高地点は235.8mであり、高度42m～63mを測る。主な山脚は北と東及び南西の方向に延びる。西部には長手の谷が入り込んでいる。

金山丘陵の西辺に沿うように八瀬川が、由良台地の東側に沿うように蛇川が大間々扇状地の末端から利根川方面へと流れている。両河川ともに現在のルートになるまでに流路の変遷を経てきたものと考えられている。その間に囲まれた地域は沖積低地になっており、北西から南東へと延びている。沖積低地では藪塚面の上、さらに上流側の藪塚面上の浸食された火山灰がここに再堆積し、それが低湿な環境下で粘土化して沖積層になったものと考えられる。層厚は概ね1m前後で厚いところでも2m程である。シルトから粘土質で、全体に腐食物を含んでいる。沖積層の堆積環境は全般に排出不良の低湿地で由良台地周辺には泥炭や黒泥が形成される湿原が分布していたと推定される。本地域では地表下に、更新世のうち弥生時代以前の堆積物は明確な地層として残存していないが、As-B、Hr-FP、Hr-FA、

地理的環境



丘陵



南部台地



岩宿面



藪塚面 A



藪塚面 B



渡良瀬 I 面



渡良瀬 II 面



渡良瀬 III 面



谷底平野

さらに下層に As-C と思われる軽石が認められることから沖積層の大部分は弥生時代以降の堆積物と考えられる。

第2節 歴史的環境

宮内遺跡、稲荷前遺跡、三島木遺跡、城ノ内遺跡、塚畑遺跡、浜町遺跡の6つの遺跡は、大間々・扇状地の扇端部で、由良台地の東側、金山丘陵の南部に位置し、北西から南東に延びる微高地に存在している。周辺は古墳群や条里水田跡の存在で知られる地域である。特に今回調査の行われた城ノ内遺跡は、平成3年改訂版発行の「太田市文化財地図」において、城ノ内遺跡は大島館跡を含む「城ノ内遺跡」として周知の埋蔵文化財包蔵地に該当している地域である。

浜町遺跡は、大間々扇状地の扇端部で、由良台地の東側、金山丘陵の南部に位置し、北西から南東に延びる微高地に存在している。周辺は古墳群や条里水田跡の存在で知られる地域である。特に今回調査の行われた浜町遺跡は、平成3年改訂版発行の「太田市文化財地図」において、古墳時代前期から平安時代初期にかけての集落遺跡「浜町遺跡」として周知の埋蔵文化財包蔵地に該当している地域である。

近年、本地域でも開発に伴う発掘調査が徐々に実施され、その成果が公表されつつある。また、市史が編纂・刊行され、地域史の解明が行われている。これらの資料をもとに周辺の遺跡について時代ごとに概観したい。

旧石器時代

市域では、八王子丘陵・金山丘陵周辺と市街地南部の沖積平野に残る更新世のローム層低台地に遺跡が広がる。遺跡は、焼山遺跡(29)・金井口遺跡(22)・戸井口遺跡・東別所遺跡(18)などが知られる。焼山丘陵の南に営まれた戸井口遺跡では、ナイフ形石器・尖頭器・石刃・剥片など1,200点を超える石器類が出土している。金山丘陵の南端の大島口遺跡(55)では、刃器状剥片、八幡山遺跡(59)では、茂呂型のナ

イフ型石器が確認されている。

縄文時代

縄文時代全体を通じ太田市で確認された遺跡は少なく、規模も小さい。草創期の遺跡立地は、旧石器時代と大きく変わることはなく、その中でも、金山の東側にある下宿遺跡(21)においては、土坑墓・住居跡と推定されている遺構と爪形文土器が出土している。また、早期になっても目立った遺跡数の増加は見られない。焼山遺跡(29)と下小林町上遺跡では、燃糸文の土器片が採集されている。この時期、金山から南東に延びる台之郷・竜舞にかけての竜舞台地の沖積化は今ほど進んでおらず、各地に集落が形成されるようになったのは、東京湾の海進が最も遅んだ早期の後半茅山期の頃であった。

前期の遺跡は、竜舞台地をはじめ平野部の台地部分で遺跡が増加しており、代表的なものに間之原遺跡を挙げることができる。周辺では由良台地上に堂原遺跡がみられ、貝殻文系の土器を出土している三枚橋駅西方の大間々扇状地末端に舌状に南下する低台地の南端付近で諸磯期土器類が広く分布している。

中期の遺跡は、前半では竜舞・大泉・由良台地などで遺物類が希薄分布を示すが、後半の加曾利E式土器を出土する遺跡は急激に増加している。加曾利E式土器を出土する遺跡は由良台地では市立宝泉小学校南方の台地縁辺や新野町堂原地区、さらに成塚町成塚住宅団地遺跡や上遺跡、烏山・三枚橋駅西方に濃厚な分布が見られる。当時の集落は低地に面した台地の縁辺、或いはそれに連続する微高地形を選定しており、その地は河川や湧水池などに近いところでもある。

後期には、竜舞台地や大泉台地・由良台地・大間々扇状地末端台地などに分布する遺跡に充実したものが認められる。周辺では堂原遺跡において後期前半の遺物が多く確認されている。後期後葉から遺跡数は再び減少する。調査例では、間之原遺跡があげられる。晩期では、大道東遺跡が知られるが、実態は

歴史的環境

明らかでない。後期後半から極端に衰退している。周辺で確認されているのは間之原遺跡だけである。

弥生時代

初期の弥生遺跡は焼山遺跡(29)・東今泉遺跡・大道東遺跡・矢田堀遺跡・小丸山遺跡などである。太田市域では中期中葉～後葉になって沖積低地の微高地上に集落が進出するようになった。これは、小谷地形を水稲耕作地として利用したことによるものと考えられる。このような場所に立地する遺跡として、駒形北遺跡、茨城北部から福島県会津地域に広がりがみられる変形土器が出土している磯之宮遺跡などが知られるが、遺跡数は極めて少なく、また連続性もない。太田市域の平野部では、広大な低湿地が広がり、当時の土木技術では充分な水田開発が進まなかったものと想定される。後期には、丘陵部にも集落が形成され、小河川を有する丘陵下の谷地形を利用した水稲耕作が行われていたようである。太田市北部の八王子丘陵では、古墳時代前期までこのような遺跡立地がみられる。

古墳時代

本地域は県内でも有数の古墳が築造された地域として知られる。昭和10年、「上毛古墳総覧」によると県下で8,423基の古墳が確認され、そのうち太田市域(旧矢場川村を含む)では、810基の古墳が認められている。周辺には、市域で最も古い様相をもつ前方後円墳である八幡山古墳(58)・朝子塚古墳、矢場薬師塚古墳がある。丘陵突端を利用して占地する前方後円墳である寺山古墳など4世紀代の築造とされる古墳が出現している。5世紀から6世紀前半にかけては良好な甲冑の出土で知られる鶴山古墳、帆立貝型の亀山古墳、市域で唯一周堀内に1対の中鳥をもつ鳥崇神社古墳(40)が築かれていく。5世紀代に入ると、円墳の上小林稲荷山古墳、前方後円墳の円福寺(別所)茶臼山古墳・鶴山古墳などに続き、帆立貝形古墳(造り出し付き円墳)の女体山古墳や東日本最大の規模をもった大前方後円墳天神山古墳(19)

が出現し、太田市域の大形前方後円墳の築造は頂点に達した。このことは、墳形規模に誇示された政治・経済・軍事力を持つ首長が、太田市域に生まれたことを物語るものであり、古墳の被葬者は「畿内大和政権」と結び付きを持った、「毛野国」を統括する強大な豪族であったと考えられている。さらに6世紀代になると、八王子丘陵の南西方から金山丘陵の西方大間々扇状地末端に開けた沖積地を中心に成塚古墳群、長手口古墳群(41)等の群集墳が発展した。一方、集落跡も前期から遺跡数の増大が見られる。4世紀頃の太田市域では、伊勢湾を中心とした東海地域にある土器とよく似た石田川式土器(北関東北部の標識土器)を使用する「むら」が急速に形成されるようになった。石田川式土器を出土する遺跡としては屋敷内B遺跡(9)、成塚住宅団地遺跡・堂原遺跡・脇屋深町遺跡・唐桶田遺跡等があり、石田川期の集落は低湿な沖積地内の微高地上に立地する傾向がある。和泉式土器の分布は成塚町や鳥山地区、また由良台地では新野堂原から脇屋にみられ、中期以降には周辺の高乾地へと集落は移動している。古墳時代後半を迎えると、天神山古墳(19)に代表されるような巨大な首長墓は築造されなくなり、上毛野国内に占める太田市域の勢力は後退傾向を示している。太田市南部では高林古墳群や東矢島古墳群(後円部のみを残す御嶽山古墳を除き消滅)が築造され、北西部では周堀内に1対の中鳥を持つとみられる前方後円墳の鳥崇神社古墳(40)、北東部では、大日山古墳などが築造されている。この頃、横穴式石室をもった小規模な円墳などが、平地をはじめとし、丘陵や山麓にまでも、群として造られるようになった。市場稲荷山古墳や八王子丘陵南端に分布する御嶽山古墳群・大鷲梅穴古墳群・金山丘陵の寺ヶ入古墳群(26)・西山古墳群・東山古墳群(30)・市域南部の台地上に位置する富沢古墳群・高林古墳群などがその代表例である。後期の集落遺跡の多くは広々とした沖積地内の小規模微高地を避けて、その周辺に広がる大間々扇状地の末端の台地や金山・八王子丘陵の台地、利根川左岸の高林台地などの周辺部に分布す

る傾向があり、堂原遺跡・川窪遺跡(17)などがみられる。また、市域で最も古い寺院跡と考えられる寺井庵寺は7世紀後半には建立されたと推定されている。

金山丘陵東麓から北麓にかけて翌々入窟跡・辻小屋窟跡・入宿窟跡・亀山窟跡・内並木窟跡・焼山窟跡などの東金井窟跡群(47)や、菅ノ沢窟跡・八ヶ入窟跡・諏ヶ入窟跡及び長手谷の山去窟跡などでは須恵器が生産されていた。これら古窟跡群は、全体で20カ所以上に及び、古墳時代においては、関東以北で最大級の規模を持つ一大窯業地帯を形成していた。

古墳時代終末期の古墳としては、横穴式の巨大石室が開口する方墳の巖穴山古墳があり、これ以降太田市域では古墳は築造されていない。

飛鳥・奈良時代

なお、新田駅・新田郡衙は七堂遺跡西方の新田町村田の入谷遺跡と推定されており、ここから分岐する東山道武蔵路は、古代瓦を出土する釣堂遺跡や東矢鳥遺跡付近を通じて武蔵国府へ延びていた。

八王子丘陵南東麓の萩原窟跡では、須恵器がこの時代から10世紀初頭まで生産され、一方萩原瓦窟跡では上野国分寺(群馬町)や上積木庵寺(伊勢崎市)などの瓦が焼成されていた。また、土地制度として行なわれた条里制水田が古水や飯塚・東矢鳥などの水田地帯に残されている。

奈良・平安時代

律令制度が施行されると、郡制が整えられるようになり、太田市域では、ほぼ金山を境に西半分が新田郡、東半分は山田郡に属し、また南東部が邑楽(オハラキ)郡に含まれていた。その後、奈良時代には律令制度のもとで設けられた東山道が、七堂遺跡や寺井庵寺の南方を東西に横断していたと考えられている。天良七堂遺跡は礎石建物跡が一軒検出されており倉庫と考えられている。小金井入谷で確認された礎石や瓦屋根構造をもつ奈良朝の建物跡は奈良時

代の官衙的性格をもつ建築群の一つと考えられている。境ヶ谷戸遺跡は地方官衙の遺跡であったと推定されている。また、釣堂遺跡は瓦類が確認され、寺院跡と考えられている。金山西北方の大間々扇状地末端の市域の寺井・天良地域から新田町小金井・市野井にかけてこのような遺跡が分布し、七世紀後半から十世紀にかけて存続しており、しかも地方官衙的性格を示すものである。また、東山道に関連する遺構も検出されつつあり、この地域を通ったものと考えられている。本地域は十世紀前半に編まれた『和名類聚抄』にみられる上野国14郡のうち、新田郡の南東部地域を占めると考えられ、新田郷に当てられている。また、生産域としては、金山北東麓にある二の宮遺跡や太田市南部にも条里制水田が想定されているが、北関東自動車道に伴う発掘調査などにより浅間B軽石(1108)に覆われた水田跡が検出されつつある。市域における奈良・平安時代の村落社会は、基本的には前代の古墳時代を発展的に受け継いでいるが、集落分布のありかたは多様に展開している。太田市史では七区域に区分できるとしているが、大間々扇状地末端地域では、八幡遺跡、久保遺跡などの広大な範囲を占めて分布する奈良・平安時代の集落遺跡があり、寺井町から鳥山にかけての広範な地域に、奈良・平安時代の地方官衙とも関係する村落が形成されていたことが推定される。

平安・鎌倉時代

奈良時代末期から平安時代初期においては東国諸国は蝦夷政策の兵士・武器・食糧を供給する使命を帯び、当地域もこの政策の影響を大きく受けていたものと推定される。金山山麓の菅ノ沢遺跡や高太郎遺跡などでは、稻播による製鉄が行われていた。平安時代末期、律令制度が形骸化の中で、天仁元年(1108)浅間山の噴火により、上野国(群馬県)は未曾有の大災害に見舞われ、厚い火山灰に覆われた農地は著しく荒廃した。このような火山災害からの復興を進める中で、太田市域にも荘園が形成されていた。中世の上野国の代表的な荘園である新田荘

歴史的環境

もその一つである。藤原姓足利氏の元に流されていた源義国(源義家の第三子)は、藤原姓足利氏の没落により、足利荘を確保し、源姓足利氏の元を作った。

義国長子の義重は、隣接の新田郡に進出し、新田郡南西部の大開々扇状地扇端に広がる沖積地を開発し、その後、十数年の内に、新田荘は新田郡全域(太田市西部はその東半を占める)に拡大していった。また、義重は子(山名(高崎市)・里見(榛名町))にも配して勢力を広げた。

鎌倉・室町時代以降

本地域は、平安時代の終わり頃から新田荘の範囲に繰り込まれていき、嘉応二年(1170)の「新田御荘嘉応二年目録」には、大鳥郷が見られる。また、鎌倉時代には、新田氏の系譜に連なる里見氏から鳥山郷に鳥山氏、大鳥郷に大鳥氏などが現れる。室町時代には、新田荘は岩松氏の治めるところとなり、大鳥郷・鳥山郷は、岩松氏、鳥山郷の一部は庶子の鳥山氏の所領となっている。室町時代の終わり戦国時代を迎える頃にはかつて新田荘を支配していた岩松氏とは別系統の岩松氏が文明元年(1469)戦国時代を通して太田・新田地方の象徴であった金山城を築城している。しかし、明応四年(1495)家臣の横瀬成繁

に実権を奪われた。横瀬氏は由良姓を名乗り金山城の実権を掌握したが、上杉氏の関東進出、後の北条氏の上野国進出に際してはその支配下に属した。所謂中世城館跡を見ると典型的な山城である金山城跡(53)をはじめ大鳥城跡(56)・大鳥館跡(57)・鳥山環濠遺構群がある。大鳥城跡(56)は、戦国期の金山城跡(53)の出城であったと推定されている。大鳥館跡(57)は、北西～南東100m、北東～南西250mの外郭があったと推定されている大鳥氏の館跡である。鳥山環濠遺構群は、鳥山中・下町にあり、鳥山館跡(65)・鳥山屋敷跡(66)の二カ所で、15・16世紀に存続したとされる鳥山城跡が鳥山氏の居館と考えられている。

やがて、江戸時代を迎えると新田郡鳥山村と大鳥村は館林城主となった榊原氏の所領となり、この地域も幕藩体制に繰り込まれていった。

地理的環境参考文献

- 『太田市史』通史編自然太田市 1996
- 『太田市史』通史編原始古代太田市 1996
- 『新田町誌』第2巻資料編(下)新田町誌刊行委員会 1987
- 『年保遺跡・鳥山下遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第321集 2003
- 『前沖遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第333集 2004
- 『浜町遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第358集 2005

歴史的環境参考文献

- 『太田市史』通史編自然太田市 1996
- 『太田市史』通史編原始古代太田市 1996
- 『新田町誌』第2巻資料編(下)新田町誌刊行委員会1987
- 『東長岡戸井口遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第257集 1999
- 『年保遺跡・鳥山下遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第1集 2003
- 『前沖遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第2集 2004
- 『太田市の文化財』太田市教育委員会 1995

第2表 周辺遺跡一覧表

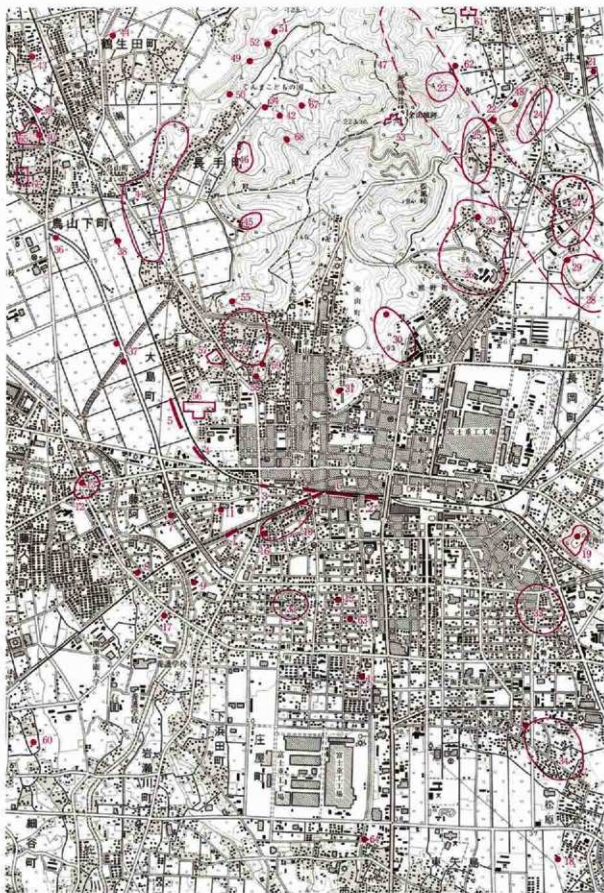
番号	遺跡名	時代	遺跡概要	文献
1	塚原遺跡	縄文・古墳・平安	縄文中期土坑。古墳～平安の墓穴住居。	本書
2	宮内遺跡	縄文～中世	縄文前期包舎層。古墳～平安の墓穴住居。	〃
3	稲荷前遺跡	平安	平安時代の墓穴住居。	〃
4	三島木遺跡	縄文・奈良・平安・中世	奈良・平安の土坑。中世の掘立柱建物。	〃
5	堀ノ内遺跡	古墳～中世	古墳の墓穴住居。中世の大島城の堀。	〃
6	浜町遺跡	古墳～平安	古墳～平安の墓穴住居。中世の溝・井戸。	団 報告書358巻
7	舞台A・D遺跡	古墳後期～平安	古墳後期の集落。多量の炭化米。	市史
8	舞台C遺跡	古墳後期	古墳後期の集落。	〃
9	屋敷内B遺跡	古墳前期・中世	4世紀後半の前方後方形周溝墓。	〃
10	浜町古墳群	古墳後期	詳細不明。	文化財情報
11	稲荷山古墳	古墳	径20mの円墳。墓軸は太田高校敷地内。	市史
12	藤阿久大塚北遺跡	〃	古墳時代集落。	文化財情報
13	藤阿久古墳群	〃	径15m程度の円墳が多く、橋穴式石室か。6世紀代。	市史
14	稲荷風古墳	〃	全長50m程度の前方後円墳か。	〃
15	五(郷)塚稲荷古墳	〃	円墳。	市財地
16	稲荷風古墳	〃	前方後円墳。	市史
17	川窪遺跡	古墳前期～平安	古墳前～後期、及び平安の集落跡。	〃
18	東岡前遺跡	旧石器(木の木・中林)	細形彩文土器。	〃
19	天待山古墳	古墳中期	全長210m、東日本最大の前方後円墳。	〃
20	西堂木遺跡	旧石器	細形彩文土器。	〃
21	下宿遺跡	縄文早期	帯形土器を包含する遺構。	〃
22	金井口遺跡	旧石器・縄文前期・古墳～平安	細形彩文土器。	〃
23	大日沢古墳群	古墳後期	7世紀末の小形周溝丘墓群。	〃
24	島山古墳群	〃	円墳群。	〃
25	寺ヶ入馬塚古墳群	〃	橋穴式石室の円墳群。	〃
26	寺ヶ入古墳群	〃	橋穴式石室の円墳群。	〃
27	徳山北古墳群	〃	6世紀初頭～7世紀にかけての古墳群。	〃
28	徳山南古墳群	〃	6世紀中項～7世紀にかけての古墳群。	〃
29	山崎遺跡	旧石器～平安	古墳時代前期の土師器が多く出土。	〃
30	東山古墳群	〃	最終末期の古墳群で、小形橋穴式石室が主力。	〃
31	高山古墳	〃	6世紀後半構築の橋穴式石室の前方後円墳か。	〃
32	新井古墳群	〃	6世紀後半～7世紀にかけての古墳群。	〃
33	新島・小舞木古墳群	〃	6世紀後半～7世紀の橋穴式石室円墳。	〃
34	飯塚古墳群	〃	方形周溝墓4基、円形周溝墓1基。	〃
35	大島古墳群	〃	径10m前後の円墳群。	〃
36	前沖遺跡	〃	古墳時代後期集落跡。	団 報告書333巻
37	牛保・島山下遺跡	〃	古墳時代後期集落跡。	〃 321巻
38	三枚橋南遺跡群	縄文～平安	縄文(前～後)、弥生(後期)、古墳～平安の遺物出土。	県 遺跡台帳
39	稲倉遺跡	古墳	古墳時代遺物敷布地。	文化財情報
40	馬場神社古墳	古墳後期	前方後円墳。全長推定66m。5世紀末～6世紀前半。	市史
41	長子口古墳群	〃	3基の前方後円墳を中核、6世紀後半に形成。	〃
42	長子口谷跡	〃	中世城跡。	文化財情報
43	中道遺跡	〃	古墳時代遺物敷布地。	〃
44	中妻遺跡	古墳	集落、古墳。	〃
45	狭之塚古墳群	古墳後期	約30基の円墳よりなる群集跡。6世紀後半。	市史
46	武反田古墳群	〃	数基の円墳からなる。	〃
47	東金井遺跡群	奈良～平安	6～9世紀の須恵器窯跡群(舞ヶ入・辻小屋・入前・島山・内釜木・島山須恵器窯跡)。	〃
48	金井口埴輪窯跡	古墳	埴輪製作跡。	〃
49	高太郎川遺跡	古墳後期・平安	古墳時代後期の須恵器窯跡5基。平安時代製鉄炉。	団 年報13
50	高太郎川遺跡	平安	製鉄炉跡3基。須恵器窯跡3基。10世紀前半。	市 年報1
51	高太郎川遺跡	古墳後期・平安	平安時代製鉄炉跡。	文化財情報
52	飯谷ヶ谷戸遺跡	縄文・古墳・平安・中世	縄文、古墳、平安時代、中世の集落・生産遺跡。	〃
53	金山城跡	中世	文明元年(1469)岩松家築城跡。	市財地
54	山ヶ上・十八番遺跡	中世	井戸跡1基。金山城跡関連の大堀切り。	団 年報12
55	大島口遺跡	縄文早期・早・前及び古墳時代遺物敷布地。	縄文早期・早・前及び古墳時代遺物敷布地。	市史
56	大島城跡	〃	16世紀館跡。堀。土壇。	城跡群
57	大島城跡	中世	14世紀。大島氏(里見氏)。土房。戸口。	〃
58	八幡山古墳	古墳前期	前方後円墳。全長84m。墓穴式石室か。	市史
59	八幡山遺跡	旧石器	旧石器時代遺物包蔵地。ナイフ形石器。	〃
60	雁谷東遺跡	古墳・奈良	古墳・奈良時代の集落。	文化財情報
61	雁ヶ入館遺跡	中世	中世の寺跡。	市財地
62	新蔵寺跡	中世	中世の寺跡。	城跡群
63	新井館跡	〃	中世の寺跡。	〃
64	矢島館跡	〃	中世の寺跡。	〃
65	島山館跡	〃	堀。	〃
66	島山屋敷跡	〃	堀。	〃
67	湯尾寺跡	〃	中世の寺跡。	〃
68	長妻寺跡	〃	中世の寺跡。	〃

系：群馬県教育委員会 市：太田市教育委員会 市史：太田市史 市財地：太田市文化財地図

団：財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

文化財情報：「群馬県文化財情報システムCD-ROM版」

城跡群：「群馬県の中世城跡群」



塚 畑 遺 跡

第4章 遺跡各節

第1節 塚畑遺跡

I. 遺跡の概要

塚畑遺跡は、奈良・平安時代の遺構を中心として縄文時代から近世までの遺構と遺物を検出した。調査地は、東側が微高地であり、緩やかに西側を下る傾斜地である。調査以前は、東武伊勢崎線の路線として利用されており、それ以前は水田や桑畑として利用されていた。調査区は、東武鉄道伊勢崎線の敷設と住宅開発によって、大きく改変されており、遺構の遺存状態は良くなかった。

旧石器時代

調査範囲内において、旧石器時代の遺構・遺物の検出はみられず、ローム層下の地山堆積状況は、井戸跡などの遺構法面を見る限り、いずれも砂層を含む水性堆積土であり、暗色帯やテフラ層は検出されず、下位は砂礫層または粘土層に至る。このことから、当該期における当地の地理的環境は難水は安定せず、生活に適していなかったものと推察される。

縄文・弥生時代

調査範囲内西側より、縄文時代と認められる土坑5基検出し、そのうち4基の土坑から縄文時代後期の土器が出土した。また、表面採取の土器もあった。弥生時代の遺構と認められる検出は一例もなかった。なお、他にもこの時期に属する土坑がある可能性があるが、出土遺物等からは確認できなかった。

古墳時代

古墳時代の表面採取の土器が多数出土しているが、遺構については残念ながら検出できなかった。隣接する浜町遺跡、舞台A・D遺跡には、古墳時代～平安時代の集落跡が検出されていること、北側の太田高校敷地内に稲荷山古墳が位置していること、4世紀後半の前方後方形の周溝墓1基、円墳2基が検出されている屋敷内遺跡が位置していることから

も当該期の遺跡の存在が想定されるものの、調査区が狭かったことからその地点は特定できない。

奈良・平安時代

本遺跡で検出した遺構は、奈良・平安時代以降のものとして推定される。鉄道の敷設に伴う削平や耕作等により遺構の遺存状況が良くなく、火山灰等の時期確定のカギになる層も明確には残存しない。そのため、僅かな出土遺物と埋土だけでは時期を明確にできないものが多い。出土遺物や形態から時期を推定できる住居等の殆どは奈良・平安時代に属するものである。全体では、竪穴住居跡7軒・溝跡1条が検出され、本遺跡で検出の遺構・遺物の主体を成している。

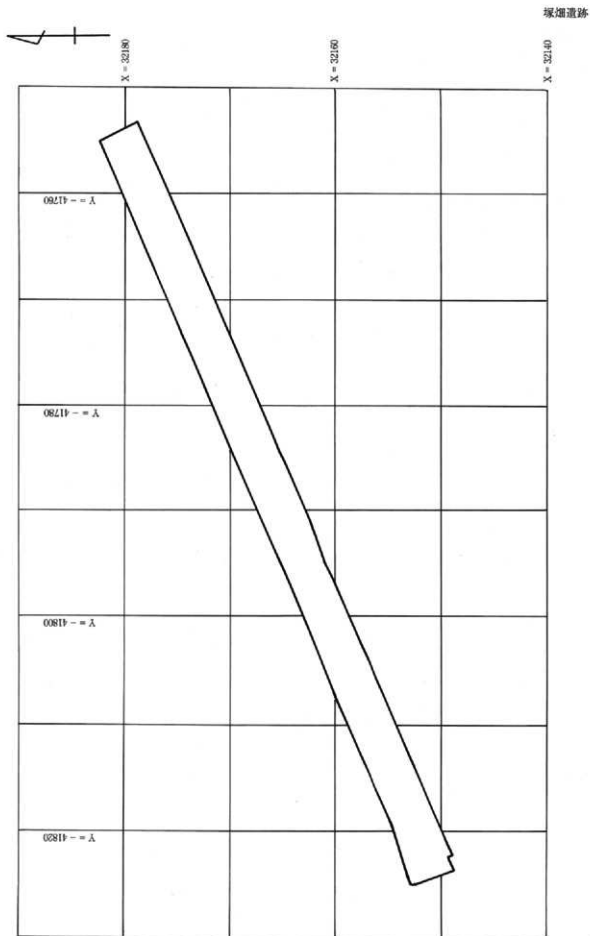
竈が確認できたのは2・3・4号住居の3軒であった。いずれの住居も調査区外との境に位置するため全形を確認することはできなかった。溝1条は、逆台形状の掘り込みをもち、区画溝と考えられる。調査区の幅が狭いため全体が調査できず、詳細は不明である。掘立柱建物跡1棟、欄列跡2本、土坑跡13基、ピット跡40基等を調査したが奈良・平安時代のものとして、断定はできなかった。

中・近世

この時期の検出遺構は少なく、近世の溝跡2条・近現代と考えられる井戸跡1基・土坑跡1基を検出した。3条の溝跡からは、若干の陶磁器も出土している。その他、中世から近代の遺物も表面採取遺物として取り上げたが、前述のとおり調査区を覆う土層は、鉄道の敷設に伴う土地改良による客土であるため、他からの混入品の可能性が高いと判断し掲載しなかった。



第3図 原相道路調査区位置図



第4図 塚畑遺跡調査区座標設定図

竪穴住居跡

II. 遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

1号住居(第5図、PL 1)

位置 X = 32166 ~ 170 Y = -41783 ~ 788

重複遺構 東側の7号住居と重複、遺構平面確認時と埋土断面の状況より本遺構の方が新しいと考えられる。

形態 北側が調査区外に延び、7号住居と重複しているため全形は不明である。

方位 N - 84° - W

規模 5.34 × (2.76) m

面積 (13.878) m² 調査区内

壁高 12cm

床面 床面は、貼り床を持たず地山ロームが硬化している。掘り方をそのまま床面としている。

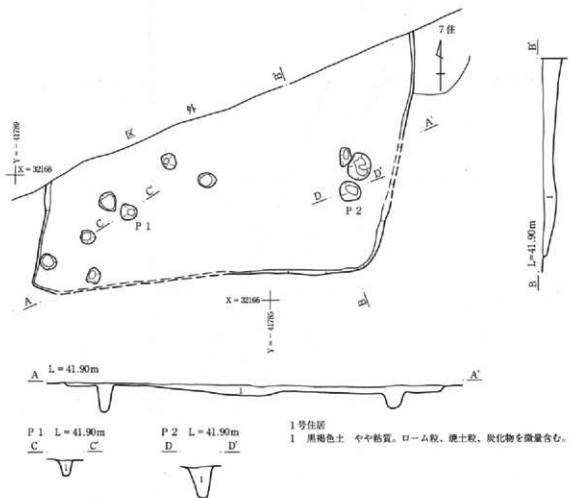
ピット 径24cm ~ 48cm、深さ16cm ~ 48cmのP1・P2を確認。他に8本掘り込みがあった。全形が不明なため主柱穴を確認できなかった。

貯蔵穴・周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

遺物 土師器・須恵器胴部片、縄文土器片、石が出土。小片のため図化できなかった。

所見 本住居の時期は、出土遺物及び埋土から奈良・平安時代頃と比定される。



1号住居 P 1

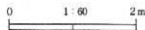
1 黒褐色土 やや粘質。ローム粒、焼土粒、炭化物を微量含む。

1号住居 P 2

1 黒褐色土 やや粘質。ローム粒、焼土粒、炭化物を微量含む。

1号住居

1 黒褐色土 やや粘質。ローム粒、焼土粒、炭化物を微量含む。



第5図 1号住居 平・断面図

2号住居(第6~9図、第8表、PL 2・5・6)

位置 X = 32169~174 Y = -41775~780

重複遺構 東側の3号住居と重複し、2号住居直下に3号住居の床面を確認できたことから本遺構の方が新しいものと考えられる。

形態 北側が調査区外に延び、3号住居と重複しているため全形は不明である。

方位 N-104°-W

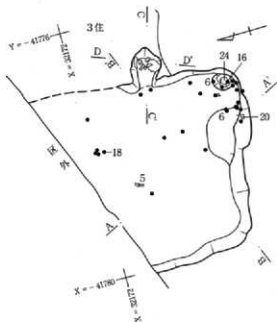
規模 5.34m × 計測不能

面積 (6.372)㎡ 調査区内

壁高 30cm

床面 床面は、貼り床を持たず地山ルームが硬化している。2・3号住居の床面の高さは殆ど変わらない。

ピット 住居南東コーナー隅に検出。径28cm~



32cmの楕円形である。貯蔵穴の可能性も考えられる。

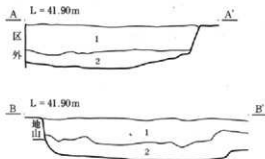
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 東壁中央寄りに位置し、使用面も残り、遺存状態は比較的良好。心材を用いず、粘土のみで袖部から天井部を構築する。燃焼部から煙道部にかけて緩やかな勾配を持つ。なお煙道部は試掘調査時において削平され形状は不明。燃焼部幅72cm、焚き口幅48cm、燃焼部長さ88cmである。

遺物 1~6の土師器杯、7~16の須恵器杯、17の須恵器碗、19~29・32の土師器甕、30・31の土師器台付甕、33の灰釉陶器瓶類、34の焼成粘土塊が出土。22の土師器甕は竈からはほぼ完形で出土。その他、土師器口縁片、胴部片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

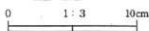
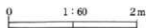
所見 本住居の時期は、出土遺物及び埋土から9世紀頃に比定される。



2号住居

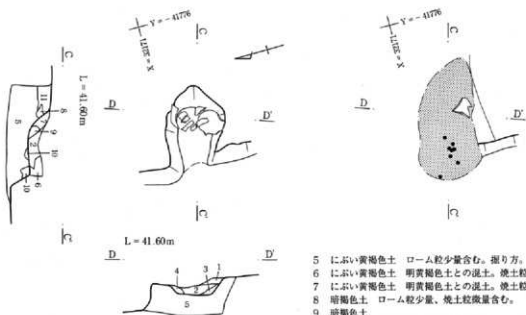
1 暗褐色土 粘質土。ローム粒、焼土粒、炭化分微量を含む。

2 暗褐色土 1層よりやや明るい色。ローム粒を少量、焼土粒、炭化分微量を含む。



第6図 2号住居 平・断面図 出土遺物 (1)

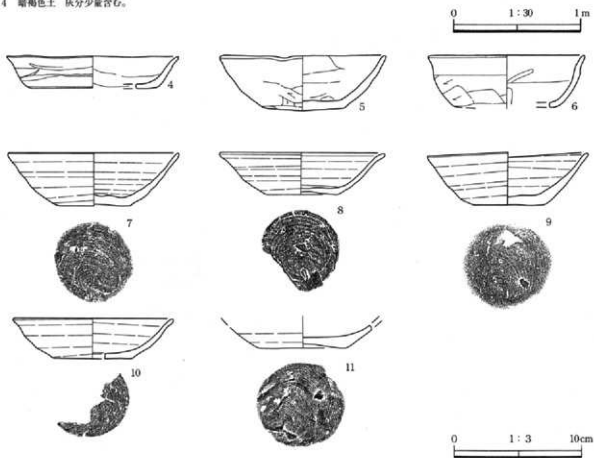
竪穴住居跡



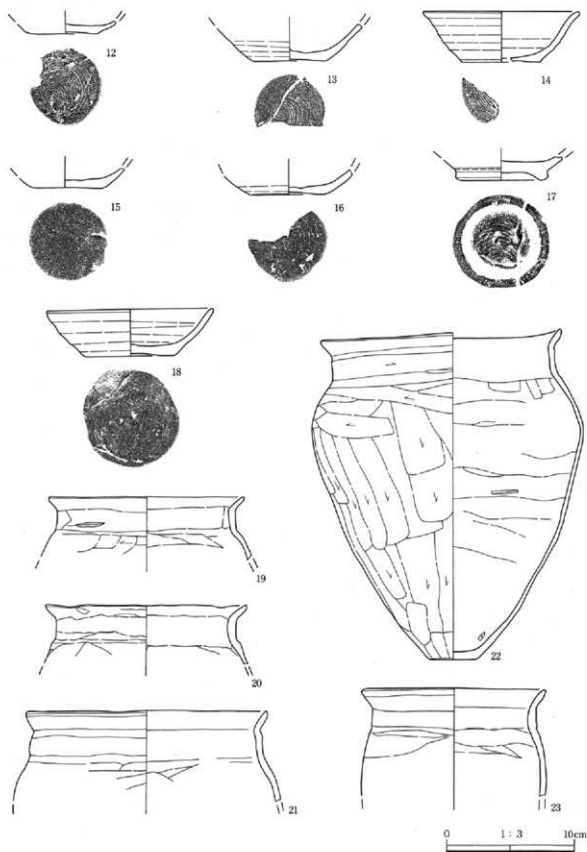
2号住居産

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量に含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒微量、灰分少量含む。
- 3 におい黄褐色土 ローム粒少量、炭化分、焼土粒微量に含む。
- 4 暗褐色土 灰分少量含む。

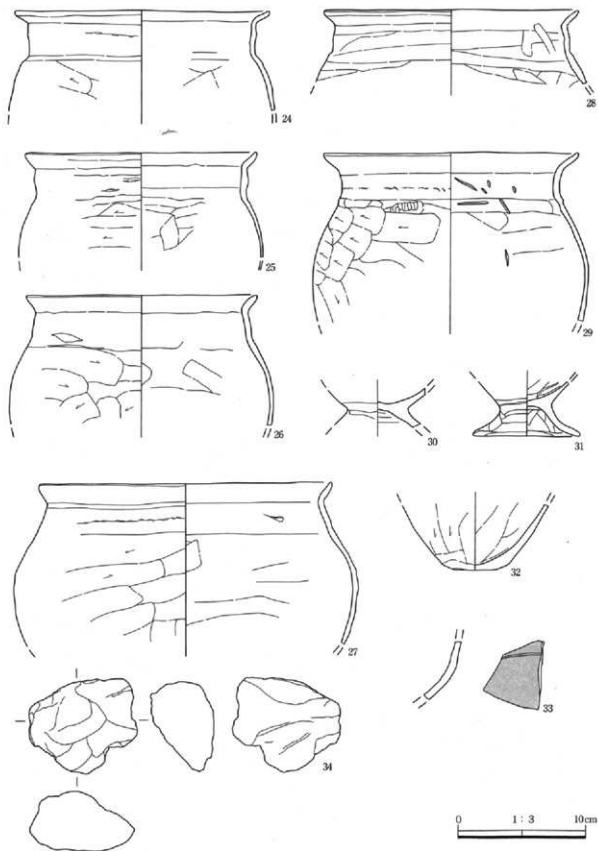
- 5 におい黄褐色土 ローム粒少量含む。掘り方。
- 6 におい黄褐色土 明黄褐色土との混土。焼土粒微量含む。
- 7 におい黄褐色土 明黄褐色土との混土。焼土粒少量含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量含む。
- 9 暗褐色土
- 10 暗褐色土 灰分少量、焼土粒微量含む。
- 11 におい黄褐色土 ローム土を少量含む混土。



第7図 2号住居産・掘り方 平・断面図 出土遺物 (2)



第8図 2号住居 出土遺物 (3)



第9圖 2号住居 出土遺物 (4)

3号住居(第10・11図、第8表、PL 2・6)

位置 X = 32169 ~ 174 Y = -41775 ~ 780

重複遺構 西側の2号住居、東側の40号ピットと重複する。2号住居竈下に3号住居の床面を確認できたことから本遺構の方が古いものと判断される。遺構平面の確認から40号ピットよりも古いものと考えられる。

形態 北側が調査区外に延び、西側で2号住居と重複しているため全形は不明である。

方位 N - 97° - W

規模 調査範囲内東壁2.86m × 計測不能

面積 (2.619)㎡ 調査区内

壁高 30cm

床面 床面は、貼り床を持たず地山ロームが硬化している。3・2号住居の床面の高さが殆ど変わらない。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

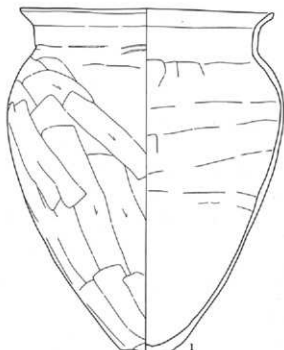
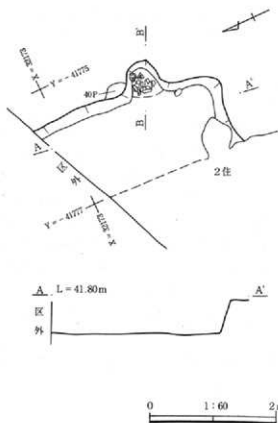
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 東壁中央よりやや南に位置する。調査の結果、使用面は残るが、廃棄後人為的に埋め戻され、袖等が残らず遺存状態は良くない。心材を用いず、粘土のみで天井部を構築。燃焼部から煙道部にかけて急峻な勾配を持つ。煙道部壁の焼土化が著しい。煙道部は1号井戸によって消失し、形状は不明。燃焼部幅56cm、焚き口幅40cm、燃焼部長さ56cmである。

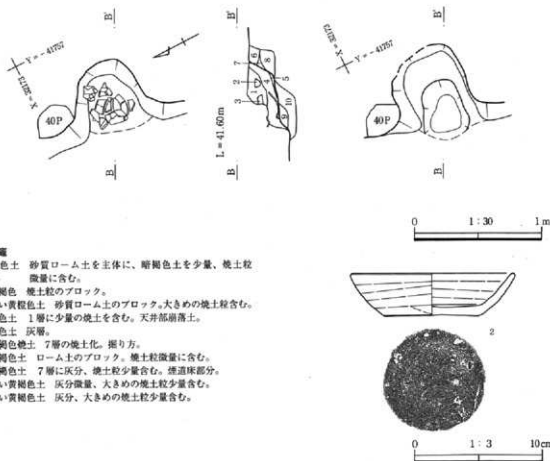
遺物 竈から1の完形土師器甕、2のほぼ完形須恵器坏が出土。2号住居と混在している部分もあり、時期差もあまりないため、特定できなかった。

所見 本住居の時期は、2号住居とさほど時間差がないと考えられる。また、出土遺物及び埋土から9世紀頃と比定される。



第10図 3号住居 平・断面図 出土遺物(1)

竪穴住居跡



3号住居竈

- 1 黄褐色土 砂質ローム土を主体に、暗褐色土を少量、焼土粒微量を含む。
- 2 暗赤褐色 焼土粒のブロック。
- 3 にぶい黄褐色土 砂質ローム土のブロック。大きめの焼土粒を含む。
- 4 黄褐色土 1層に少量の焼土を含む。天井部崩落土。
- 5 褐色土 灰層。
- 6 明赤褐色焼土 7層の焼土化、掘り方。
- 7 明黄褐色土 ローム土のブロック。焼土粒微量を含む。
- 8 明黄褐色土 7層に灰分、焼土粒少量含む。煙道床部分。
- 9 にぶい黄褐色土 灰分微量、大きめの焼土粒少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 灰分、大きめの焼土粒少量含む。

第11図 3号住居竈・掘り方 平・断面図 出土遺物(2)

4号住居(第12・13図、第8表、PL 2・7)

位置 X = 32170 ~ 175 Y = -41770 ~ 775

重複遺構 西側の1号井戸と重複する。遺物平面確認から本遺構の方が古いものと判断される。

形態 南東側が調査区外に延び、西側で1号井戸とも重複しているため全形は不明である。調査区内の状況から隅丸長方形であると推定される。

方位 N - 20° - W

規模 長軸3.40 × 短軸3.10m

面積 (7.533) m² 調査区内

壁高 25cm

床面 床は、貼り床をもたず地山ロームが硬化している。南側は上部からの削平の影響を受け遺存状態は良くない。

ビット 住居東壁と調査区境の位置に径30cm ~ 50cm、深さ8cm程のビットを1基検出。

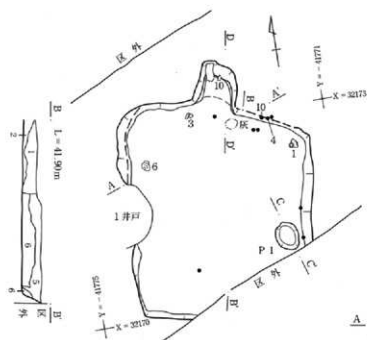
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 北壁中央よりやや西に位置する。遺存状態は比較的良好。燃烧部はほぼ壁のライン上に位置する。煙道は短く、下面は焼土化が著しい。心材を用いず、粘土のみで袖部から天井部を構築。燃烧部から煙道部にかけて緩やかな勾配を持つ。煙道部壁の焼土化が著しい。燃烧部幅70cm、焚き口幅50cm、燃烧部長さ44cm、煙道部20cmである。

遺物 1~3の須恵器碗、4の須恵器坏、5の土師器坏、6の土師器台付甕、7~11の土師器甕が出土。

所見 本住居の時期は、出土遺物及び埋土から9世紀頃と比定される。



4号住居

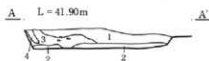
- 1 暗褐色土 ローム粒、焼土粒微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック微量含む、
焼土粒少量含む。
- 4 明黄褐色ロームブロック。
- 5 暗褐色土 田表土とローム土の混土。
- 6 明黄褐色砂質土 水性堆積ローム土。

P 1 L = 42.30m

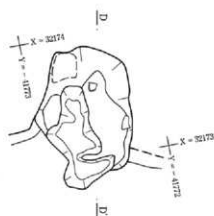
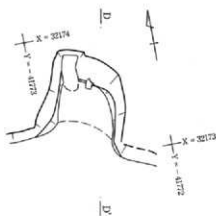
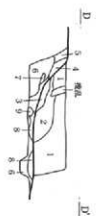


4号住居 P 1

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量に含む。



0 1:60 2m

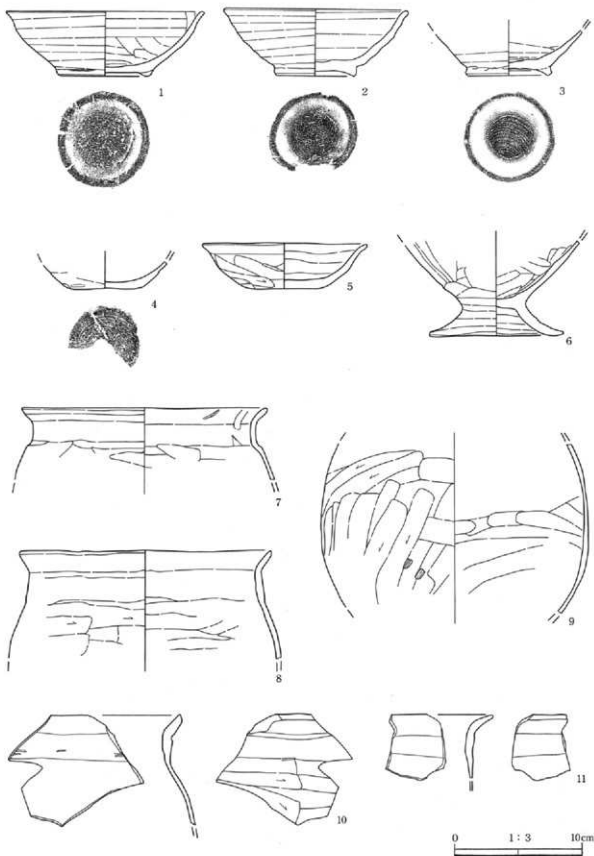


4号住居竈

- 1 暗褐色土 粘質土、ローム粒、焼土粒微量に含む。
- 2 暗褐色土 1層に広がる、ローム粒少量、焼土粒微量に含む。
天井部。
- 3 暗褐色土 1層に暗赤褐色の焼土粒ブロック中量含む、掘り方。
- 4 暗赤褐色土 焼土ブロック。
- 5 暗褐色土 ローム粒微量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒、焼土粒少量含む。
- 7 赤褐色土 焼土ブロック。
- 8 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量に含む。
- 9 明黄褐色土 砂質ローム土ブロック。

0 1:30 1m

第12図 4号住居・竈・掘り方 平・断面図



第13图 4号住居 出土遺物

5号住居(第14図)

位置 X = 32172~177 Y = -41767~771

重複遺構 なし

形態 北側が調査区外に延びているため全形は不明である。南東壁側は、調査時やや拡張した。また、住居中央部は試掘トレンチで削平されている。

方位 N - 20° - E

規模 長軸3.96 × 短軸3.46m

面積 (10.512)㎡ 調査区内

壁高 確認面が床面と考えられる。

床面 後世の削平を受け、僅かに床面が残るのみで

あった。掘り方面は、細かな凹凸を有するが、概ね平坦である。

ピット 6本を検出。径24cm~32cm、深さ12cm~32cm。埋土からP3、P5が本住居に伴うものと考えられるが、詳細は不明である。

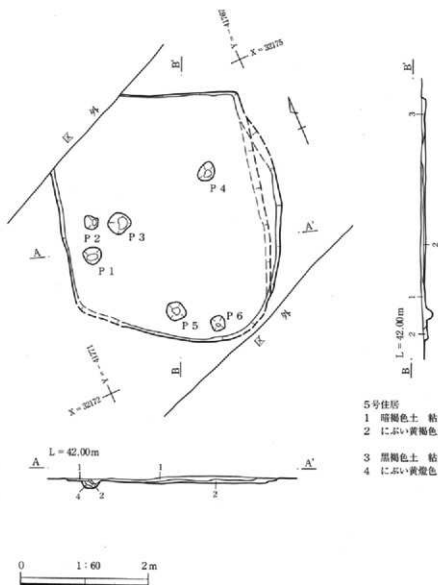
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

遺物 なし

所見 遺構の遺存状態も良くなく、出土遺物もないため、時期不明である。



第14図 5号住居 平・断面図

竪穴住居跡

6号住居(第15図、第8表、PL 3・7)

位置 X = 32174 ~ 177 Y = -41760 ~ 764

重複遺構 東側の3号溝、19号土坑と重複する。

遺構平面確認時と埋土土層断面の状況から本遺構が古いものと判断される。また、19号土坑の底面が焼土を多量に含むことから本住居の竪跡の可能性もある。

形態 南側が調査区外に延び、東側は3号溝と重複しているため、全形は不明である。

方位 計測不能

規模 長軸1.56×短軸1.32m 調査区内

面積 (1.665)㎡ 調査区内

壁高 50~60cm

床面 床面は、貼り床を持たず地山ロームが硬化している。

ピット 1基を確認。径23cm、深さ20cm。

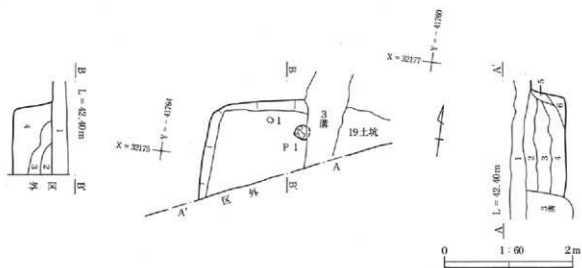
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

遺物 1の須恵器坏底部が出土。その他、土師器副部片出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺構の遺存状態も良くなく、出土遺物もないため、時期不明である。



6号住居

- 1 暗褐色土 やや砂質。旧表土。
- 2 暗褐色土 粘質土。ローム粒、焼土粒微量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を微量に含む。焼土粒微量に混入。

- 4 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒を微量に含む。焼土粒微量に混入。
- 6 暗褐色土 大きめのロームブロック少量含む。



第15図 6号住居 平・断面図 出土遺物

7号住居(第16図、第8表、PL 3・7)

位置 X = 32169 ~ 171 Y = -41781 ~ 785

重複遺構 南西側の1号住居と重複する。遺構平面確認時と埋土断面の状況から本遺構が、旧いものと判断される。

形態 北側が調査区外に延び、西側は1号住居と重複しているため、全形は不明である。確認面は掘り方面と考えられる。

方位 計測不能

規模 調査区内において長軸1.80×短軸1.00m

面積 (1.809)㎡ 調査区内

壁高 41cm、東側壁の土層断面に階段状の部分があり、出入り口のステップと推定される。

床面 掘り方面から厚さ4cm~12cm程明黄褐色土により埋め土を施して床面をつくる。掘り方面は細かな凹凸を残すが平坦である。土層断面に焼土痕を確認。

ピット 1基を確認。径36cm、深さ16cm。

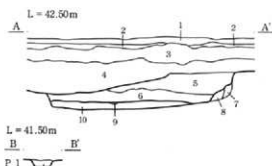
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認

遺物 掘り方面から1~3の須恵器片が出土。その他、土師器片、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 本住居の時期は、出土遺物から9世紀頃と比定される。

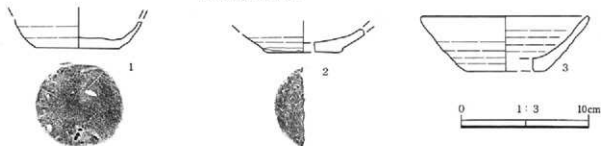


7号住居(5~10層)

- 1 にぶい黄褐色土 礫混入。線路路盤土。
- 2 黒褐色土 礫、焼土混入。盛土層。
- 3 暗褐色土 白色軽石粒微量を含む。旧表土。
- 4 暗褐色土 粘質土。焼土粒、炭化分少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒少量、焼土粒、炭化分少量を含む。
- 6 にぶい黄褐色土 ロームブロック少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 ローム混土。やや砂質。
- 8 にぶい黄褐色砂質ローム土のブロック。
- 9 明赤褐色土 焼土ブロック。掘り方。
- 10 明黄褐色ローム土 にぶい黄褐色土を少量層状を含む混土。



7号住居 P 1
1 明黄褐色砂質ローム土 炭化分微量、暗褐色粘質土少量含む。



第16図 7号住居 平・断面図 出土遺物

土坑跡

2. 土坑跡

本遺跡から21基の土坑跡を検出した。同一面上での遺構調査であるため明確な時期判定は困難であるが、埋没土の土質・色調及び遺物の検討、さらに住居等の遺構の埋没土との比較などから、縄文時代に属するものと古墳時代以降に属するものとに推定した。出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。また、水田耕作、線路敷設時の土地整備により、上部からの削平が著しい。竪穴住居跡の床面がなくなるまで削平されていることも多く、掘り込みの浅い土坑は、この時点で消失してしまったものと思われる。それぞれの形態・規模については一覧表(第3表)、遺構図に掲載した。土坑は大まかに、円形・楕円形、方形、不整形に分けることができる。縄文時代の土坑は、主に

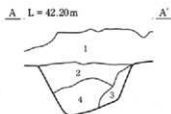
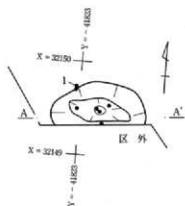
1号土坑(第17・18図、第3・8表、PL 7)

楕円形で調査区境に位置する。南半分が調査区外に延びるため、全形は不明である。底面は、平坦なレベルであるが、小さな凹凸をもつ。埋土は、黒褐色粘質土でローム粒・ブロックを含む。1・2は縄

調査区西側から確認されており、調査区西側周辺に縄文時代の遺構の存在を推定される。

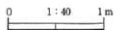
1・2・9号土坑はやや不整形、4・20号土坑は重複しており、楕円形である。3・6・7・10・12・13号土坑は、方形か隅丸長方形である。墓坑の可能性も考えられるが、特定できる遺物を確認することはできなかった。埋土から中世以降の可能性が高いと考えられる。8号土坑は、2基の柱穴の重複であり掘建柱建物跡の柱と推察される。11号土坑は、やや浅く、試掘調査時のトレンチにより北半分を消失しており、全体は不明である。14~16号土坑は円形である。出土遺物も少なく、埋土からも時期を特定できなかった。また、15号土坑は、8号土坑と同様に4基の柱穴の重複と考えらる。特徴的なものについては、以下に詳述する。

文土器深鉢、3は常滑山茶碗、4は江戸時代陶器片である。流れ込みの可能性が高い。その他、縄文土器片、須恵器片出土しているが、小片のため図化できなかった。

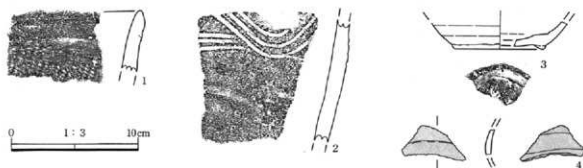


1号土坑(縄文土坑)

- 1 暗褐色土 やや粘質。旧表土。
- 2 黒褐色粘質土 部分的にロームブロック少量含む。
- 3 黒褐色粘質土 固く締まる。
- 4 黒色粘質土 ローム粒少量含む。固く締まる。



第17図 1号土坑 平・断面図



第18図 1号土坑 出土遺物

2号土坑(第19図、第3表)

楕円形で調査区西側に位置する。底面は、平坦なレベルであるが、小さな凹凸をもつ。埋土は、暗褐色

粘質土、ローム粒・ブロックを少量含む。縄文土器片3点出土しているが、小片のため図化できなかった。



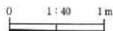
第19図 2号土坑 平・断面図

4号土坑(第20図、第3・8表、PL 3・8)

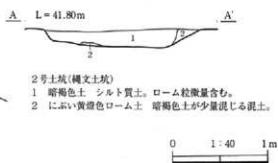
やや円形に近い楕円形である。底面は、ほぼ平坦である。埋土は、暗褐色粘質土、ローム粒を僅かに含んでいる。20号土坑を掘り壊していることから、4号土坑の方が時期は新しいと考えられる。1~7は縄文土器深鉢で縄文時代後期と考えられる。その他、縄文土器片多数(82点)が出土しているが、出土位置は、底面から30cm以上の上層に集中していた。大部分が小片のため、意図的な行為による設置か単なる廃棄かは不明である。

20号土坑(縄文土坑)

- 1 黒褐色粘質土 大きめの灰化分とローム粒微量に含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒微量に含む。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム粒少量含む。

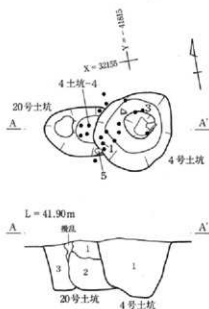


第20図 4・20号土坑 平・断面図



2号土坑(縄文土坑)

- 1 暗褐色土 シルト質土。ローム粒微量含む。
- 2 にぶい黄褐色ローム土 暗褐色土が少量混じる汎土。



4号土坑(縄文土坑)

- 1 黒褐色粘質土 大きめの灰化分とローム粒微量に含む。

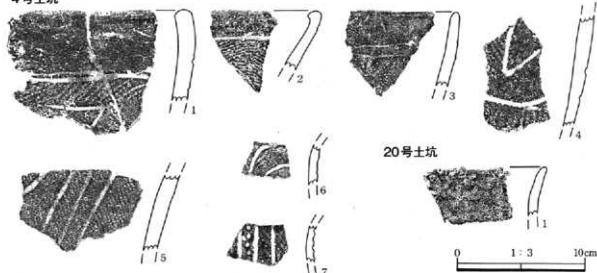
土坑跡

20号土坑(第20・21図、第3・8表、PL 8)

東西に長い楕円形である。底面は、中央部が高まり、凹凸がある。埋土は、東側が暗褐色粘質土でローム粒を僅かに含む、西側に、いぶい黄褐色土でローム粒を僅かに含む。断面観察と埋土から土坑とピットの複合したものと考えられる。攪乱のためピットとの新旧関係は不明。4号土坑により掘り壊

されていることから、本道構の方が古いと考えられる。主に東側の埋土から縄文土器片が出土。出土位置は、4号土坑と同様に底面から30cm以上の層に集中していた。1は掘之内式深鉢である。その他、縄文土器片が出土しているが、小片のため図化できなかった。出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

4号土坑

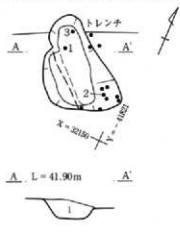


第21図 4・20号土坑 出土遺物

9号土坑(第22図、第3・8表、PL 8)

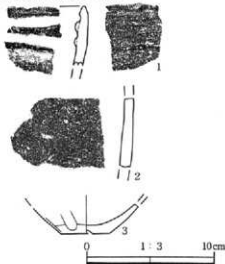
調査区西側に位置し、1・2号土坑に近接する。ほぼ長方形である。調査時やや拡大しすぎたため、破線位置が本来の形であると考えられる。底面は、多少の凹凸があるが、ほぼ平坦である。埋土は、暗

褐色粘質土である。1は縄文土器深鉢、2は土師器胴部、3は土師器壺底部である。2・3は流れ込みと考えられる。その他、縄文土器片26点が出土しているが、小片のため図化できなかった。埋土と出土遺物から縄文時代後期と考えられる。



9号土坑

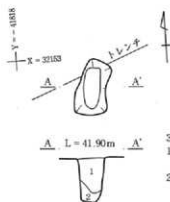
1 暗褐色土 ローム粒微量を含む。やや粘性。



第22図 9号土坑 平・断面図 出土遺物

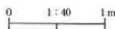
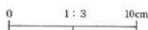
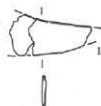
3号土坑(第23図、第3・8表、PL 8)

隅丸長方形に近い楕円形である。底面は、ほぼ平坦である。埋土は、上層が暗褐色粘質土、ローム粒・ブロックを含む。下層は灰黄褐色の砂質土を含む。



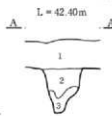
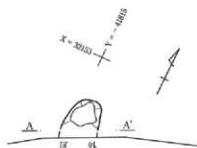
- 3号土坑
 1 暗褐色シルト質土 明黄褐色砂質ロームブロックを少量含む。
 2 暗褐色土 明黄褐色砂質ロームブロックと灰黄褐色粘質土を少量含む。

第23図 3号土坑 平・断面図 出土遺物



5号土坑(第24図、第3表)

調査区域に位置し、南側が調査区外に延びるため全形は不明である。楕円形と推察される。底面は、



- 5号土坑
 1 暗褐色土 小礫含む。旧表土。
 2 暗褐色土 明黄褐色砂質ロームブロック微量を含む。
 3 暗褐色土 2層に似るが、やや明色味が強い。ロームブロック少量含む。

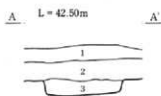
第24図 5号土坑 平・断面図



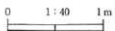
6号土坑(第25図、第3表)

調査区域に位置し、北側が調査区外に延びるため全形は不明である。底面は、ほぼ平坦である。埋土

は、暗褐色粘質土である。断面観察と埋土からピットの複合したものと考えられる。出土遺物もなく時期は不明である。



- 6号土坑
 1 黒褐色土 小礫含む。盛土。
 2 暗褐色土 小礫混。旧表土。
 3 暗褐色土 シルト質土。大きめの明黄褐色砂質ロームブロックを少量含む。土器片と思われる粒子を微量に含む。

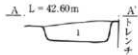
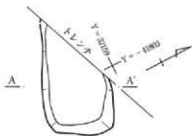


第25図 6号土坑 平・断面図

土坑跡

7号土坑(第26図、第3表)

調査区中央やや西側に位置する。北西側が試掘トレンチにより削平され消失しているため全形は不明



7号土坑

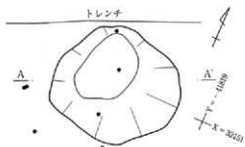
1 暗褐色土 シルト質土。大きめの明黄色ロームブロック微量に含み、少量の炭化分含む。



第26図 7号土坑 平・断面図

10号土坑(第27図、第3表)

調査区西側に位置し、方形に近い楕円形である。削平されてしまったのか、掘り込みが浅かったためなのか確認面からの掘り込みは浅い。底面は、凹凸



10号土坑

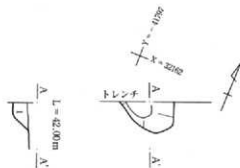
1 暗褐色土 ローム粒微量、炭化分を少量含む。やや粘性。



第27図 10号土坑 平・断面図

11号土坑(第28図、第3表)

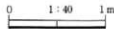
調査区中央に位置する。北西側が試掘トレンチにより削平され消失している。そのため全形は不明で



ある。掘り込みは浅い。底面は、平坦である。埋土は、暗褐色粘質土で、少量のローム粒子を含む。石1点が出土しているが、小片のため図化できず、時期も不明である。

11号土坑

1 暗褐色土 シルト質。明黄色砂質ロームブロック、土器片と思われる粒子を微量に含む。粘性あり。

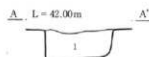
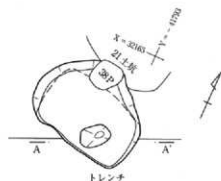


第28図 11号土坑 平・断面図

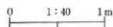
12号土坑(第29図、第3表、PL 4)

調査区中央に位置する。調査時遺構を拡大しすぎたため全形は不明である。確認面からの掘り込みは

浅い。底面は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色粘質土に少量のローム粒子と炭化物を含む。出土遺物もなく時期は不明である。



12号土坑
1 暗褐色土 シルト質、明黄褐色砂質ロームブロック、炭化物を少量含む。粘性あり。

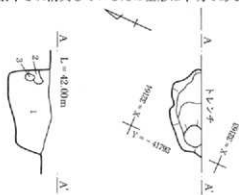


第29図 12号土坑 平・断面図

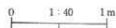
13号土坑(第30図、第3表、PL 4)

調査区中央に位置する。試掘トレンチにより一部削平され消失しているため全形は不明である。確認

面からの掘り込みは浅い。底面は、凹凸がある。埋土は、暗褐色粘質土に、少量の黒褐色土ブロックを含む。出土遺物もなく時期は不明である。



13号土坑
1 暗褐色土 明黄褐色ローム粒微量を含む。
2 黒褐色土 明黄褐色ローム粒、炭化物微量を含む。やや粘性あり。
3 黒褐色土 明黄褐色ローム・ブロック(3cm大)との混土、やや粘性、結まりあり。

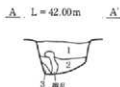
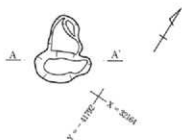


第30図 13号土坑 平・断面図

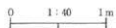
14号土坑(第31図、第3表)

調査区中央に位置する。試掘トレンチにより一部削平され消失している。底面は、凹凸がある。埋土

は2層に分けられ、上層が暗褐色粘質土、下層が褐色粘質土である。埋土の状況と調査から柱穴の重複と考えられる。出土遺物もなく時期は不明である。



14号土坑
1 暗褐色 シルト質、明黄褐色砂質ロームブロック、炭化物を少量含む。粘性あり。
2 褐色シルト質土
3 明黄褐色ローム土 やや砂質。



第31図 14号土坑 平・断面図

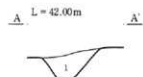
土坑跡

15号土坑(第32図、第3表)

調査区中央に位置する。試掘トレンチにより一部削平され消失している。底面は、多少の凹凸があるが、概ね平坦である。埋土は、暗褐色粘質土にロー

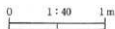


第32図 15号土坑 平・断面図



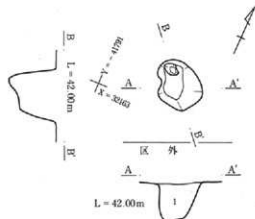
15号土坑

1 暗褐色土 シルト質、明黄褐色砂質ロームブロック、炭化物を少量含む。粘性あり。



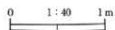
16号土坑(第33図、第3表、PL 4)

調査区中央に位置し、楕円形である。底面は、北西側が深く掘り込まれ、南東側は多少の凹凸があるが、概ね平坦である。埋土は、暗褐色粘質土にローム粒を少量含む。埋土の状況と調査から柱穴の重複と考えられる。出土遺物もなく時期は不明である。



16号土坑

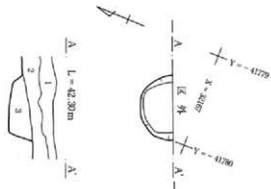
1 暗褐色土 シルト質、明黄褐色砂質ローム粒少量含む。



第33図 16号土坑 平・断面図

17号土坑(第34図、第3表)

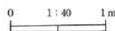
調査区境に位置し、南側が調査区外に延びるため



全形は不明である。底面は、多少の凹凸があるが、概ね平坦である。埋土は、主に暗褐色粘質土でローム粒を僅かに含む。出土遺物もなく時期は不明である。

17号土坑

1 黒褐色土 盛土。
2 暗褐色土 旧表土。
3 暗褐色土 シルト質、明黄褐色砂質ローム粒少量含む。

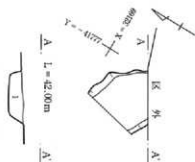


第34図 17号土坑 平・断面図

18号土坑(第35図、第3表)

調査区境に位置し、南側が調査区外に延びるため全形は不明である。底面は、平坦である。埋土は、

主に暗褐色粘質土でローム粒を僅かに含む。出土遺物もなく時期は不明である。

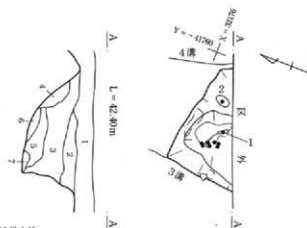


第35図 18号土坑 平・断面図

19号土坑(第36図、第3・8表、PL 4・8)

調査区境に位置し、また、3・4号溝、6号住居と重複し、南側が調査区外に延びるため全形は不明である。土層断面の観察と調査の状況から本遺構が一新らしい。底面は、平坦であるが、焼土が少量に

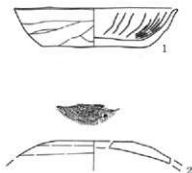
分布している。6号住居の竈跡或いは、火葬墓の可能性も考えられる。埋土は、主に暗褐色粘質土と黒褐色土でローム粒を僅かに含む。土坑上部から1はほぼ完形土師器杯、2は須恵器蓋である。その他、土師器副部片5点が出土しているが、小片のため図化できなかった。



19号土坑

- 1 旧表土
- 2 暗褐色土 ローム粒微量に含む。土器片、炭化分微量に混入。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム粒少量、焼土粒、炭化分微量に含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒微量に含む。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒微量、大きめの焼土粒、炭化分微量に含む。
- 6 褐色シルト質土 ローム粒中量含む。
- 7 にぶい赤褐色土 焼土粒少量に含む。締まりやや良い。

第36図 19号土坑 平・断面図 出土遺物

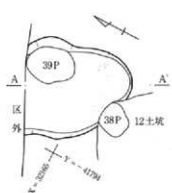


21号土坑(第37図、第3表)

調査区境に位置し、北側が調査区外に延びるため全形は不明である。38・39号ピット、12号土坑と重複し、一部消失している。38号ピットと12号土

坑より本遺跡が旧く、底面は39号ピットに掘削されていると考えられる。埋土は、主に暗褐色粘質土でローム粒を僅かに含む。出土遺物もなく時期は不明である。

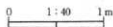
土坑跡



21号土坑

- 1 暗紅色シルト質土 やや大きめのロームブロックを部分的に少量含む。
- 2 黄褐色シルト質土 やや大きめのロームブロックを部分的に少量含む。黄砂層土。

第37図 21号土坑 平・断面図



第3表 土坑跡一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	主軸方向	規模(m)			出土遺物	備考
					長径	短径	深度		
1	1号土坑	X = 32149 Y = -41823	-(楕円形)	N-84°-E	0.98	-	0.55	中近世陶器、縄文土器片少数	縄文時代後期層之内式。
2	2号土坑	X = 32150 Y = -41823	楕円形	N-25°-W	1.72	0.76	0.30	縄文土器片少数	縄文土坑。
3	3号土坑	X = 32152 Y = -41817	隅丸長方形	N-90°-E	0.60	0.30	0.46	縄文土器片少数、鉄器(刀子)	
4	4号土坑	X = 32155 Y = -41815	ほぼ円形	N-52°-E	0.88	0.78	0.60	縄文後期称名寺式土器片少数	20号土坑と重複。
5	5号土坑	X = 32152 Y = -41815	-(ほぼ円形)	N-26°-W	-	0.36	0.48	縄文土器片1点	ピットの重複、調査区外に出るため、全形は不明。
6	6号土坑	X = 32159 Y = -41808	-(ほぼ円形)	N-69°-E	0.80	-	0.24	なし	調査区外に出るため、全形は不明。
7	7号土坑	X = 32158 Y = -41803	-(長方形)	N-70°-W	-	0.74	0.18	なし	調査区外に出るため、全形は不明。
8	8号土坑	X = 32158 Y = -41802	-(楕円形)	N-70°-E	-	0.50	0.60	なし	1号獨立柱建物P3、1号横列P3に変更。獨立柱建物と横列の重複。
9	9号土坑	X = 32150 Y = -41821	長方形	N-48°-W	1.10	-	0.20	縄文土器片少数	
10	10号土坑	X = 32151 Y = -41819	やや正方形	N-75°-W	1.30	1.13	0.18	土師器・須恵器片多数、縄文土器片1点	縄文時代後期層之内式。
11	11号土坑	X = 32161 Y = -41796	-(円形)	N-23°-W	-	0.50	0.18	石1点	調査区外に出るため、全形は不明。
12	12号土坑	X = 32165 Y = -41793	隅丸長方形	N-63°-W	1.20	0.90	0.30	なし	破線が実際の遺構範囲。
13	13号土坑	X = 32163 Y = -41793	-(楕円形)	N-65°-E	0.94	-	0.38	なし	調査区外に出るため、全形は不明。
14	14号土坑	X = 32164 Y = -41792	楕円形	N-54°-E	0.60	0.36	0.32	なし	
15	15号土坑	X = 32164 Y = -41792	楕円形	N-57°-E	0.80	0.64	0.56	土師器片2点、縄文土器片1点	
16	16号土坑	X = 32163 Y = -41790	ほぼ円形	N-41°-W	0.55	0.45	0.34	なし	
17	17号土坑	X = 32167 Y = -41779	-(ほぼ円形)	N-66°-E	0.88	-	0.24	なし	調査区外に出るため、全形は不明。
18	18号土坑	X = 32168 Y = -41777	-(不定形)	N-59°-E	-	0.70	0.43	なし	
19	19号土坑	X = 32176 Y = -41761	-(不定形)	N-18°-E	1.32	-	0.64	土師器・須恵器片少数	
20	20号土坑	X = 32154 Y = -41815	楕円形	N-80°-W	-	0.52	0.52	縄文土器片少数	4号土坑と重複。
21	21号土坑	X = 32165 Y = -41794	楕円形	N-30°-W	1.07	-	0.30	縄文土器片多数	縄文時代後期層之内式。

3. 溝跡

後世の削平が深くまで及んでおり、溝跡の遺存状態は良くなかった。遺物も溝の時期を決定できる状態のものは無く、溝について時期不明のものが多く、埋土からの出土遺物は古代から近・現代のものまで

混在する。少数で小片ばかりなので、溝に伴うものか混入品か判断ができなかった。他遺構の埋土との比較と出土遺物から、中世から近世までの遺構が大半であると思われるが、古代まで遡る可能性も否定できない。

1号溝(第38図、第8表、PL 8)

位置 X = 32152 ~ 155 Y = - 41818 ~ 820

調査区西側に位置する

重複遺構 13号ピットと重複、新旧関係は不明。

走向 北から南(N-S)

形態 直線的で、断面は箱形である。

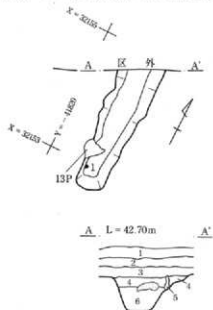
規模 検出全長 (2.0)m 上幅 0.70~0.44m

底幅 0.40~0.23m 深さ 0.52m

遺物 1の12世紀頃作られた渥美大甕が出土。そ

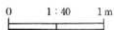
の他、縄文土器が出土。摩滅していて図化できなかった。

所見 北側は調査区外に延びている。南側は調査区中央付近で消失している。暗褐色土と明褐色土により埋没している。出土遺物が少ないが、12世紀の甕が出土していることから中世以降の埋没と考えられる。流水の痕跡がないことから、区画溝の可能性もある。



1号溝

- 1 におい黄褐色土 道路の踏墊土。
- 2 黒褐色土 ロームブロック微量を含む。盛土。
- 3 暗褐色土 やや1層に似る。炭化分少量含む。旧表土。
- 4 暗褐色土 3層より灰色味が強い。ローム粒微量を含む。
- 5 明黄褐色土 ローム土ブロック。
- 6 暗褐色粘質土 ローム粒微量を含む。1号溝覆土。



第38図 1号溝 平・断面図 出土遺物

2号溝(第39図、第8表、PL 8)

位置 X = 32164 ~ 167 Y = - 41785 ~ 793

調査区中央付近に位置する

重複遺構 なし

走向 北西から南東(N-77°-W)

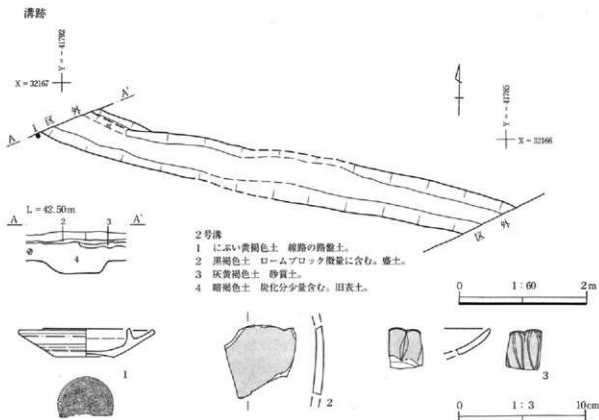
形態 直線的で、断面は皿状である。

規模 検出全長 6.70m 上幅 0.55~0.76m

底幅 0.45~0.25m 深さ 0.22m

遺物 1の陶器灯明皿、2の陶器小型甕、3の陶磁器菊花瓶が出土。いずれも江戸時代のもと考えられる。その他、土師器片、須恵器片等出土。小片のため図化できなかった。

所見 掘り込みが浅く、旧表土による埋土であること、近世遺物が出土していることから近世・現代に埋没したものと考えられる。



第39図 2号溝 平・断面図 出土遺物

3号溝(第40図、第8表、PL 4・8)

位置 X = 32175 ~ 180 Y = -41761 ~ 762

調査区東側付近に位置する

重複遺構 調査区北側で4号溝、調査区南側で6号住居と19号土坑と重複。新旧関係は、土層断面の状況により、6号住居、19号土坑より新しく、4号溝より古いと判断される。

走向 北から南(N - 2° - E)

形態 直線的で、断面は箱形である。

規模 検出全長 4.24m 上幅 0.43 ~ 0.70m

底幅 0.20 ~ 0.24m 深さ 0.71m

遺物 1の円筒埴輪、2の中世常滑甕か壺、3の江戸時代陶器徳利が出土。その他、土師器・須恵器片、縄文土器片等出土。小片のため図化できなかった。

所見 やや掘り込みが深く、褐色土と暗褐色土で埋没している。また、中近世の陶器が出土していることから近世以降の埋没と考えられる。流水の痕跡がないことから、区画溝の可能性もある。

4号溝(第40図、第8表、PL 4・8)

位置 X = 32176 ~ 180 Y = -41759 ~ 763

調査区東側付近に位置する

重複遺構 調査区北側で3号溝、調査区南側で19号土坑と重複する。新旧関係は、遺構平面確認時の状況と埋土断面の観察により3号溝、19号土坑より新しいものと判断される。

走向 北西から南東(N - 75° - W)

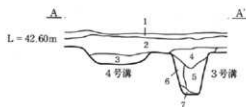
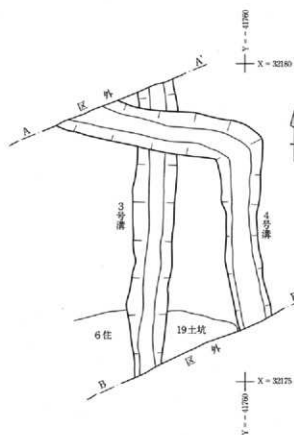
形態 調査区北側では北西より南東方向に走向し、調査区中央やや北側付近で南方向に直角に曲がり3号溝と並行して走行する。走向は蛇行せず直線的で、断面は皿状である。

規模 検出全長 4.90m 上幅 0.50 ~ 0.80m

底幅 0.23 ~ 0.47m 深さ 0.12m

遺物 1の近世陶器、2の黒曜石剥片が出土。その他、縄文土器片、土師器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 掘り込みが浅く、やや砂質の灰黄褐色土で埋没していること、近世の陶器が含まれることから、近世の埋没と考えられる。



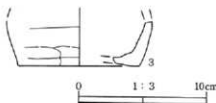
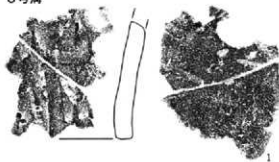
3・4号溝

- 1 濃い黄褐色土 線路の路盤土。
- 2 暗褐色土 やや1層に広がる。炭化分少量含む。旧衣土。
- 3 暗褐色土 2層にはほぼ同じ。やや暗色球強い砂質。4号溝覆土。
- 4 暗褐色土 ローム粒微量に含む。3号溝覆土。
- 5 黒褐色土 ローム粒微量に含む。僅かに炭化分・焼土粒が混じる。3号溝覆土。
- 6 褐色土 ローム粒少量含む。3号溝覆土。
- 7 明黄褐色ローム土 3号溝覆土。

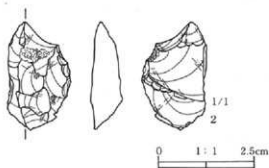
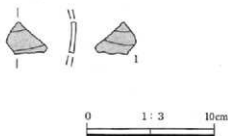
B. L=42.60m



3号溝



4号溝



第40図 3・4号溝 平・断面図 出土遺物

掘立柱建物跡

4. 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物(第41図、第4表、PL 3)

位置 X = 32158 ~ 163 Y = - 41800 ~ 806

重複遺構 なし

形態 調査区外に延びるため全形は不明である。

(調査区内 2間×1間)

方位 計測不能

規模 計測不能 P 1 ~ P 3 4.80m(調査区内)

P 3 ~ 調査区壁 4.72m(調査区内)

柱穴 掘り方の形態は、円形・楕円形である。規模

は径30cm~48cm、深さ14cm~48cmである。

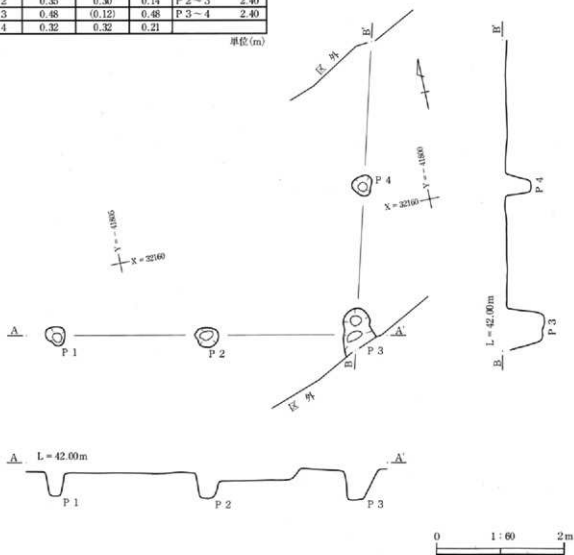
遺物 なし

所見 1号横列が1号掘立柱建物の柱穴の北側に平行して並び、1号横列の柱間の長さと同様に1号掘立柱建物柱間の長さも同じである。P 3は、当初8号土坑として考えられていたが、調査の結果2基のピットの複合であり、埋土も同様であることから、1号横列は1号掘立柱建物の立て替えの可能性が。出土遺物もなく時期不明である。

第4表 1号掘立柱建物計測表

遺構番号	長径	短径	深さ	柱間長
P 1	0.34	0.30	0.38	P 1 ~ 2 2.40
P 2	0.35	0.30	0.14	P 2 ~ 3 2.40
P 3	0.48	(0.12)	0.45	P 3 ~ 4 2.40
P 4	0.32	0.32	0.21	

単位(m)



第41図 1号掘立柱建物 平・断面図

5. 櫛列跡

1号櫛列(第42図、第5表、PL 3)

位置 X = 32157~160 Y = -41800~806

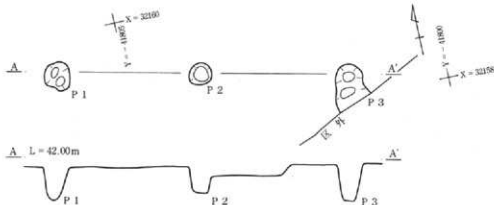
重複遺構 1号掘立柱建物、7号土坑と重複、新旧

関係は不明である。

形態 北西から南東方向の走向

方位 N-77°-W

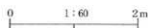
規模 4.80m (調査区内)



第5表 1号櫛列計測表

遺構番号	長径	短径	深度	柱間長
P 1	0.45	0.42	0.52	P 1~2 2.40
P 2	0.38	0.38	0.18	P 2~3 2.40
P 3	0.40	(0.36)	0.60	

単位(m)



第42図 1号櫛列 平・断面図

2号櫛列(第43図、第6表)

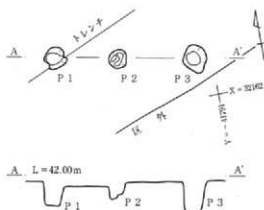
位置 X = 32162~163 Y = -41791~794

重複遺構 なし

形態 北西から南東方向の走向

方位 N-77°-W

規模 2.60m (調査区内)



第43図 2号櫛列 平・断面図

柱穴 掘り方の形態は円形である。規模は径38cm~45cm、深さ8cm~60cm。

遺物 なし

所見 1号掘立柱建物の柱穴の北側に平行に並び、柱間の長さも同じである。1号櫛列は1号掘立柱建物の立て替えの可能性が考えられる。遺物もなく時期不明である。

柱穴 掘り方の形態は円形である。規模は径30cm~48cm、深さ22cm~40cm。

遺物 なし

所見 P2~P3の柱間長がやや長い。2号櫛列の周辺にピット、土坑等が存在するが、柱間長、柱穴の規模等において同様のものは、見あたらなかった。遺物もなく時期不明である。

第6表 2号櫛列計測表

遺構番号	長径	短径	深度	柱間長
P 1	0.35	0.30	0.30	P 1~2 1.12
P 2	0.30	0.30	0.22	P 2~3 1.16
P 3	0.48	0.40	0.40	

単位(m)



6. 井戸跡

本遺跡から1基の井戸を検出した。調査区東側
にあり、3・4号住居の間に位置している。1号
井戸は、9世紀頃に比定される4号住居よりも新
しい。埋土の状況から近代まで使用されていたと

1号井戸(第44図、PL 3)

位置 X = 32171 Y = -41775

重複遺構 4号住居と重複。土層断面の観察と遺構
確認時の状況により、4号住居を1号井戸が掘り
壊していることから本遺構の方が新しい。

形態 確認面では、やや方形に近い楕円形である。
断面は上位から0.4m程でやや細まり、その下位
は径1m程の筒状であると推察される。調査時
においては、西側のみ石組みが残存しており、廃
棄時に石組みは壊されたと考えられる。また、井

考えられる。明治42年(1909)に開通した東武鉄道
敷設以前か、敷設時に人為的に埋め戻されたものと
考えられる。

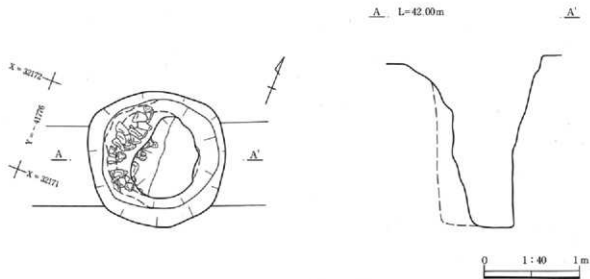
戸の使用時においては、30cm大の川原石で周囲
を組んでいたと推察できる。なお、安全を重視し
完掘を避けたため、形態については推定である。

方位 N-69°-E

規模 長径1.44m、短径1.44m、深さ1.80mである。

遺物 土師器口縁部片1点と縄文土器片1点出土。

所見 1号井戸は、埋土の関係から近代まで使用さ
れた可能性があり、東武鉄道敷設以前か敷設時に
廃棄され、人為的に埋められたものと考えられる。

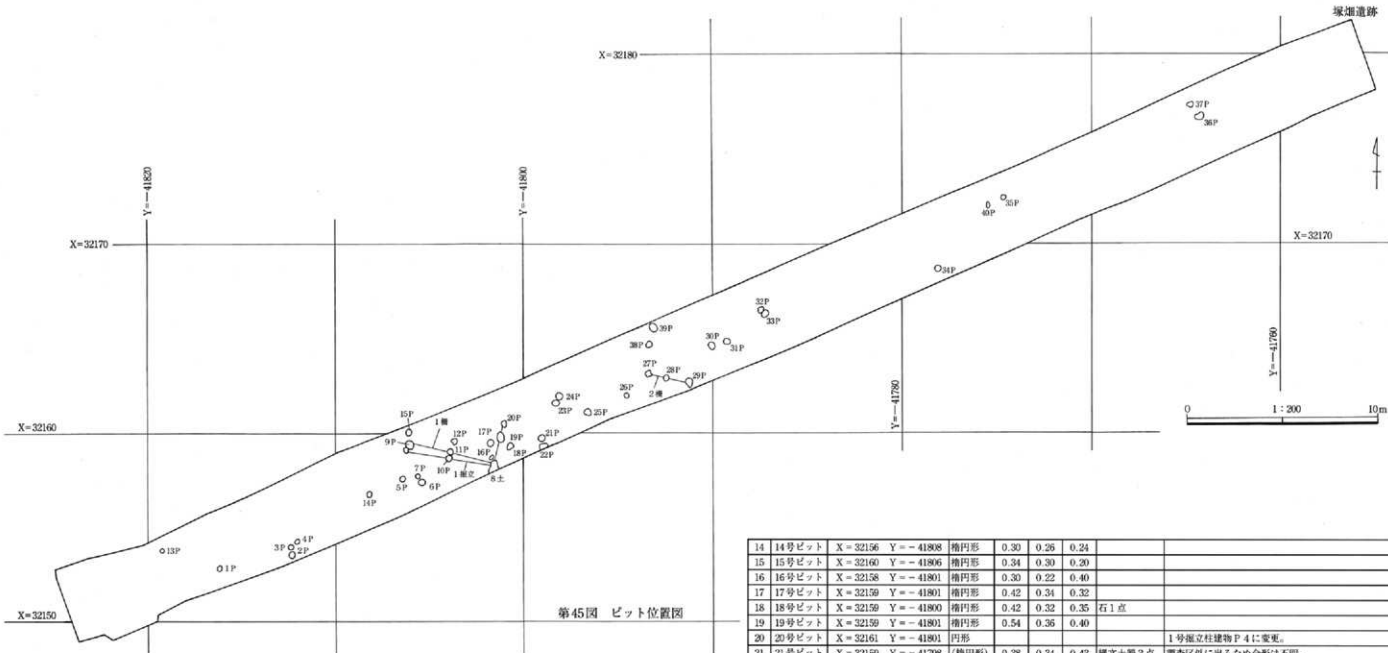


第44図 1号井戸 平・断面図

7. ピット跡(第45図、第7表)

本遺跡から40基のピット跡を検出した。出土遺
物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定でき
たものは少なかった。整理時点の検討から掘立柱建
物跡、欄列跡等への柱穴に変更されたものもある。
水田耕作、線路敷設時の土地整備により、上部から
の削平が著しく、掘り込みの浅いピット跡は、この

時点で消失してしまったものと推察される。ピット
跡については様々な形態・様相であるため、それぞ
れの形態・規模については一覧表(第7表)に、位置
についてはピット位置図(第45図)の中に掲示した。
1号掘立柱建物、1・2号欄列と同様の時期と想定
されるが、出土遺物が少なく時期を特定するまで
には至らなかった。



第45図 ピット位置図

第7表 ピット跡一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	規模(m)			出土遺物	備考
				長径	短径	深さ		
1	1号ピット	X=32153 Y=-41816	円形	0.26	0.26	0.59	石1点	
2	2号ピット	X=32153 Y=-41812	円形	0.32	0.32	0.31	縄文土器1点	
3	3号ピット	X=32153 Y=-41812	円形	0.30	0.30	0.52		
4	4号ピット	X=32154 Y=-41811	楕円形	0.31	0.26	0.45		
5	5号ピット	X=32157 Y=-41806	円形	0.30	0.30	0.14		
6	6号ピット	X=32157 Y=-41805	楕円形	0.36	0.34	0.20	土師器片1点	
7	7号ピット	X=32157 Y=-41805	楕円形	0.28	0.24	0.20		
8	8号ピット	X=32159 Y=-41806	円形					1号独立柱建物P1に変更。
9	9号ピット	X=32159 Y=-41805	円形					1号櫓列P1に変更。
10	10号ピット	X=32158 Y=-41803	円形					1号独立柱建物P2に変更。
11	11号ピット	X=32159 Y=-41803	円形					1号櫓列P2に変更。
12	12号ピット	X=32159 Y=-41803	円形	0.30	0.30	0.38		
13	13号ピット	X=32153 Y=-41819	不整形	0.36	0.22	0.56		1号溝と重複。1号溝を掘り壊しているところから、本ピットの方が新しい。

14	14号ピット	X=32156 Y=-41808	楕円形	0.30	0.26	0.24		
15	15号ピット	X=32160 Y=-41806	楕円形	0.34	0.30	0.20		
16	16号ピット	X=32158 Y=-41801	楕円形	0.30	0.22	0.40		
17	17号ピット	X=32159 Y=-41801	楕円形	0.42	0.34	0.32		
18	18号ピット	X=32159 Y=-41800	楕円形	0.42	0.32	0.35	石1点	
19	19号ピット	X=32159 Y=-41801	楕円形	0.54	0.36	0.40		
20	20号ピット	X=32161 Y=-41801	円形					1号独立柱建物P4に変更。
21	21号ピット	X=32159 Y=-41798	楕円形	0.38	0.34	0.43	縄文土器3点	調査区外に出るため全形は不明。
22	22号ピット	X=32159 Y=-41798	楕円形	0.46	0.35	0.60		調査区外に出るため全形は不明。
23	23号ピット	X=32161 Y=-41798	楕円形	0.40	0.38	0.32		
24	24号ピット	X=32161 Y=-41798	楕円形	0.32	0.30	0.72	土師器片1点	
25	25号ピット	X=32161 Y=-41796	楕円形	0.40	0.32	0.36		
26	26号ピット	X=32162 Y=-41794	楕円形	0.30	0.26	0.24		
27	27号ピット	X=32163 Y=-41793	円形					2号櫓列P1に変更。
28	28号ピット	X=32162 Y=-41792	円形					2号櫓列P2に変更。
29	29号ピット	X=32162 Y=-41791	円形					2号櫓列P3に変更。
30	30号ピット	X=32164 Y=-41790	楕円形	0.42	0.40	0.40		
31	31号ピット	X=32164 Y=-41789	楕円形	0.36	0.32	0.54	石1点	調査区外に出るため全形は不明。
32	32号ピット	X=32166 Y=-41788	不整形	0.38	0.30	0.26		33号ピットと重複。人為的崩壊の可能性あり。
33	33号ピット	X=32166 Y=-41787	楕円形	0.40	0.34	0.28		32号ピットと重複。人為的崩壊の可能性あり。
34	34号ピット	X=32168 Y=-41778	円形	0.32	0.32	0.22	土師器片1点	
35	35号ピット	X=32172 Y=-41774	楕円形	0.38	0.30	0.28		
36	36号ピット	X=32176 Y=-41764	楕円形	0.52	0.34	0.24	須恵器片1点	
37	37号ピット	X=32177 Y=-41764	楕円形	0.35	0.26	0.40		
38	38号ピット	X=32164 Y=-41793	不整形	0.36	0.30	0.30	土師器片1点	12号土坑と重複。
39	39号ピット	X=32165 Y=-41792	楕円形	0.54	0.40	0.30		21号土坑と重複。
40	40号ピット	X=32171 Y=-41775	不整形	0.40	0.20	0.20		3号在層と重複。礎を壊す。

8. 遺構外出土遺物(第46図、第8表、PL 9)

本遺跡で出土した遺構に伴わない遺物を時代別に報告する。なお、旧石器時代、弥生時代の明確な遺物は、確認されていない。

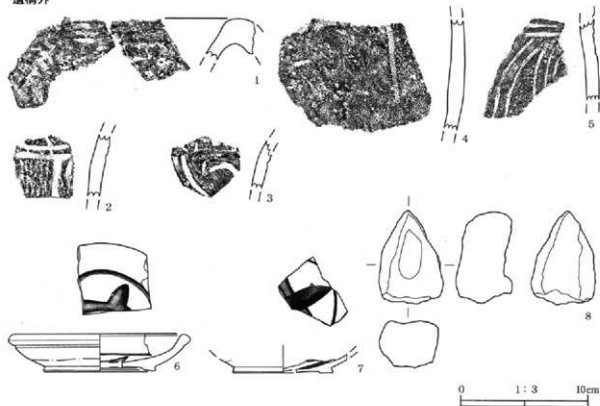
縄文時代

土坑粗土から縄文時代後期の土器が出土しているが、表面採取の土器も縄文時代後期のものであった。1は称名寺式土器深鉢、2～5は堀之内1式土器深鉢である。その他、縄文土器片が多数(51点)出土しているが、小片のため図化できなかった。

古墳時代

明らかに古墳時代のもものと特定できる遺物は、なかった。絶対数が少なく摩耗も激しいため報告できるものはなかった。

遺構外



第46図 遺構外 出土遺物

奈良・平安時代

検出された堅穴住居跡の年代と同じく、奈良・平安時代の遺物が多かった。土師器の口縁片と胴部片が多数出土したが、時期を特定するまでには至らなかった。また、遺構外出土遺物からは図化できるものはなかった。

中・近世

現代のものも含む陶磁器片が少数出土している。8は焼成粘土塊である。この時期の検出遺構はなく、僅かに、軟質陶器口縁片1点、胴部片4点が出土しているが、小片のため図化できなかった。

近現代

6は陶磁器皿、7は陶磁器碗である。その他、陶磁器片が出土しているが、小片のため図化できなかった。

遺物観察表

第8表 塚畑遺跡遺物観察表

2号住居

採掘番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第6図 P.L.5	1	土師器 杯	甌土 1/2	口径 (13.0) 底径 9.5 高さ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部やや外傾。底部平底。口縁部横撫で、胴～底部荒削り。内面撫で、指撫で。	内面に指紋供球が多い。
第6図 P.L.5	2	土師器 杯	床面 1/2 甌	口径 (13.0) 底径 - 高さ (3.8)	①細砂粒 ②- ③-	口縁部やや外反。底部平底。口縁部横撫で。胴部荒削り後撫で。底部横位荒削り。内面撫で。	
第6図 P.L.5	3	土師器 杯	甌土 1/4	口径 (13.4) 底径 (9.3) 高さ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③明黄褐色	口縁部やや外傾。底部平底。口縁部横撫で、胴～底部横位荒削り。内面撫で。	口縁やや重む
第7図 P.L.5	4	土師器 杯	甌土 口縁～体部 1/4	口径 (13.6) 底径 - 高さ (2.6)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	体部直線的に立ち上がり。口縁部やや外反気味となる。底部平底。口縁部横撫で。胴～底部荒削り。内面撫で。	
第7図 P.L.5	5	土師器 杯	貯蔵穴 口縁～体部 1/4	口径 (13.1) 底径 5.8 高さ 4.3	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	体部直線的に立ち上がる。口縁部やや外傾。底部平底。口縁部横撫で。胴部荒削り後撫で。底部荒削り。内面撫で。	
第7図 P.L.5	6	土師器 杯	甌土 口縁～底部付近 1/4	口径 (12.4) 底径 - 高さ (4.1)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部やや外反気味。底部欠損のため不明。口縁部横撫で。胴部荒削り後撫で。内面撫で。	
第7図 P.L.5	7	須恵器 杯	床面 2/3	口径 13.6 底径 6.8 高さ 4.2	①粗・細砂粒少量 ②酸化黒 良好 ③淡黄色	輪盤整形(右回転)。底部回転系切り後周縁部の荒削り。体部直線的に立ち上がる。口縁部やや外傾。	
第7図 P.L.5	8	須恵器 杯	甌土 1/3	口径 (13.0) 底径 5.6 高さ 3.4	①細砂粒僅か、粗・ ②細砂粒少量 ③還元黒 良好 ④灰色	輪盤整形(右回転)。体部直線的に立ち上がり、口縁部やや外反する。底部回転系切り後周縁部の荒削り。	
第7図 P.L.5	9	須恵器 杯	柱穴 4/5	口径 12.7 底径 5.3 高さ 4.2	①粗・細砂粒少量 ②還元黒 良好 ③灰白色	輪盤整形(右回転)。底部回転系切り後周縁部の荒削り。体部直線的に立ち上がる。口縁部やや外傾。	
第7図 P.L.5	10	須恵器 杯	床面 1/4	口径 (12.8) 底径 (6.4) 高さ 3.2	①細砂粒少量 ②還元黒 良好 ③灰色	輪盤整形(右回転)。底部回転系切り後周縁部の荒削り。体部直線的に立ち上がり、口縁部やや外反する。	
第7図 P.L.5	11	須恵器 杯	甌土 底部	口径 - 底径 7.0 高さ (1.7)	①粗・細・微砂粒 ②還元黒 良好 ③淡黄色	輪盤整形(右回転)。回転系切り後周縁部の荒削り。口縁～体部欠損のため不明。	
第8図 P.L.5	12	須恵器 杯	甌土 底部	口径 - 底径 5.0 高さ (1.0)	①粗砂粒少量 ②酸化黒 良好 ③にぶい黄褐色	輪盤整形(右回転)。回転系切り後周縁部の荒削り。口縁～体部欠損のため不明。	
第8図 P.L.5	13	須恵器 杯	甌土 体部～底部 1/2	口径 - 底径 5.6 高さ (2.8)	①粗・細砂粒少量 ②還元黒 良好 ③灰白色	輪盤整形(右回転)。底部回転系切り後周縁部の荒削り。体部直線的に立ち上がる。	底部一部欠損
第8図 P.L.5	14	須恵器 杯	甌土 1/6	口径 (12.4) 底径 (6.2) 高さ 4.0	①粗砂粒少量 ②還元黒 良好 ③灰色	輪盤整形(回転方向不明)。体部直線的に立ち上がり、口縁部やや外反する。底部回転系切り後周縁部の荒削り。	
第8図 P.L.5	15	須恵器 杯	甌土 底部	口径 - 底径 5.2 高さ (1.6)	①粗・細砂粒少量 ②還元黒 良好 ③にぶい黄色	手持ち荒削り。口縁～体部欠損のため不明。	
第8図 P.L.5	16	須恵器 杯	床面 底部2/3	口径 - 底径 6.2 高さ (1.9)	①粗・細砂粒少量 ②還元黒 良好 ③灰白色	輪盤整形(右回転)。回転系切り後周縁部の荒削り。口縁～体部欠損のため不明。	
第8図 P.L.5	17	須恵器 甌	甌土 高台	口径 - 底径 6.7 高さ (2.8)	①粗砂粒少量 ②酸化黒 良好 ③にぶい黄褐色	輪盤整形(右回転)。回転系切り後付け高台。高台前面四角形で開く。口縁～体部欠損のため不明。	
第8図 P.L.5	18	須恵器 杯	床面 1/2	口径 (13.1) 底径 7.0 高さ 3.7	①細砂粒 ②還元黒 良好 ③淡黄色	輪盤整形(右回転)。底部荒削り。体部直線的に立ち上がる。	
第8図 P.L.5	19	土師器 甌	床面 口縁部片	口径 (15.4) 底径 - 高さ (5.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明黄褐色	口縁部「コ」の字状に外反する。口縁部横撫で。胴部上位～底部欠損のため不明。内面撫で。	
第8図 P.L.5	20	土師器 甌	甌土 口縁部1/4	口径 (16.0) 底径 - 高さ (4.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部「コ」の字状に外反する。口縁部横撫で。胴部上位～底部欠損のため不明。内面撫で。	胴部に緑合痕が見られる
第8図 P.L.5	21	土師器 甌	甌土 口縁～胴部片	口径 (19.0) 底径 - 高さ (7.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部「コ」の字状に外反し。胴部に張りをもつ。口縁部横撫で。胴部横位の荒削り。底部欠損のため不明。内面撫で。	
第8図 P.L.5	22	土師器 甌	甌土 口縁部片	口径 19.2 底径 3.8 高さ 26.0	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部「コ」の字状に外反し。胴部に張りをもつ。口縁部横撫で。胴部横～胴部横位の荒削り。底部荒削り。内面撫で。	

2号住居

棟間番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第8図 P L 5	23	土師器 甕	覆土 口縁～胴部上位 1/3	口径 (14.5) 底径 - 高さ (8.5)	①細砂粒少量 ②良好 ③褐色	口縁部「コ」の字状に外反し、胴部にやや張りをもつ。口縁部横溝で、胴部上位横位の範囲り、胴部中位～底部欠損のため不明。内面撫で。	胴部に接合痕が見られる
第9図 P L 6	24	土師器 甕	覆振り方 口縁～胴部上位片	口径 (20.2) 底径 - 高さ (8.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部「コ」の字状に外反し、胴部に張りをもつ。口縁部横溝で、肩部横位の範囲り、底部欠損のため不明。内面撫で。	胴部に接合痕が見られる
第9図 P L 6	25	土師器 甕	覆振り方 口縁～胴部上位片	口径 (18.4) 底径 - 高さ (8.3)	①細砂粒少量 ②良好 ③褐色	口縁部「コ」の字状に外反し、胴部に張りをもつ。口縁部横溝で、胴部上位横位の範囲り、胴部中位～底部欠損のため不明。内面撫で。	
第9図 P L 6	26	土師器 甕	覆土 口縁～胴部上位片	口径 (18.2) 底径 - 高さ (10.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	口縁部「コ」の字状に外反し、胴部に張りをもつ。口縁部横溝で、胴部上位横位の範囲り、胴部中位～底部欠損のため不明。内面撫で。	
第9図 P L 6	27	土師器 甕	覆土 口縁～胴部 1/5	口径 (23.3) 底径 - 高さ (12.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	口縁部縮出し、胴部張りをもつ。口縁部横溝で、胴部上位横位の範囲り、底部欠損のため不明。内面撫で。	胴部に輪積み痕が見られる
第9図 P L 6	28	土師器 甕	覆土 口縁部1/4	口径 (20.2) 底径 - 高さ (5.8)	①細砂粒少量 ②良好 ③褐色	口縁部「コ」の字状に外反する。口縁部横溝で、胴部上位～底部欠損のため不明。内面撫で。	
第9図 P L 6	29	土師器 甕	覆振り方 口縁～胴部 1/3	口径 (20.2) 底径 - 高さ (13.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③ふい褐色	口縁部「コ」の字状に外反し胴部に張りをもつ。口縁部横溝で、胴部横～肩位の範囲り、底部欠損のため不明。内面撫で。	口縁部に輪積み痕が見られる
第9図 P L 6	30	土師器 付冑	覆土 受冑部	口径 - 底径 - 高さ (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	受冑部横位範囲で。内面撫で。	
第9図 P L 6	31	土師器 付冑	埴面(柱穴側) 台部1/3	口径 - 底径 8.4 高さ (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	胴～底部範囲り後撫で。内面範囲り、やや縁。脚部範囲で、脚部内面丁寧な撫で。	
第9図 P L 6	32	土師器 甕	埴面 底部1/2	口径 - 底径 (3.6) 高さ (5.2)	①細砂粒少量 ②良好 ③褐色	胴部下位横位範囲り。底部範囲り。	
第9図 P L 6	33	灰釉 甕	覆土 胴部片(肩部)	口径 - 底径 - 高さ (4.6)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③-	樽壺整形(回転方向不明)、やや丸味をもつ。	
第9図 P L 6	34	地成 粘土塊	覆土	縦 7.5 幅 8.6 厚さ 7.1	①粗砂粒少量 ②良好 ③淡黄色		

3号住居

棟間番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第10図 P L 6	1	土師器 甕	覆土 完形	口径 21.0 底径 4.0 高さ 27.0	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部「コ」の字状に外反し胴部に張りをもつ。口縁部横溝で、胴部横～肩位の範囲り、底部範囲り、内面撫で。	
第11図 P L 6	2	須恵器 甕	覆土 ほぼ完形	口径 13.0 底径 7.8 高さ 3.4	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	樽壺整形(右回転)、体部丸味の立ち上がる。底部回転糸切り後海緑部の範囲り。	器面の荒れ

4号住居

棟間番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第13図 P L 7	1	須恵器 甕	埴面 1/2	口径 (15.6) 底径 7.0 高さ 4.2	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③明黄褐色	樽壺整形(右回転)、体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部やや外傾。底部回転糸切り後付け高台。高台は丸味をもつ断面台形。内面胴～底部範囲り。	
第13図 P L 7	2	須恵器 甕	覆土 1/3	口径 (14.5) 底径 6.4 高さ 5.3	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③淡黄色	樽壺整形(右回転)、体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部やや外傾。底部回転糸切り後付け高台。高台は丸味をもつ断面台形。内面胴～底部範囲り。	
第13図 P L 7	3	須恵器 甕	埴面 底部	口径 - 底径 6.8 高さ (3.5)	①粗砂粒部か、細・微砂粒 ②還元焰 ③褐色	樽壺整形(回転方向不明)、底部回転糸切り後付け高台。高台は「ハ」の字状に開く。丸味をもつ断面台形。内面胴による調整。	
第13図 P L 7	4	須恵器 甕	覆土 底部	口径 - 底径 5.6 高さ (1.9)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③ふい黄褐色	樽壺整形(右回転)、底部回転糸切り後海緑部の範囲り。内面底部範囲り。口縁～胴部欠損のため不明。	
第13図 P L 7	5	土師器 甕	覆振り方 1/2	口径 (13.0) 底径 6.0 高さ 3.6	①粗砂粒少量、微細砂粒少量 ②良好 ③ふい黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部やや外反する。口縁部横溝で、胴～底部範囲り後撫で。内面撫で。	

遺物観察表

4号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第13回 P L 7	6	土師器 台付甕	床面 胴部下位～ 台部片	口径 - 底径 10.6 高さ (7.5)	①細 - 微砂粒少量 ②良好 ③棕色	胴部下位～底部履位箇所、内面胴～底部 丁寧な施漚で。台部横撫で、内面丁寧な撫 で	
第13回 P L 7	7	土師器 甕	覆土 口縁～胴部 1/4	口径 (19.4) 底径 - 高さ (5.6)	①細 - 微砂粒少量 ②良好 ③棕色	口縁部「コ」の字状に外反する。口縁部横 撫で、内面撫で。No. 9 と同一個体。	
第13回 P L 7	8	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 (20.0) 底径 - 高さ (8.7)	①細 - 微砂粒少量 ②良好 ③棕色	口縁部「コ」の字状に外反し、胴部に張り をもつ。口縁部横撫で、胴部上位横位の施 漚り、胴部中位～底部欠損のため不明。内 面撫で。	
第13回 P L 7	9	土師器 甕	床面 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (13.1)	①細 - 微砂粒少量 ②良好 ③棕色	胴部横位～斜位箇所。内面施漚で後指撫 で。No. 7 と同一個体。	
第13回 P L 7	10	土師器 甕	覆 口縁部片	口径 - 底径 - 高さ (8.7)	①細 - 微砂粒少量 ②良好 ③棕色	口縁部「コ」の字状に外反し、胴部に張り をもつ。口縁部横撫で、胴部上位横位の施 漚り、胴部中位～底部欠損のため不明。内 面撫で。	
第13回 P L 7	11	土師器 甕	床面 口縁部片	口径 - 底径 - 高さ (5.0)	①微砂粒少量 ②良好 ③棕色	口縁部「コ」の字状に外反する。口縁部横 撫で、内面撫で。	

6号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第15回 P L 7	1	須恵器 環	床面 底部	口径 - 底径 8.2 高さ (1.5)	①細 - 微砂粒少量 ②酸化焰 良好 ③にぶい褐色	横縫整形(右回転)、底部回転糸切り後周縁 部の施漚り。内面底部施漚き。口縁～胴部 欠損のため不明。	

7号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第16回 P L 7	1	須恵器 環	床面 底部	口径 - 底径 6.8 高さ (2.0)	①粗砂粒、 細砂粒少量 ②酸化焰 良好 ③にぶい褐色	横縫整形(回転方向不明)、底部手持ち施漚 り。内面施漚き。口縁～胴部欠損のため不明。	
第16回 P L 7	2	須恵器 環	床面 底部 1/3	口径 - 底径 (5.6) 高さ (1.8)	①粗砂粒僅か、 細砂粒少量 ②還元焰 良好 ③黄灰色	横縫整形(回転方向不明)、底部回転糸切り 後回転調整。内面底部施漚き。口縁～胴 部欠損のため不明。	
第16回 P L 7	3	須恵器 環	床面	口径 (13.2) 底径 (6.0) 高さ 4.4	①細 - 微砂粒少量 ②還元焰 良好 ③黄灰色	横縫整形(回転方向不明)、体部直線的に立 ち上がる。内面施漚き。底部欠損のため詳 細不明。	

1号土坑

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第18回 P L 7	1	縄文 深鉢	覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (4.8)	①粗砂粒・白色粒・ 雲母 ②やや軟質 ③にぶい褐色	伏位隆帯による口縁部肥厚部分に内文を施 す。体部は横位且し縄文が覆う。外表面磨減。	堀之内1式
第18回 P L 7	2	縄文 深鉢	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (9.6)	①粗砂粒・白色粒 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	3条一組の沈線による液状ないしは環状意 匠と横位沈線群。おそらく体部下半の単位 文の部か。以下は無文。	堀之内1式
第18回 P L 7	3	滑 山茶碗	覆土 底部 1/4	口径 (6.6) 底径 (2.0)	①細砂粒少量 ②還元焰 良好 ③褐色	横縫整形(回転方向不明)、底部回転糸切り 後付け高台。高台断面三角形。内面底部施 漚のための磨減。	高台に粉微のような 跡が残る 13世紀頃
第18回 P L 7	4	陶砂 不明	覆土 体部片	口径 - 底径 - 高さ (2.0)	① - ② - ③ -	不明。	瀬戸・美濃 江戸時代

4号土坑

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第21回 P L 8	1	縄文 深鉢	口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (7.2)	①粗砂粒・白色粒 ②やや軟質 ③にぶい褐色	口唇部僅かに肥厚するが、内面は横位箇所。 幅広い無文部以下は2条の沈線による高巻 状意匠。L.R縄文を充満する。器面磨減。	称名寺
第21回 P L 8	2	縄文 深鉢	口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (4.2)	①細砂粒・石英 ②良好 ③にぶい褐色	口唇部短く内屈する。口縁部沈線以下は体 部に弧状沈線が施される。L.R縄文の充満 施文から、沈線区画内は滑消部であろう。 器面磨減。	称名寺

4号土坑

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考	
第21図 P.L.8	3	縄文 深鉢	底面 口縁部破片	口径 底径 高さ (5.8)	- - ③にぶい黄褐色	口唇部尖る。口縁部に2条の浅い沈線が横状平行する。沈線間は狭くやや乱雑な施文印象を得る。他は無文か。器面磨滅。	赤名寺	
第21図 P.L.8	4	縄文 深鉢	20土坑底面 破片	口径 底径 高さ (8.2)	- - ③灰黄褐色	①粗砂粒・白色粒 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	細沈線による丁字状意匠下縁部か。施文部はL.L.縄文の縦位充填施文。器面磨滅。	赤名寺
第21図 P.L.8	5	縄文 深鉢	覆土 破片	口径 底径 高さ (6.0)	- - ③にぶい黄褐色	①粗砂粒・白色粒 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	1本筒きの3条沈線による懸垂文構成。縦状沈線も看取されることから、湯巻状意匠か。施文部の縄文はR.L.細縄文縦位充填施文。	赤名寺
第21図 P.L.8	6	縄文 深鉢	覆土 破片	口径 底径 高さ (3.0)	- - ③にぶい黄褐色	①粗砂粒 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	2条の細沈線に囲まれた弧状区画。おそらく湯巻状意匠か。区画内はR.L.縄文の充填施文。	赤名寺
第21図 P.L.8	7	縄文 深鉢	覆土 破片	口径 底径 高さ (2.8)	- - ③にぶい黄褐色	①粗砂粒・白色粒 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	腰部中位に外反部み。細沈線による縦位懸垂文構成。弧状の懸垂文間には小型の内形刺突文を充填する。	赤名寺

20号土坑

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考	
第21図 P.L.8	1	縄文 深鉢	覆土 口縁部破片	口径 底径 高さ (3.6)	- - ③浅黄褐色	①粗砂粒・石英 ②やや軟質 ③浅黄褐色	縦か外反する口縁部彫痕。無文で深い撫でが加わるが印形痕も看取される。	堀之内式

9号土坑

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考	
第22図 P.L.8	1	縄文 深鉢	底面 口縁部破片	口径 底径 高さ (4.6)	- - ③にぶい黄褐色	①粗砂粒・白色粒 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	外器面磨滅するが、横位細線が看取される。内面は幅広の沈線が通るが、施文方向により、流状口縁が看取される。あるいは突起下縁部小。	堀之内2式
第22図 P.L.8	2	土師器 甕	底面 側部片	口径 底径 高さ (5.4)	- - ③緑色	①微砂粒少量 ②良好 ③緑色		拓本のみ
第22図 P.L.8	3	土師器 甕	底面 底部1/4	口径 底径 高さ (2.8)	- - ③にぶい黄褐色	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部下位縦位彫り。底部彫り。周縁部横撫で。口縁へ胴部欠損のため不明。	

3号土坑

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	重量 (g)	特徴	備 考
第23図 P.L.8	1	鉄器 不明	覆土 刃部先端	長さ 幅 厚さ 3.3 6.0 0.15	8.2	不明。鍛造品。	

19号土坑

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考	
第24図 P.L.8	1	土師器 杯	底面 ほぼ完全	口径 底径 高さ 12.8 7.8 7.2	- - ③赤褐色	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	体部丸味帯びて立ち上がり。口縁部やや外反する。口縁部横撫で。胴一底部彫り後擦撫で。底部手持ち彫り。内面彫撫で後工具による磨き。	
第24図 P.L.8	2	土師器 蓋	底面 天舟部片	口径 底径 高さ (1.8)	- - ③灰黄色	①粗砂粒少量 ②遊元塩 ③灰黄色	縦位彫り(回転方向不明)。損部欠損。	断面が薄く、流れ込みの可能性あり。

1号溝

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考	
第28図 P.L.8	1	深美 大甕	底面 側部片	口径 底径 高さ (7.0)	- - ③灰黄色	①細・微砂粒 ②遊元塩 ③灰黄色	表面に敷き目あり。裏面に接合痕あり。	12世紀頃

2号溝

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第29図 P.L.8	1	陶器 灯明皿	溝覆土 1/3	口径 底径 高さ (10.8) (4.6) 2.2	①- ②- ③灰黄色	灯明受皿。横位彫り。口縁部外面から底部外面回転彫り。内面から口縁灰積。	瀬戸・美濃 幕末～近代

遺物観察表

2号溝

棟号 区画番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第39区 P L 8	2	陶器 小型甕	底面 破片	口径 - 底径 - 高さ (5.8)	①- ②- ③-	内外面錆色の灰釉。	瀬戸・美濃 江戸時代
第39区 P L 8	3	陶磁器 甕	覆土 口縁破片	口径 - 底径 - 高さ (3.0)	①- ②- ③-	灰釉。体部外面から下位無釉。口縁部内面に銅緑釉。	瀬戸・美濃 江戸時代(17世紀)

3号溝

棟号 区画番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第40区 P L 8	1	戸筒 輪軸 底部	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (9.1)	①2 mm前後の小礫 含む ②良好	外面掌托のための調整不明。内面無て整形。	表面の掌托が散しい
第40区 P L 8	2	陶器 葉かき	覆土 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (4.6)	①- ②- ③-		常滑 中世
第40区 P L 8	3	陶器 不明	覆土 底部片	口径 - 底径 (9.6) 高さ (3.5)	①- ②- ③-	焼締め陶器。	江戸時代?

4号溝

棟号 区画番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第40区 P L 8	1	陶器 不明	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (2.3)	①- ②- ③-	灰釉。	江戸時代
棟号 区画番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量(g)	特徴	備 考
第40区 P L 8	2	洞片	覆土	縦 2.8 幅 1.7 厚さ 0.9	黒曜石 4.5		穴れ込みの可能性あり

遺構外

棟号 区画番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第46区 P L 9	1	縄文 深鉢	表採 把手破片	口径 - 底径 - 高さ (3.2)	①粗砂粒・白色粒 ②良好 ③褐色	口縁部より派生する傾斜把手。無僅かな波状口縁形態か。無文である。	祇名寺
第46区 P L 9	2	縄文 深鉢	表採 破片	口径 - 底径 - 高さ (4.8)	①粗砂粒・白色粒 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	1本指きの横位沈線以下、垂下沈線と弧状沈線による懸垂文構成か。縄文はLR縦位充果施文。	堀之内1式
第46区 P L 9	3	縄文 深鉢	表採 破片	口径 - 底径 - 高さ (3.8)	①粗砂粒・白色粒 ②やや軟質 ③灰色	2本の沈線による渦巻き状意匠か。	堀之内1式
第46区 P L 9	4	縄文 深鉢	表採 破片	口径 - 底径 - 高さ (8.4)	①粗砂粒・白色粒 ② ③浅黄褐色	体部下半か。縦沈線による懸垂文構成下部と思われる。無文。	堀之内1式
第46区 P L 9	5	縄文 深鉢	表採 破片	口径 - 底径 - 高さ (6.2)	①粗砂粒・白色粒・ 葉形 ②やや軟質 ③黄灰色	胴部の横位沈線以下、弧状沈線による懸垂文構成。1本指きではなく、幅広い手取竹管状工具による平行沈線か。	堀之内1式
第46区 P L 9	6	陶磁器 甕	表採 1/6	口径 (14.3) 底径 (8.3) 高さ 3.0	①- ②- ③浅黄色	内面・外面灰釉。胴部から高台内無釉。内面に鉄絵、目跡1ヶ所あり。	益子 近現代(明治以降)
第46区 P L 9	7	陶磁器 甕	表採 1/5	口径 - 底径 (8.0) 高さ (1.4)	①- ②- ③浅黄色	内面・外面灰釉。胴部から高台内無釉。内面に鉄絵、目跡1ヶ所あり。	益子 近現代(明治以降)
第46区 P L 9	8	焼成 粘土塊	表採	縦 7.3 幅 4.7 厚さ 3.5	①- ②- ③-	指痕あり。	

宮 内 遺 跡

第2節 宮内遺跡

Ⅰ. 宮内遺跡1区の概要

宮内遺跡1区の調査対象地域は東武鉄道太田駅から西に150m程に位置するため、原地形は、開発によって攪乱され、旧地形の面影は残っていない。調査区内も以前は、駐車場や倉庫敷地として利用されており、平地地となっていた。発掘調査の結果、低地と微高地が入り組んだ地形で、東側が低地部、西側が微高地に当たり、その境は約1.1mの段差となっていたことが分かった。東側は、地表下約1.8mまでは埋め立て土であり、その下に、近年のものと見られる水田耕土が見られ、さらに下層からは、戦時中のものと思われる大きなゴミ穴の他、不整形の溝・土坑が見つかったが、顕著な遺構は見られなかった。調査区西側の微高地には、縄文時代から中・近世までの遺構が多数見られたが、コンクリート基礎やゴミ穴などが多く、表面が削平されていることで、浜町遺跡と同様に遺構の遺存状態が良くなかった。1区では、竪穴住居跡6軒、竪穴状遺構跡1軒、掘立柱建物跡2棟、欄列跡2列、土坑跡10基、ピット跡51基、溝跡2条を検出した。

旧石器時代

微高地にはローム質の土が僅かに残るものの、その下層直下は礫混じりの砂質土やシルトとなっている。そのため、一部確認調査は行ったが、石器の出土は見られず、旧石器時代の遺跡はないと思われる。

縄文時代

1区中央部付近に、幅6m、深さ30cmの浅い溝状の落ち込みがあり、そこに縄文前期から中期にかけての土器包含層が見られた。土器の大多数は前期のものであるが、この時期の遺構は調査区内に確認できなかった。

古墳時代

竪穴住居跡5軒、竪穴状遺構跡1軒を検出した。いずれも遺存状態が良くなく床面まで削平が及び、また、調査区の幅が狭いために全体が調査できず、詳細不明なものが多い。1号住居、1号竪穴状遺構は前期のものと想定される。1号住居は、一辺4.4mの正方形である。1号竪穴状遺構としたものは、調査区境に位置し、床面と思われる硬化面や柱穴などを確認できず、竪穴住居と断定できなかった。6号住居は、後世の攪乱のため、竪とその付近のみの残存である。2・3号住居は、南東壁付近のみが調査区内であり、また重複関係にあるため、詳細については不明である。また、5号住居も、北壁付近のみが調査区内となるに止まり、詳細については不明である。

奈良・平安時代

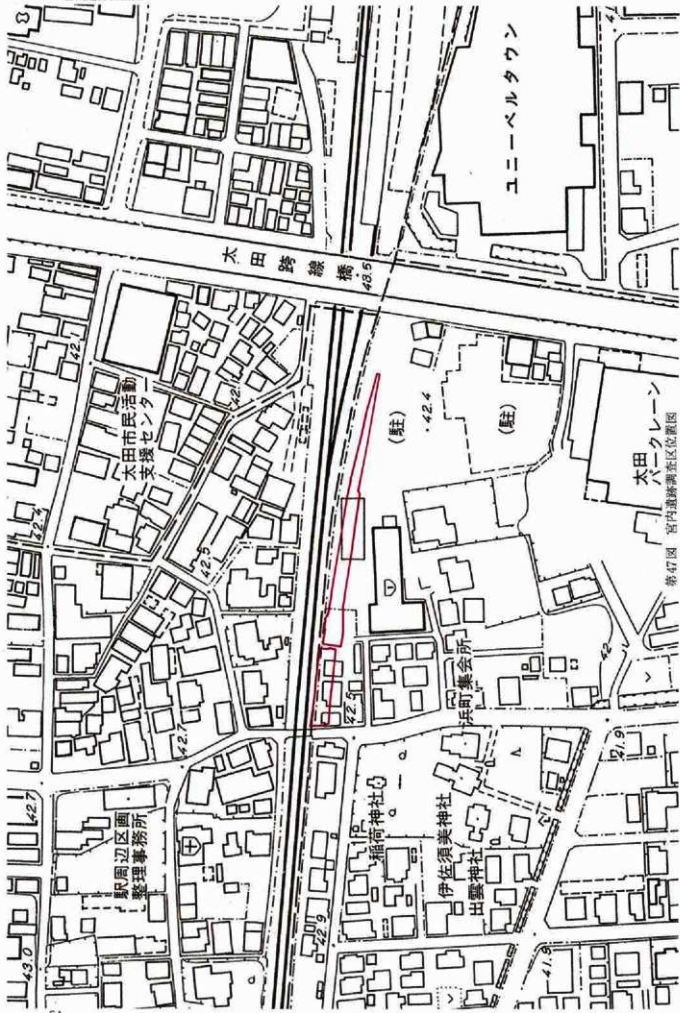
1・2号掘立柱建物と、1・2号欄列がこの時期のものと思われる。1・2号掘立柱建物は、重複した南隅となる部分だけが、調査区内にかかっているため、全形は不明である。また、1・2号欄列も掘立柱建物としての検討を加えたが、該当する柱穴に乏しく、欄列として報告した。1号掘立柱建物は、形状から古代のものと思われるが、出土遺物に乏しく、詳細な時期は不明である。この建物の周囲からは多数のピットが見つかったが、他に建物として把握できるものはなかった。

中・近世

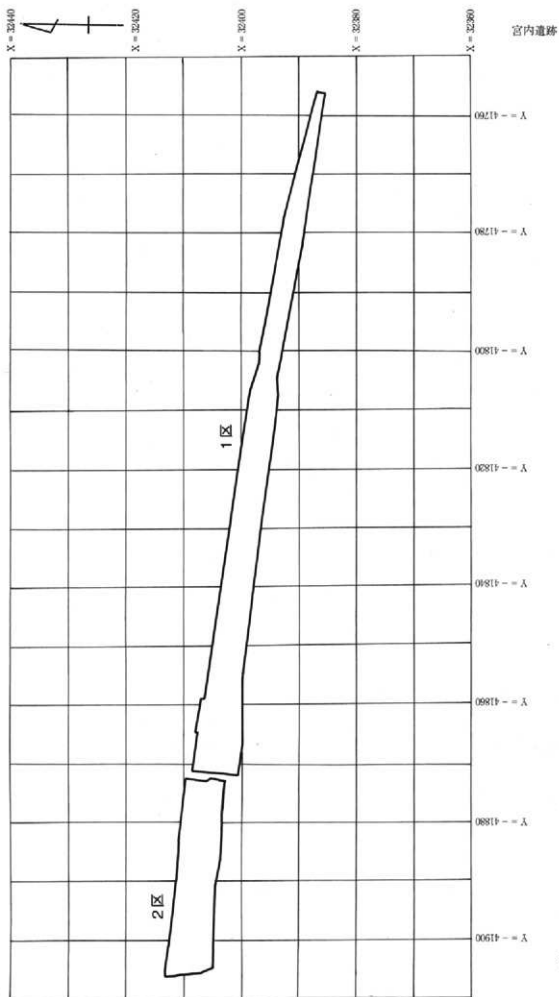
この時期の検出遺構・遺物は検出できなかった。

現代

東側低地部から、第2次大戦の被災を受けたと考えられる近現代の陶器・磁器等が多数出土したが、紙面の都合上割愛せざるを得なかった。

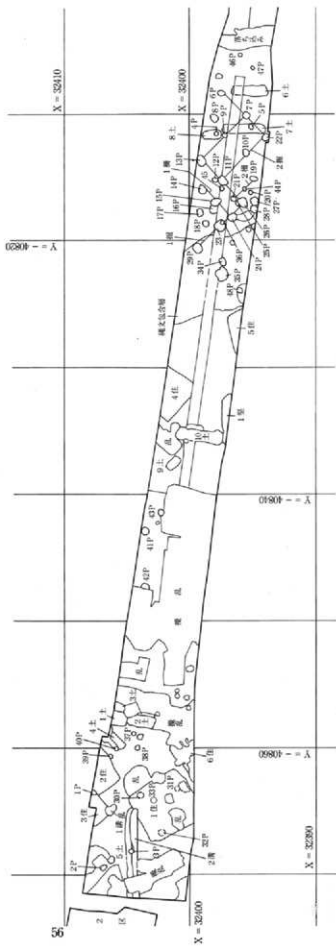


第47図 宮内遺跡調査区位置図



第48回 宮内遺跡跡画区縦横設定図

道構概略図



第49图 宮内通跡1区道構全体概略図

II. 1区の遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

1号住居(第50～52図、第17表、PL12・24)

位置 1区 X=32399～405 Y=-40861～868

重複遺構 1・2号溝、30～33号ピットと重複する。本遺構は1・2号溝より旧く、30～33号ピットより新しい。

形態 調査区西側に位置し、住居南コーナーが調査区境にある。攪乱と重複により、全形は不明である。調査区内の状況から隅丸正方形。

方位 N-32°-W

規模 4.62×4.38m

面積 (16,002)㎡ 調査区内

壁高 10cm

床面 上部から削平され、遺存状態は良くなかった。

掘り方から2cm～4cm程にぶい黄褐色土で埋土

を施し、床面を構築している。床面でピット1基、掘り方からピット3基を検出。掘り方は多少の凹凸はあるが概ね平坦である。

ピット P1 48×43cm、深さ38cm

P2 40×30cm、深さ22cm

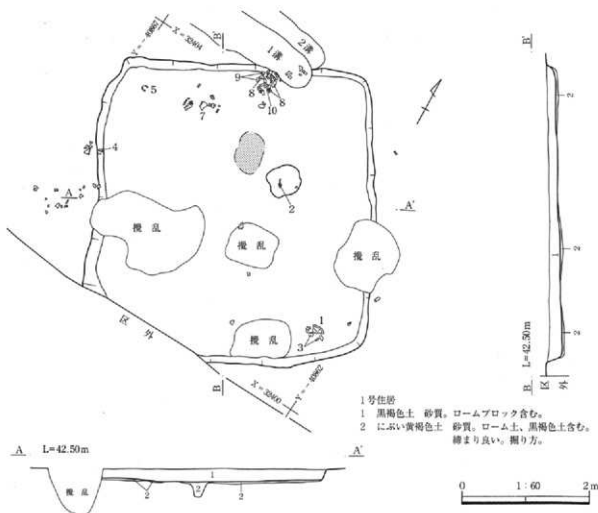
P3 42×37cm、深さ13cm

柱穴・貯蔵穴・周溝 調査区内では未確認

炉 住居内の中央よりやや北西に、地床が跡と思われる焼土を確認した。

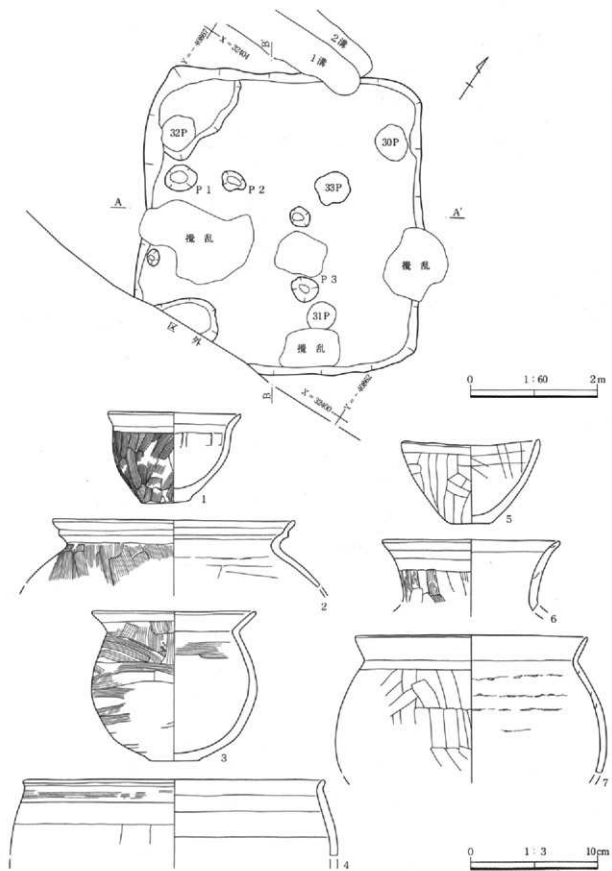
遺物 1の小型埴、2のS字状口縁台付甕、3の小型甕、4の土師器壺?、6・8の土師器壺、5の土師器鉢、7・9の土師器甕、10・11の高坏、12の土師器蓋桶み部分、13の磨石が出土。その他、土師器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 埋土の状況と出土遺物から4世紀後半と比定される。

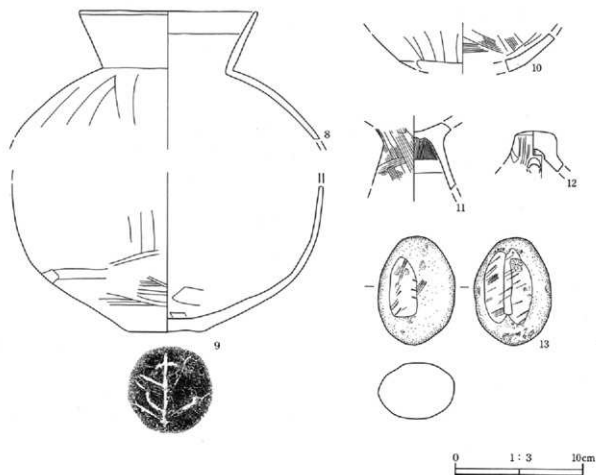


第50図 1区1号住居 平・断面図

1区竈穴住居跡



第51图 1区1号住居掘り方 平面図 出土遺物 (1)



第52図 1区1号住居 出土遺物 (2)

2号住居(第53図、第17表、PL13・24)

位置 1区 X=32405~408 Y=-40859~864

重複遺構 3号住居、1号ピットと重複する。本遺構が重複遺構のなかで、一番古い。

形態 調査区境にあるため、全形は不明である。

方位 N-59°-E

規模 (2.50)×(2.33)m 調査区内

面積 (4.194)㎡ 調査区内

壁高 20cm

床面 掘り方より4cm程褐色土を施し、床面を構築している。掘り方面は中央から西壁に向かい、10cm程掘り下げている。東側は、径46cm×20cm、深さ10cm~33cm程の土坑状の掘り込みがある。

ピット P1 32×28cm、深さ26cm

P2 20×20cm、深さ33cm

P3 46×24cm、深さ25cm

P4 (40)×26cm、深さ10cm

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

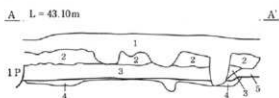
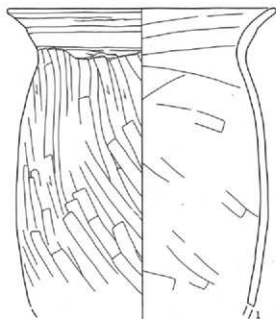
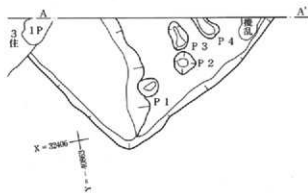
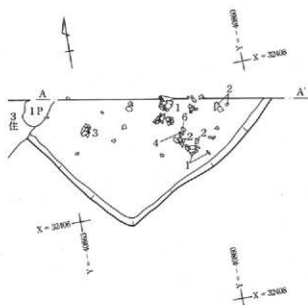
周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認、調査区外のいずれかの壁に位置すると考えられる。

遺物 1・3・4の土師器甕、2・5の土師器鉢、6の高坏が出土。その他、土師器片出土。小片のため図化できなかった。

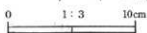
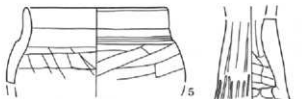
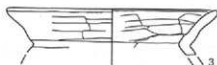
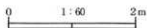
所見 埋土の状況と出土遺物から、6世紀頃と比定される。

1区彫穴住居跡



2号住居

- 1 表土 コンクリート、礫混入、機瓦。
- 2 暗褐色土 砂質。ローム粒、焼土粒、白色粒、土器片混入。
機瓦。
- 3 暗褐色土 砂質。ロームブロック、焼土粒、白色粒、土器片混入。
- 4 褐色土 砂質。ロームブロック、黒褐色土含む。掘り方。
- 5 暗褐色土 砂質。ロームブロック、白色粒含む。



第53図 1区2号住居 平・断面図 出土遺物

3号住居(第54図、第17表、PL13・25)

位置 1区 X=32406~408 Y=-40863~866

重複遺構 2号住居、1号ピットと重複する。本遺構は1号ピットより旧く、2号住居より新しい。

形態 調査区境にあるため、全形は不明である。

方位 N-54°-E

規模 (2.15)×(1.06)m 調査区内

面積 (2.079)m² 調査区内

壁高 27cm

床面 上部から削平と攪乱により、遺存状態はあまり良くない。床面まで削平が及び、掘り方調査のみ実施した。掘り方は中央をやや掘り下げているが、概ね平坦である。

ピット P1 (44)×34cm、深さ32cm

柱穴 調査区内では未確認

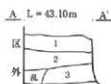
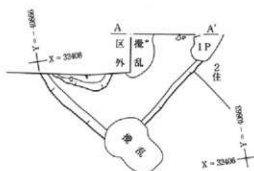
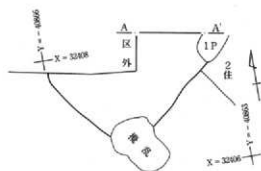
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認、調査区外に位置すると考えられる。

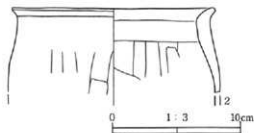
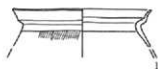
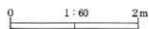
遺物 1のS字状口縁台付甕、2の土師器甕が出土。その他、土師器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物も少なく、遺構も遺存状態が良くなかったため時期を特定することはできなかった。



3号住居

- 1 攪乱 コンクリート、礫混入。
- 2 暗褐色土 砂質。ローム粒、燧土粒、白色粒、土器片混入。攪乱。
- 3 暗褐色土 砂質。ロームブロック、白色粒、土器片混入。



第54図 1区3号住居 平・断面図 出土遺物

1区壁穴住居跡

4号住居(第55図、PL13)

位置 1区 X = 32400 ~ 403 Y = - 40830 ~ 834

重複遺構 なし

形態 北側が調査区境にあり、南側がトレンチにより削平されているため、全形は不明である。

方位 N - 53° - W

規模 3.66 × (2.38)m

面積 (5.832)m²

壁高 8cm

床面 上部からの削平を受け、遺存状態はあまり良くなかった。掘り方調査のみ実施。掘り方面では、中央を掘り残している。南西壁から南東壁沿いに溝状の掘り込みが調査区外に延びている。掘り方

面は概ね平坦である。

ピット 調査区内では未確認

柱穴 調査区内では未確認

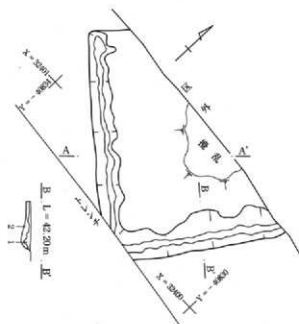
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 住居跡西コーナーから東コーナーまで住居壁沿いを周回する。上幅80cm ~ 30cm、底幅5cm ~ 12cm、深さ15cmである。

炉・竈 調査区内では未確認、調査区外に位置すると思われる。

遺物 流れ込みと思われる縄文土器片の他に、土師器片多数出土。小片のため固化できなかった

所見 出土遺物も少なく、遺構も遺存状態が良くなかったため時期を特定することはできなかった。



4号住居

- 1 黒褐色土 砂質。ローム小ブロック多量に含む。締まり弱い。
- 2 褐色 砂質。黒褐色土含む。締まり弱い。

第55図 1区4号住居 平・断面図

5号住居(第56図、第17表、PL13・25)

位置 1区 X = 32395 ~ 397 Y = - 40825 ~ 829

重複遺構 なし

形態 調査区境にあるため、全形は不明である。

方向 N - 79° - E

規模 3.20 × (1.10)m

面積 (2.068)m²

壁高 30cm

床面 掘り方より10cm ~ 22cm程黄白色砂質ロームブロックと黒褐色土による、埋土を施し床面を構築。柱穴は未確認。掘り方面は、壁際から中央に向かい12cm ~ 16cm程掘り残し、中央部と東壁付近にかけて12cm ~ 18cm程掘り込んでいる。

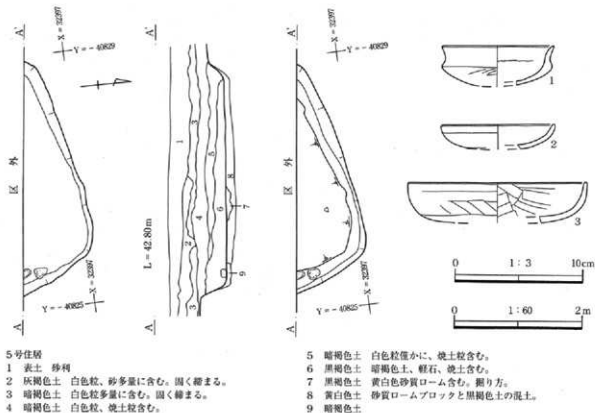
ビット・柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

焼土 土層断面観察により、住居中央部に幅56cm、厚さ4cm程の焼土と床面土の混土を検出した。

遺物 1～3の土師器片が出土。その他、縄文土器片、土師器片出土。小片のため図化できなかった。所見 出土遺物も少なく、遺構も遺存状態が良くなかったため時期を特定することはできなかった。



第56図 1区5号住居 平・断面図 出土遺物

6号住居(第57・58図、第17表、PL13・25)

位置 1区 X=32399～401 Y=-40858～861

重複遺構 なし

形態 調査区境にあるため、擾乱により全形は不明である。

方位 N-33°-W

規模 (2.10)×(2.04)m 調査区内

面積 (2.718)m² 調査区内

壁高 10cm

床面 掘り方より6cm程、褐色砂質土を埋土に床

面を構築。掘り方面は概ね平坦である。

ビット・柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 煙道部95cm、袖幅77cm、燃焼部36cm上部からの削平により、遺存状態は良くない。にぶい黄褐色土で天井部を構築している。袖部は土器を心材に用い、褐色土により構築している。右袖部は削平により消失。使用面から煙道部にかけて緩やかな勾配を持つ。煙道部は削平により消失してい

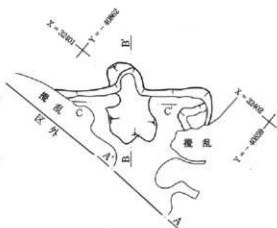
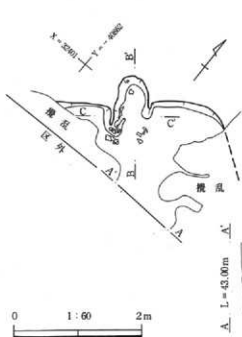
1区整穴住居跡

る。

遺物 1・2の土師器坏、3・4・6の土師器甕、5の土師器甕か瓶が出土。その他、土師器片出土。

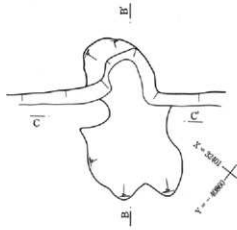
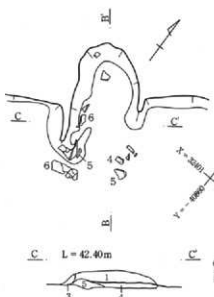
小片のため図化できなかつた。

所見 出土遺物と埋土の状況から6世紀後半と比定される。



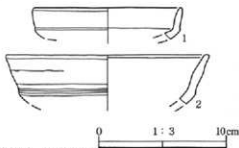
6号住居

- 1 表土 砂石、焼瓦。
- 2 埋め土 ロームブロック、礫混入。焼瓦。
- 3 褐色土 砂質。ローム粒、焼土粒、白色粒含む。餅まり良い。埋風土。
- 4 暗褐色土 砂質。ロームブロック、白色粒、焼土粒混入。
- 5 褐色土 砂質。ロームブロック、黒褐色土多量に含む。掘り方。

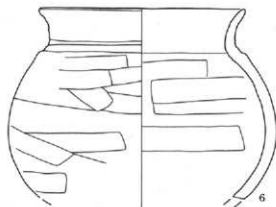
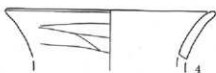
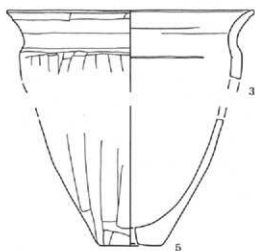


6号住居竈

- 1 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土粒、ロームブロック含む。埋土。
- 2 赤色土 焼土ブロック。竈覆土。
- 3 暗褐色土 ローム土、焼土粒含む。
- 4 赤褐色土 ロームブロック、焼土粒、炭化物含む。掘り方。
- 5 褐色土 焼土粒、炭化物混入。竈物。



第57図 1区6号住居・竈・掘り方 平・断面図 出土遺物



0 1:3 10cm

第58図 1区6号住居 出土遺物

2. 竪穴状遺構跡

1号竪穴状遺構(第59図、第17表、PL14・25)

位置 1区 X=32397~398 Y=-40832~835

重複遺構 なし

形態 調査区境に位置し、全形は不明である。

方向 N-90°

規模 3.90×(0.65)m 調査区内

面積 (2.535)㎡ 調査区内

壁高 24cm

床面 土層断面観察によっても床面を検出すること

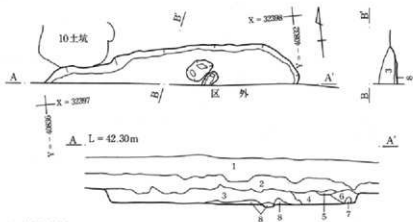
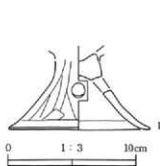
はできなかった。掘り方面は概ね平坦であり、地山ローム土を床面とした可能性もある。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴・周溝・炉 調査区内では未確認

遺物 1の土師器高坏脚部が出土。その他、土師器
 壘片、高坏片出土。小片のため固化できなかった。

所見 埋土の状況と出土遺物から古墳時代前期と比
 定される。



1号竪穴状遺構

1 表土 雑乱。砕石等多量に混入。

2 灰褐色土 細かい白色粒、焼土粒含む。

3 暗褐色土 細かい白色粒、ロームブロック、焼土粒含む。

4 赤褐色土 白色粒、ロームブロックを種かに、焼土粒多量
 を含む。

5 暗褐色土 白色粒、ローム粒、焼土粒含む。

6 黒褐色土 白色粒、ロームブロック、焼土ブロック、
 炭化物含む。

7 にぶい黄褐色土 ロームブロック、黒褐色土含む。

8 にぶい黄褐色土 ロームブロック、黒褐色土ブロック、焼土粒
 含む。

0 1:60 2m

第59図 1区1号竪穴状遺構 平・断面図 出土遺物

1区土坑跡

3. 土坑跡

1区から10基の土坑跡を検出した。同一面上での遺構調査であるため明確な時期判定はできなかった。整理時に埋没土の土質・色調及び遺物の検討を行った。出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。上部からの削平や後世の攪乱があるため、遺構の遺存状態は良くなかった。それぞれの形態・規模については一覧表(第9表)、遺構図を掲載した。土坑は、主に調査区

中央から東側で確認されている。ピット跡も含めて掘立柱建物跡、欄干跡等の関連に着目し、整理時に検討を加えてみたが、該当するものはなかった。土坑跡は、調査区境に位置していたり、他の遺構との重複のため全形を確認できないものも多数あった。土坑跡を平面形態から、長方形(隅丸長方形も含む)、楕円形か円形、不整形に分けることができる。以下、各土坑について詳述する。

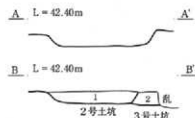
2号土坑(第60図、第9・17表、PL14・25)

調査区西側北境に位置し、1・3号土坑と重複する。そのため、全形は不明である。土層断面観察と遺構平面確認調査から、3号土坑より新しく、1号土坑より古い。調査区内の状況から隅丸長方形を呈すると推察される。断面形は皿状で、深さ11cmである。底面は平坦であるが、小さな凹凸をもつ。埋土は、黒褐色土を主体にローム粒を僅かに含む。1は土師器坏である。その他、土師器片が出土しているが、小片のため固化できず、時期も特定できなかった。

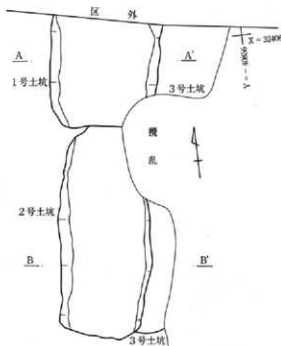
3号土坑(第60・61図、第9・17表、PL14・25)

調査区西側北境に位置し、1・2号土坑と重複する。また、東側を攪乱により消失しているため、全形と断面形は不明である。土層断面観察と遺構平面確認調査から本遺構が一番古い。深さ14cmである。底面は平坦である。埋土は、暗褐色砂質土を主体に黄褐色ロームブロックを含む。1は土師器坏である。その他、土師器片が出土しているが、小片のため固化できず、時期も特定できなかった。

1号土坑(第9表、PL14)



- 2号土坑
 1 黒褐色土 砂質。ローム粒僅かに含む。
 3号土坑
 2 暗褐色土 砂質。ローム小ブロック含む。



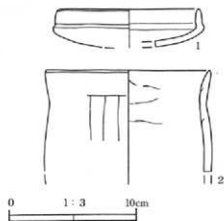
第60図 1区1～3号土坑 平・断面図

2号土坑



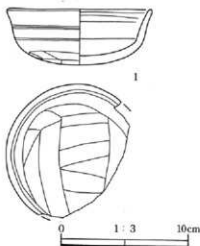
4号土坑(第62図、第9・17表、PL 14・25)

調査区西側、調査区境に位置する。40号ピットと重複する。北側を攪乱により消失しているため、全形は不明である。調査区内の状況から長方形を呈すると考えられる。土層断面観察と遺構平面確認調査から本遺構の方が古い。断面は皿状で、底面は平坦である。埋土は、暗褐色砂質土を主体に、黒色ブロックを含む。1は土師器杯、2は土師器甕である。その他、土師器片が出土しているが、小片のため図化できず、時期も特定できなかった。

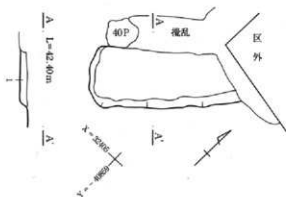


第62図 1区4号土坑 平・断面図 出土遺物

3号土坑

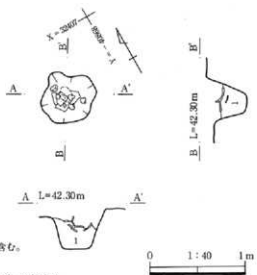


第61図 1区2・3号土坑 出土遺物

4号土坑
1 に近い黄褐色土 砂質。黒色ブロック含む。土器片多く出土。

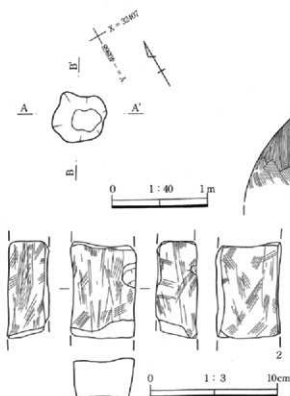
5号土坑(第63・64図、第9・17表、PL 14・25)

調査区西側に位置し、2号ピットに近接する。不整形で断面は袋状、底面は平坦である。南東側が延びている。埋土は、黒褐色砂質土を主体に、ロームブロックを含む。1は土師器大型壺、2は砥石である。その他、土師器片が出土しているが、小片のため図化できず、時期も特定できなかった。

5号土坑
1 黒褐色土 砂質。ロームブロック含む。

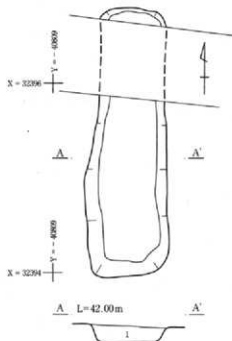
第63図 1区5号土坑 平・断面図

1区土坑跡



第64図 1区5号土坑 平・断面図 出土遺物

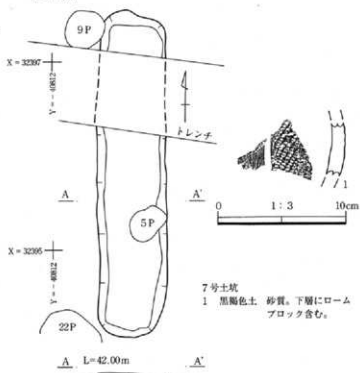
6号土坑(第65図、第9表、PL14)



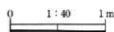
6号土坑
1 黒褐色土 砂質。ローム粒、白色粒含む。



7号土坑



7号土坑
1 黒褐色土 砂質。下層にロームブロック含む。



7号土坑(第65図、第9・17表、PL14・25)

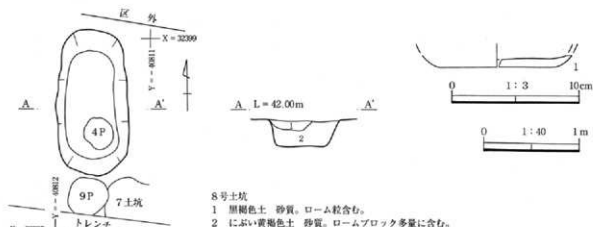
調査区中央付近に位置し、6号土坑に近接し、5・9号ピットと重複する。本遺構の方が古い。平面形態は隅丸長方形で、断面は皿状、底面は多少の凹凸はあるが概ね平坦である。北側は試掘トレンチ調査により消失している。埋土は、黒褐色砂質土を主体に、白色粒、ローム粒を含み、混入したと考えられる。1は縄文土器である。その他、須恵器口縁片が出土しているが、小片のため図化できず、時期も用途も特定できなかった。

第65図 1区6・7号土坑 平・断面図 7号土坑 出土遺物

8号土坑(第66図、第9・17表、PL14・25)

調査区中央よりやや東側に位置する。4号ピットと重複する。本遺構は4号ピットより新しい。南北に長い隅丸長方形を呈する。断面は四角形で、深さ30cmで、底面は平坦である。埋土は、2層に分けられ、上層が黒褐色土、下層がにぶい黄褐色砂質土

である。1は須恵器坏である。その他、土師器差割部片、須恵器胴部片が出土しているが、小片のため図化できなかった。長軸が北を向いているので、土坑墓の可能性もあるが詳細は不明である。出土遺物から時期は特定できなかった。



8号土坑

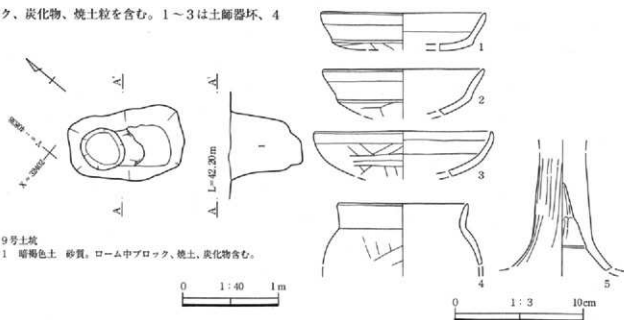
- 1 黒褐色土 砂質。ローム粒含む。
- 2 にぶい黄褐色土 砂質。ロームブロック多量に含む。

第66図 1区8号土坑 平・断面図 出土遺物

9号土坑(第67図、第9・17表、PL14・26)

調査区中央よりやや西側に位置する。東側に4号住居、10号土坑と近接する。東西に長い隅丸長方形である。断面は台形で、深さ75cmである。底面は平坦である。埋土は、暗褐色土に、ロームブロック、炭化物、焼土粒を含む。1～3は土師器坏、4

は土師器甕、5は土師器高坏である。その他、土師器片多数、須恵器片少数出土しているが、小片のため図化できなかった。出土遺物の状況から古墳時代中期と比定される。



9号土坑

- 1 暗褐色土 砂質。ローム中ブロック、焼土、炭化物含む。

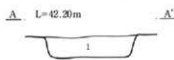
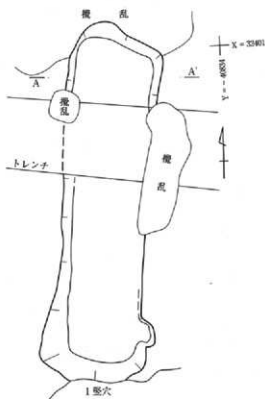
第67図 1区9号土坑 平・断面図 出土遺物

1区土坑跡

10号土坑(第68図、第9・17表、PL14・26)

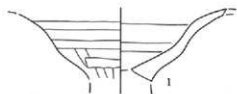
調査区中央付近よりやや西側に位置する。西側に9号土坑、南側に1号竪穴状遺構、東側に4号住居と近接する。平面形態は南北に長い隅丸長方形で、断面は皿状、底面は多少の凹凸はあるが概ね平坦で

ある。北側は試掘トレンチ調査により消失している。埋土は、黒褐色砂質土を主体に、白色粒・ロームブロックを含む。1は土師器高坏である。その他、土師器片、須恵器片が出土しているが、小片のため図化できず、時期も用途も特定できなかった。



10号土坑

1 黒褐色土 砂質。ローム中ブロック、白色粒含む。



第68図 1区10号土坑 平・断面図 出土遺物

第9表 1区土坑跡一覧表

番号	土坑番号	位置	形態	主軸方向	規模(m)			出土遺物	備考
					長径	短径	深度		
1	1号土坑	X=32405 Y=-40857	隅丸長方形	N-6°-E	(1.13)	1.06	0.14		2・3号土坑と重複。本土坑が一新しい。
2	2号土坑	X=32403 Y=-40857	隅丸長方形	N-5°-E	2.22	0.98	0.11	須恵器高坏	3号土坑より新しく、1号土坑より古い。
3	3号土坑	X=32403 Y=-40857	不明	N-8°-E	(1.34)	(0.26)	0.14	土師器高坏	1・2号土坑と重複。本土坑が一番古い。
4	4号土坑	X=32405 Y=-40856	不明	N-50°-E	(1.38)	(0.60)	0.10	土師器高坏	40号ピット重複。本土坑が古い。
5	5号土坑	X=32406 Y=-40866	不整形	N-46°-W	0.52	0.50	0.37	土師器高坏、磁石	
6	6号土坑	X=32393 Y=-40808	隅丸長方形	N-0°	2.85	0.86	0.18		
7	7号土坑	X=32394 Y=-40800	隅丸長方形	N-0°	3.40	0.75	0.14	縄文土器	5・9号ピットと重複。本土坑が古い。
8	8号土坑	X=32397 Y=-40811	隅丸長方形	N-1°-W	1.50	0.75	0.30	須恵器高坏、縄文土器	4号ピットと重複。本土坑が新しい。
9	9号土坑	X=32400 Y=-40836	隅丸長方形	N-42°-W	1.20	0.74	0.75	土師器壺、坏、高坏	
10	10号土坑	X=32397 Y=-40834	不明	N-9°-E	3.68	(0.86)	0.18	土師器高坏	1号住居と重複。本土坑が古い。

4. 溝跡

溝について時期不明のものが多い。埋土からの出土遺物は古墳時代から古代のものまで混在している。東西に走行する溝が大半である。1区の場合、さほど時間差のない溝の重複である。また、出土遺

物が少数で小片ばかりなのでどちらが混入品か判断できなかった。1区の1・2号溝跡は2区の4号溝と同一遺構の可能性がある。遺構の重複関係と出土遺物から古墳時代から中世の溝と考えられる。

1号溝(第69図、第17表、PL15・26)

位置 X=32404~406 Y=-40864~872

重複遺構 1号住居・2号溝・3号ピットと重複する。本遺構は2号溝、3号ピットより旧く、1号住居より新しい。

走向 東から西 N-90°-E

形態 ほぼ直線的で、断面は皿状を呈す。

規模 検出全長 5.80m 上幅 0.52~0.40m
底幅 0.18~0.27m 深さ 0.12m

遺物 1の土師器高坏が出土。その他、土師器片、須恵器片多数出土。小片のため図化できなかった。遺物は断面等が摩滅しているものが多い。

所見 土師器片・須恵器片などが多く出土したが、摩滅しているものが多い。そのため、本遺構に流れ込んだ可能性が高い。遺物の出土状況や埋土の状況から、時期を特定できなかった。

2号溝(第69図、PL15)

位置 X=32404~406 Y=-40864~872

重複遺構 1号住居・1号溝・3号ピットと重複する。本遺構は3号ピットより旧く、1号住居、1号溝より新しい。

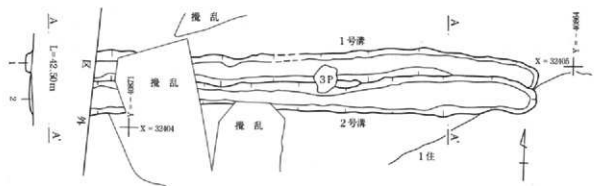
走向 東から西 N-90°-E

形態 ほぼ直線的である。

規模 検出全長 5.78m 上幅 0.65~0.30m
底幅 0.15~0.40m 深さ 0.12m

遺物 土師器甕片、埴片などが多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況と埋土の状況から、江戸時代から近世に利用されたと考えられる。

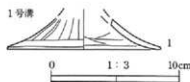


1号溝

1 黒褐色土 砂質。ロームブロック含む。

2号溝

2 黒褐色土 砂質。ロームブロック多量に含む。



第69図 1区1・2号溝 平・断面図 1号溝出土遺物

1区掘立柱建物跡

5. 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物(第70図、第10表、PL15)

位置 1区 X = 32395 ~ 400 Y = -41813 ~ 822

重複遺構 2号掘立柱建物、1・2号横列と重複する。いずれの遺構とも新旧関係は不明。

形態 調査区外に延びるため全形は不明である。(調査区内では2間×2間)

方位 計測不能 (N-44°-W)

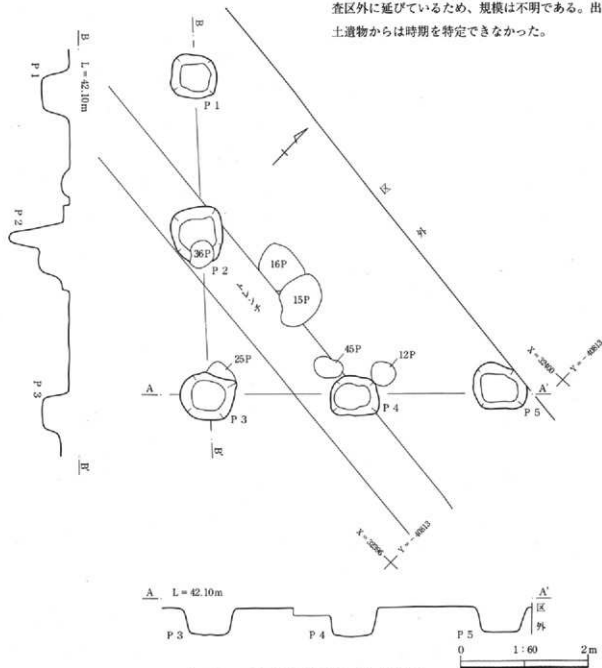
規模 調査区内P1~P3は4.80m、P3~P5

まで4.72mを測る。

柱穴 掘り方の形態は、隅丸長方形である。規模は径64cm~96cm、深さ30cm~40cmを測る。土層断面観察から柱痕跡が認められ、太さ20cm~28cm程の柱であったと推察される。

遺物 土師器片、須恵器片、縄文土器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 方形のしっかりした柱穴である。主軸は概ね45°北から西か東にふれていると考えられる。調査区外に延びているため、規模は不明である。出土遺物からは時期を特定できなかった。



第70図 1区1号掘立柱建物 平・断面図

2号掘立柱建物(第71図、第11表)

位置 1区 X = 32394~400 Y = -41807~816

重複遺構 1号掘立柱建物と7号土坑と重複する。

新旧関係は不明である。

形態 調査区外に延びるため全形は不明である。(調査区内では2間×2間)

方位 計測不能 (N-46°-W)

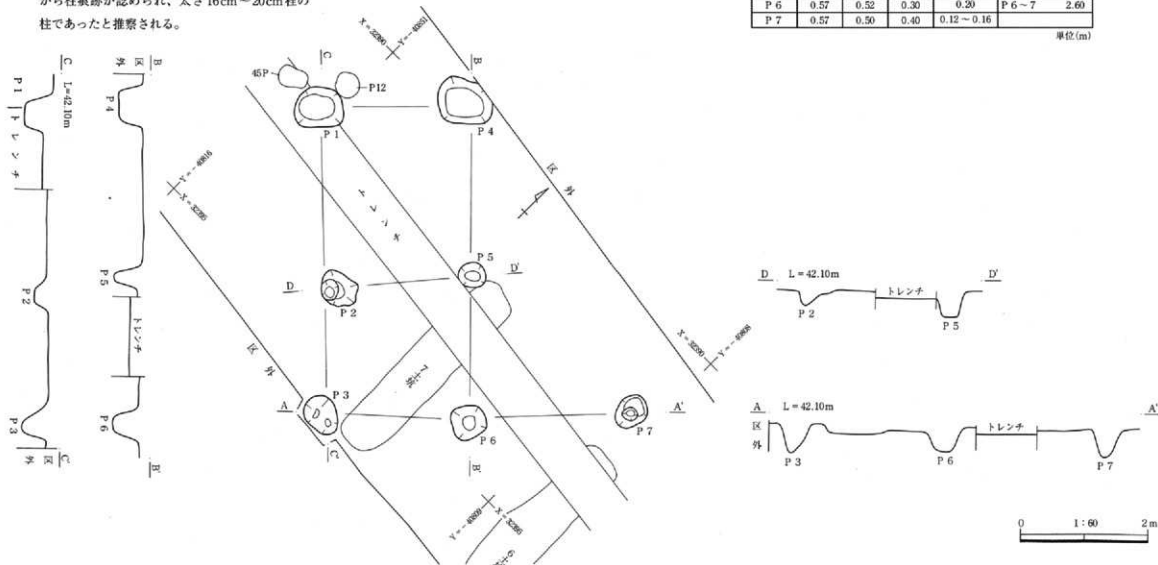
規模 調査区内P1~P3は5.50m、P3~P7まで5.50mを測る。

柱穴 掘り方形態は、隅丸長方形である。規模は径38cm~86cm、深さ30cm~43cmを測る。P1~P2間、P4~P5間が、P2~P3間、P5~P6間より柱間がやや長い。土層断面の観察から柱痕跡が認められ、太さ16cm~20cm程の柱であったと推察される。

遺物 P6(7号ピット)より土師器坏が出土。その他、土師器片、須恵器片、縄文土器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 1号掘立柱建物のP4、P5と重複している。

1号掘立柱建物と同様、方形の柱穴である。主軸も1号掘立柱建物と同様に主軸が概ね45°北から西か東にふれていると考えられる。調査区外に延びている可能性もあり、規模は不明である。P3~P6間は1号掘立柱建物と同じ長さであることから、1号掘立柱建物と同じ規模と考えられる。堀土の状況、出土遺物からは時期を特定できなかった。



第71図 1区2号掘立柱建物 平・断面図

第10表 1区1号掘立柱建物計測表

遺構番号	長さ	幅径	深さ	柱間径	柱間長
P1	0.73	0.70	0.38	0.20	P1~2 2.44
P2	0.96	0.82	0.35		P2~3 2.56
P3	0.85	0.70	0.40		P3~4 2.28
P4	0.76	0.64	0.30		P4~5 2.36
P5	0.86	0.68	0.35	0.28	

単位(m)

第11表 1区2号掘立柱建物計測表

遺構番号	長さ	幅径	深さ	柱間径	柱間長
P1	0.76	0.64	0.30	0.20	P1~2 2.80
P2	0.57	0.50	0.43	0.16	P2~3 2.10
P3	0.67	0.50	0.33	0.20	P3~6 2.40
P4	0.86	0.68	0.35		P4~5 2.80
P5	0.44	0.38	0.38		P5~6 2.40
P6	0.57	0.52	0.30	0.20	P6~7 2.60
P7	0.57	0.50	0.40	0.12~0.16	

単位(m)

6. 柵列跡

1号柵列(第72図、第12・17表、PL26)

位置 X = 32389 ~ 396 Y = -41816 ~ 819

重複 1号掘立柱建物、新田関係は不明である。

形態 北東から南西方向の走向を持つ

方位 N - 42° - E

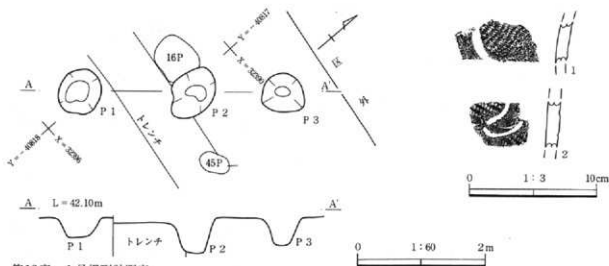
規模 3.50m

柱穴 掘り方の形態は、円形である。規模は径62cm ~ 80cm、深さ30cm ~ 50cm。P1・P2の土層断面の観察から柱痕跡が認められ、太さ

16cm ~ 20cm程の柱であったと推察される。

遺物 1・2の縄文土器が、P2(15号ビット)から出土。混入の可能性が高い。その他、土師器片、甍片、縄文土器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 1号掘立柱建物のP3~P5の柱穴の西側に主軸方向を2°北側になぞって並ぶ。柱間の長さは1号掘立柱建物よりやや短い。掘立柱建物跡の一部と考えられるが、やや規模が小さい。建て替えられたか、時期差による別遺構の可能性はある。



第12表 1号柵列計測表

遺構番号	長径	短径	深さ	柱径	柱間長
P1	0.70	0.65	0.30		P1~2 1.50
P2	0.80	0.64	0.50	0.16 ~ 0.20	P2~3 1.70
P3	0.67	0.62	0.40	0.16 ~ 0.20	

単位(m)

第72図 1区1号柵列 平・断面図 出土遺物

2号柵列(第73図、第13・17表、PL26)

位置 X = 32394 ~ 397 Y = -41815 ~ 817

重複 1号掘立柱建物と重複する。新田関係は不明である。

形態 北西から南東方向の走向を持つ

方位 N - 45° - W

規模 2.74m

柱穴 掘り方の形態は、方形である。規模は径38cm ~ 60cm、深さ31cm ~ 50cm。P1の土層断面観察から柱痕跡が認められ、太さ16cm ~ 20cm程の柱であったと推察される。

遺物 1の縄文土器鉢が、P1(21号ビット)から、2の縄文土器が、P2(44号ビット)から出土。その他、土師器甍片、縄文土器片多数出土。小片のため図化できなかった。

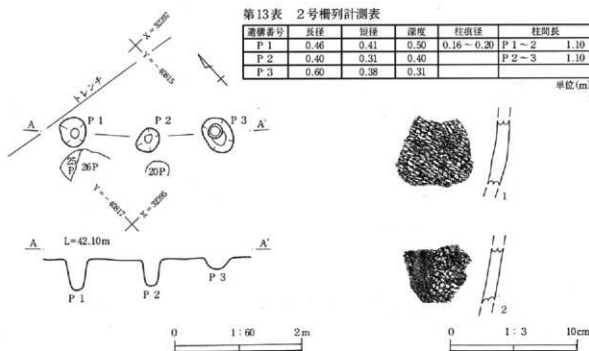
所見 1号掘立柱建物の南東側にP1~P3に平行して並ぶ。柱間の長さは1.1m程で短い。1・2号掘立柱建物の南西側の柱列と同じ走行をもつ。2号柵列の周辺にビット、土坑等が存在するが、柱間の長さ、柱穴の規模等において同様のものは、見あたらなかった。出土遺物と埋土の状況から時期を特定することはできなかった。

1区掘立柱建物跡

第13表 2号櫓列計測表

遺構番号	長さ	幅	深度	柱径	柱間長
P 1	0.46	0.41	0.50	0.16~0.20	P 1-2 1.10
P 2	0.40	0.31	0.40		P 2-3 1.10
P 3	0.60	0.38	0.31		

単位(m)



第73図 1区2号櫓列 平・断面図 出土遺物

7. ビット跡

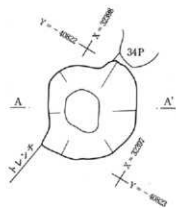
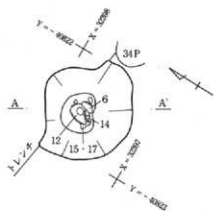
本遺跡から51基のビット跡を検出した。出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。35号ビットについては、多数の遺物が出土し、貯蔵穴の可能性がある。また、調査時に掘立柱建物跡として確認されたビット跡と、整理時点の検討から掘立柱建物跡、櫓列跡等への柱穴に変更されたビット跡がある。水田耕作、線路敷設時の土地整備により、上部からの削平が著しく、掘り込みの浅いビットは、この時点で消失して

しまったものと推察される。ビットについては様々な形態・様相をしているため、それぞれの形態・規模については一覧表(第14表)に、位置については遺跡全体図の中に掲載した。1・2号掘立柱建物、1・2号櫓列と同様の時期と想定されるが、出土遺物が少なく時期を特定できなかった。7号ビットからは土師器坏、16号ビットからは縄文土器鉢と土師器坏、29号ビットからは縄文土器甕と土師器甕、36号ビットからは土師器甕、48号ビットからは縄文土器鉢が出土。

35号ビット(第74~76図、第14・17表、PL15・26)

調査区中央に位置し、縄文包含層に近接する。北側を試掘トレンチにより上層30cm程、消失している。東西にやや長い楕円形であろうと推察される。径80cm~98cm、深さ88cm。底面はやや丸底である。埋土は3層に分けられ、上層は黒褐色土、中層は白色粒を含む暗褐色土、下層はローム粒を含む

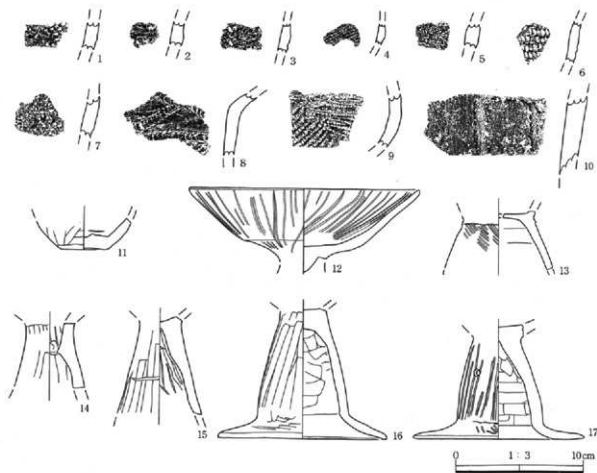
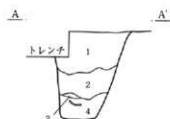
暗灰褐色土。埋土のいずれの層からも遺物が出土した。主に土師器甕、高坏、縄文土器鉢類が多い。埋土の状況から貯蔵穴の可能性も考えられる。1~10は縄文土器(縄文前期中葉が多い)、11は土師器甕、12・15~17は土師器高坏、13は台付甕、14は器台が出土。



35号ピット

- 1 黒褐色土 砂質。ローム粒疎ら。白色粒、炭化物含む。
 2 暗褐色土 砂質。ローム粒、白色粒含む。
 3 灰褐色土 砂質。砂粒多い。
 4 暗灰褐色土 砂質。ローム粒含む。

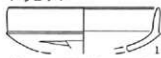
0 1:40 1m



第74図 1区35号ピット 平・断面図 出土遺物

1区ピット跡

7号ピット

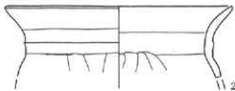


(第75・76図、第14・17表、PL26)

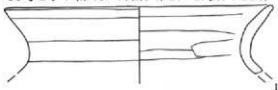
16号ピット(第75・76図、第14・17表、PL26)



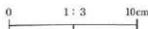
29号ピット(第75・76図、第14・17表、PL26)



36号ピット(第75・76図、第14・17表、PL26)



48号ピット(第75・76図、第14・17表、PL26)



第75図 1区7・16・29・36・48号ピット 出土遺物

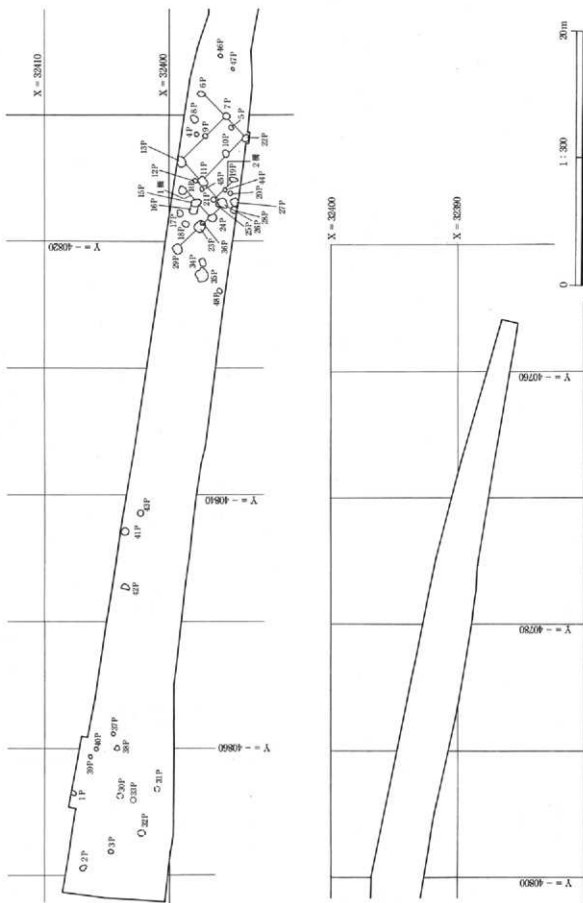
第14表 1区ピット跡一覧表

番号	ピット番号	位置	形態	規模(m)			出土遺物	備考
				長さ	短径	深度		
1	1号ピット	X=32407 Y=-40863	不整形	(0.44)	0.36	0.42	土師器片少量	2・3号住居重複。本ピットが一帯新しい。
2	2号ピット	X=32406 Y=-40869	不整形	0.48	0.46	0.50	なし	
3	3号ピット	X=32404 Y=-40867	不整形	0.42	0.38	0.50	なし	1・2号溝重複。本ピットが新しい。
4	4号ピット	X=32397 Y=-40811	楕円形	0.35	0.30	0.41	土師器片2点	8号土坑重複。本ピットが古い。
5	5号ピット	X=32394 Y=-40810	楕円形	0.42	0.30	0.11	土師器片1点、須恵器片1点	7号土坑重複。本ピットが新しい。
6	6号ピット	X=32397 Y=-40808	楕円形	0.57	0.50	0.40	土師器片5点	2獨立柱建物跡P7に変更。柱痕あり。
7	7号ピット	X=32395 Y=-40809	長方形	0.57	0.52	0.30	土師器片10点	2獨立柱建物跡P6に変更。柱痕あり。
8	8号ピット	X=32397 Y=-40810	楕円形	0.65	0.53	0.33	土師器器片1点	
9	9号ピット	X=32397 Y=-40811	楕円形	0.44	0.38	0.38	土師器片6点、縄文土器片3点	7号土坑重複。本ピットが新しい。2獨立柱建物跡P5に変更。柱痕あり。
10	10号ピット	X=32395 Y=-40812	不整形	0.57	0.50	0.43	土師器片3点	2獨立柱建物跡P2に変更。柱痕あり。
11	11号ピット	欠番					土師器片6点	1号獨立柱建物跡P4、2獨立柱建物跡P6に変更。柱痕あり。重複ピット。
12	12号ピット	X=32397 Y=-40814	ほぼ楕円形	0.44	0.40	0.46	土師器片1点	
13	13号ピット	欠番					土師器片11点	1号獨立柱建物跡P5、2獨立柱建物跡P4に変更。重複ピット。柱痕あり。
14	14号ピット	X=32398 Y=-40815	楕円形	0.76	0.62	0.40	土師器片4点	1号欄列P3に変更。
15	15号ピット	X=32397 Y=-40816	不整形	0.80	0.64	0.50	縄文土器2点は固化する。土師器片1点	16号ピット重複。本ピットが新しい。1号欄列P2に変更。
16	16号ピット	X=32397 Y=-40817	楕円形	0.75	0.70	1.00	土師器片、縄文土器片2点、土師器片多数出土	15号ピット重複。本ピットが古い。
17	17号ピット	X=32399 Y=-40817	楕円形	0.65	0.50	0.50	土師器片6点	柱痕あり。
18	18号ピット	X=32398 Y=-40818	楕円形	0.52	0.50	0.52	土師器片2点、粘土塊、石	
19	19号ピット	X=32394 Y=-40814	不整形	0.60	0.38	0.31	土師器片4点	2号欄列P3に変更。
20	20号ピット	X=32395 Y=-40815	楕円形	0.38	0.32	0.43	土師器片2点	柱痕あり。
21	21号ピット	X=32396 Y=-40816	楕円形	0.46	0.41	0.50	土師器器片、土師器片1点	柱痕あり。2号欄列P1に変更。

宮内遺跡

22	22号ビット	X = 32393 Y = - 40811	楕円形	0.67	0.50	0.33	土師器片2点	2号独立柱建物跡P3に変更。柱痕あり。
23	23号ビット	欠番					土師器片多数、縄文土器片2点	1号独立柱建物跡P2に変更。
24	24号ビット	X = 32396 Y = - 40817	楕円形	0.70	0.65	0.30	土師器片多数	1号横列P1に変更。
25	25号ビット	X = 32396 Y = - 40816	不整形	0.50	(0.25)	0.22	土師器片1点、縄文土器片1点	1号独立P3重複。本ビットが旧い。
26	26号ビット	欠番					土師器片9点	1号独立柱建物跡P3に変更。
27	27号ビット	X = 32394 Y = - 40816	不整形	0.77	0.63	0.30	土師器片10点、縄文土器片2点	
28	28号ビット	X = 32394 Y = - 40817	楕円形	0.68	0.60	0.30	土師器片7点、縄文土器片1点	
29	29号ビット	欠番					土師器片多数に出土	1号独立柱建物跡P1に変更。
30	30号ビット	X = 32403 Y = - 40863	楕円形	0.60	0.50	0.26	土師器片3点	1号住居重複。本ビットが新しい。
31	31号ビット	X = 32400 Y = - 40862	楕円形	0.47	0.42	0.34	なし	1号住居重複。本ビットが旧い。
32	32号ビット	X = 32402 Y = - 40866	楕円形	0.60	0.54	0.30	なし	1号住居重複。本ビットが旧い。
33	33号ビット	X = 32403 Y = - 40865	楕円形	0.52	0.48	0.37	土師器片1点	
34	34号ビット	X = 32397 Y = - 40821	不整形	0.63	0.48	0.40	土師器片3点	
35	35号ビット	X = 32397 Y = - 40822	不整形	0.97	0.80	0.88	土師器鬘、高坏、器台、縄文土器片、その他土師器片多数出	
36	36号ビット	X = 32397 Y = - 40818	不整形	0.42	0.34	0.48	土師器鬘、土師器片8点	1号独立P2重複。本ビットが旧い。
37	37号ビット	X = 32403 Y = - 40858	楕円形	0.38	0.38	0.14	土師器片2点	
38	38号ビット	X = 32404 Y = - 40859	楕円形	0.38	0.38	0.36	なし	
39	39号ビット	X = 32406 Y = - 40860	不整形	0.40	0.35	0.14	土師器片1点	
40	40号ビット	X = 32405 Y = - 40869	不整形	0.33	0.30	0.18	なし	
41	41号ビット	X = 32403 Y = - 40843	楕円形	0.60	0.58	0.52	土師器片多数	調査区域に位置する。
42	42号ビット	X = 32403 Y = - 40847	不整形	0.62	(0.45)	0.66	土師器片多数	
43	43号ビット	X = 32402 Y = - 40841	楕円形	0.50	0.46	0.75	土師器片多数	
44	44号ビット	X = 32396 Y = - 40815	楕円形	0.40	0.31	0.40	縄文土器片1点、土師器片5点	2号横列P2に変更。
45	45号ビット	X = 32397 Y = - 40815	不整形	0.48	0.30	0.22	土師器片2点	
46	46号ビット	X = 32395 Y = - 40805	楕円形	0.35	0.30	0.14	なし	
47	47号ビット	X = 32394 Y = - 40806	楕円形	0.34	0.28	0.10	なし	
48	48号ビット	X = 32396 Y = - 40823	楕円形	0.42	0.40	0.42	土師器片11点、縄文土器片1点	
49	49号ビット					0.78	土師器片多数	縦横・形態は不明。
50	50号ビット					0.50	土師器片多数	縦横・形態は不明。
51	51号ビット					0.60	土師器片多数	縦横・形態は不明。

1区ビット跡一覧表



第76図 1区ビット位置図

8. 縄文包含層(第77～79図、第17表、PL15・27・28)

位置 1区 X=32396～402 Y=-40819～826

多数出土。

重複遺構 34・35・48号ピット、1号掘立柱建物と重複する。

所見 標高41.80mのほぼ円形の範囲に遺物が出土し、土層断面が皿状の断面を有していることから、溝状の凹みに縄文包含層が残ったと推察される。重複遺構の状況から古墳時代～奈良・平安時代の地表面として縄文包含層の上層が活用され遺存状態が悪くなったと考えられる。

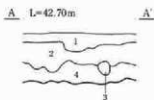
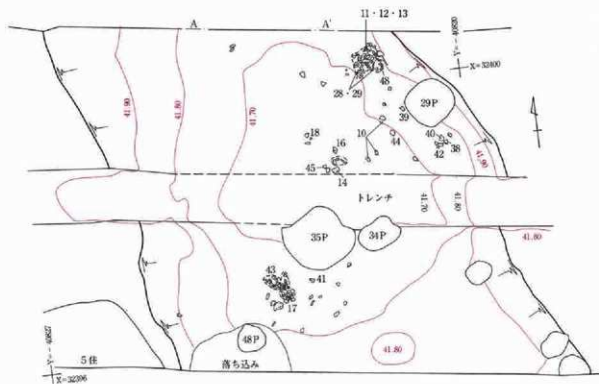
方位 計測不能

規模 レベル41.95の範囲 5.40×6.58m

レベル41.70の範囲 3.12×3.25m

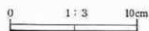
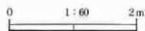
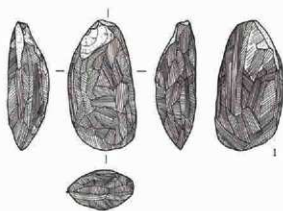
深度 34cm(縄文包含層埋土の深さ)

遺物 褐色土層底部から縄文時代早期の口縁片



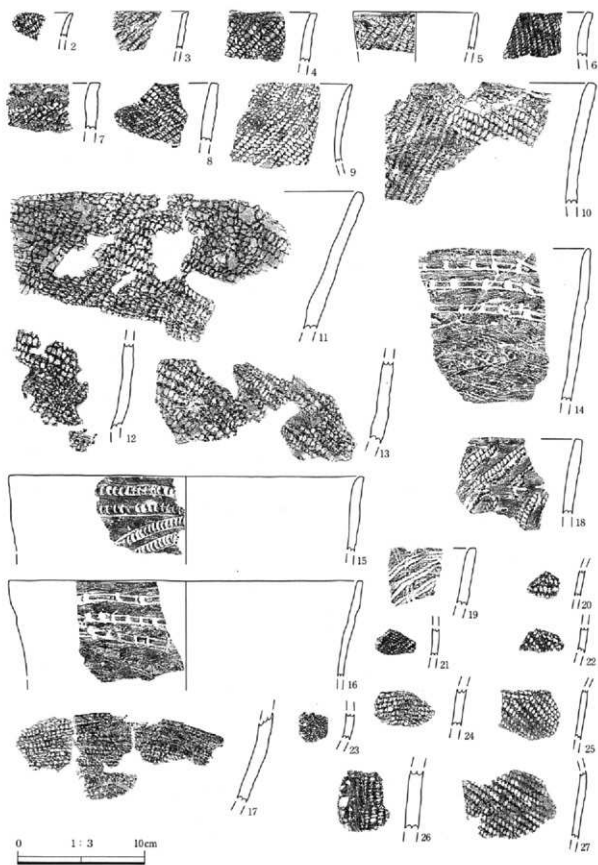
北南セクション(縄文包含層)

- 1 表土 擾乱 碎石
- 2 暗褐色土 砂質。ロームブロック、白色粒、焼土粒含む。古墳後期～奈良・平安の土器片多く含む。
- 3 黒褐色土 砂質。ロームブロック、白色粒をブロック状に含む。
- 4 褐色土 砂質。やや黒味がかっている。黒褐色土含む。底面から縄文早期の土器多く出土。縄文包含層。

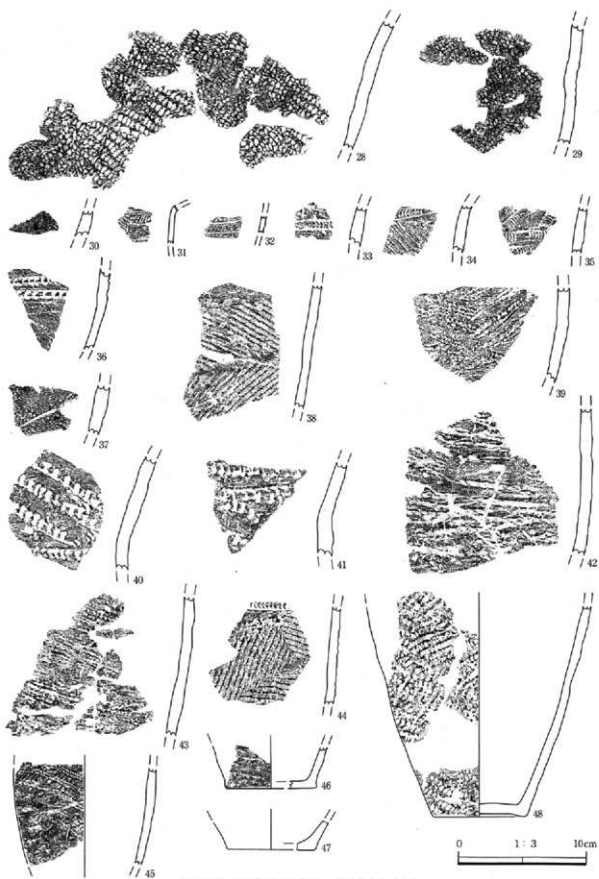


第77図 1区縄文包含層 平・断面図 出土遺物(1)

1区 縄文包含層



第78图 1区縄文包含層 出土遺物 (2)



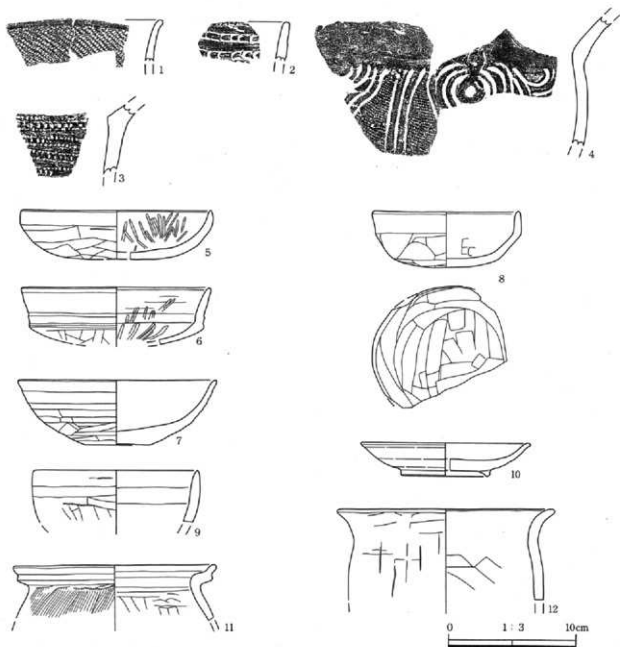
第79図 1区縄文包含層 出土遺物 (3)

1区遺構外出土遺物

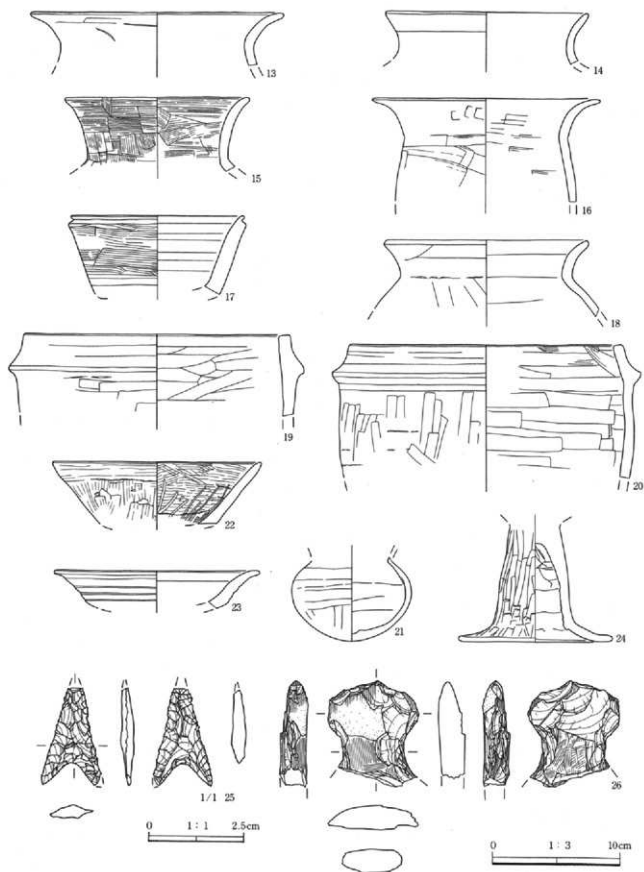
9. 1区の遺構外出土遺物(第80・81図、第17表、PL28・29)

本遺跡1区で出土した遺構に伴わない遺物を報告する。1は諸磯a式縄文土器、2・3は有尾式縄文土器鉢、4は堀之内1式縄文土器深鉢、5～9は土師器杯、10は灰釉陶器皿、11はS字状口縁台付甕、12～16・18は土師器甕、17は土師器壺、19・20は土師器羽釜、21は土師器埴、22は土師器鉢、23は赤色土器高杯、24は土師器高杯、25は石鏃、

26は打製石斧である。その他、土師器片多数、須恵器片、陶器片が出土しているが、小片のため図化できなかった。上部からの攪乱や削平が遺構面にまで及んでおり、遺存状態が良くなかった。さらに、調査区が狭く、遺構存在の可能性は考えられるが、遺構・時代を特定することは難しかった。



第80図 1区遺構外 出土遺物 (1)



第81图 1区道槽外 出土遺物 (2)

2区概要

Ⅲ. 宮内遺跡2区の概要

本遺跡2区は宮内遺跡1区の西側、浜町遺跡の東側に位置する。工事計画の進捗により、宮内遺跡1区の調査から2年後の平成15年2月3日より調査に着手した。市街地にあることや開発のため、コンクリート基礎やゴミ穴などが多くあり、表面が削平されている。そのため、遺構の遺存状態が良くなかった。また、調査区が狭いため、12軒検出された古墳時代前期から平安時代にかけての竪穴住居跡のうち、全体を確認できたのは僅かに1軒のみであり、他の11軒は部分的な形状のみの検出であった。調査2区では、竪穴住居跡12軒、土坑跡16基、ピット跡6基、溝跡4条を検出した。

旧石器時代

宮内遺跡1区と同様に微高地上はローム質の土が僅かに残るものの、その下層は礫混じりの砂質土やシルトとなっている。旧石器時代の遺跡はないものと思われる。

縄文・弥生時代

縄文時代の遺構と認められるものは検出できなかった。遺物は9号住居から2点、10号土坑から1点出土している。表面採取で土器を2点検出した。出土遺物は混入の可能性が高い。また、弥生時代の

遺構と認められる検出は一例もなかった。

古墳時代

開発に伴う上位からの攪乱を受け、竪穴住居跡の床面まで削平が及んでおり、遺構確認時の遺存状態は良くなかった。竪穴住居の向きは、浜町遺跡と同様に南東・北西方向に主軸をもつものが多く、全体を確認できた竪穴住居跡の遺は、北西側の壁よりも内寄りに設置したものであった。他に土坑跡10基、ピット跡5基を検出した。

奈良・平安時代

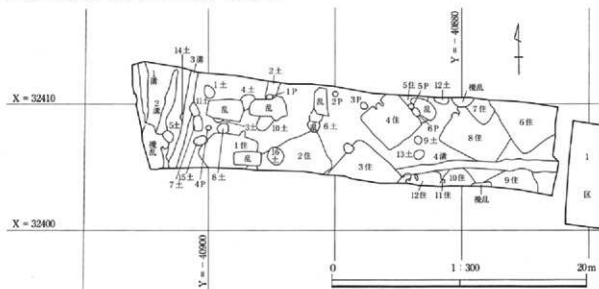
この時代の遺物・遺構は検出されなかった。

中・近世

調査区内から見つかった土坑・溝のうち、多数がこの時期のものと思われるが、出土遺物が少なく、詳細は不明である。

中世以降

浜町遺跡と同様に、調査区内検出の土坑跡6基、溝跡4条の殆どがこの時期と推測される。なお、出土遺物が少なく、また上位からの攪乱を受けているものもあり、現時点での機能的な詳細は不明である。



第82図 宮内遺跡2区遺構全体概略図

IV. 2区の遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

1号住居(第83～85図、第17表、PL16・17・30)

位置 2区 X=32404～407 Y=-40896～900

重複遺構 8・15号土坑と重複する。本遺構は8・15号土坑より古い。

形態 調査区境に位置し、南東側を攪乱により消失しているため全形は不明である。

方位 N-21°-E

規模 3.382×(2.74)m 調査区内

面積 (8.451)㎡ 調査区内

壁高 14cm

床面 掘り方面から4cm～10cm暗褐色土と砂質ロームの混土を埋土に施し、床面を構築している。ピットを4基検出。また、住居南西コーナーに重複した土坑を検出した。掘り方面は多少の凸凹はあるが、概ね平坦である。掘り方面より2基の土坑を検出した。

ピット P1 50×(38)cm、深さ14cm

P2 (46)×42cm、深さ16cm

P3 36×34cm、深さ12cm

P4 35×32cm、深さ10cm

土坑 2土坑 60×(56)cm、深さ12cm

3土坑 74×70cm、深さ12cm

4土坑 128×102cm、深さ10cm

5土坑 83×(48)cm、深さ10cm

柱穴 調査区内では未確認

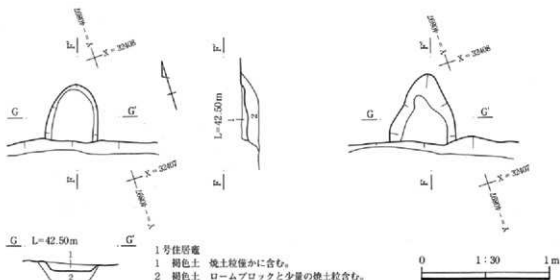
貯蔵穴 竈南側(1土坑)径75cm～92cm、深さ18cm。

周溝 調査区内では未確認

竈 住居北壁中央付近に位置し、燃焼部が壁外に突出して構築されている。上部からの削平により、遺存状態が悪く、天井部・煙道部・袖部はいずれも消失している。そのため、掘り方調査のみ実施した。使用面は緩やかな勾配を持ち、掘り方面は燃焼部中央をやや掘り下げている。煙道部52cm、袖幅32cm、燃焼部42cmである。

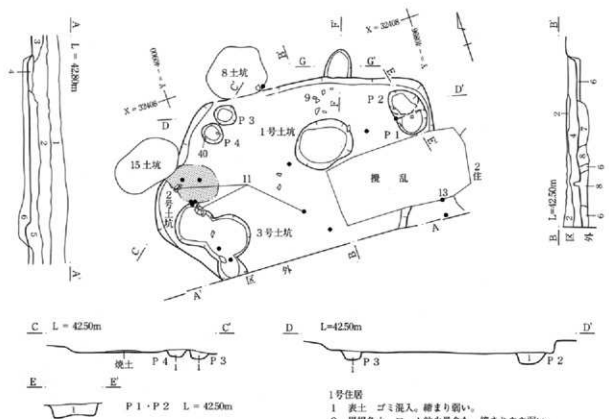
遺物 1～7の土師器片、8のS字状口縁台付甕、9の土師器甕、10・11の土師器長胴甕、12の土師器鉢、13の土師器台付甕、14・15の高坏脚、16の蓋、17の羽口が出土。その他、土師器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と埋土の状況から古墳時代後期と比定される。



第83図 2区1号住居竈・掘り方 平・断面図

2区壑穴住居跡



1号住居 P 1・2・4

1 暗褐色土 ロームブロック含む。

1号住居 P 3

1 暗褐色土 砂質ローム土と暗褐色土ブロックとの混土。

1号住居

1 表土 ゴミ混入。締まり弱い。

2 黒褐色土 ローム粒少量含む。締まりやや弱い。

3 黒褐色土 色調が2層よりやや明るい。ローム粒少量含む。

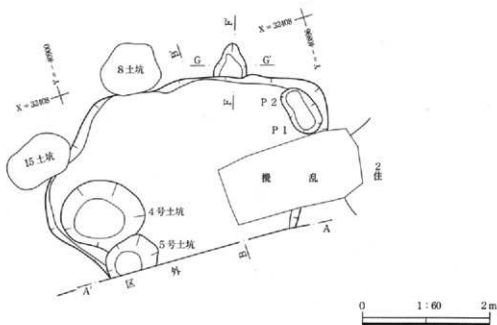
4 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒含む。

5 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒僅かに含む。

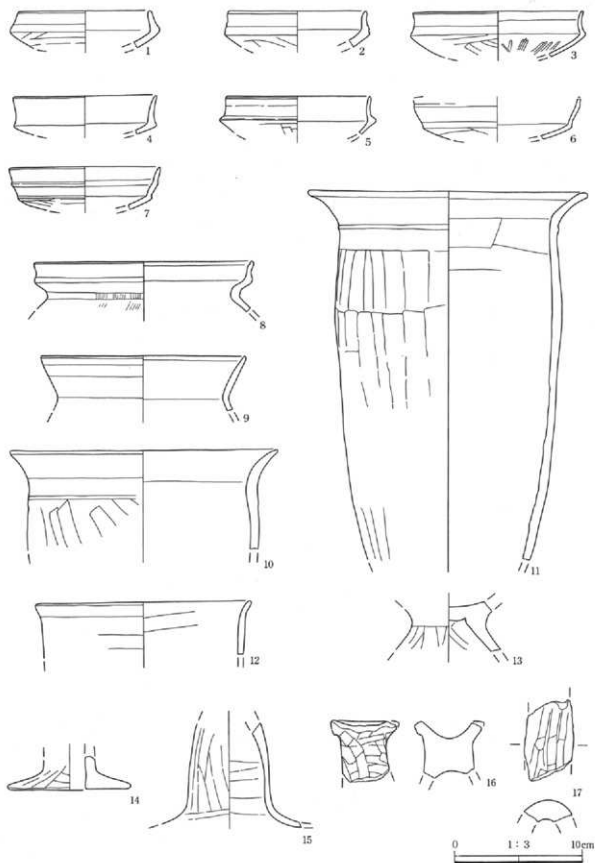
6 暗褐色土 4層暗褐色土と砂質ローム土との混土。締まりやや良い。掘り方。

7 灰黄褐色土 ローム質。締まり弱い。

8 明黄色土 砂質ローム。



第84图 2区1号住居・掘り方・断面図



第85图 2区1号住居 出土遺物

2区竪穴住居跡

2号住居(第86・87図, 第17表, PL17・30)

位置 2区 X = 32404 ~ 407 Y = -40890 ~ 897

重複遺構 16号土坑と重複する。本遺構の方が古い。

形態 調査区境に位置し、南側は調査区外に延びているため全形は不明である。

方向 N - 68° - E

規模 5.20 × 3.36m

面積 (10.836)㎡ 調査区内

壁高 10cm

床面 上部からの削平のため、床面を消失。土層断面観察により、掘り方より4cm程、暗褐色土と灰黄褐色砂質ロームの混土で床面を構築している。ピットを5基検出。掘り方は中央やや東側に、土坑状の掘り込みがあるが概ね平坦である。

ピット P 1 53 × 45cm、深さ13cm

P 2 52 × 52cm、深さ12cm

P 3 48 × 46cm、深さ12cm

P 4 42 × 40cm、深さ18cm

P 5 44 × 40cm、深さ18cm

P 6 70 × 54cm、深さ5cm

P 7 118 × 118cm、深さ5cm

P 8 (140) × 74cm、深さ4cm

柱穴 P 1・P 4は主柱穴の可能性がある。

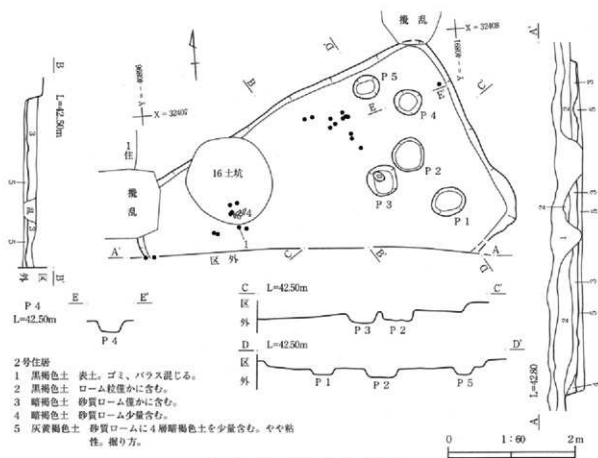
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

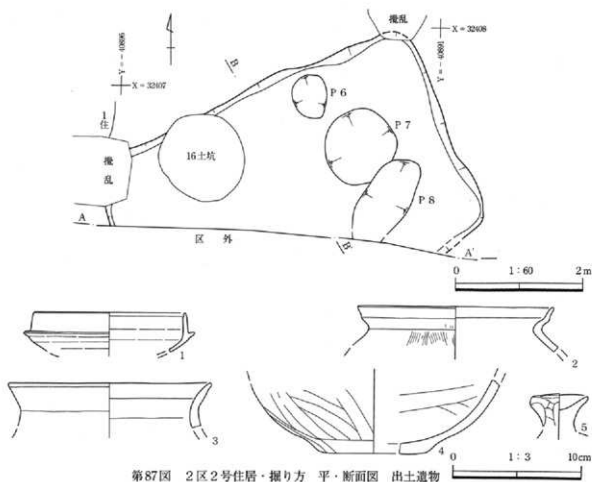
竈 調査区内では未確認、調査区外の壁に位置すると思われる。

遺物 1の土師器環、2のS字状口縁台付甕、3の土師器甕、4の土師器壺?、5の土師器蓋が出土。その他、土師器片5点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物も少なく、遺構も遺存状態が良くなかったため時期を特定することはできなかった。



第86図 2区2号住居 平・断面図



第87図 2区2号住居・掘り方 平・断面図 出土遺物

3号住居(第88・89図、第17表、PL17・30)

位置 2区 X=32403~407 Y=-40884~900

重複遺構 4号溝と重複する。本遺構の方が新しい。

形態 調査区境に位置し、南側は調査区外に延びているため全形は不明である。

方位 N-51°-W

規模 (4.60)×(3.40)m 調査区内

面積 (10.179)㎡ 調査区内

壁高 32cm

床面 掘り方から10cm~12cm程、黒褐色土と灰黄色ロームの混土で床面を構築。ピット5基検出。P1とP2、P4とP5は併行しており、違う時期の住居の建て替え柱穴の可能性が考えられる。掘り方は4cm前後、砂質ロームと黒褐色土の混土で床面を構築している。北コーナー及び北西壁付近を土坑状に掘り下げている。

ピット P1 30×25cm、深さ10cm

P2 28×28cm、深さ14cm

P3 38×30cm、深さ12cm

P4 34×30cm、深さ10cm

P5 28×22cm、深さ12cm

柱穴 位置関係から、P2とP3は柱穴の可能性があるとと思われる。

貯蔵穴 調査区内では未確認

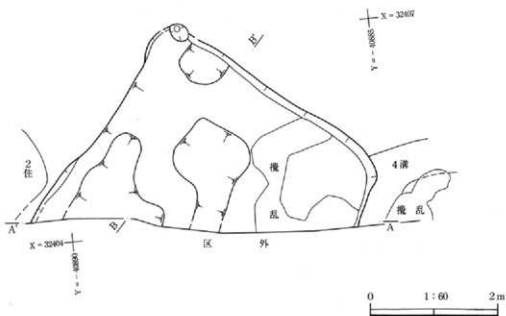
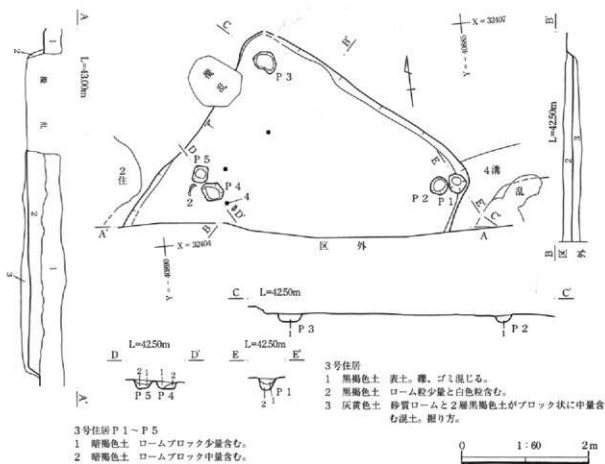
周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認、調査区外に位置すると考えられる。

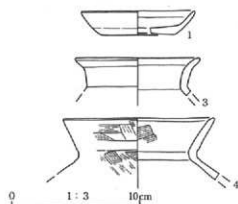
遺物 1のかわらけ、2のS字状口縁台付甕、3の土師器甕、4の土師器壺、5の土師器鉢が出土。その他、土師器片40点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と埋土の状況から、5世紀後半と比定される。

2区竪穴住居跡



第88図 2区3号住居・掘り方 平・断面図



第89図 2区3号住居 出土遺物

4号住居(第90～92図、第17表、PL18・31)

位置 2区 X=32406～411 Y=-40883～888

重複遺構 5号住居・6・7号ピットと重複する。

本遺構は5号住居より新しく、6・7号ピットより古い。

形態 住居角の一部が調査区外に延びているが、正方形と考えられる。

方位 N-38°-W

規模 3.70×3.48m

面積 (11.232)㎡ 調査区内

壁高 20cm

床面 掘り方から6cm～12cm程、暗褐色土と灰黄色砂質ロームの混土で床面を構築。ピットを4基検出し主柱穴と考えられる。北コーナー南側にやや浅い土坑を検出。貯蔵穴と考えられる。掘り方面は南東壁から北東壁に沿い中央部まで溝状に掘り込まれている。また北コーナー付近が土坑状に掘り込まれている。中央部は概ね平坦である。

5号住居(第90～92図、第17表、PL18・31)

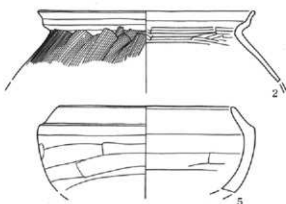
位置 2区 X=32408～411 Y=-40882～885

重複遺構 4号住居・6・7号ピットと重複する。本遺構の方が古い。

形態 調査区境に位置し、他の遺構が重複するため全形は不明である。

方位 N-40°-W

規模 (2.80)×(1.68)m 調査区内



柱穴 1柱穴 35×32cm、深さ10cm

2柱穴 22×20cm、深さ42cm

3柱穴 30×28cm、深さ18cm

4柱穴 28×22cm、深さ8cm

貯蔵穴 62×56cm、深さ20cm

竈 住居北西壁やや中央に構築されている。燃焼部は住居内に構築、煙道部は上部からの削平を受け消失している。壁外に延びていた可能性が高い。燃焼部幅100cm、焚き口幅40cm、燃焼部長さ49cm、灰黄褐色ローム質土を囲い、心材を使わず天井部と袖部を構築。使用面から煙道部にかけて急峻な立ち上がりをもつ。

遺物 1～5の土師器杯、6の土師器碗、7のS字状口縁台付壺、8～13の土師器壺、14の土師器壺、15の須恵器壺、16の土師器台付壺、17・18の土師器高杯、19の陶器皿、20の礫石が出土。その他、土師器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物から、古墳時代後期と比定される。

面積 計測不能

壁高 計測不能

床面 上部からの削平の為、壁高は確認出来なかった。土層断面観察から、地山ロームの硬化面を確認した。掘り方面を床面としていると考えられる。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴・周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認、調査区外に位置する

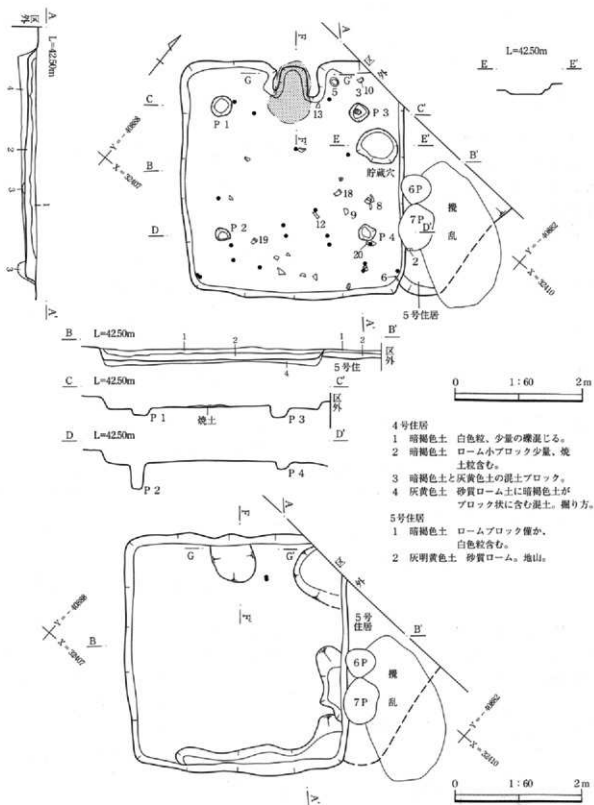
2区堅穴住居跡

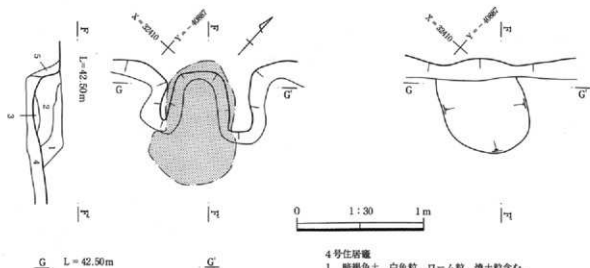
と考えられる。

遺物 1の土師器甕、2の土師器高坏が出土。その他、土師器片2点出土。小片のため図化できな

かった。

所見 出土遺物も少なく、遺構も遺存状態が良くなかったため時期を特定することはできなかった。

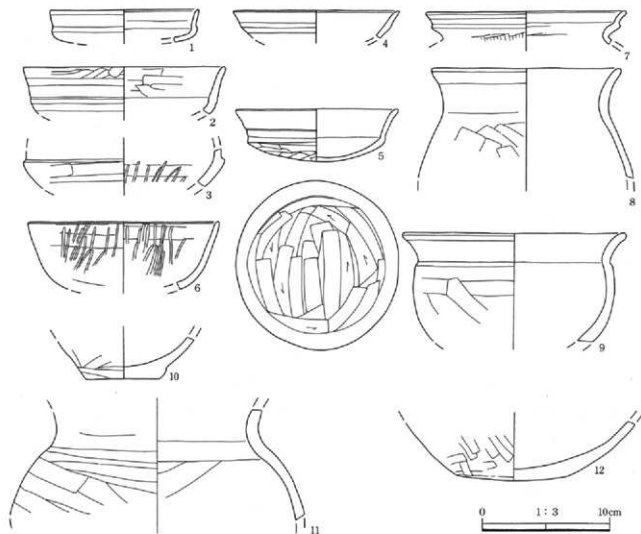




4号住居竈

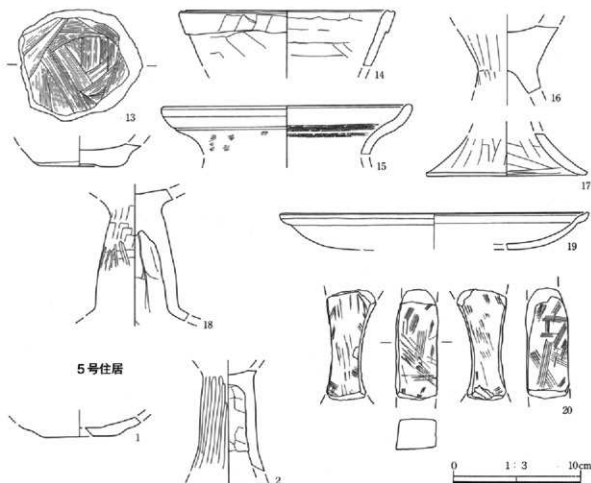
- 1 暗褐色土 白色粒、ローム粒、焼土粒含む。
- 2 灰黄褐色土 ローム質。焼土ブロック中量含む。締まりやや良い。
産層落土。
- 3 灰黄褐色土 ローム質。産層部。締まりやや良い。
- 4 暗褐色土 砂質ロームブロック含む。掘り方。
- 5 明黄灰色土 砂質ローム。地山。

4号住居



第91図 2区4号住居竈・掘り方 平・断面図 出土遺物 (1)

2区竪穴住居跡



第92図 2区4号住居 出土遺物 (2) 5号住居 出土遺物

6号住居(第93・94図、第17表、PL18・32)

位置 2区 X=32406~411 Y=-40872~878

重複遺構 7・8号住居と重複する。遺構平面確認

と土層断面観察から本遺構の方が新しい。

形態 調査区境に位置し、住居北側が調査区外となり全形は不明である。

方位 N-42°-W

規模 (4.60)×(3.32)m 調査区内

面積 (11.232)㎡ 調査区内

壁高 28cm

床面 掘り方より4cm程明褐色土の埋土を施し床面を構築している。北西壁、南東壁沿いにビット6基検出。P3は主柱穴と考えられる。掘り方は南コーナーと南西壁中央と中央東側に径42cm~100cm程の土坑状の掘り込みを検出している。

ビット P1 30×28cm、深さ13cm

P2 48×40cm、深さ16cm

P3 46×44cm、深さ30cm

P4 30×24cm、深さ32cm

P5 50×(25)cm、深さ60cm

P6 50×42cm、深さ27cm

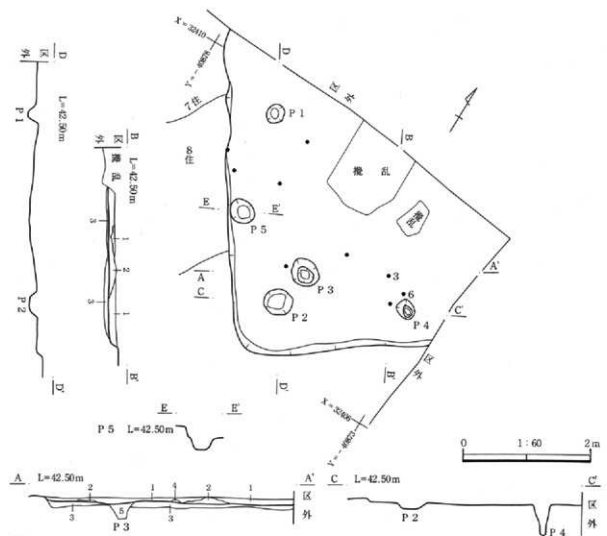
P7 80×78cm、深さ2cm

柱穴 出土位置からP3は主柱穴と考えられる。

貯蔵穴・周溝・竈 調査区内では未確認

遺物 1~4の土師器高杯、5の土師器鉢、6・7の土師器甕、8の土師器高杯が出土。その他、土師器片12点出土。小片のため図化できなかった。

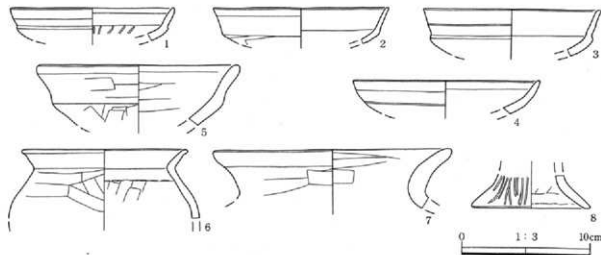
所見 出土遺物と埋土の状況から古墳時代後期、6世紀ごろと比定される。



6号住居

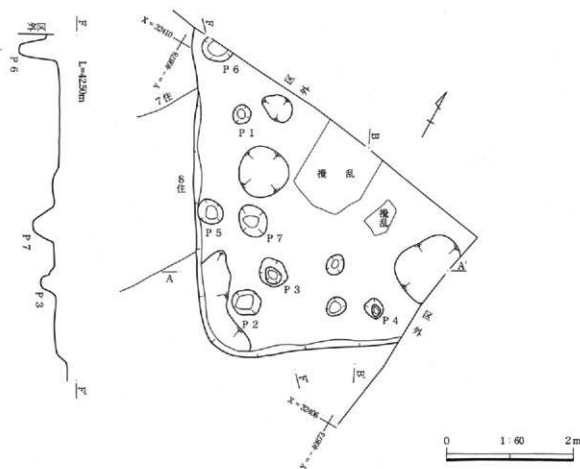
- 1 暗褐色土 白色粒、ローム小ブロックを含む。締まり良い。
 2 暗褐色土 色調がやや明るい。ロームブロックを中量含む。締まり良い。

- 3 明褐色土 地山ブロック少量含む。締まり良い。
 4 明褐色土 地山ロームに2層暗褐色土含む。締まり良い。振り方。
 5 暗褐色土 白色粒少量とロームブロック含む。締まり良い。



第93図 2区6号住居 平・断面図 出土遺物

2区壘穴住居跡



第94図 2区6号住居掘り方 平・断面図

7号住居(第95図、第17表、PL18・19・32)

位置 2区 X=32408~411 Y=-40877~880

重複遺構 6・8号住居と重複する。遺構平面確認と土層断面観察から本遺構は6号住居より旧く8号住居より新しい。

形態 調査区境に位置し、他の遺構とも重複しているため、全形は不明である。

方位 N-46°-W

規模 (1.98)×(1.56)m 調査区内

面積 (2.979)m² 調査区内

壁高 22cm

床面 上部からの削平のため、遺存状態は良くない。土層断面観察から、掘り方から12cm程暗褐色土の埋土を施し床面を構築している。ピット3

基を検出したが、住居に伴うかは不明である。

ピット P1 60×52cm、深さ12cm

P2 32×32cm、深さ16cm

P3 46×32cm、深さ12cm

柱穴 P1とP2のどちらかが柱穴の可能性はある

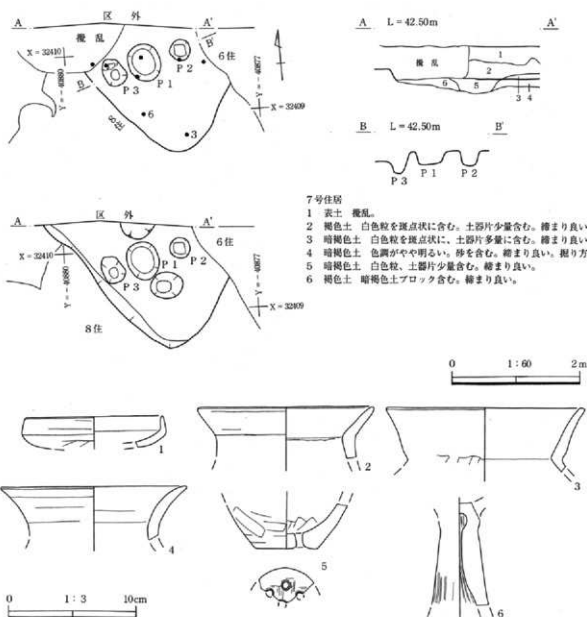
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認、調査区外に位置すると考えられる。

遺物 1の土師器杯、2~4の土師器甕、5の土師器瓶、6の高杯が出土。その他、土師器片8点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と埋土の状況から古墳時代後期と比定される。



第95図 2区7号住居・掘り方 平・断面図 出土遺物

8号住居(第96~98図、第17表、PL19・32)

位置 2区 X=32405~410 Y=-40876~882

重複遺構 6・7号住居、4号溝と重複する。遺構

平面確認と土層断面観察から本遺構が一番古い。

形態 北側は他の遺構と重複し、南は重複遺構により一部消失しているため、全形は不明である。

方位 N-57°-W

規模 4.90×(3.78)m 調査区内

面積 (16.464)㎡ 調査区内

壁高 14cm

床面 掘り方から10cm程黄褐色砂質ロームと暗褐色土の混土で床面を構築している。ピットを2基確認した。掘り方方面では北西壁沿いと竈南西側に浅い掘り込みがある。また、掘り方は多少凸凹はあるが概ね平坦である。

ピット P1 34×30cm、深さ50cm

P2 40×40cm、深さ46cm

P3 36×34cm、深さ33cm

2区竪穴住居跡

- P 4 36×34cm、深さ44cm
- P 5 34×30cm、深さ40cm
- P 6 48×35cm、深さ24cm
- P 7 34×32cm、深さ21cm
- P 8 42×38cm、深さ14cm
- P 9 83×34cm、深さ7cm
- P 10 60×46cm、深さ10cm

柱穴 本住居P1、7号住居P3、6号住居P5は位置的に見て本住居の主柱穴の可能性がある。

貯蔵穴 調査区内では未確認

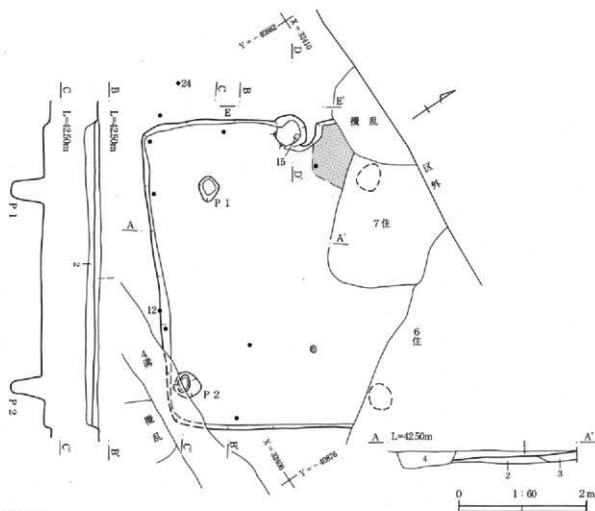
周溝 調査区内では未確認

竈 住居北西壁中央に位置し、壁より突出している。上部からの削平を受け遺存状態は余り良くない。

煙道部127cm、燃焼部77cmである。天井部、袖部は消失している。土層断面観察から、燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。掘り方面は焚き口部分をやや浅く掘り込み、北壁部分をピット状にやや深く掘り込んでいる。

遺物 1～9の土師器杯、10の須恵器杯、11の土師器皿、12～14の土師器甕、15の土師器台付甕、16～18のS字状口縁台付甕、19・20の土師器壺、21・24の土師器小壺甕、22の須恵器壺、23の小型埴、25・26の土師器高坏が出土。その他、土師器片が多数出土。小片のため図化できなかった。

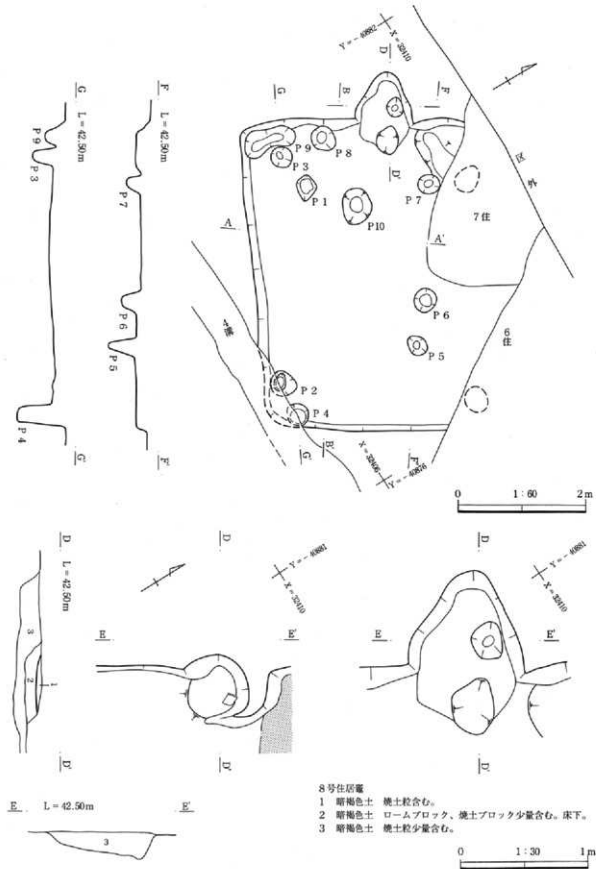
所見 出土遺物から古墳時代後期と比定される。



8号住居

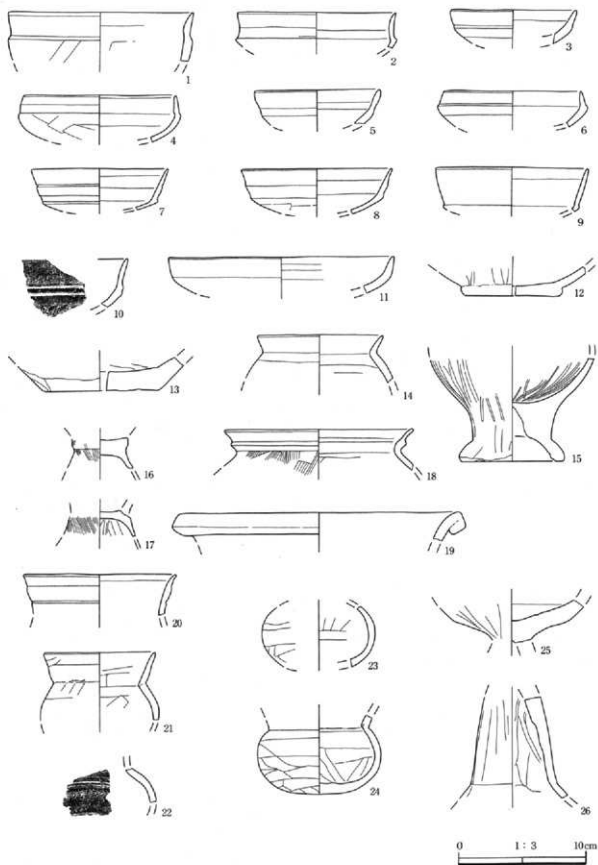
- 1 暗褐色土 少量の砂質ローム粒と土器片含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色砂質ローム土がブロック状に含む。掘り方。
- 3 暗褐色土 やや大きめのロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 炭化物多く含む。複層。

第96図 2区8号住居 平・断面図



第97図 2区8号住居掘り方・竈・掘り方 平・断面図

2区整穴住居跡



第98图 2区8号住居 出土遺物

9号住居(第99・100図、第17表、PL19・33)

位置 2区 X=32403~405 Y=-40874~879

重複遺構 4号溝と重複する。本遺構の方が古い。

形態 調査区境に位置し、重複遺構のため全形は不明である。

方位 N-68°-E

規模 (3.27)×(1.98)m 調査区内

面積 (4.887)m² 調査区内

壁高 10cm

床面 土層断面確認により、掘り方から7cm程、

明褐色土を埋土に床面を構築している。床面から

ピット3基検出した。掘り方面からピット1基と、

調査区境と北西壁に2基の土坑状の掘り込みを確認した。

ピット P1 34×34cm、深さ67cm

P2 36×34cm、深さ70cm

P3 33×33cm、深さ79cm

P4 31×28cm、深さ14cm

柱穴 P1~P3は大きさ・深さから、主柱穴と考えられるが、位置関係から建てられた時期が違うものと考えられる。

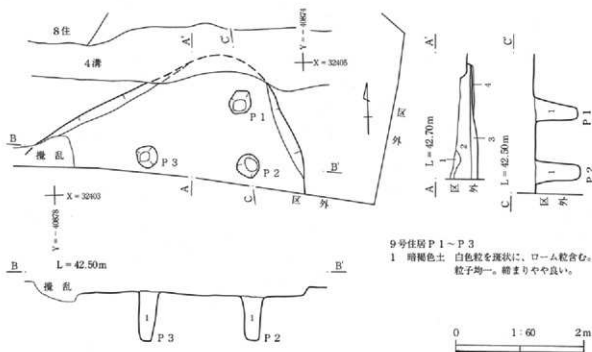
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認、調査区外いずれかの壁に位置すると考えられる。

遺物 1の土師器甕、2の土師器小型甕、3の土師器台付甕、4・5の土師器高坏が出土。その他、縄文土器2点、土師器片1点、焙烙片、土師器瓶片出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物も少なく、遺構も遺存状態が良くなかったが、出土遺物から古墳時代後期と比定される。



9号住居P1~P3

1 暗褐色土 白色粒を斑点状に多量に含む。ローム粒含む。締まりやよい。粒子均一。締まりやよい。

9号住居

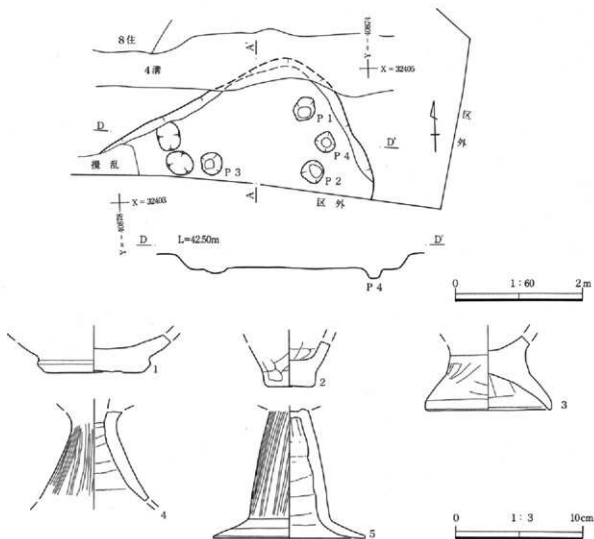
1 表土 擾乱。

2 暗褐色土 白色粒を斑点状に多量に含む。土器片含む。締まりよい。

3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック中量含む。遺物多数出土。締まりよい。

4 明褐色土 4層暗褐色土とローム土との混土。掘り方。

2区堅穴住居跡



第100図 2区9号住居 平・断面図 出土遺物

10号住居(第101図、第17表、PL20・33)

位置 2区 X=32403~405 Y=-40879~881

重複遺構 11・12号住居、4号溝と重複する。本遺構は11号住居、4号溝より古い。12号住居との新旧関係不明である。

形態 調査区境に位置し、南側は調査区外に延び、西側は重複遺構のため全形は不明である。

方位 N-37°-W

規模 (1.80)×(1.74)m 調査区内

面積 (2.313)m² 調査区内

壁高 17cm

床面 土層断面観察により、8cm程の暗褐色土を埋土とし床面を構築している。北コーナーに柱穴

1基を検出する。掘り方面は北西壁から中央付近に長さ110cm、幅42cmの溝状の掘り込みがある。その他は概ね平坦面である。

柱穴 P1 36×36cm、深さ12cm

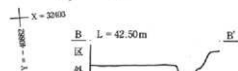
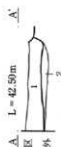
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認、調査区外の壁に位置すると考えられる。

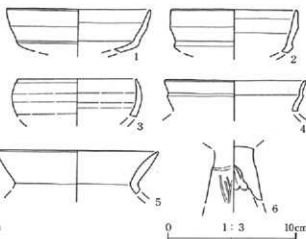
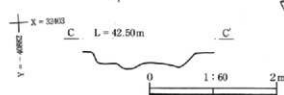
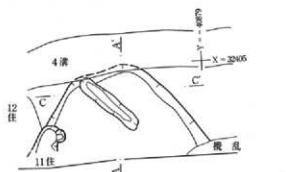
遺物 1・2の土師器坏、3の須恵器碗、4の土師器有段壺、5の土師器甕、6の土師器高坏が出土。その他、土師器片9点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物から古墳時代後期と比定される。



10号住居

- 1 暗褐色土 色調やや明るい。ロームブロック含む。
締まり良い。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。
遺物多数出土。締まり良い。掘り方。



第101図 5区10号住居・掘り方 平・断面図 出土遺物

11号住居(第102図、PL20)

位置 2区 X=32403~404 Y=-40881~882

重複遺構 10・12号住居と重複する。本遺構が一番新しい。

形態 調査区境に位置し、竈以外は調査区外に延びているため全形は不明である。

方位 N-9°-E

規模・面積・壁高 計測不能

床面 土層断面観察により、掘り方から10cm程の暗褐色土で掘土を行い、床面を構築していると考えられる。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

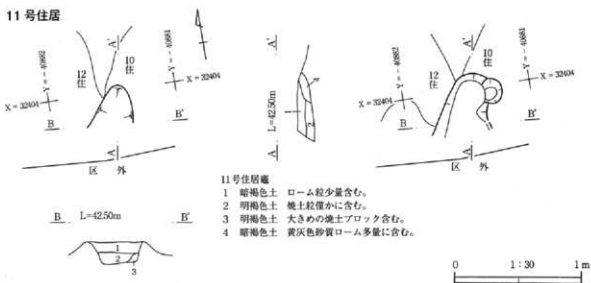
炉・竈 遺構確認面が使用面と考えられる。天井部、煙道部は上部からの削平のため消失している。煙道部は31cm、袖幅は35cm程である。袖部は心材を用いず暗褐色土により構築している。燃焼部から煙道部にかけて急峻に立ち上がる。燃焼部南側は削平のため消失している。掘り方は右袖下に土坑状の掘り込みと竈全体的に浅い掘り込みがある。

遺物 土師器片4点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物も少なく、遺構も遺存状態が良くなかったため時期を特定することはできなかった。

2区区穴住居跡

11号住居



第102図 2区11号住居竈・掘り方 平・断面図

12号住居(第103・104図、第17表、PL20・33)

位置 2区 X=32403~405 Y=-40881~885

重複遺構 10・11号住居、4号溝と重複する。本遺構が一番古い。

形態 調査区境に位置し、他の遺構との重複により全形は不明である。

方位 N-11°-W

規模 (2.50)×(0.98)m 調査区内

面積 (2.439)m² 調査区内

壁高 20cm

床面 土層断面観察により、掘り方から10cm~14cm程の灰暗褐色土と砂質ロームの混土で、床面を構築している。竈東側に1号土坑を検出した。掘り方は概ね平坦で、調査区境に2号土坑がある。

土坑 1号土坑 42×40cm、深さ12cm

2号土坑 (76)×(54)cm、深さ28cm

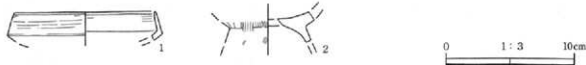
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

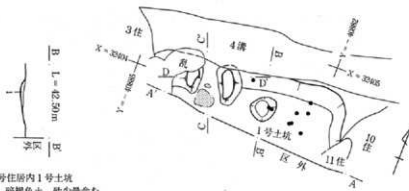
竈 住居北壁に位置し、煙道部は壁外に突出していると推定される。上部からの削平と他遺構の重複により、遺存状態は良くなかった。遺構平面確認時において天井部、煙道部は消失し、僅かに袖部と使用面が残存していた。心材を使わず粘土のみで構築している。煙道部52cm、袖部85cm、燃焼部41cmである。使用面から煙道部に掛けては緩やかな勾配を持つ。燃焼部中央に礎を据え、支脚としている。掘り方は径40cm~72cm程の土坑状に浅く掘り下げている。

遺物 1の土師器片、2の台付甕が出土。その他、土師器片4点出土。小片のため図化できなかった。

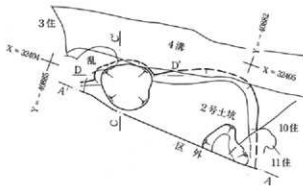
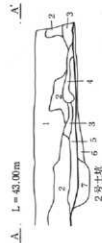
所見 出土遺物も少なく、遺構も遺存状態が良くなかったが、出土遺物から古墳時代後期と比定される。



第103図 2区12号住居 出土遺物

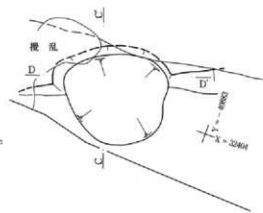
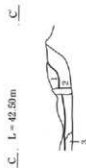
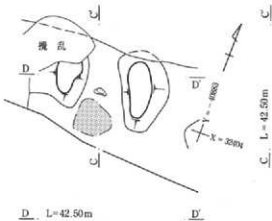
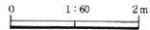


12号住居内1号土坑
1 暗褐色土 砂少量含む。



12号住居

- 1 表土 擾乱。
- 2 暗褐色土 白色粒を斑点状に多く含む。ローム小ブロックと土器片少数含む。締まり良い。
- 3 暗褐色土 色調やや明るい。ローム中ブロック含む。締まり良い。
- 4 暗褐色土 ローム大ブロックを含み、白色粒を少量含む。締まり良い。
- 5 暗褐色土 白色粒多量に含む。色調やや暗い。土器片多く含む。締まり良い。
- 6 灰暗褐色土 砂質ローム土を含む。掘り方。
- 7 12号住居内2号土坑
- 7 灰暗褐色土 ロームブロック少量と多量の焼土粒、焼土ブロックを含む。



12号住居竪

- 1 暗褐色土 焼土粒、灰化分少量含む。
- 2 暗褐色土 やや明るい。焼土粒、焼土ブロック中量含む。締まりやや良い。
- 3 灰暗褐色土 焼土粒僅かに含む。締まりやや良い。



第104図 2区12号住居・掘り方・竪・掘り方 平・断面図

2区土坑跡

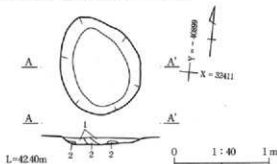
2. 土坑跡

2区から16基の土坑跡を検出した。同一遺構確認面上での調査であるため明確な時期判定はできなかった。整理時に埋没土の土質・色調及び遺物の検討を行った。出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。また、大半の土坑は、上部からの削平や後世の攪乱により、遺構の遺存状態は良くなかった。土坑跡は、主に調査区中央から西側にかけて検出されている。ピット跡も含めて掘建柱建物跡、欄列跡等の関連に着目し、整理時に検討を加えてみたが、該当するものは

なかった。また、調査区域に位置していたり、他の遺構との重複のため全形を確認できないものもあった。5号土坑からは、他の土坑に比べて破片遺物がやや多く出土していることから、廃棄された可能性がある。平面形態から土坑を、長方形(隅丸長方形も含む)、楕円形・円形の二つに大きく分けられる。2・6・10号土坑は遺構の重複と削平により形態は不明であるが、調査区の状況から隅丸長方形の可能性が高い。それぞれの形態・規模については一覧表(第15表)、遺構図を掲載した。

以下、土坑について詳述する。

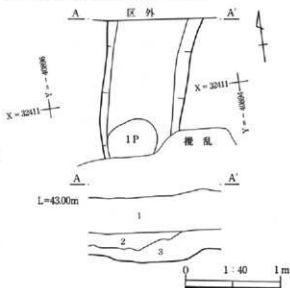
1号土坑(第105図、第15表、PL21)



1号土坑

- 1 暗褐色土 炭化粒、ローム粒少量と白色粒含む。
- 2 暗褐色土 炭化粒、ローム粒少量と白色粒含む。灰褐色ローム土を多量に含む。

2号土坑(第105図、第15表、PL21)



2号土坑

- 1 表土 盛土、ゴミ等混じる。下面砕石。
- 2 暗褐色土 現表土。
- 3 暗褐色土 黄色ローム粒、土片混じる。

3号土坑(第105図、第15・17表、PL33)

調査区西側に位置し、8号土坑と近接する。また、北側を攪乱により消失しているため、全形は不明である。断面は皿状、深さ12cm。底面は小さな凹凸があるが概ね平坦である。埋土は、暗褐色砂質土を主体に明灰黄褐色ロームブロックを含む。1は土師器台付臺台部である。その他、土師器片が1点出土しているが、小片のため図化できず、時期も特定できなかった。



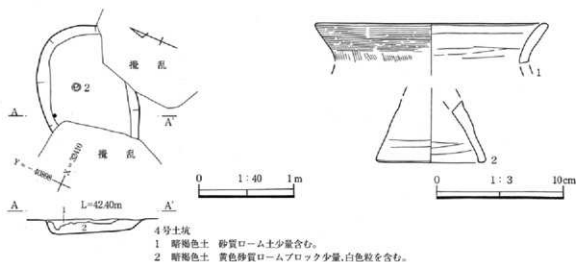
3号土坑

- 1 暗褐色土 砂質ローム少量含む。

4号土坑(第106図、第15・17表、PL21・33)

調査区西側に位置する。東側・西側を攪乱により消失しているため、全形は不明である。調査区内の状況から隅丸長方形であると考えられる。断面は皿状、底面は平坦、深さ12cm。埋土は、暗褐色土を

主体に、黄色砂質ローム土と白色粒を含む。1は土師器甕、2は土師器台付甕である。出土遺物と埋土の状況から古墳時代と比定される。

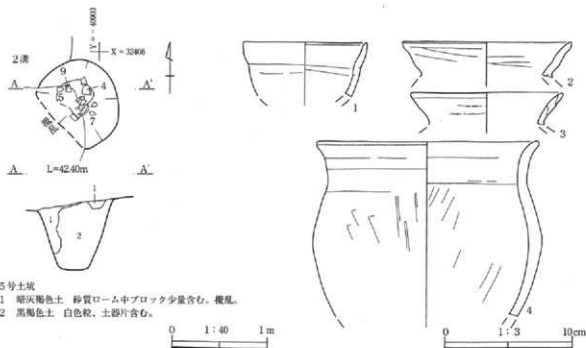


第106図 2区4号土坑 平・断面図 出土遺物

5号土坑(第107・108図、第15・17表、PL21・33)

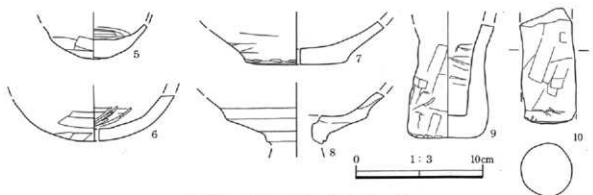
調査区西側に位置し、2号溝と重複する。土層断面観察と遺構平面確認調査から本土坑の方が古い。楕円形で、断面は四角形で、底面は平坦。東側に緩やかな斜面を持つ。深さ72cm。埋土は、黒褐色砂

質土を主体に、白色粒を含む。1は土師器小型壺、2～7は土師器甕、8は高坏、9・10は土製品である。出土遺物の状況から古墳時代後期に比定される。断面形態から貯蔵穴の可能性もあるが、遺物出土状況から土器を廃棄したと推察される。



第107図 2区5号土坑 平・断面図 出土遺物 (1)

2区土抗跡

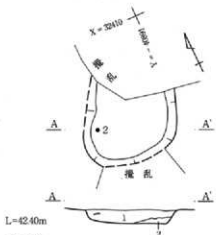


第108図 2区5号土坑 出土遺物 (2)

6号土坑(第109図、第15・17表、PL21・33)

調査区西側に位置し、攪乱により北側と南側の一部を消失しているため、全形は不明である。断面形は皿状で、底面は多少の凹凸はあるが、平坦である。

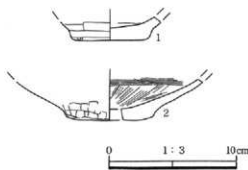
深さ14cm。埋土は、暗褐色砂質土を主体に、灰黄色砂質ローム土を含む。1・2は土師器である。時期と用途は特定できなかった。



L=4240m

6号土坑

- 1 暗褐色土 砂質ローム土少量含む。
- 2 灰黄色砂質ローム土 暗褐色土少量含む。



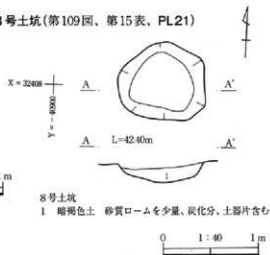
7号土坑(第109図、第15表、PL21)



7号土坑

- 1 暗褐色土 砂質ローム土をブロック状に中量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。

8号土坑(第109図、第15表、PL21)

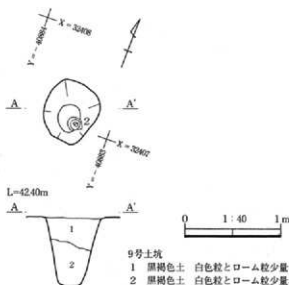


8号土坑

- 1 暗褐色土 砂質ロームを少量、炭化分、土器片含む。

9号土坑(第110図、第15・17表、PL22・34)

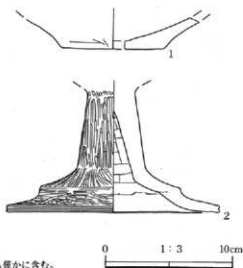
調査区中央よりやや東側に位置する。南北に長い楕円形である。断面は台形、深さ34cm。底面は平坦である。埋土は、黒褐色土を主体に、ロームブロック、白色粒を含む。1は土師器甕、2は土師器高坏である。その他、土師器片が1点出土しているが、小片のため固化できなかった。出土遺物の状況から古墳時代中期と比定される。



9号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒とローム粒少量含む。
2 黒褐色土 白色粒とローム粒少量、砂質ローム僅かに含む。

ック、白色粒を含む。1は土師器甕、2は土師器高坏である。その他、土師器片が1点出土しているが、小片のため固化できなかった。出土遺物の状況から古墳時代中期と比定される。

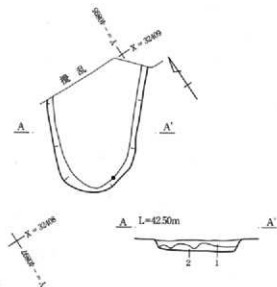


第110図 2区9号土坑 平・断面図 出土遺物

10号土坑(第111図、第15・17表、PL22・34)

調査区西側に位置し、擾乱により北側の一部を消失している。調査区内の状況から南北に長軸を持つ隅丸長方形と推察される。断面は皿状。底面は多少

の凹凸はあるが、平坦である。深さ12cm。埋土は、暗褐色砂質土を主体に、白色粒、ロームブロックを含む。1は縄文土器である。その他、土師器片が出土しているが、小片のため固化できなかった。また、時期と用途も特定できなかった。



10号土坑

- 1 暗褐色土 ローム少量と白色粒含む。
2 暗褐色土 ローム少量と白色粒、ローム土中量含む。

第111図 2区10号土坑 平・断面図 出土遺物

2区土抗跡

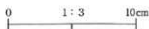
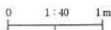
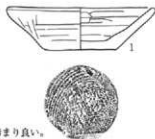
11号土坑(第112図、第15・17表、PL22・34)

調査区西側に位置し、3号溝、11号土坑と重複する。土層断面観察と遺構平面確認から本遺構が新しい。隅丸長方形で、断面は台形を呈し、底面は概

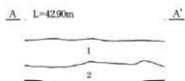
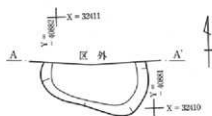
ね平坦である。深さ13cm。埋土は、暗褐色砂質土を主体に、ローム粒を含む。1はほぼ定形の土師器坏である。長軸が北向き、埋土の状況などから中世の墓坑の可能性も考えられる。



11号土坑
1 暗褐色土 大きめのロームブロック含む。締まり良い。



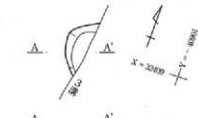
12号土坑(第112図、第15表、PL22)



12号土坑

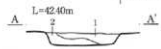
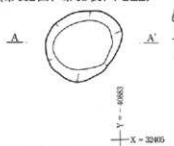
- 1 表土、ゴミ、碎石含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、白色粒含む。
- 3 砂質ローム土 堆山。

14号土坑(第112図、第15表、PL22)



14号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。

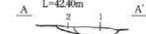
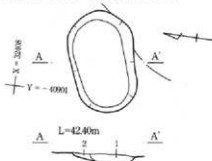
13号土坑(第112図、第15表、PL22)



13号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、土器片含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、土器片、砂質ローム土中層含む。

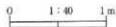
15号土坑(第112図、第15表、PL22)



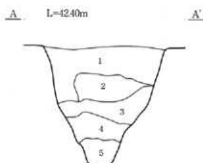
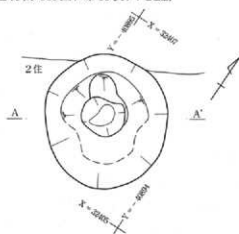
15号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、砂質ローム少量含む。

第112図 2区11～15号土坑 平・断面図 11号土坑 出土遺物



16号土坑(第113図、第15表、PL22)



16号土坑

- 1 黒褐色土 砂質ロームブロック少量含む。
 2 黒褐色土 砂質ロームブロック少量、黄褐色砂、灰褐色粘性土が層状に含む。

- 3 黒褐色土 砂質ロームブロック少量、灰褐色土、灰褐色粘性土が層状に含む。
 4 黒褐色土 砂質ロームブロック、灰白色粘質土ブロック少量含む。締まり弱い。
 5 地山

0 1:40 1m

第113図 2区16号土坑 平・断面図

第15表 2区土坑跡一覧

番号	土坑番号	位置	形態	主軸方向	規模(m)			出土遺物	備考
					長径	短径	深度		
1	1号土坑	X=32410 Y=-40899	楕円形	N-24°-W	1.05	0.84	0.09		
2	2号土坑	X=32410 Y=-40894	不明	N-12°-E (1.40)	0.90	0.14			1号ビット重複。本土坑が新しい。
3	3号土坑	X=32408 Y=-40898	楕円形	N-81°-W	0.86	(0.32)	0.12	土師器台付罌1	
4	4号土坑	X=32409 Y=-40896	隅丸長方形	N-64°-E	1.06	(1.04)	0.12	土師器罌2	
5	5号土坑	X=32407 Y=-40902	楕円形	N-38°-W	1.92	0.72	0.72	土師器罌6、坏1、高坏2	2号溝重複。本土坑が古い。
6	6号土坑	X=32408 Y=-40891	(隅丸長方形)	N-26°-E	1.00	(0.70)	0.14	土師器罌2	
7	7号土坑	X=32407 Y=-40900	隅丸長方形	N-5°-W	1.25	0.74	0.30		土坑墓。
8	8号土坑	X=32407 Y=-40898	楕円形	N-68°-W	0.96	0.82	0.14		
9	9号土坑	X=32406 Y=-40883	楕円形	N-10°-E	0.64	0.56	0.34	土師器罌1、高坏1	
10	10号土坑	X=32407 Y=-40894	(隅丸長方形)	N-30°-E (1.24)	0.98	0.12		縄文土師器片1	
11	11号土坑	X=32409 Y=-40900	隅丸長方形	N-23°-W	1.10	0.62	0.13	土師器坏1	土坑墓。
12	12号土坑	X=32410 Y=-40881	隅丸長方形	N-72°-W	1.14	(0.50)	0.24		
13	13号土坑	X=32405 Y=-40883	楕円形	N-68°-E	0.84	0.70	0.10		
14	14号土坑	X=32408 Y=-40902	楕円形	N-9°-E	0.62	(0.26)	0.06		3号溝重複。本土坑が古い。
15	15号土坑	X=32406 Y=-40900	隅丸長方形	N-72°-E	1.08	0.68	0.10		1号住居重複。本土坑が新しい。
16	16号土坑	X=32405 Y=-40894	楕円形	N-33°-W	1.42	1.30	0.98		2号住居重複。本土坑が古い。

2区溝跡

3. 溝跡

溝についても時期不明のものが多かった。埋土からの出土遺物は古墳時代から古代のものまで混在している。1～3号溝は西側に位置し、南北に走行する。4号溝は、東西に走行し、1区1・2号溝と同

1号溝(第114・115図、第17表、PL23・34)

位置 X = 32405 ~ 413 Y = - 40904 ~ 905

重複遺構 なし

走向 北から南 計測不能

形態 調査区西境に位置し、西側全体と北側、南側が攪乱によって消失し全形は不明である。

規模 検出全長 (3.90)m 上幅 (0.80)m

底幅 (0.06)m 深さ 0.42m

調査区確認範囲である。

遺物 1の須恵器杯、2の土師器甕が出土。その他、土師器片、須恵器片多数出土。小片のため図化できなかった。攪乱による混入の可能性がある。

所見 出土遺物と埋土の状況から古墳時代後期と考えられる。

2号溝(第114・115図、第17表、PL23・34)

位置 X = 32407 ~ 413 Y = - 40902 ~ 905

重複遺構 5号土坑・3号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面観察から3号溝より新しい。5号土坑との新旧関係は攪乱のため不明である。

走向 北東から南西 N - 15° - E

形態 南側を5号土坑と攪乱により、北側は調査区境直前で消失している。断面は皿状である。

規模 検出全長 8.00m 上幅 0.54 ~ 0.84m

底幅 0.36 ~ 0.66m 深さ 0.12m

遺物 1の土師器杯が出土。その他、土師器片が多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況から、時期を特定することはできなかった。

一の可能性がある。南北に走行する1～3号溝は、さほど時間差がないと思われる。出土遺物が少数で小片ばかりが多く、どちらが混入品か判断ができなかった。他遺構との埋土の比較、遺構の重複関係と出土遺物から、古墳時代から中世と考えられる。

3号溝(第114・115図)

位置 X = 32405 ~ 413 Y = - 40900 ~ 904

重複遺構 11・14号土坑、2号溝と重複する。本遺構は14号土坑より新しく、11号土坑・2号溝より古い。

走向 北東から南西 N - 10° - E

形態 調査区南境から北境に直線的に流れる。断面は皿状である。

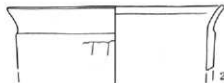
規模 検出全長 8.98m 上幅 0.48 ~ 0.70m

底幅 0.34 ~ 0.56m 深さ 0.14m

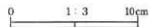
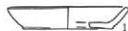
遺物 土師器甕口縁片、土師器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と埋土の状況から古墳時代後期と考えられる。

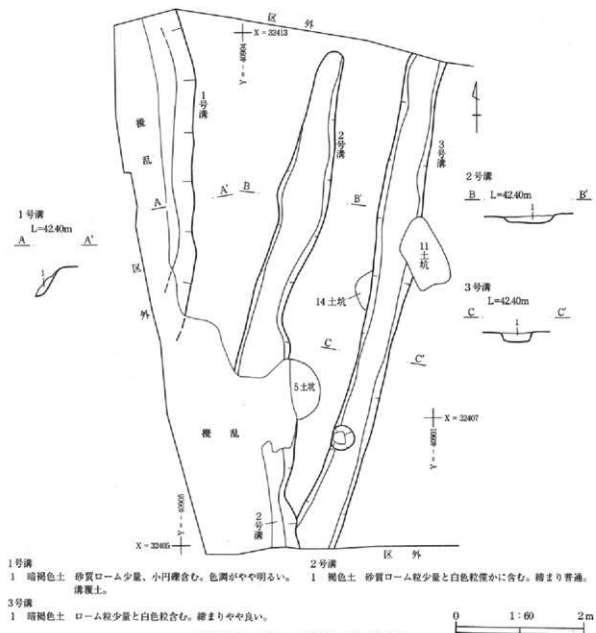
1号溝



2号溝



第114図 2区1・2号溝 出土遺物



第115図 2区1～3号溝 平・断面図

4号溝(第116、第17表、PL23・34)

位置 X=32404～406 Y=-40872～886

重複遺構 3・8～10・12号住居と重複する。本遺構は3号住居との新旧関係は不明である。他の住居より新しい。

走向 東から西 N-82°-E

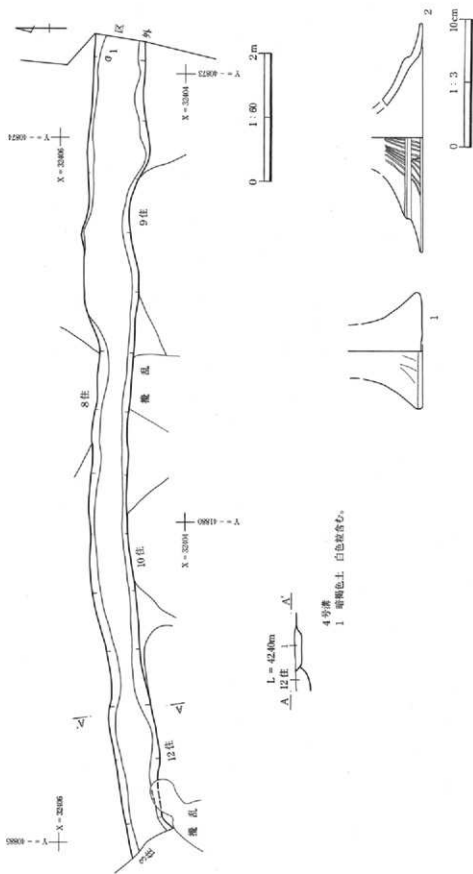
形態 調査区東境から現れ、3号住居付近で消失している。直線的で断面は皿状である。

規模 検出全長 12.68m 上幅 1.00～0.50m
底幅 0.20～0.568m 深さ 0.10m

遺物 1の土師器台状土製品、2の高環が出土。その他、土師器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況から、古墳時代から奈良・平安時代に利用されたと考えられる。また、1区2号溝と埋土が同様な状況、遺物も同時代の遺物が出土していることから同一遺構の可能性が高い。

2区溝跡

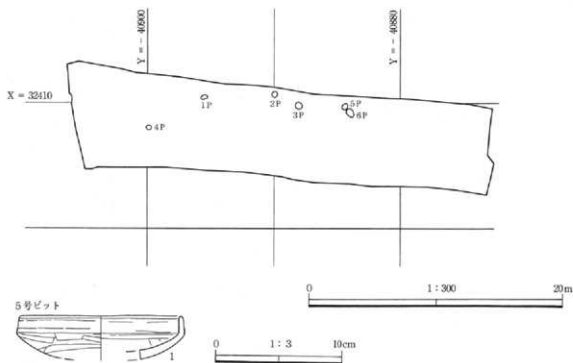


第116图 2区4号溝 平·断面图 出土遺物

4. ビット跡(第117図、第17表、PL34)

本遺跡から6基のビット跡を検出した。出土遺物や掘土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。4号ビットを除いて、深さが50cm～100cm程の深い掘り込みを持つ。また、平面形はすべて楕円形である。線路敷設時の土地整備により、上部からの削平が著しく、掘削深度の浅いビット跡は、この時点で消失してしまったものと

推察される。ビット跡については様々な形態・様相を呈するため、それぞれの形態・規模については一覧表(第16表)に掲げ、位置についてはビット位置図(117図)の中に提示した。5号ビット1は土師器環である。どのビット跡も出土遺物が少なく、時期を特定できなかった。



第117図 2区ビット位置図 5号ビット 出土遺物

第16表 2区ビット跡一覧表

番号	ビット番号	位置	形態	規模(m)			出土遺物	備考
				長径	短径	深度		
1	1号ビット	X = 32410 Y = -40895	楕円形	0.54	(0.40)	0.58	土師器壘片、土師器片少数	2号土坑重複。本ビットが古い。
2	2号ビット	X = 32410 Y = -40889	楕円形	0.46	0.40	1.00	土師器壘片、土師器片少数	
3	3号ビット	X = 32409 Y = -40887	楕円形	0.54	0.54	0.88	土師器壘片、土師器片少数	
4	4号ビット	X = 32407 Y = -40899	楕円形	0.47	0.30	0.28	土師器高坏片、土師器片少数	
5	5号ビット	X = 32410 Y = -40883	楕円形	0.47	0.42	0.52	土師器坏片、土師器片少数	5号住居重複。本ビットが新しい。
6	6号ビット	X = 32409 Y = -40883	不定形	0.70	0.54	0.21		5号住居重複。本ビットが新しい。

2区遺構外出土遺物

5. 2区の遺構外出土遺物(第118図、第17表、PL34)

本遺跡2区で出土した遺構に伴わない遺物を報告する。グリッド出土遺物の1は型作り成形の顔型土器破片、2は縄文中期後半土器片、3は土師器高台付碗、4はS字状口縁台付甕、5は土師器甕、6は土師器壺、7～9は土師器高坏、10は陶器鉢である。その他、土師器片多数、須恵器片、陶器片が出土し

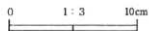
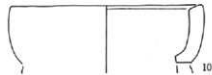
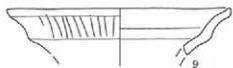
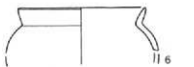
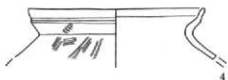
ているが、小片のため図化できなかつた。出土遺物の年代が縄文時代早期から近世にまで及んでいることから、様々な時代の遺構が存在していたことが推察されるが、今回の調査では、調査区が狭く、後世の擾乱や削平により遺存状態も良くなく、それぞれの出土遺物が帰属する遺構の存在は確認されなかつた。

グリッド

X = 32405 Y = - 40880



遺構外遺物



第118図 2区遺構外 出土遺物

第17表 宮内遺跡遺物観察表

1区 1号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第51図 P.L.24	1	土師器 小型甕	床面 完形	口径 10.5 底径 3.9 高さ 7.1	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部内湾気味に立ち上がり、口縁部外反する。口縁部横撫で、胴部縦位置削り、内面撫で。	4世紀後半
第51図 P.L.24	2	土師器 S字状口 縁付甕	床面 口縁～胴部片	口径 (19.0) 底径 - 高さ (5.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	S字状に屈曲する口縁部、胴部膨らむ。口縁部横撫で、胴部横撫で後刷毛目調、内面撫で。	
第51図 P.L.24	3	土師器 小型甕	床面 口縁～底部 1/2	口径 13.0 底径 3.8 高さ 11.8	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	口縁部「く」の字状に折れて直線的。胴部膨らむ。口縁部横撫で後刷毛目状工具による撫で、胴部斜位置削り、内面一部刷毛目状工具による撫で。	4世紀後半
第51図 P.L.24	4	土師器 甕?	床面 口縁部片	口径 (24.0) 底径 - 高さ (5.9)	①粗・微砂粒多量 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部膨らむ。器面の荒れのため整形痕不明瞭。口縁部横撫で、胴部縦位置削り、内面撫で。	
第51図 P.L.24	5	土師器 鉢	床面 口縁～底部 1/2	口径 11.0 底径 3.2 高さ 6.5	①細・微砂粒少量 ②良好 ③暗褐色	体部内湾気味に立ち上がり、そのまま口縁に達する。口縁部直立。口縁部横撫で、胴部縦位置削り、内面撫で。	4世紀後半
第51図 P.L.24	6	土師器 壺	床面 口縁部片	口径 (14.0) 底径 - 高さ (5.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	口縁部外反気味に高く直立する。口縁上部撫で。下部刷毛目状工具による縦方向の撫で。	古墳時代前期
第51図 P.L.24	7	土師器 甕?	床面 口縁～胴部	口径 (18.2) 底径 - 高さ (9.8)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	口縁部「く」の字状に折れて直線的。胴部膨らむ。口縁部横撫で、胴部斜位置削り、内面撫で、粘土接合痕。	
第52図 P.L.24	8	土師器 壺	床面 口縁～胴部	口径 (14.0) 底径 - 高さ (10.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	「く」の字状口縁、胴部膨らむ。器面の荒れのため整形痕不明瞭。口縁部横撫でか、胴部縦位置削り、内面撫で。	
第52図 P.L.24	9	土師器 甕	床面 底部	口径 - 底径 6.0 高さ (11.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部膨らむ。器面の荒れのため整形痕不明瞭。胴部縦位置削り、内面撫で。底部木葉痕。	
第52図 P.L.24	10	土師器 高坏	床面 坏部片	口径 - 底径 - 高さ (3.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	器面の荒れのため整形痕不明瞭。坏部外面縦方向撫で、内面撫で。底部縦位置削り。	
第52図 P.L.24	11	土師器 高坏	覆土 脚部片	口径 - 底径 - 高さ (5.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	外面横撫で、内面縦目。	
第52図 P.L.24	12	土師器 甕	床面 横み部	口径 - 横み (3.0) 高さ (3.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	土師器蓋の凸状溝み。円孔4ヶ所。	
採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量(g)	特徴	備考
第52図 P.L.24	13	石器 磨石	床面	長 8.6 幅 6.0 厚さ 4.4	多孔質安山岩 189.9	表面裏面とも使用により平滑。裏面は2面の磨り面を持つ。使用により平滑。斜横方向に擦痕が見られる。	

1区 2号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第53図 P.L.24	1	土師器 長胴甕	No.5・6・16 口縁～胴部 1/2	口径 (21.2) 底径 - 高さ (23.5)	①粗・細少量 ②良好 ③褐色	長胴型。胴部上位少膨らむ。口縁部横撫で、胴部縦位置削り、内面横撫で。	7世紀後半
第53図 P.L.24	2	土師器 鉢	No.1・7・8 9・11 1/4残	口径 (15.2) 底径 - 高さ 10.8	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	胴部球形、やや器内厚く、底部丸底。口縁部内湾する。口縁部横撫で、胴部斜位置削り、内面撫で後工具による磨き。	6世紀後半
第53図 P.L.24	3	土師器 甕	No.24 口縁部片	口径 (16.6) 底径 - 高さ (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	口縁部外反する。内外面とも撫で。	6世紀か
第53図 P.L.24	4	土師器 甕	No.9 口縁部片	口径 (15.2) 底径 - 高さ (5.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	胴部膨らむ。口縁部外反する。口縁部横撫で、胴部縦位置削り、内面荒れのため不明。粘土接合痕。	6世紀後半

遺物観察表

1区 2号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第53回 P.L.24	5	土師器 鉢	No13 口縁～胴部片	口径 (11.2) 底径 - 高さ (6.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部膨らみ、口縁部直立する。口縁部横撫で、胴部斜位施削り、内面撫で。粘土接合痕。	6世紀後半
第53回 P.L.24	6	土師器 高坏	No10 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (6.5)	①粗砂骨か、細・微砂少量 ②良好 ③にぶい褐色	胴部中位が僅かに膨らむ。外面撫で後工具による磨き。内面上位紋目下、下位横撫で。	時期不明

1区 3号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第54回 P.L.25	1	土師器 S字状口縁台付甕	覆土 口縁部片	口径 (11.0) 底径 - 高さ (2.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黄褐色	器面の荒れのため、やや整形痕不明瞭。S字状口縁。口縁部横撫で、胴部斜毛目状工具による撫で。	4世紀後半か
第54回 P.L.25	2	土師器 甕	No 1 口縁～胴部片	口径 (16.0) 底径 - 高さ (6.6)	①粗砂骨か、細・微砂少量 ②良好 ③赤褐色	胴部膨らみ、口縁部短く外反する。口縁部やや器肉が厚い。口縁部横撫で、胴部縦位施削り、内面撫で。	7世紀か

1区 5号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第56回 P.L.25	1	土師器 坏	覆土 口縁部1/8	口径 (10.0) 底径 - 高さ (3.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部直立気味に短く外反する。口縁部横撫で、体部施削り、内面撫で。	6世紀後半～7世紀前半
第56回 P.L.25	2	土師器 坏	覆土 口縁部1/8	口径 (11.0) 底径 - 高さ (1.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部内湾気味に直立する。口縁部横撫で、体部荒れのため不明、内面撫で。	器面の荒れ。 7世紀か
第56回 P.L.25	3	土師器 坏	No 1 口縁部	口径 (14.1) 底径 - 高さ (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部直立する。口縁部横撫で、体部施削り、内面撫で。	6世紀後半～7世紀前半

1区 6号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第57回 P.L.25	1	土師器 坏	付宮機風 1/5	口径 (12.0) 底径 - 高さ (2.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部外傾する。口縁部横撫で、体部施削り、内面撫で。	6世紀後半か
第57回 P.L.25	2	土師器 坏	甕 口縁部片	口径 (16.0) 底径 - 高さ (3.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部段を有し、外反気味に外傾する。口縁部横撫で、体部施削り、内面撫で。	6世紀後半か
第58回 P.L.25	3	土師器 甕	西宮機風 口縁部片	口径 (19.5) 底径 - 高さ (5.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	胴部膨らみ、口縁部短く外反する。口縁部横撫で、胴部縦位施削り、内面撫で。	
第58回 P.L.25	4	土師器 甕	No 7 口縁部片	口径 (16.6) 底径 - 高さ (4.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	口縁部外反する。内外面とも器面が荒れ、整形痕不明。横撫でか。	
第58回 P.L.25	5	土師器 甕か瓶か	No 8・10・ 覆土 胴部～底部	口径 - 底径 (5.0) 高さ (10.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	胴部膨らみ、底部平た。内外面とも器面が荒れ、整形痕不明。	時期不明
第58回 P.L.25	6	土師器 甕	No 4・11・ 覆土 口縁～胴部	口径 (16.0) 底径 - 高さ (15.0)	①粗・微少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部球形、口縁部短く外反する。器面が荒れている。口縁部横撫で、胴部縦位施削りか、内面撫でか、表面剥落。	

1区 1号堅穴状遺構

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第59回 P.L.25	1	土師器 高坏	No 1 胴部	口径 - 底径 11.0 高さ (5.9)	①粗骨か、細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	裾部「ハ」の字状に開く。器面の荒れのため整形痕不明瞭。外面施削りか、内面横撫でか。	

1区 2号土坑

探函番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第61図 P.L.25	1	土師器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 (11.4) 底径 - 高さ (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰白色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部直立する。口縁部横撫で、体部篋削り後撫で、内面撫で後工具による磨き。	6世紀後半か

1区 3号土坑

探函番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第61図 P.L.25	1	土師器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 (11.4) 底径 - 高さ 4.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部中央に凹縁を有し、外傾する。口縁部横撫で、体部篋削り、内面撫で。	6世紀後半か

1区 4号土坑

探函番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第62図 P.L.25	1	土師器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 (11.8) 底径 - 高さ (2.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部内傾する。口縁部横撫で、体部篋削り、内面撫で。	
第62図 P.L.25	2	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 (13.1) 底径 - 高さ (8.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	胴部膨らみ、口縁部弱く外傾する。内外面とも器面が荒れ、整形痕不明。内面粘土接合痕。	7世紀か

1区 5号土坑

探函番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第64図 P.L.25	1	土師器 大型甕	No.1 口縁～胴部	口径 16.4 底径 - 高さ (15.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部は球形か、口縁部折り返しの口縁帯をもつ。加飾なし。小さな口部で外反して開く。口縁部横撫で、胴部斜位刷毛目状工具による撫で、内面撫で。	4世紀前半～5世紀か
探函番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	重材 重量(g)	特徴	備 考
第64図 P.L.25	2	石製品 砥石	No.6	長幅 (7.2) 長さ 4.8 厚さ 3.2	砂岩 190.0	6面使用、中位が磨滅する。擦痕は、長軸方向を主としている。表右上部割離。鉄分付着。	

1区 7号土坑

探函番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第65図 P.L.25	1	縄文 土師器	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (4.0)	①細砂粒・白色粒 ②良好 ③にぶい褐色	座位沈積で腐された縄文土器と甕消部。懸垂文構成。縄文はR.L.座位束積層文。	加曾利EⅡ式

1区 8号土坑

探函番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第66図 P.L.25	1	須恵器 坏	覆土 底部片	口径 - 底径 (9.0) 高さ (1.0)	①粗・粗砂粒少量 ②良好 ③浅黄褐色	底部平底。体部篋削り、内面撫で。底部器面の荒れのため整形痕不明。	

1区 9号土坑

探函番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第67図 P.L.26	1	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 (10.0) 底径 - 高さ (3.0)	①粗・粗砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部段を有し、外傾する。器面がやや荒れている。口縁部横撫で、体部篋削り、内面横撫で。	7世紀前半か
第67図 P.L.26	2	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 (12.8) 底径 - 高さ (3.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部段を有し、外傾する。口縁部横撫で、体部篋削り、内面横撫で。	6世紀後半～7世紀前半
第67図 P.L.26	3	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 (14.0) 底径 - 高さ (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部直立する。口縁部横撫で、体部篋削り、内面横撫で。	7世紀前半か
第67図 P.L.26	4	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (10.4) 底径 - 高さ (4.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部膨らみ、口縁部弱く外傾する。口縁部横撫で、胴部斜位刷毛目、内面横撫で。	7世紀後半か

遺物観察表

1区 9号土坑

種別番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第67図 P.L.26	5	土師器 高坏	覆土 脚部片	口径 - 底径 - 高さ (9.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	脚部肩部に向かい僅かに広がる。外面表面剥落のため彫痕不明。撫でか、内面紋目。	

1区 10号土坑

種別番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第68図 P.L.26	1	土師器 高坏	覆土 坏部片?	口径 - 底径 - 高さ (3.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部外反して開く。口縁部横撫で、坏底部彫削り、内面横撫で。	

1区 1号溝

種別番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第69図 P.L.26	1	土師器 高坏	覆土 前部	口径 - 底径 (12.0) 高さ (2.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	横部「ハ」の字状に開く。やや器面が荒れる。外面縦位置彫削り、基部横撫で、内面彫削り。	

1区 1号掘列

種別番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第72図 P.L.26	1	縄文 鉢	覆土 体部上位破片	口径 - 底径 - 高さ (3.2)	①粗砂粒、白色粒 ②良好 ③黒褐色	凹縁による円形状区画と磨消部。区画内はR.L.縦位光填施文。	15号ビットから出土 加曾利E III
第72図 P.L.26	2	縄文 鉢	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.6)	①粗砂粒・石英 ②良好 ③褐色	1本の沈線による「J」字状あるいは渦巻き状意匠の末端か。縄文は横位R.L.光填施文。	地名寺式

1区 2号掘列

種別番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第73図 P.L.26	1	縄文 鉢	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (5.1)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい褐色	無彫Rが器面を覆う。原体幅は短い。	21号ビットから出土 黒沢式
第73図 P.L.26	2	縄文 碗片	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (4.3)	①粗砂粒・石英 ②良好 ③にぶい黄褐色	隆縁に撫でが沿う。弧状の動きが看られ、大形の円形状区画か?。縄文は縦位光填施文。	44号ビットから出土 加曾利E III式

1区 7号ビット

種別番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第75図 P.L.26	1	土師器 高坏	覆土 口縁~底部片	口径 (11.8) 底径 - 高さ (3.7)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部丸縁を帯びて立ち上がり、口縁部直立気味に開く外縁する。口縁部横撫で、体部彫削り、内面横撫で。	

1区 16号ビット

種別番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第75図 P.L.26	1	縄文 鉢	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.5)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③灰黄褐色	付加条1とL.R.縄文が施される。器面磨滅。	黒沢式
第75図 P.L.26	2	土師器 高坏	覆土 口縁~底部 1/4	口径 (12.0) 底径 - 高さ (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黒褐色	体部丸縁を帯びて立ち上がり、口縁部直立気味に外縁する。口縁部に平凹面。口縁部横撫で、体部彫削り、内面横撫で。	6世紀後半か

1区 29号ビット

種別番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第75図 P.L.26	1	縄文 罌	覆土 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (3.7)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③黒褐色	口縁部下位破片。大形のC字状爪形文による口縁部変形横成か。押しき頭所が一致し、あるいは2条同時施文か。	有尾式

1区 29号ピット

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第75図 P.L.26	2	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (18.0) 底径 - 高さ (5.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部膨らみ、口縁部反折する。頂部に薄い尖帯が高る。口縁部破損で、胴部表面磨きのため不明、内面指撫で。	径5mm程の窪み入

1区 35号ピット

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第74図 P.L.25	1	縄文	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (2.1)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③明褐色	R.L縄文の横位施文。あるいは羽状横成か。	黒浜式
第74図 P.L.25	2	縄文	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (2.9)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③灰褐色	2条の横位施文。以下は縄文施文。	前期中葉
第74図 P.L.25	3	縄文	覆土 体部破片か	口径 - 底径 - 高さ (2.3)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	器面磨成するため判然としない。	前期中葉
第74図 P.L.25	4	縄文	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (1.7)	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	緩やかな外反を示す。R.L細縄文の横位施文。	諸磯a式
第74図 P.L.25	5	縄文	覆土 体部破片か	口径 - 底径 - 高さ (1.9)	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	器面磨成するため判然としない。	時期不詳
第74図 P.L.25	6	縄文	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.3)	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	横位R.L縄文が施される。器厚薄手。	諸磯a式か
第74図 P.L.25	7	縄文	覆土 体部破片か	口径 - 底径 - 高さ (3.2)	①粗砂粒 ②良好 ③灰黄色	器面磨成するため判然としない。	時期不詳
第74図 P.L.25	8	縄文	覆土 口縁部下位破片	口径 - 底径 - 高さ (4.9)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③灰黄色	大柄のC字状爪形文による、変形文構成。横位爪形文以下にR.L縄文が施される。	有尾式
第74図 P.L.25	9	縄文	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (4.2)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③褐色	内湾する体部中位から上位の形態か。0段多糸Lと無節Lの羽状横成。	黒浜式
第74図 P.L.25	10	縄文	覆土 体部中位破片	口径 - 底径 - 高さ (6.3)	①粗砂粒・白色粒 ②良好 ③褐色	2条の階段縦帯が垂下する。垂下凹線も看取され、懸垂文構成である。	加曾利EIV式
第74図 P.L.26	11	土師器 甕	覆土 底部	口径 - 底径 (3.5) 高さ (2.6)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	底部小さな平底、外面磨削り、内面やや粗雑な撫で。	
第74図 P.L.26	12	土師器 高坏	No.3 坏部	口径 18.2 底径 - 高さ (6.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③褐色	坏部直線的に立ち上がり、口縁部弱く外傾する。内外面とも撫で後工具による磨き。	5世紀後半
第74図 P.L.26	13	土師器 台付甕	覆土 台部片	口径 - 底径 (5.6) 高さ (4.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	台部弱く内湾する。外面刷毛目状工具による撫で、内面撫で。	
第74図 P.L.26	14	土師器 器台	No.1 脚部片	口径 - 底径 - 高さ (5.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	脚部緩やかに広がる。坏部に貫通する円孔あり、外面器面の丸れのため整形痕不明瞭。内面絞り目後穿孔。	
第74図 P.L.26	15	土師器 高坏	No.4 脚部1/2	口径 - 底径 - 高さ (7.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	脚部緩やかに広がる。外面撫で、内面上位絞り目、下位表面割割のため不明。	
第74図 P.L.26	16	土師器 高坏	No.6 脚部～胎部 2/3	口径 - 底径 (13.4) 高さ (10.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	脚部エンタクシス状に膨らみ、下位で屈して直線的に胎部に開く。外面器面の丸れのため整形痕不明瞭、撫でか、内面上位絞り目、下位横撫で。	5世紀前半
第74図 P.L.26	17	土師器 高坏	No.4 脚部～胎部 1/4	口径 - 底径 (13.4) 高さ (8.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	脚部エンタクシス状に膨らみ、先端が直角ほどに強く折れ、胎部をつくる。外面中位に穿孔。撫で後工具による磨き、内面上位絞り目、下位横撫で。	5世紀か

遺物観察表

1区 36号ピット

検出番号 図記番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第75図 P.L.26	1	土師器 甕	覆土 口縁部1/5	口径 (21.2) 底径 - 高さ (5.4)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部外反し、器内やや厚い。胴部膨らむ。口縁部横溝で、胴部隆起り、内面横溝で。	

1区 48号ピット

検出番号 図記番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第75図 P.L.26	1	縄文 鉢	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (2.2)	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	横位R.L縄文が施される。器厚薄手。	諸鏡a式か

1区 縄文包含層

検出番号 図記番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量(g)	特徴	備 考
第77図 P.L.27	1	石器 磨製石斧	No.32	長 10.3 幅 5.1 厚さ 3.0	変玄武岩 210	斜縦方向の丁寧な磨ぎ。多くの経面品の切り合いが認められる。頭部は欠損後再生。	
検出番号 図記番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第78図 P.L.27	2	縄文 鉢	覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (1.9)	①細砂粒 ②良好 ③褐色	外反する口縁部。縄文はLR横位施文。	諸鏡a式
第78図 P.L.27	3	縄文 鉢	覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (2.9)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③黒褐色	口縁部は鋭く内削状を呈す。口唇部より横位LRを施すが、器厚薄手で内面研磨も著しく、異質な印象を受ける。	黒浜式併行
第78図 P.L.27	4	縄文 鉢	覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.7)	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口唇部内面は内削状を呈し鋭い。単筋LRが横位に施される。器厚薄く、内面平滑。	黒浜式
第78図 P.L.27	5	縄文 鉢	覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (2.9)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部に歪みが見られる。片口あるいは小型鉢状の器形か。単筋LRが横位に施される。	黒浜式
第78図 P.L.27	6	縄文 鉢	覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.5)	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	僅かに外反する口縁部。単筋LRが斜位に施される。やや厚手。	諸鏡a式
第78図 P.L.27	7	縄文 鉢	覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.6)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③黒褐色	口唇部内削状を呈し、外面僅かに肥厚する。無筋LRが施されるが、原体端部の結束部が看取される。	黒浜式
第78図 P.L.27	8	縄文 鉢	覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (4.7)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③褐色	緩やかな波状口縁か。口唇部はやや内削状を呈す。0段多条のR.L・LRによる羽状構成。	黒浜式
第78図 P.L.27	9	縄文 深鉢	No.30 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (6.1)	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は尖り、口縁部は緩やかに外反する。横位R.Lが口唇部より施文される。内面研磨。No.27と同一個体か。	諸鏡a式
第78図 P.L.27	10	縄文 鉢	No.12・13・覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (9.5)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	平縁か。口唇部下より0段多条の横位R.L・LRによる羽状縄文構成。やや乱雑な施文。	黒浜式
第78図 P.L.27	11 12 13	縄文 深鉢	No.33 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (10.8)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	口唇部は丸頭状で平縁を呈す。0段多条のR.LとLRによる羽状構成。変形遊反を意識する箇所もあるが、全体に乱雑な施文。No.28・29と同一個体か。	黒浜式
第78図 P.L.27	14	縄文 深鉢	No.9 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (12.0)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	口唇部は尖る。平縁で3条の小型C字状爪形文が平行する。体部は2条の器糸1による縦目状断糸文が施される。No.16と同一個体か。	大木2a式?
第78図 P.L.27	15	縄文 深鉢	覆土 口縁部破片	口径 (28.0) 底径 - 高さ (5.9)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	口唇部内面内削状を呈す。2条の大柄のC字状爪形文が口縁部に沿い、同様の施文で弧線を描く。口縁部変形形状近か。	有尾式
第78図 P.L.27	16	縄文 深鉢	No.7 口縁部破片	口径 (28.1) 底径 - 高さ (7.5)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい褐色	角頭状の口唇部。小型のC字状爪形文3条が口縁部に沿う。体部に器糸1が施される。No.14と同一個体か。	有尾式
第78図 P.L.27	17	縄文 鉢	No.26 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (7.1)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	付加条縄文、器糸1と無筋縄文Rが施される。内面研磨。No.43と同一個体か。	黒浜式

1区 縄文包含層

検出番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第78図 P L 27	18	縄文 深鉢	No.6 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (5.9)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③暗灰色	角頭状の口唇部を呈し、口縁部は直立気味。 単軸輪状体による2条一組の熟赤1が乱雑 に施される。	大木2a式?
第78図 P L 27	19	縄文	腹土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (4.5)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	口唇部に刻みを付し、2条一組の熟赤1が 斜位に施す。	大木2a式
第78図 P L 27	20	縄文	腹土 破片	口径 - 底径 - 高さ (2.0)	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	L R縄文横位施文。	諸磯a式
第78図 P L 27	21	縄文	腹土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (2.1)	①粗砂粒 ②良好 ③灰黄褐色	R L細縄文横位施文。	諸磯a式
第78図 P L 27	22	縄文	腹土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (2.0)	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	縄文は横位L R。	諸磯a式
第78図 P L 27	23	縄文	腹土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (2.0)	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	細縄文横位L Rが施される。	諸磯a式
第78図 P L 27	24	縄文 鉢	腹土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (2.9)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい褐色	0段多条L Rを横位に施す。内面平滑。	黒浜式
第78図 P L 27	25	縄文 鉢	腹土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.9)	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	R L横位施文。器厚薄手。	諸磯a式
第78図 P L 27	26	縄文	腹土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (4.5)	①粗砂粒 ②良好 ③灰白色	垂下陰面にL R縄文斜位充填施文。	加曾科EⅡⅢ式
第78図 P L 27	27	縄文 鉢	腹土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (5.4)	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	No.9と同一個体か。薄手の器厚で、縄文 は横位R Lを施す。	諸磯a式
第79図 P L 27	28	縄文 深鉢	No.1・2 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (10.1)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③暗灰褐色	部位は下部位か。0段多条R LとL Rによ る羽状構成だが乱雑な施文。No.11・12・13 と同一個体か。	黒浜式
第79図 P L 27	30	縄文	腹土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (2.0)	①粗砂粒 ②良好 ③淡黄褐色	細縄織による懸垂文構成か。	加曾科EⅣ
第79図 P L 27	31	縄文	腹土 破片	口径 - 底径 - 高さ (2.9)	①緻密 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部外反する。縄文で面す区画内を輪 軸状工具による斜突文で充填する。No.32 と同一個体か。	堀之内2式
第79図 P L 28	32	縄文	腹土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (1.3)	①緻密 ②良好 ③にぶい褐色	体部上位か。細沈線で面された区画内を輪 軸状工具による斜突文で充填される。No.31 と同一個体。	堀之内2式
第79図 P L 28	33	縄文	腹土 口縁部下破片	口径 - 底径 - 高さ (3.0)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい褐色	大柄のC字状爪形文が横位施される。	有尾式
第79図 P L 28	34	縄文	腹土 体部上位破片	口径 - 底径 - 高さ (3.7)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③灰褐色	小型C字状爪形文以下、横位L Rが施され る。No.38・44と同一個体か。	有尾式
第79図 P L 28	35	縄文	腹土 口縁部下位破 片	口径 - 底径 - 高さ (3.5)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③褐色	大柄のC字状爪形文の密接施文による菱形 状構成。内面は平滑。	有尾式
第79図 P L 28	36	縄文	腹土 体部上位破片	口径 - 底径 - 高さ (3.7)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③灰黄褐色	小型のC字状爪形文が横位に施される。以 下は無文。	有尾式
第79図 P L 28	37	縄文	腹土 体部中位破片	口径 - 底径 - 高さ (3.3)	①粗砂粒 ②良好 ③灰白色	横位沈線上位をR L細縄文が充填される。	堀之内2式
第79図 P L 28	38	縄文 鉢	No.20 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (9.8)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③灰黄褐色	横位L RとR Lによる羽状縄文構成。R L 上端が粘土帯に消える。或いは追加整形施 文の痕跡か。内面研磨。No.34・44と同一 個体か。	

遺物観察表

1区 縄文包層

探出番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第79図 P.L.28	39	縄文 鉢	No.4 底部破片	口径 - 底径 - 高さ (7.5)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい褐色	緩やかに内湾する体部形態。2条の撫糸1による施文。単純輪帯体施文か。内面平滑。	大木2a?*
第79図 P.L.28	40	縄文 鉢	No.18 頸部破片	口径 - 底径 - 高さ (8.9)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	大柄のC字状爪形文による施文。頸部に横位・口縁部に斜位に施される。おそらく、菱形の構成であろう。内面研磨。No.41と同一個体か。	有尾式
第79図 P.L.28	41	縄文 鉢	No.24 頸部破片	口径 - 底径 - 高さ (7.1)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	大柄のC字状爪形文が頸部に横位、口縁部に斜位に施される。菱形構成か。内面研磨。No.40と同一個体か。	有尾式
第79図 P.L.28	42	縄文 鉢	No.21 底部破片	口径 - 底径 - 高さ (11.5)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③褐色	撫糸rと1を一組とした施文。網目状になる箇所もあるが、乱雑に覆う。	大木2a?*
第79図 P.L.28	43	縄文 鉢	No.26 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (11.0)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	器面磨滅し詳細は判然としないが、おそらく、付加条縄文・撫糸1と無筋縄文Rであろうか。No.17と同一個体か。	黒沢式
第79図 P.L.28	44	縄文 鉢	No.16 体部上位破片	口径 - 底径 - 高さ (7.7)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③灰黄褐色	斜位の小型C字状爪形文以下、横位LRとR.Lによる菱形構成。C字状爪形文も菱形状か。No.34・38と同一個体か。	
第79図 P.L.28	45	縄文 鉢	No.10 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (7.6)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③褐色	薄手で小径である。体部下位か。合巻(1+R.L)縄文が施される。	黒沢式
第79図 P.L.28	46	縄文 鉢	覆土 底部破片	口径 - 底径 (7.0) 高さ (3.2)	①細砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	上げ底状で閉き気味に立ち上がる。無文で器厚は薄手。	黒沢式
第79図 P.L.28	47	縄文 鉢	覆土 底部破片	口径 - 底径 (7.0) 高さ (2.3)	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	緩やかに開く体部下位の形態。無文。	諸磯a式
第79図 P.L.28	48	縄文 深鉢	No.2・3 底部・体部下 位残存	口径 - 底径 (7.2) 高さ (16.5)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい褐色	底部は僅かに上げ底状を呈す。0段多条のR.L・L.Rが施され、一部が羽状になるが、乱雑な施文である。内面中に縦行着。	黒沢式

1区 遺構外

探出番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第80図 P.L.28	1	縄文 鉢	覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.2)	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口唇部は丸縁状で、口縁部は緩やかに外反する。縄文は口唇下より横位R.Lを丁寧に施す。薄手の器厚で内面平滑。	諸磯a式
第80図 P.L.28	2	縄文 鉢	覆土 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.0)	①細砂粒 ②良好 ③明褐色	口縁部破片。緩やかな成状口縁か。口唇部に沿って大柄のC字状爪形文が施される。器厚薄手、内面無文により平滑。	有尾式
第80図 P.L.28	3	縄文 鉢	覆土 頸部・胴部片	口径 - 底径 - 高さ (5.4)	①粗砂粒・繊維 ②良好 ③にぶい黄褐色	頸部破片。やや小型のC字状爪形文が頸部屈曲部に重なる。半載竹管状工具の内面施文である。	有尾式
第80図 P.L.28	4	縄文 深鉢	覆土 頸部・胴部片	口径 - 底径 - 高さ (10.1)	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	頸部破片。大きく外反する無文の口縁部。頸部の8字状胎付文を中様に縦施文による懸垂文構成。縄文はR.L縦位充填施文。	堀之内1式(新)
第80図 P.L.29	5	土器器 坏	400-835・840 口縁部片	口径 (15.0) 底径 - 高さ (3.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部直立する。口縁部横撫で、体部丸削り、内面撫で後工具による磨き。	
第80図 P.L.29	6	土器器 坏	400-855 口縁・体部	口径 (15.0) 底径 - 高さ (4.4)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部凹縁を有し、外反する。口縁部横撫で、体部丸削り、内面撫で後工具による磨き。	
第80図 P.L.29	7	土器器 坏?塊?	400-835 1/2	口径 15.7 底径 5.0 高さ 5.0	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色 内 黒	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部外傾する。底部小さな平底を有する。口縁部横撫で、体部丸削り、内面磨面の磨れのため整形痕不明。	
第80図 P.L.29	8	土器器 坏	400-855 1/2	口径 11.6 底径 - 高さ 4.4	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	体部直線的に立ち上がり、口縁部直立する。底部丸底。口縁部横撫で、体部丸削り、内面磨面の磨れのため整形痕不明。	

1区 遺構外

押印番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第80図 P L 29	9	土師器 坏	攪乱 口縁部片	口径 (11.8) 底径 - 高さ (4.0)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③にふい褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部内傾する。口縁部横溝で、胴部縦位置割り、内面横溝で。	
第80図 P L 29	10	灰釉陶器 皿	覆土 口縁～底部片	口径 (13.4) 底径 (7.0) 高さ 2.6	①微砂粒少量 ②還元焼 ③灰褐色	楕圓整形(回転方向不明)付け高台。体部丸味を帯びて立ち上がり口縁部外傾する。高台断面台形。	
第80図 P L 29	11	土師器 S字状口 縁台付壺	覆土 口縁～頸部片	口径 (16.0) 底径 - 高さ (4.1)	①粗わずか・細・微砂粒少量 ②良好 ③にふい橙黄色	胴部膨らみ、口縁部S字状。口縁部横溝で、胴部刷毛目状工具による撫で。	
第80図 P L 29	12	土師器 壺	覆土 口縁～頸部片	口径 (17.2) 底径 - 高さ (7.2)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③にふい黄色	長頸型、口縁部外反して開く。口縁部横溝で、胴部縦位置割り、内面横溝で。	6世紀後半～7世紀前半
第81図 P L 29	13	土師器 壺	覆土 口縁部片	口径 (20.0) 底径 - 高さ (4.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙黄色	口縁部外反しする。器面の荒れのため、整形痕不明。内外面横溝でか。	
第81図 P L 29	14	土師器 壺	攪乱 口縁部片	口径 (16.0) 底径 - 高さ (3.8)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③にふい褐色	口縁部外反する。器面の荒れのため整形痕不明。口縁部横溝で、胴部縦位置割り。	
第81図 P L 29	15	土師器 壺	覆土 口縁部片	口径 (14.6) 底径 - 高さ (5.7)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部やや長く、外反する。口縁部刷毛目状工具による上位は横位置で、下位は縦位置で。	
第81図 P L 29	16	土師器 壺	覆土 口縁～頸部片	口径 (18.0) 底径 - 高さ (8.1)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③にふい橙黄色	胴部膨らみ、口縁部外反する。器面の荒れと表面剥落のため整形痕不明。口縁部横溝で、胴部縦位置割り、内面横溝で。	
第81図 P L 29	17	土師器 壺?	覆土 口縁部1/4	口径 (13.7) 底径 - 高さ (6.2)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③にふい褐色	楕圓整形(右回転)。口縁部直立して立ち上がる。外面刷毛目状工具による撫で調整。一般的なものではない。	6世紀後半～7世紀前半
第81図 P L 29	18	土師器 壺	385～835 口縁～頸部片	口径 (16.0) 底径 - 高さ (6.0)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄色	胴部膨らみ、口縁部外反する。口縁部端部に平坦面を有する。口縁部横溝で、胴部縦位置割り、内面横溝で。	
第81図 P L 29	19	土師器 羽釜	400～835・840 口縁部片	口径 (21.0) 底径 - 高さ (6.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部膨らみ、口縁部内傾する。口縁部透付横溝で、胴部横溝で、粘土接合痕、内面横溝で。	
第81図 P L 29	20	土師器 羽釜	覆土400～835 口縁～胴部片	口径 (21.6) 底径 - 高さ (10.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部膨らみ、口縁部内傾する。口縁部透付横溝で、胴部縦位置割り、内面横溝で。	11世紀
第81図 P L 29	21	土師器 埴	覆土 胴部～底部	口径 - 底径 - 高さ (6.7)	①粗・細・微砂粒少量 ②良好 ③橙黄色	胴部球形、中位に最大径、底部丸底。外面上位縦位置割り、下位縦位置割り、内面横溝で、粘土接合痕。	
第81図 P L 29	22	土師器 鉢	覆土 口縁～胴部片	口径 (16.6) 底径 - 高さ (5.6)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③橙黄色	体部直線的に立ち上がり、口縁部外傾する。口縁部横溝で、体部刷毛目状工具による撫で、内面刷毛目状工具による撫で後加工による磨き。	
第81図 P L 29	23	赤色土器 高坏	覆土 坏部1/4	口径 (16.2) 底径 - 高さ (2.9)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③橙黄色	坏部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部外反する。外面横溝で、内面横溝で後赤色塗彩か。	
第81図 P L 29	24	土師器 高坏	攪乱400～835 脚部	口径 - 底径 (12.0) 高さ -	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙黄色	脚部エンタシス状に膨らみ、下位で強く屈曲して直線的に胴部が開く。外面工具による磨き、内面上位斜り目、下位横溝で。	
押印番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量(g)	特徴	備 考
第81図 P L 29	25	石器 石錘	覆土	長 2.6 幅 1.6 厚さ 3.5	頁岩 0.9	無柄石錘。尖頭部欠損。薄手で丁寧な作り。	
第81図 P L 29	26	石器 打製石斧	覆土	長さ 7.8 幅 7.2 厚み 1.9	頁岩 146.7	分銅形。下方部欠損。頭部使用痕顕著。着柄部多方向の磨研痕あり。	

遺物観察表

2区 1号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第85図 P L 30	1	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (11.0) - (2.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③灰色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部段を有し、直立気味に外傾する。口縁部横撫で、体部直削り、内面撫で、取戻。	
第85図 P L 30	2	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (11.0) - (2.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部段を有し、直立気味に外傾する。口縁部横撫で、体部直削り、内面撫で、取戻。	6世紀後半
第85図 P L 30	3	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (12.6) - (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黄灰色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部段を有し、直立気味に外傾する。口縁部横撫で、体部直削り、内面撫で後工具による磨き。	
第85図 P L 30	4	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (11.2) - (2.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黄灰色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部内傾する。口縁部横撫で、体部直削り、内面撫で。	
第85図 P L 30	5	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (11.6) - (2.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部直立する。口縁部横撫で、体部直削り、内面横撫で。	
第85図 P L 30	6	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (11.0) - (3.2)	①粗・細・微砂粒少 量 ②良好 ③にぶい褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部二段を有し、外傾する。口縁部横撫で、体部直削り、内面表面剥落のため不明。	6世紀後半～7世紀前半
第85図 P L 30	7	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (12.0) - (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部段を有し、直立気味に外傾する。口縁部横撫で、体部直削り、内面横撫で。	
第85図 P L 30	8	土師器 S字状口 縁部付片	埋り方覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (17.4) - (4.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③黄灰色	胴部膨らむ。口縁部「S」字状、口縁部横撫で、胴部刷毛目状工具による撫で、内面横撫で。	4世紀後半か
第85図 P L 30	9	土師器 罍	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (16.2) - (4.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部膨らむ。口縁部外傾する。内外面とも横撫で。	
第85図 P L 30	10	土師器 長胴罍	No 9 口縁部片	口径 底径 高さ (21.2) - (7.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄色	胴部細く膨らみ、口縁部外反する。口縁部横撫で、胴部斜位旋削り。	7世紀後半
第85図 P L 30	11	土師器 長胴罍	No 1・5・10 口縁部片	口径 底径 高さ (22.2) - (29.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	胴部寸胴長胴型。口縁部短く肥厚して外反して開く。口縁部横撫で、胴部直位旋削り、内面横撫で。	7世紀前半
第85図 P L 30	12	土師器 鉢	No 20 口縁部片	口径 底径 高さ (17.0) - (4.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黄灰色	胴部直立し、口縁部短く、外傾する。口縁部横撫で、胴部表面剥落のため不明。内面横撫で。	径3mm程の硝含む
第85図 P L 30	13	土師器 高坏?	No 23 胴部	口径 底径 高さ (4.0) - -	①粗骨か・細微砂粒 少量 ②良好 ③にぶい褐色	器形の荒れのため整形痕不明。内外面とも直撫でか。	6世紀後半～7世紀前半
第85図 P L 30	14	土師器 高坏	覆土 胴部片	口径 底径 高さ (10.0) - -	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③褐色	用途不明。器面の荒れのため整形痕不明。外面直削りか、内面横撫でか。	
第85図 P L 30	15	土師器 高坏	覆土 脚部片	口径 底径 高さ (8.0) - -	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	脚部エンタシス状に膨らみ、下位で直角的に内傾し、直線的に頸部が開く。外面撫で、内面横撫で。	古墳時代前期か
第85図 P L 30	16	土師器 蓋	覆土 挟み部	口径 底径 高さ (4.8) - -	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	内外面直撫で。	
第85図 P L 30	17	土製品 羽口	P 4 No 1 破片	長 幅 厚さ (5.8) (3.8) 1.5	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	外面直撫で、一部還元。	

2区 2号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第87図 P L 30	1	須恵器 環	No 7 口縁部片	口径 底径 高さ (12.0) - (3.3)	①径3mm程の礫、細・ 微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	横断面形(回転方向不明)。体部丸味を帯びて立ち上がる。頸部に筒が深くなる。口縁部直削り、内面直削り。	

2区 2号住居

採掘番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第87図 P.L.30	2	土師器 S字状口 縁台付甕	甕土 口縁-胴部片	口径 (15.4) 底径 - 高さ (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部膨らむ。口縁部「S」字状。器面がやや荒れている。口縁部横撫で。胴部刷毛目状工具による撫で。	
第87図 P.L.30	3	土師器 甕	甕土 口縁部片	口径 (16.0) 底径 - 高さ (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部外反する。器面の荒れのため整形痕不明。内外面とも撫でか。	
第87図 P.L.30	4	土師器 甕?	No.1 胴部-底部片	口径 - 底径 (8.2) 高さ (5.9)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	胴部膨らむ。底部平底、木葉痕。外面斜位直削り、内面撫でか。	
第87図 P.L.30	5	土師器 甕	甕土 胴み部	口径 - 底径 - 高さ (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	凹状狭み。外面指撫で、内面直撫で。	古墳時代前期

2区 3号住居

採掘番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第89図 P.L.30	1	土師器 かわらけ	甕土 1/5	口径 (9.0) 底径 (6.0) 高さ 1.9	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	輪縁整形(回転方向不明)回転糸切り後周縁部直削り。底部平底。体部丸縁を帯びて立ち上がり、口縁部外傾する。	
第89図 P.L.30	2	土師器 S字状口 縁台付甕	No.1 口縁-胴部2/3	口径 17.1 底径 - 高さ (6.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	胴部膨らむ。口縁部「S」字状。器面がやや荒れている。口縁部横撫で。胴部刷毛目状工具による斜位撫で。内面撫で。	4世紀後半
第89図 P.L.30	3	土師器 甕	甕土 口縁部片	口径 (9.8) 底径 - 高さ (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	口縁部直立気味に立ち上がり、肩部短く外傾する。内外面とも横撫で。	5世紀後半か
第89図 P.L.30	4	土師器 甕	No.2 口縁-胴部片	口径 (11.7) 底径 - 高さ (4.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部膨らむ。「く」の字状口縁。口縁端部に平出筋。口縁部刷毛目状工具による撫で、胴部刷毛目状工具による斜位方向の撫で。内面削い撫で。	5世紀後半か
第89図 P.L.30	5	土師器 鉢	No.8 口縁-胴部片	口径 (13.8) 底径 - 高さ (6.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部半球形で、口縁部内傾する。口縁部横撫で、体部横位直削り、内面横撫で。	5世紀後半～6世紀後半

2区 4号住居

採掘番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第91図 P.L.31	1	土師器 坏	甕土 口縁部片	口径 (11.8) 底径 - 高さ (2.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	体部丸縁を帯びて立ち上がる。口縁部外反気味に直立する。口縁部横撫で、体部直削り、内面横撫で。	
第91図 P.L.31	2	土師器 坏	甕土 口縁部片	口径 (16.0) 底径 - 高さ (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黒褐色	弱く外反ながら口縁部外傾する。内外面とも横撫で。	
第91図 P.L.31	3	土師器 坏	No.1 体部片	口径 - 底径 - 高さ (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	体部丸縁を帯びて立ち上がる。口縁部横撫で、体部直削り、内面横撫で後工具による磨き。	
第91図 P.L.31	4	土師器 坏	甕土 口縁部片	口径 (13.2) 底径 - 高さ (2.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③暗赤褐色	口縁部段を有し、直立気味に外傾する。内外面とも横撫で。	
第91図 P.L.31	5	土師器 坏	No.2 完形	口径 12.9 底径 - 高さ 4.1	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	体部丸縁を帯びて立ち上がる。口縁部中段に凹縁を有し、外反する。口縁部横撫で、体部直削り、内面横撫で。	
第91図 P.L.31	6	土師器 甕	No.44 口縁-体部片	口径 (15.2) 底径 - 高さ (5.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	胴部が張り、体部前端的に立ち上がり、口縁部外傾する。口縁部横撫で、体部内外面とも後後工具による磨き。	8世紀前半か
第91図 P.L.31	7	土師器 S字状口 縁台付甕	甕土 口縁部片	口径 (15.8) 底径 - 高さ (2.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黒褐色	「S」字状口縁。内外面とも横撫で。胴部刷毛目状工具による撫で、内面撫で。	4世紀後半
第91図 P.L.31	8	土師器 甕	No.7 口縁-胴部片	口径 (15.0) 底径 - 高さ (8.7)	①粗・微砂粒多量 ②良好 ③にぶい褐色	胴部膨らむ。口縁部弱く外反する。器面の荒れのため、整形痕不明。	時期不明

遺物観察表

2区 4号住居

神居番号 区版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第91区 P L 31	9	土師器 甕	No17 口縁-胴部片	口径 (17.7) 底径 - 高さ (8.5)	①粗・微砂粒多量 ②良好 ③赤褐色	胴部膨らみ(半球形)、中に最大径。口縁部外反する。口縁部横撫で、胴部斜横位置削り、内面撫で。	8世紀か
第91区 P L 31	10	土師器 甕	No 1 底部 2/3	口径 - 底径 5.8 高さ (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部膨らむ。底部平底。外面磨削り、内面撫で。	
第91区 P L 31	11	土師器 甕	N o 35 底部-胴部片	口径 - 底径 - 高さ (8.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部膨らむ。口縁部外傾か、口縁部横撫で、外面斜横位置削り、内面撫で。	7世紀後半か
第91区 P L 31	12	土師器 甕	No18 底部 2/3	口径 - 底径 9.0 高さ (4.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	胴部膨らむ。外面磨削り、内面器面の荒れのため不明。	時期不明
第92区 P L 31	13	土師器 甕	No 5 底部	口径 - 底径 7.0 高さ (2.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	胴部膨らむ。外面磨削り、内面刷毛目状工具による撫で。	
第92区 P L 31	14	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (17.0) 底径 - 高さ (4.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部外傾欠味に立ち上がり、端部短く折り返す。外面斜横位置削り、内面横撫で。	古墳時代前期
第92区 P L 31	15	須恵器 甕	覆土 口縁部片	口径 (19.9) 底径 - 高さ (3.8)	①粗砂径か・細・微砂粒少量 ②良好 ③灰色	横腹整形、口縁部外反し、端部外傾する。口縁横撫で、底部沈線1条、列点飾描文。内面横撫で。	
第92区 P L 31	16	土師器 台付甕	No21 台部片	口径 - 底径 - 高さ (5.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	器面の荒れのため、整形痕不明。	時期不明
第92区 P L 31	17	土師器 高坏 環部?	覆土 底部片	口径 - 底径 (12.6) 高さ (3.3)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③赤褐色	樽部「ハ」の字状に開く。外面縦位置削り、内面横撫で。	時期不明
第92区 P L 31	18	土師器 高坏	No20 脚部	口径 - 底径 - 高さ (10.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	脚部エンタシス状に膨らみ、下位で強く屈曲して直線的に側面が開く。外面撫で後工具による磨き、内面紋目。	
第92区 P L 31	19	陶器 甕	No32 1/3	口径 (24.4) 底径 - 高さ (2.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部外傾する。口縁部横撫で、体部横撫で。	
神居番号 区版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量(g)	特徴	備 考
第92区 P L 31	20	石製品 砥石	No13	長 8.8 幅 3.4 厚さ 2.4	泥紋岩 100	6面上も使用。側面に刃部調整痕顕著。中位使用顯著。	

2区 5号住居

神居番号 区版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第92区 P L 31	1	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 - 底径 (6.0) 高さ (1.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部膨らむ。底部平底。外面撫で、内面横撫で。底部磨削り。	
第92区 P L 31	2	土師器 高坏	N o 8 脚部	口径 - 底径 - 高さ (8.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	脚部棒状を呈する。外面撫で後工具による磨き、内面紋目。	

2区 6号住居

神居番号 区版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第93区 P L 32	1	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 (13.0) 底径 - 高さ (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部外傾する。口縁部横撫で、体部磨削り、内面横撫で後工具による磨き。	6世紀後半～7世紀前半
第93区 P L 32	2	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 (14.0) 底径 - 高さ (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部外傾する。口縁部横撫で、体部磨削り、内面横撫で。	
第93区 P L 32	3	土師器 環	N o 3 口縁-体部片	口径 (14.0) 底径 - 高さ (3.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部中腹に段を有し、外傾する。口縁部横撫で、体部磨削り、内面横撫で。	6世紀後半～7世紀前半

2区 6号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第93図 P.L.32	4	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 (14.8) 底径 - 高さ (2.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部外傾する。口縁部横撫で、体部施削り、内面横撫で。	
第93図 P.L.32	5	土師器 鉢	覆土土 口縁部片	口径 (16.0) 底径 - 高さ (4.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部固く外反する。口縁部横撫で、体部施削り、内面横撫で。	
第93図 P.L.32	6	土師器 甕	No.2 口縁-胴部片	口径 (13.1) 底径 - 高さ (5.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部膨らみ、口縁部「く」の字状に外傾する。やや器面の荒れ。口縁部横撫で、胴部斜横位置削り、内面横撫で。	
第93図 P.L.32	7	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (18.9) 底径 - 高さ (4.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	長頸甕か? 口縁部器内厚く外反する。内外面とも横撫で。	
第93図 P.L.32	8	土師器 高坏	覆土 胴部片	口径 (9.3) 底径 - 高さ (2.6)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	外面撫で後工具による磨き。内面横撫で。	7世紀後半か 6世紀後半か

2区 7号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第95図 P.L.32	1	土師器 坏	覆土 口縁-体部片	口径 (11.0) 底径 - 高さ (2.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③褐色	体部丸みを帯びて立ち上がり、口縁部直立気味に外傾する。口縁部横撫で、体部施削り、内面横撫で。	
第95図 P.L.32	2	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (15.7) 底径 - 高さ (4.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部外傾する。器面の荒れのため整形痕不明。	
第95図 P.L.32	3	土師器 甕? 甕?	No.1 口縁部片	口径 (15.7) 底径 - 高さ (4.6)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部外傾する。内外面とも横撫で。	
第95図 P.L.32	4	土師器 甕	掘り方覆土 口縁部片	口径 (14.8) 底径 - 高さ (4.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部外反する。内外面とも横撫で。	
第95図 P.L.32	5	土師器 瓶	覆土 底部片	口径 - 底径 (5.0) 高さ (3.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黒褐色	胴部膨らみ、底部4孔、溝撫で。外面施削り、内面横撫で。底部施削り。	
第95図 P.L.32	6	土師器 高坏	No.6 脚部	口径 - 底径 - 高さ (8.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	脚部棒状を呈する。外面上位器面の荒れのため不明。下位撫で後工具による磨き。内面坏・胴周方向に紋目。中位で狭くなる。	

2区 8号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第98図 P.L.32	1	土師器 鉢?	覆土 口縁部片	口径 (14.6) 底径 - 高さ (4.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部固く膨らむ。口縁部直立気味に外反する。口縁部横撫で、体部横位置削り、内面横撫で。	6世紀後半
第98図 P.L.32	2	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 (11.6) 底径 - 高さ (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部外反気味に直立する。内外面とも横撫で。	6世紀後半~7世紀前半
第98図 P.L.32	3	土師器 坏	掘り方覆土 口縁部片	口径 (10.0) 底径 - 高さ (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部固く丸味を帯びて立ち上がり、口縁部直立する。口縁部横撫で、体部施削り、内面横撫で。	
第98図 P.L.32	4	土師器 坏	掘り方覆土 口縁-体部片	口径 (12.0) 底径 - 高さ (3.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部直立する。口縁部横撫で、体部施削り、内面器面の荒れのため不明。	6世紀後半
第98図 P.L.32	5	土師器 坏	掘り方覆土 口縁部片	口径 (10.0) 底径 - 高さ (2.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部固く丸味を帯びて立ち上がり、口縁部外傾する。口縁部横撫で、体部施削り、内面横撫で。	
第98図 P.L.32	6	土師器 坏	掘り方覆土 口縁-体部片	口径 (11.0) 底径 - 高さ (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部固く丸味を帯びて立ち上がり、口縁部内傾する。口縁部横撫で、体部施削り、内面横撫で。	

遺物観察表

2区 8号住居

持国番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第98回 P.L.32	7	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 (11.0) 底径 - 高さ (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部高く丸味を帯びて立ち上がる。口縁部中段に凹線を有し、直立気味に外傾する。口縁部横撫で、体部丸削り、内面横撫で。	6世紀後半
第98回 P.L.32	8	土師器 環	覆土 口縁～体部片	口径 (12.6) 底径 - 高さ (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部高く丸味を帯びて立ち上がる。口縁部段を有し、直立気味に外傾する。口縁部横撫で、体部丸削り、内面横撫で。	6世紀後半～7世紀前半
第98回 P.L.32	9	土師器 環	覆土 口縁部片	口径 (12.0) 底径 - 高さ (3.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部外傾する。外面荒れのため不明、内面横撫で。	
第98回 P.L.32	10	須恵器 環	覆土 口縁部片	口径 - 底径 - 高さ (3.8)	①細・微砂粒少量 ②還元焼 ③黒灰色	体部高く丸味を帯びて立ち上がる。口縁部外傾する。頸部に沈線1条。	
第98回 P.L.32	11	土師器 皿	掘り方履土 口縁部片	口径 (18.0) 底径 - 高さ (3.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部高く丸味を帯びて立ち上がり、口縁部外傾する。口縁部横撫で、体部丸削り、内面横撫で。	
第98回 P.L.32	12	土師器 甕	No 8 底部1/4	口径 - 底径 (7.5) 高さ (2.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	胴部膨らむ。内外面とも器面の荒れと表面剥落のため整形痕不明。	
第98回 P.L.32	13	土師器 甕	覆土 底部片	口径 - 底径 (9.0) 高さ (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	胴部膨らむ。外面斜位横撫で、内面丸削り、底部丸削り。	時期不明
第98回 P.L.32	14	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 (10.0) 底径 - 高さ (3.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部膨らむ。口縁部「く」の字状。器面の荒れのため整形痕不明。	
第98回 P.L.32	15	土師器 付台	No 1 胴～台部 1/3	口径 - 底径 (8.0) 高さ (8.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	胴部丸味を帯びて立ち上がる。胴部～台部外面丸削り後工具による磨き、内面横撫で後工具による磨き。台部内面指撫で。	古墳時代後期か
第98回 P.L.32	16	土師器 S字状口 縁台付 甕?	覆土 台部片	口径 - 底径 - 高さ (2.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	器面の荒れのため整形痕不明。台部外面刷毛目状工具による撫で、内面指撫で? 横撫で?	
第98回 P.L.32	17	土師器 S字状口 縁台付 甕?	覆土 台部片	口径 - 底径 - 高さ (2.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	台部外面刷毛目状工具による撫で、内面指撫で。	
第98回 P.L.32	18	土師器 S字状口 縁台付	覆土 口縁部片	口径 (15.0) 底径 - 高さ (3.2)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	「S」字状口縁。口縁部横撫で。胴部刷毛目状工具による撫で、内面横撫で。	4世紀後半か
第98回 P.L.32	19	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (27.4) 底径 - 高さ (1.9)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③褐色	口縁部外傾する。折り返し口縁。内外面とも器面の荒れのため整形痕不明。横撫でか?	
第98回 P.L.32	20	土師器 甕	掘り方履土 口縁部片	口径 (12.0) 底径 - 高さ (3.2)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部中段に凹線を有し、外傾する。口縁部内外面とも横撫で。	
第98回 P.L.32	21	土師器 小型甕	掘り方履土 頸部～底部 1/3	口径 (8.8) 底径 - 高さ (5.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部膨らむ。口縁部「く」の字状、内外面とも器面の荒れのため整形痕不明。	6世紀後半か
第98回 P.L.32	22	須恵器 甕	覆土 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (2.9)	①細・微砂粒少量 ②還元焼 ③黒灰色	輪軸整形(回転方向不明)、沈線2条、上段に波状文。	
第98回 P.L.32	23	土師器 小型甕?	覆土 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (4.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	胴部球形。器面の荒れのため整形痕不明。外面上位横撫でか、下位斜位横撫でか。内面横撫で。	
第98回 P.L.32	24	土師器 小型甕	No13 頸部～底部 1/3	口径 - 底径 - 高さ (6.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部球形。頸部～胴部上位横撫で、胴部下位丸削り。内面指撫で、横撫で。	
第98回 P.L.32	25	土師器 高環	覆土 環部	口径 - 底径 - 高さ (3.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③褐色	環部丸味を帯びる。外面丸削り、内面横撫で。	時期不明

2区 8号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第98図 P.L.32	26	土師器 高坏	覆土 脚部片	口径 - 底径 - 高さ (8.0)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	脚部エンタシス状に膨らみ、下位で裾部が広がる。外面不定方向の撫で。内面紋目。	

2区 9号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第100図 P.L.33	1	土師器 甕	No.2 底部	口径 - 底径 8.0 高さ (3.0)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③明褐色	底部平底。外面磨削り、内面器面の荒れのため不明。	
第100図 P.L.33	2	土師器 小型甕	覆土 底部1/3	口径 - 底径 (4.0) 高さ (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	底部平底。器面の荒れのため整形不明。内面磨削でか。	
第100図 P.L.33	3	土師器 台付甕	No.1 台部1/3	口径 - 底径 (10.0) 高さ (5.9)	①粗僅小、細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	台部「ハ」の字状に広がる。外面表面割落のため不明。台部端部横撫で、内面横撫で。	時期不明
第100図 P.L.33	4	土師器 高坏	覆土 脚部片	口径 - 底径 - 高さ (7.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	脚部「ハ」の字状に広がる。外面撫で後工具による磨き、内面横撫で。	
第100図 P.L.33	5	土師器 高坏	No.4 脚~裾部	口径 - 底径 (12.0) 高さ (10.2)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	脚部エンタシス状に膨らみ、裾部が屈曲して開く。外面撫で後工具による磨き。内面上位紋目、中下位。裾部横撫で。	

2区 10号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第101図 P.L.33	1	土師器 坏	覆土 口縁~体部片	口径 (11.4) 底径 - 高さ (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部中段に凹縁を有し、外周する。口縁部横撫で、体部磨削り。	6世紀後半~7世紀前半
第101図 P.L.33	2	土師器 坏?	No.10 口縁部片	口径 (10.0) 底径 - 高さ (3.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部段を有し、直立する。口縁部内外面とも横撫で。	
第101図 P.L.33	3	須恵器 碗	覆土 口縁部片	口径 (9.4) 底径 - 高さ (3.0)	①細・微砂粒少量 ②還元焼 ③灰色	楕圓盤形(回転方向不明)。体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部短く直立する。	
第101図 P.L.33	4	土師器 有段板	掘り方覆土 口縁部片	口径 (10.3) 底径 - 高さ (2.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部段を有し直立する。内外面とも横撫で。	6世紀後半~7世紀前半
第101図 P.L.33	5	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (813.0) 底径 - 高さ (3.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部内傾する。口縁部内外面とも横撫で、内面荒れのため整形不明。	
第101図 P.L.33	6	土師器 高坏	覆土 脚部片	口径 - 底径 - 高さ (4.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	脚部外面撫で後工具により磨き、内面紋目。	

2区 12号住居

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第103図 P.L.33	1	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 (12.0) 底径 - 高さ (2.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部内傾する。口縁部内外面とも横撫で、体部磨削り、内面横撫で。	6世紀後半か
第103図 P.L.33	2	土師器 台付甕	掘り方 台部片	口径 - 底径 - 高さ (2.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	台部外面頑毛目状工具による撫で、内面横撫で。	4世紀後半か

2区 3号土坑

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第105図 P.L.33	1	土師器 台付甕	覆土 台部1/4	口径 - 底径 - 高さ (3.0)	①粗・細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	台部外面頑毛目状工具による撫で、内面上位紋目、下位荒れのため不明。	4世紀か

遺物観察表

2区 4号土坑

検出番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第106図 P.L.33	1	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (18.4) 底径 - 高さ (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部外傾する。外面刷毛目状工具による撫で、内面横撫で。	
第106図 P.L.33	2	土師器 台付甕	No.2 台部	口径 - 底径 (8.6) 高さ (4.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	台部「ハ」の字状に開く。内外面とも横撫で。	

2区 5号土坑

検出番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第107図 P.L.33	1	土師器 埋?小型 甕?	覆土 口縁部片	口径 (9.9) 底径 - 高さ (4.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部深く膨らみ、口縁部直立する。口縁部横撫で、胴部蔑削り。	
第107図 P.L.33	2	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (12.0) 底径 - 高さ (2.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明黄褐色	口縁部外傾する。内外面とも横撫で。外面粘土接合痕。	
第107図 P.L.33	3	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (13.4) 底径 - 高さ (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部外傾する。内外面とも横撫で。	
第107図 P.L.33	4	土師器 甕	No.9 口縁~胴部片	口径 (17.6) 底径 - 高さ (14.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部丸味を帯びる。球形か、口縁部深く外反する。口縁部横撫で、体部斜縦位蔑削り、内面斜位撫で。	6世紀後半か
第108図 P.L.33	5	土師器 甕	No.7 底部	口径 - 底径 2.0 高さ (2.5)	①粗・細砂粒わずか ②良好 ③褐色	底部小さな平底。やや凹んでいる。胴部外面蔑削り、内面横撫で。	
第108図 P.L.33	6	土師器 甕?	覆土 底部片	口径 - 底径 - 高さ (3.4)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	底部丸底。胴部丸味を帯びる。球形か?胴部斜位蔑削り、内面横で後工具による磨き。	6世紀後半か
第108図 P.L.33	7	土師器 甕	No.3 底部片	口径 - 底径 (8.0) 高さ (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	底部平底。胴部斜縦位蔑削り、内面撫で。	
第108図 P.L.33	8	土師器 高坏	覆土 坏部	口径 - 底径 - 高さ (3.8)	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	坏部下位片、内外面とも器面の荒れのため整形痕不明。	
第108図 P.L.33	9	土製品?	No.5 胴~底部片	口径 - 底径 (6.0) 高さ (9.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	土製品用途不明。支那の可能性あり。中位やや径が狭くなり、底部は広がる。内面の空洞は円筒形で径3.5cmを測る。	
第108図 P.L.33	10	土製品?	覆土 支柱?	長 (9.1) 幅 4.4 厚さ 4.2	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	円柱形、下位僅かに径が広がる。外面撫で。	

2区 6号土坑

検出番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第109図 P.L.33	1	土師器 甕	覆土 底部1/4	口径 - 底径 (6.0) 高さ (1.6)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③にぶい赤褐色	底部平底。器面の荒れのため整形痕不明。	
第109図 P.L.33	2	土師器 甕	No.1 胴部~底部片	口径 - 底径 (7.0) 高さ (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	底部平底。胴部丸味を帯びる。球形か?胴部~底部蔑削り、内面刷毛目状工具による撫で。	

2区 9号土坑

検出番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第110図 P.L.34	1	土師器 甕	覆土 底部片	口径 - 底径 (8.0) 高さ (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	底部平底。器面の荒れのため整形痕不明。	
第110図 P.L.34	2	土師器 高坏	No.1 胴~坏部3/4	口径 - 底径 16.8 高さ (10.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	脚部棒状で腹部方向に傾やかに広がる。胴部有段で屈曲して開く。外面撫で後工具による磨き。内面縦り目、下位、腹部横撫で、粘土接合痕。	

2区 10号土坑

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第111図 P.L.34	1	縄文 鉢	覆土 底部破片	口径 - 底径 - 高さ (4.3)	①細砂粒・繊維 ②- ③にぶい黄褐色	L RとR L細縄文による羽状縄文構成。内面は平滑。	前期中葉

2区 11号土坑

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第112図 P.L.34	1	土師器 坏	No 1 ほぼ完成	口径 11.8 底径 3.3 高さ 5.6	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③褐色	轆轤整形(左回転)、底部回転糸切り後置による調整。体部直線的に立ち上がり、口縁部外傾する。	

2区 1号溝

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第114図 P.L.34	1	須恵器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 (14.2) 底径 - 高さ (3.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③灰色	轆轤整形(回転方向不明)、底部丸味を帯びる。体部短い筒をもち、口縁部直立する。	7世紀前半か
第114図 P.L.34	2	土師器 鉢	覆土 口縁～頸部片	口径 (17.0) 底径 - 高さ (4.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部やや直立気味、口縁部外反する。口縁部横撫で、胴部縦位削り、内面横撫で。	

2区 2号溝

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第114図 P.L.34	1	土師器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 (9.6) 底径 (7.2) 高さ 1.2	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	轆轤整形(回転方向不明)、底部回転糸切り。器面の荒れのため整形も不明。	

2区 4号溝

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第116図 P.L.34	1	土師器 台状土製品	No 1	口径 - 底径 (9.0) 高さ (4.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	台部か?内外面器面の荒れのため整形も不明。底部丸面。	
第116図 P.L.34	2	土師器 高坏	No 2 頸部片	口径 - 底径 (18.0) 高さ (3.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③褐色	胴部段を有し、傾曲して「ハ」の字状に開く。外面撫で依工具による磨き、内面横撫で。	5世紀後半か

2区 5号ピット

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第117図 P.L.34	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部 1/4	口径 (13.0) 底径 - 高さ (3.4)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部内傾する。口縁部横撫で、体部削り、内面表面滑磨のため不明。	6世紀後半か

2区 グリッド

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第118図 P.L.34	1	土製品 類型	405～S80 1/2	縦 4.5 横 (3.8) 厚さ 1.0	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	土製品。型作り成形。	

2区 遺構外

探検番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第118図 P.L.34	1	縄文	覆土 体部下位破片	口径 - 底径 - 高さ (6.2)	①粗砂粒・繊維 ②- ③にぶい黄褐色	0段多糸R Lの縦位・斜位施文。内面には糸痕文が深く縦位に撫される。底部は尖底か。	早期後葉～終末
第118図 P.L.34	2	縄文	覆土 体部破片	口径 - 底径 - 高さ (4.9)	①粗砂粒 ②- ③褐色	2糸の凹線による逆U字状区画か。区画内はR L縦位充填施文。	加賀科BⅢ

遺物観察表

2区 遺構外

採回番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第118図 P.L.34	3	土師器 高台付埴	覆土 胴部～底部 1/4	口径 - 底径 (6.8) 高さ (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	縦橢圓形(回転方向不明)付け高台。高台断面四角形。各部胴部が張り、直線的に立ち上がる。	
第118図 P.L.34	4	土師器 S字状口 縁台付壺	覆土 口縁～肩部片	口径 (13.9) 底径 - 高さ (4.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黒褐色	口縁部「S」字状。胴部膨らむ。器面がやや荒れ整形痕不明瞭。口縁部横撫で、外面刷毛目状工具による撫で。内面撫で。	4世紀後半か
第118図 P.L.34	5	土師器 壺	覆土 口縁～胴部片	口径 (15.0) 底径 - 高さ (3.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部「く」の字状。胴部膨らみ、内面横撫で。口縁部内外面とも横撫で。粘土層合痕。	
第118図 P.L.34	6	土師器 壺	覆土 口縁～肩部片	口径 (10.0) 底径 - 高さ (3.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部「く」の字状。胴部膨らむ。口縁部横撫で。胴部底削り、内面撫で。	6世紀後半
第118図 P.L.34	7	土師器 高杯	覆土 胴部 1/2	口径 - 底径 - 高さ (7.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部エンタシス状に膨らむ。胴部外面撫で、工具による磨き。内面上位紋目、下位横撫で。	
第118図 P.L.34	8	土師器 高杯	覆土 1/2	口径 16.8 底径 14.0 高さ 15.5	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	環部直線的に立ち上がり、端部が直立する。胴部エンタシス状に膨らみ、底部が屈曲して開く。裾端部折り返し。環部外面横撫で、内面撫で、工具による磨き。胴部外面撫で。	5世紀後半か
第118図 P.L.34	9	土師器 高杯	覆土 環部片	口径 (17.6) 底径 - 高さ (4.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	有段口縁。口縁端部に平坦面をもつ。口縁部横撫で後縦方向に沈線が加勢されている。内面横撫で。	
第118図 P.L.34	10	陶器? 钵	覆土 口縁～体部片	口径 (15.2) 底径 - 高さ (4.6)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色?	口縁部弱く外反しながら直立する。器面の荒れのため、整形痕不明。	

稻 荷 前 遺 跡

第3節 稲荷前遺跡

I. 遺跡の位置及び調査の経過

稲荷前遺跡は太田市の市街地にあり、金山丘陵の南側に位置する。周囲には東側に古墳時代前期から平安時代初頭にかけての集落跡として認識されている埋蔵文化財包蔵地浜町遺跡があり、稲荷前遺跡はその西側に位置する。また、南側には稲荷山古墳、稲荷塚古墳、西側には舞台遺跡等がある。調査は、平成12年11月1日より着手した。

本遺跡の調査対象地域は東武鉄道太田駅の近くにあるため、現地形は、開発によって大きく改変されている。調査以前は、鉄道敷地・住宅地として利用されており、平坦地となっていた。東武鉄道敷設時〔東武伊勢崎線は明治43年(1910)開通〕または、その後の補修時の造成等や住宅跡地のため攪乱が所々に及んでいる。明治43年(1910)以前は低地と微高地が入り組んだ地形であったが、鉄道敷設時に大がかりな造成が行われ、微高地部は表層の削平がローム層にまで及んでおり、低地部については、盛り土されている。コンクリート基礎やゴミ穴などが多くあり、表面が削平され、遺構の遺存状態が良くなかった。

II. 遺跡の概要

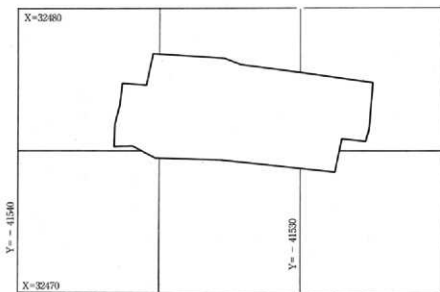
本調査区は微高地から低地に移行する縁辺部に立地するものと考えられる。調査区内から竪穴住居跡1軒、土坑跡1基、溝跡1条を検出したが、鉄道敷設に伴うものと思われる削平を多く受けていることから、遺構の遺存状態は良くなかった。

平安時代

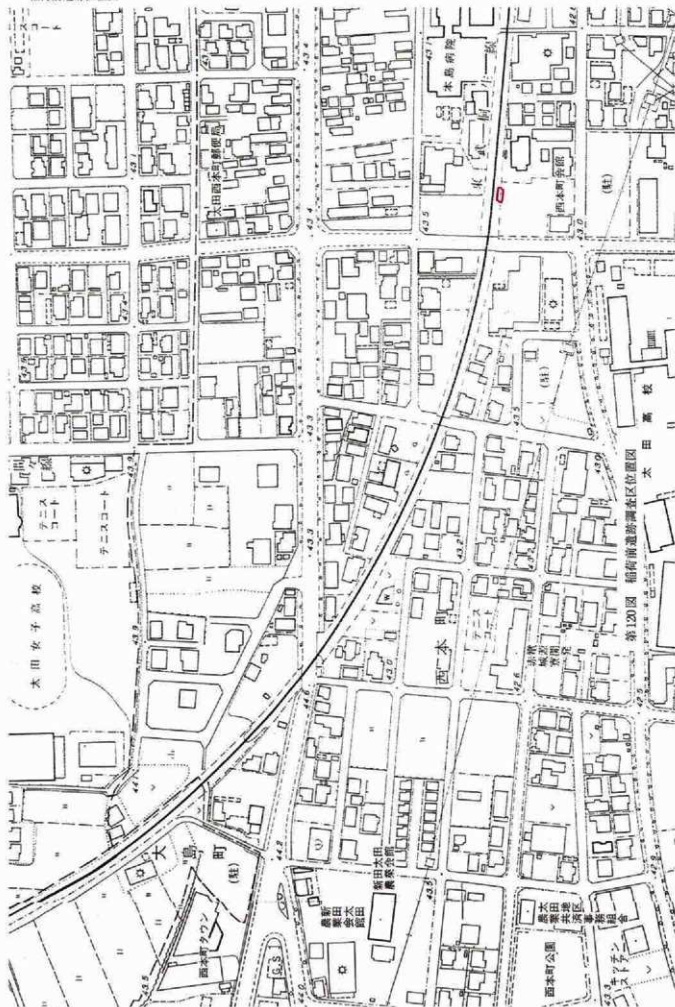
竪穴住居跡1軒を検出したが、現代の削平が一部に及び、また、北壁、南壁にあたる部分が調査区外ということもあって、住居の全体像を把握することは困難であった。住居の形状は方形で主軸はほぼ真北を向いており、規模は東西方向に約3mであることが確認できたが、南北方向は不明である。貼り床は不明瞭ながらも確認でき、その上面に焼土と炭化材が僅かに残存しているのを確認した。また、貯蔵穴と思われる土坑を1基検出した。東側に竈をもつことを確認したものの、現代の削平が大部分に及んでいたため、形状等は殆ど確認できなかった。

近世

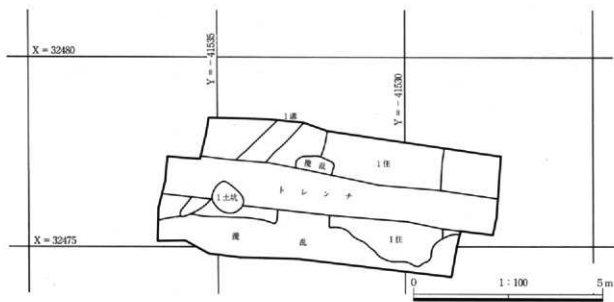
溝跡1条、土坑跡1基を検出した。溝跡は、ほぼ南北方向に直線的に延びていることを確認した。



第119図 稲荷前遺跡調査区座標設定図



第120図 稲荷前通跡位置図



第121図 稲荷前遺跡遺構全体概略図 (S = 1 : 100)

Ⅲ. 遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

1号住居(第122・123図、第18表、PL35・36)

位置 X = 32475 ~ 477 Y = -41529 ~ 532

重複遺構 なし

形態 試掘トレンチと攪乱によって削平されているため全形は不明である。

方位 計測不能

規模 長軸 3.2 × 短軸 1.1m

調査区住居確認面のみ

面積 (3.52)m² 調査区内

壁高 22cm

床面 多少の凹凸はあるが、ほぼ平坦に造られている。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内の北側掘り方から貯蔵穴を検出。

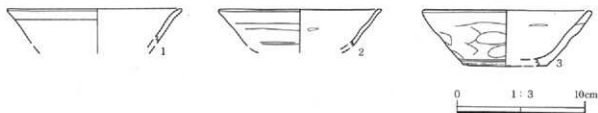
長軸76cm、短軸68cmの楕円形である。炭化物を含む砂質土で埋没していた。土師器片、須恵器片出土。

周溝 調査区内では未確認

焼土 調査範囲中央部に3cm程の窪んだ焼土を確認した。

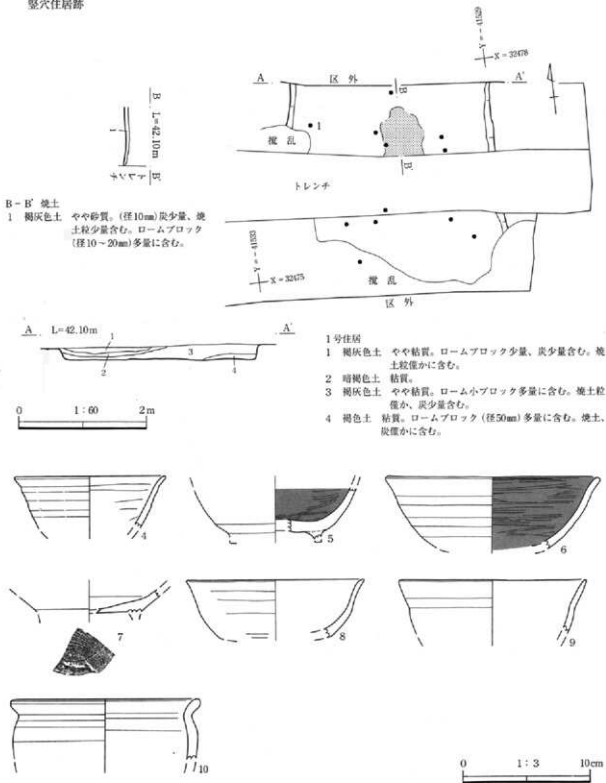
遺物 1・2の須恵器坏、3~8の須恵器碗、9の土師器小型甕、10の須恵器鉢?が出土。その他、土師器片や須恵器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 全体を調査できないため詳細は不明である。



第122図 1号住居 出土遺物

竪穴住居跡



第123図 1号住居 平・断面図 出土遺物

2. 土坑跡

本遺跡から1基の土坑跡を確認した。同一面上での遺構調査であるため明確な時期判定は困難であるが、埋土の土質・色調の検討を行い、時期の推定を

試みた。しかし、出土遺物が無く線路敷設時の土地整備による削平と攪乱が著しく、時期・用途は確定できなかった。

1号土坑(第124図, PL35)

調査区西側に位置する。平面は楕円形、断面は皿状である。1号溝と重複する。本遺構が新しい。埋土はロームブロックを含む褐色粘質土。

位置 $X = 32476$ $Y = -41534$

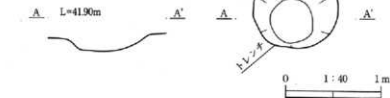
重複遺構 1号溝と重複。

本遺構が新しい。

形態 楕円形

規模 長径 0.90m 短径 0.70m

深さ 0.20m



第124図 1号土坑 平・断面図

3. 溝跡

後世の削平が深くまで及んでおり、遺構の遺存状態は良くなかった。全体を把握できず、埋土からの

遺物はないので、溝として存在していた時代及び期間については不明である。溝底の標高から考えて、北東から南西に水が流れていたものと考えられる。

1号溝(第125図, PL35)

位置 $X = 32475 \sim 478$ $Y = -41532 \sim 535$

重複遺構 1号土坑と重複する。本遺構が古い。

走行 北東から南西 $N = 48^\circ - E$

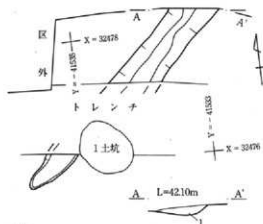
形態 直線的で、断面は台形状である。北東側は調査区外に延びるため不明である。

規模 検出全長 3.84m 上幅 0.2~0.58m

底幅 0.1~0.3m 深さ 0.17m

遺物 なし

所見 全体を調査できないため詳細は不明である。



1号溝

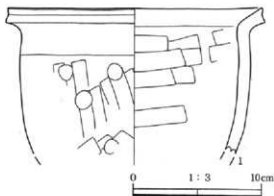
1 褐色粘質土 やや粘質。褐色土粒(径10mm)多量、ロームブロック(径10mm)僅かに含む。



第125図 1号溝 平・断面図

4. 遺構外出土遺物(第126図, 第18表, PL36)

本遺跡から出土した遺構に伴わない遺物を報告する。1は須恵器土釜?出土である。その他、土師器片7点、須恵器片、陶器片が出土しているが、小片のため図化できなかった。調査区が狭く、上部から攪乱や削平が及んでいて、遺存状態が悪く、出土遺物の年代が古墳時代から近世まで及ぶことから、周辺にそれぞれの時代の遺構が存在していた可能性はあるが、今回の調査では時代を特定することは難しかった。



第126図 遺構外 出土遺物

遺物観察表

第18表 稲荷前遺跡遺物観察表

1号住居

検出番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (c m)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第122図 P L 36	1	須恵器 坏	覆土 口縁～胴部破片	口径 (13.4) 底径 - 高さ (2.7)	①細・微細粒多量 ②還元焼 ③灰白色	轆轤成・整形。内外面口縁～胴部回転撫で。	
第122図 P L 36	2	須恵器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 (13.0) 底径 - 高さ (3.0)	①細・微細粒少量 ②酸化焼 ③明赤褐色	轆轤整形。外面口縁～胴部回転撫で、胴部下端削削り。内面口縁～胴部回転撫で。	
第122図 P L 36	3	須恵器 碗	覆土 口縁～高台部 上端1/6	口径 (13.0) 底径 (6.6) 高さ (4.3)	①細・微細粒多量 ②酸化焼 ③明赤褐色	轆轤整形。外面口縁～胴部回転撫で、一部指痕痕、底部高台貼付。内面口縁～底部回転撫で。	
第123図 P L 36	4	須恵器 碗	覆土 口縁～胴部破片	口径 (12.0) 底径 - 高さ (4.2)	①細・微細粒多量 ②還元焼・不良 ③灰黄色	轆轤整形。内外面口縁～胴部回転撫で。	
第123図 P L 36	5	須恵器 碗	覆土 胴～高台部1/6	口径 - 底径 - 高さ (4.0)	①細・微細粒多量 ②還元焼 ③灰黄色	轆轤整形。外面胴部回転撫で、底部高台貼付後撫で。内面胴～底部回転撫で後磨き。内面焼し。	平安時代10世紀
第123図 P L 36	6	須恵器 碗	覆土 口縁～胴部1/6	口径 (17.0) 底径 - 高さ (5.6)	①細・微細粒少量 ②還元焼 ③褐灰色	轆轤整形。外面口縁～胴部回転撫で、内面口縁～胴部回転撫で後磨き。内面焼し。	平安時代10世紀
第123図 P L 36	7	須恵器 碗	覆土 胴部下位～底部 破片	口径 - 底径 - 高さ (1.8)	①細・微細粒多量 ②還元焼 ③深褐色	轆轤整形。右回転。外面胴部下位回転撫で、底部回転糸切成高台貼付。内面胴部下位～底部回転撫で。内外面焼し。	平安時代10世紀
第123図 P L 36	8	須恵器 碗	覆土 口縁～胴部破片	口径 (14.2) 底径 (8.8) 高さ (4.6)	①細・微細粒多量 ②還元焼 ③にぶい黄褐色	轆轤整形。内外面口縁～胴部回転撫で。	
第123図 P L 36	9	土師器 小型甕	覆土 口縁～胴部上端 破片	口径 (16.0) 底径 - 高さ (4.5)	①細・微細粒多量 ②還元焼 ③橙色	内外面口縁部は横撫で。	
第123図 P L 36	10	須恵器 鉢?	覆土 口縁～胴部上位 破片	口径 (15.0) 底径 - 高さ (4.7)	①細・微細粒多量 ②還元焼 ③灰白色	轆轤整形。内外面口縁～胴部上位回転撫で。	

遺構外

検出番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (c m)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第126図 P L 36	1	須恵器? 土釜?	表土 口縁～胴部上位 1/6	口径 (20.0) 底径 - 高さ (11.5)	①細・微細粒多量 ②還元焼 ③橙色	外面口縁～胴部横撫で。胴部上位斜め削削り。内面口縁部横撫で、胴部上位磨撫で。	須恵器工人の作成した土釜か?

三 島 木 遺 跡

第4節 三島木遺跡

I. 遺跡の概要

三島木遺跡は太田市の市街地にあり、金山丘陵の南側に位置する。城ノ内遺跡の南側100mに位置する。周囲には古墳時代前期から平安時代初頭にかけての集落跡として認識されている埋藏文化財包蔵地浜町遺跡と稲荷前遺跡がある。

本遺跡では、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡8条、土坑跡7基を検出した。本遺跡において地震に伴う液状化噴砂脈と考えられる土層断面が検出された。天仁元年(1108)の浅間山噴火に伴う浅間Bテフラ(As-B)混じりの土層により覆われていることから中世以前の地震に起因するものと考えられる。詳しいことは不明である。東武鉄道敷設時による攪乱を受けていることから、土層に乱れが多く、遺物を伴う遺構も少なく、時期の特定は困難である。

現地地形は、開発によって大きく改変されている。

縄文時代

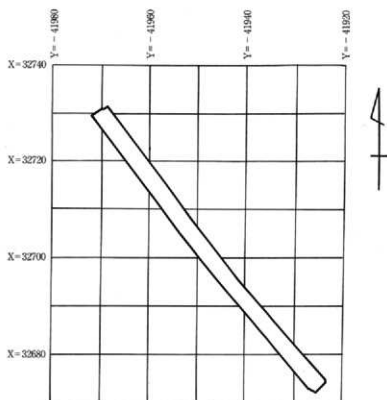
7号土坑から縄文土器が集中して出土している。埋土自体も、他の遺構とは、異質であったことから、縄文時代の土坑である可能性が高い。

奈良・平安時代

4号土坑からは、底面に人頭大の石を据え、その上に完形の土師器杯が置かれた状態で出土している。遺構の性格等については、不明であり、今後の検討が必要である。

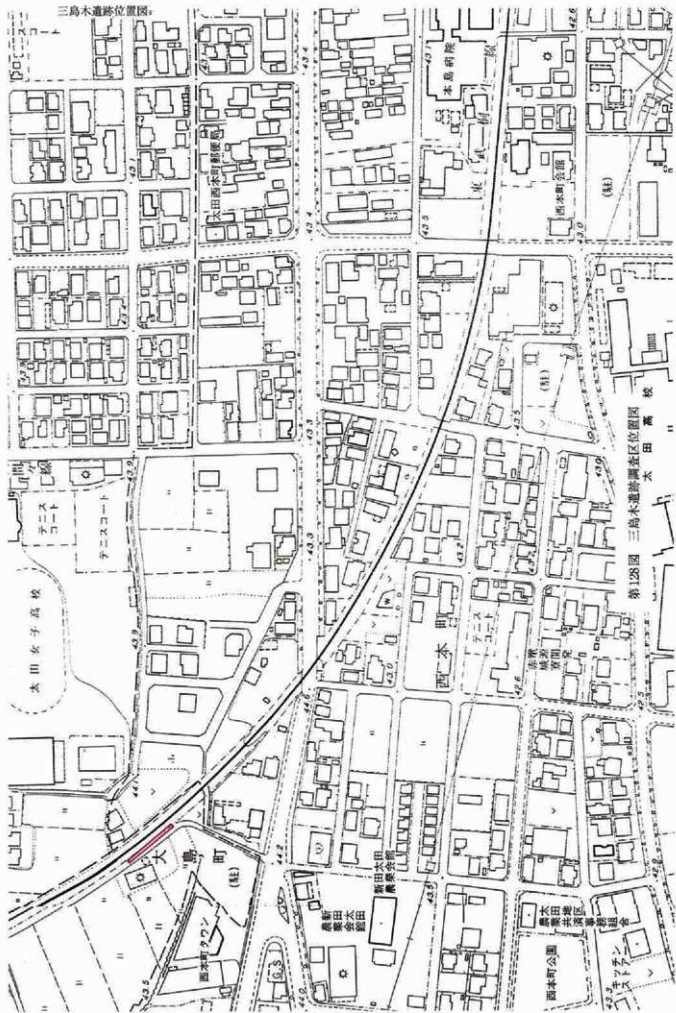
中・近世

掘立柱建物跡1棟と溝跡5条が検出された。1号掘立柱建物は、梁間・桁行ともに2間であるが、ともに調査区外に延びる可能性あり、正確な規模は不明である。4号溝からは、煙管が出土しており、他の溝も含め、いずれも天明3年(1783)の浅間山噴火に伴う軽石(As-A)を含む土で埋まっていた。



第127図 三島木遺跡調査区座標設定図 (S= 1:800)

三島木道跡位置図



第128図 三島木道跡調査区位置図

II. 遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

1号住居(第129図、PL38)

位置 X = 32707 ~ 709 Y = -41950 ~ 952

重複遺構 3号土坑と重複。遺構平面確認と土層断面の状況により3号土坑より古いと考えられる。

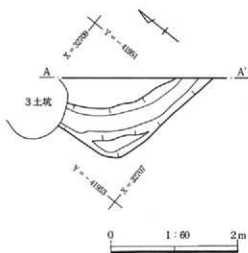
形態 主体部は調査区外にあり、調査できたのが住居の角だけなので詳細については不明である。

方位 計測不能

規模 計測不能

面積 (2.0)㎡ 調査区住居確認面のみ

壁高 15cm



第129図 1号住居 平・断面図

2. 土坑跡

本遺跡から7基の土坑跡を検出した。同一面上での遺構調査であるため明確な時期判定は難しく、埋没土の土質・色調及び遺物の検討を行った。しかし、出土遺物から時期・用途を想定できたものはなかった。また、線路敷設時の土地整備、近現代の宅地開発等により、上部からの削平や後世の擾乱が著しく、遺構の遺存状態は非常に良くなかった。それぞれの

床面 掘り方面から8cm~10cm程焼土とローム土を含む硬く締まった黒褐色土によって平坦な面を造り、床面を構築している。多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。

柱穴 調査区内では未確認

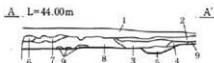
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

遺物 土師器片17点出土。小片のため図化できなかった。

所見 全体を調査できないため詳細は不明である。



1号住居

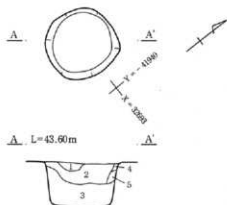
- 1 黒褐色土 As-A軽石含む。
- 2 黒褐色土 白色粒子、焼土、灰、炭を含む。
- 3 黒褐色土 黄褐色パミス、ローム粒、焼土を少量含む。4層より締まり弱い。
- 4 黒褐色土 As-C?黄褐色パミス、ローム粒、焼土少量含む。硬く締まる。
- 5 黒色土 As-C?黄褐色パミス、白色微粒、ローム粒、焼土含む。粒土にバラツキが見られる。
- 6 黒色土 焼土粒、白色粒(FP?)が多い。7層よりは少ない事から分層するも同じ?
- 7 黒褐色土 ロームブロック混じる。密に締まる。
- 8 黒色土 焼土ブロック5~10%含む。粘性低い。締まり強い。
- 9 にぶい黄褐色土 ソフトローム+灰黄褐色粘質ローム混土。

形態・規模については一覧表(第19表)、遺構図に掲載した。土坑跡は、主に調査区中央から南と北で確認されている。ピット跡も含めて掘立柱建物跡、横列跡等の関連に着目し、整理時に検討を加えてみたが、該当するものはなかった。大部分の土坑は、円形の形態をとっている。埋土から中世~近世にかけての土坑と考えられる。以下、土坑について詳述する。

1区竪穴住居跡

1号土坑(第130図、第19表、PL38)

調査区中央よりやや南東側に位置する。断面は長方形、平面は円形である。底面は、小さな凹凸もつが、概ね平坦である。埋土は、黒褐色土を主体にローム粒・ブロックを含む。土師器片多数、須恵器片4点出土。小片のため図化できず、時期も特定できなかった。埋土の状況から比較的新しい土坑と考えられる。



1号土坑

- 1 黒褐色土 焼灰10%、As-B?軽石、焼土極少量含む、ローム粒10%含む。締まり弱い。
- 2 黒色土 As-B?軽石、焼土、炭含む。
- 3 黒色土 地山ロームブロック含む。粘性帯びるが締まり弱い。底面付近はロームブロックが多くバラバラしている。

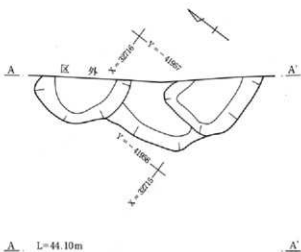
- 4 黒褐色土 1層と同質。色調やや淡色。
- 5 黒色土 2層に地山ローム粒塊含む。

第130図 1号土坑 平・断面図



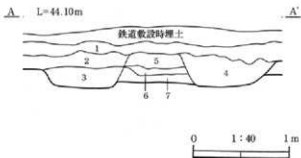
2号土坑(第131図、第19表)

北西側の北壁に位置し、遺構の北半分が調査区外に延びるため全形は不明である。平面上は3つの掘り込みが見られる。断面の状況からも中央に古い土坑があり、南北に新しい土坑が掘られている状況を伺うことができる。埋土の大部分は黒褐色土を主体とし、若干の焼土粒と炭化物を含み、ローム粒少量含む。遺物はない。



2号土坑

- 1 黒褐色土 As-A軽石含む。
- 2 黒褐色土 As-B?軽石含む。
- 3 黒色土 ロームブロック15~20%含む。As-C?含む。やや粘性を帯びたシルト質。
- 4 黒褐色土 As-C?含む。シルト質を呈し、底部床面にローム層有り。締まり良い。
- 5 黒色土 ロームブロック、As-C?混土。焼土少量含む。締まり良い。
- 6 濃い黄褐色土 ロームブロック主体。硬く締まる。
- 7 黒褐色土 5・6層の混土。

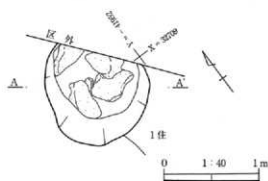


第131図 2号土坑 平・断面図

3号土坑(第132図、第19表、PL38)

調査区中央やや北西側に位置し、北東3分の1は調査区外に延びるため全形は不明である。検出した状況から、円形であると推察される。断面は中位に括れをもつ糸巻き形である。埋土は、暗褐色砂質土

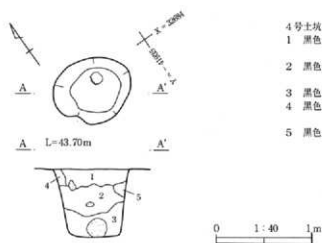
に白色軽石粒、ローム粒を僅かに含む。長径最大60cmに及ぶ礫が詰め込まれた状態で出土した。土師器片多数、須恵器片4点出土。小片のため図化できなかった。埋土の状況から近世の土坑の可能性が高い。



第132図 3号土坑 平・断面図

4号土坑(第133図、第19・22表、PL38・40)

調査区南側に位置する。平面はほぼ円形である。断面は逆台形である。埋土は、暗褐色砂質土に白色軽石粒、ローム粒を僅かに含む。1はほぼ完形の土師器坏、2は土師器坏片である。その他、土師器坏が出土しているが、小片のため図化できなかった。



第133図 4号土坑 平・断面図 出土遺物

5号土坑(第134図、第19表、PL38)

調査区南側に位置し6号土坑と重複する。本遺構の方が早い。平面は円形で、底面はほぼフラットの円柱形である。上層中央部に黒色焼け灰を含む凹みがある。埋土は黒色土が主体で、鉄分や地山ロームブロックを含む土である。遺物が出土していないので、時期を特定することは出来ない。

5号土坑

1 黒色土 ローム粒、ロームブロック、As-C?少量含む。粒度均一。締まり弱い。

A. L=43.90m A'



3号土坑

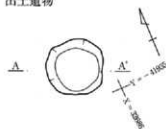
1 黒色土 ロームブロック、As-B?軽石含み、白色粒、焼土粒少量含む。所々空洞が見られる程締まり無い。



0 1:3 10cm

4号土坑

- 1 黒色土 As-B?湿土。白色鉱物10%全部に見られる。石上面のみローム粒が見られる。粒土均一。締まり良い。
- 2 黒色土 1層と同質と思われる。鉄分紫色が見られ、硬く締まる。
- 3 黒色土 4層とほぼ同質。壁礫土ロームブロックが主体。
- 4 黒色土 ローム粒3%、焼土少量、白色鉱物1/2含む。粘性があり、酸化鉄分紫色が見られる。締まり弱い。
- 5 黒色土 粒度不均一。ロームブロック含む。表面上白色鉱物は見られない。粘性弱く、締まりも弱い。



A. L=43.20m A'



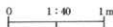
0 1:40 1m

第134図 5号土坑 平・断面図

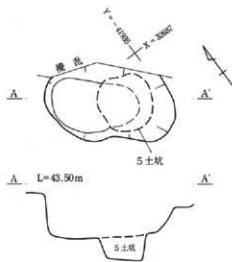
土坑跡

6号土坑(第135図、第19表、PL38)

調査区南側に位置し、5号土坑と重複する。本遺構の方が新しい。調査当初は、5号土坑を壊すような倒木痕と考えられたが、埋土の状況から土坑跡と判断された。埋土は、締りの弱い黒褐色土である。遺物が出土してないので、時期を比定できなかった。



第135図 6号土坑 平・断面図



7号土坑(第136図、第19・22表、PL38・40)

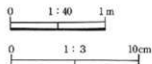
調査区の中央よりやや南側に位置する。5号溝と重複するが本遺構の方が新しい。平面はほぼ円形で、断面形状はやや底が狭くなっているが、ほぼ円柱状である。埋土は黒褐色土を主体とし、締りの弱い粘質土であるが、底面は粘りが強く良く締まった土である。縄文時代中期後半の深鉢の底部が出土している。出土遺物は1点だけなので時期を比定できないが、埋土の状況から縄文時代の遺構である可能性が高いと思われる。



第136図 7号土坑 平・断面図 出土遺物

7号土坑

- 1 黒褐色土 ローム状、白色微粒、炭少量含む。締まり弱い粘質土。
2 黒褐色土 粘質土、灰白色粘土塊、炭含む。粘性高く締まり良い。



第19表 土坑跡一覧表

番号	遺構番号	位置	形 態	主軸方向	規模(m)			出土遺物	備 考
					長さ	短径	深さ		
1	1号土坑	X=33692 Y=-41940	円形	N-49°-E	0.8	0.78	0.47	土師器片32点、須恵器片4点、石1点	
2	2号土坑	X=32716 Y=-41957	不整形	N-37°-W	2.2	-	0.08		
3	3号土坑	X=32710 Y=-41953	楕円形	N-31°-E	-	1	0.64	土師器片26点、須恵器片1点	
4	4号土坑	X=32684 Y=-41935	楕円形	N-73°-W	0.86	0.7	0.71	ほぼ定形の土師器杯1点、土師器片3点	
5	5号土坑	X=32687 Y=-41936	円形	N-25°-E	0.6	0.59	0.16		
6	6号土坑	X=32687 Y=-41937	不整形	N-30°-E	1.42	-	0.45		
7	7号土坑	X=32690 Y=-41939	楕円形	N-87°-W	0.54	0.44	0.17	同一個体縄文土器9点	

3. 溝跡

本遺跡から8条の溝跡を検出した。溝跡についても時期不明のものが多く、埋土からの出土遺物は、古墳時代から近・現代のものまで混在している。1～3号溝は底面の標高差から北東から南西に流れていたと推察される。4・5号溝は標高差がなく、流れた方向は不明であるが、走向は76°西に傾いて

いる。7・8号溝は北から南に流れていたと推察される。殆ど時間差の認められない溝が重複していて、出土遺物も小片・少数のため、どちらの遺構に伴うものか、出土遺物の選別はできなかった。他遺構との埋土の比較と出土遺物より中世から近世までの溝跡が大半であると推察される。

1号溝(第137図、PL39)

位置 X = 32704 ~ 706 Y = -41949 ~ 951

調査区中央に位置する。

重複遺構 なし

走向 北東から南西(N-46°-E)

形態 直線的で、断面は逆台形である。2・3号溝と併走する。

規模 検出全長 2.55m 上幅 0.28~0.50m

底幅 0.23~0.32m 深さ 0.26m

遺物 なし

所見 埋土の状況、併走する1・3溝の状況から、長くても江戸時代から近代にかけての比較的新しい溝と考えられる。

2号溝(第137図、PL39)

位置 X = 32702 ~ 704 Y = -41948 ~ 950

調査区中央部に位置する。

重複遺構 なし

走向 北東から南西(N-46°-E)

形態 直線的で、断面は逆台形である。1・3号溝と併走する。

底幅 0.26~0.50m 深さ 0.14m

遺物 土師器片4点、須恵器片1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況や、併走する1・3溝の状況から、長くても江戸時代から近代にかけての比較的新しい溝と考えられる。土師器片、須恵器片については、やや摩滅気味であることから混入と考えられる。

3号溝(第137図、PL39)

位置 X = 32702 ~ 703 Y = -41948 ~ 950

調査区中央部に位置する。

重複遺構 なし

走向 北東から南西(N-46°-E)

形態 直線的で、断面は逆台形である。1・2号溝と併走する。

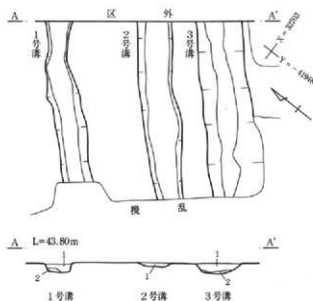
底幅 0.10~0.32m 深さ 0.17m

遺物 土師器片14点出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況と重複関係から、近世の比較的新しい溝で、現代まで使用されていた可能性がある。土師器片、須恵器片については、やや摩滅気味であることから混入と考えられる。

規模 検出全長 2.78m 上幅 0.74~0.88m

溝跡

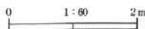


第137図 1～3号溝 平・断面図

- 1号溝
 1 黒褐色土 As-B? 軽石含む。酸化鉄分変色が見られる。焼土
 粒少量含む。シルト質土。
 2 黒褐色土 As-B? 軽石含む粘質土。地山崩土の流れ込み。

- 2号溝
 1 黒褐色土 As-B? 軽石含む。酸化鉄分変色が見られる。焼土
 粒少量含む。シルト質土。

- 3号溝
 1 黒褐色土 As-B? 軽石含む。酸化鉄分変色が見られる。焼土
 粒少量含む。シルト質土。
 2 黒褐色土 As-B? 軽石含む粘質土。地山崩土の流れ込み。



4号溝(第138・139図、第22表、PL39・40)

位置 X = 32690 ~ 692 Y = -41938 ~ 942

調査区中央部から南側に位置する。

重複遺構 なし

走向 西北西から東南東(N-74°-W)

形態 直線的で断面はやや急峻な斜面をもつ逆台
 形状である。

規模 検出全長 3.96m 上幅 0.48~0.78m

底幅 0.16~0.30m 深さ 0.15m

遺物 江戸時代初期の煙管の雁首が出土。その他、
 土師器片6点、近世陶器片1点、縄文土器1点出
 土。小片のため図化できなかった。

所見 埋土の状況と重複関係から、近世の比較的
 新しい溝で、現代まで使用されていた可能性がある。

5号溝(第138・139図、第22表、PL39・40)

位置 X = 32689 ~ 690 Y = -41937 ~ 940

調査区中央部から南側に位置する。

重複遺構 4号ピットと7号土坑と重複する。本遺
 構が古い。

走向 西北西から東南東(N-78°-W)

形態 後世の攪乱によって、全形は不明である。

規模 検出全長 3.78m 上幅 0.48~0.82m

底幅 0.12~0.38m 深さ 0.15m

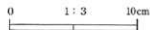
遺物 刷毛目のある須恵器甕の胴部片が出土。その
 他、土師器片多数、須恵器片、陶器片、縄文土器
 片出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況と埋土の状況から、近世の比
 較的新しい溝で、現代まで使用されていた可能性
 がある。4号溝と走行も一致し、埋土も酷似して
 いる状況から、それぞれの遺構はさほど時間差な
 く利用されていた可能性がある。

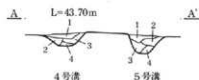
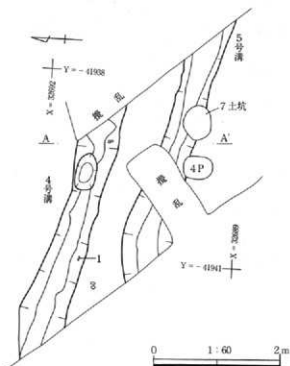
4号溝



5号溝



第138図 4・5号溝 出土遺物



4号溝

- 1 黒褐色土 As-A軽石含む。硬く締まる。
- 2 黒褐色土 As-A軽石+ローム粒塊の混土。
- 3 黒色土 ロームブロック、焼土、炭含む。粒度不均一。2層と同質だが、ロームブロックが2倍以上含まれる。
- 4 黒色土 2層と同質だが、ロームブロックが2倍以上含まれる。

5号溝

- 1 黒褐色土 As-A軽石含む。硬く締まる。
- 2 黒色土 ロームブロック、焼土、炭含む。粒度不均一。4溝の2層と同質だが、ロームブロックが2倍以上含まれる。(4溝の3層)
- 3 黒褐色土 4溝の1層と同じだが、軽石粒の径大きく、多量。
- 4 黒褐色土 As-A軽石+ローム粒塊の混土。(4溝2層)

第139図 4・5号溝 平・断面図

6号溝(第140図、第22表、PL39・40)

位置 X = 32685~687 Y = -41934~937

調査区南側に位置する。

重複遺構 5・6号土坑と重複する。本遺構が古い。

走向 西から東(E-W)

形態 後世の攪乱によって、全形は不明である。

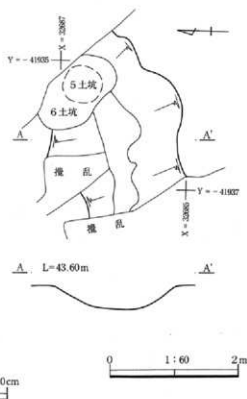
規模 検出全長 2.76m 上幅 計測不能

底幅 計測不能 深さ 0.29m

遺物 1の須恵器の甕出土。その他、土師器甕出土。

小片のため図化できなかった。

所見 時期を特定することはできなかった。遺物の出土状況と埋土の状況、重複関係から、近世の比較的新しい溝と推察される。



第140図 6号溝 平・断面図 出土遺物

溝・掘立柱建物跡

7号溝(第141図、第22表、PL39・40)

位置 X = 32679 ~ 682 Y = -41931 ~ 932

調査区南側に位置する。

重複遺構 なし

走向 北北東から南南西(N-14°-E)

形態 直線的で、断面は皿状である。遺構外に延びるため、全形は不明である。

規模 検出全長 2.68m 上幅 0.42~0.50m

底幅 0.12~0.38m 深さ 0.10m

遺物 1の須恵器環、2の須恵器甕が出土。

その他、土師器片6点、須恵器片1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 埋土の状況から比較的新しい溝と推察されるが、時期を特定できなかった。

8号溝(第141図、PL40)

位置 X = 32679 ~ 682 Y = -41930 ~ 931

調査区南側に位置する。

重複遺構 なし

走向 北から南(N-S)

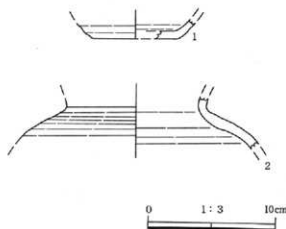
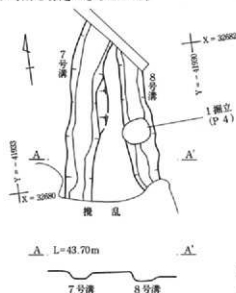
形態 直線的で、断面は皿状である。全形は不明である。

規模 検出全長 2.2m 上幅 0.30~0.48m

底幅 0.11~0.28m 深さ 0.06m

遺物 土師器片15点、須恵器片4点出土。小片のため図化できなかった。

所見 埋土の状況から比較的新しい溝と推察される。



第141図 7・8号溝 平・断面図 7号溝 出土遺物

4. 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物(第142図、第20・22表、PL39・40)

位置 1区 X = 32681 ~ 684 Y = -41929 ~ 933

重複遺構 7・8号溝と重複する。

7号溝との新旧関係は不明である。遺構断面と覆土の状況により、8号溝よりも本遺構の方が古いと考えられる。

形態 調査区外に延びるため全形は不明である。

(調査区内では2間×2.5間)

方位 計測不能

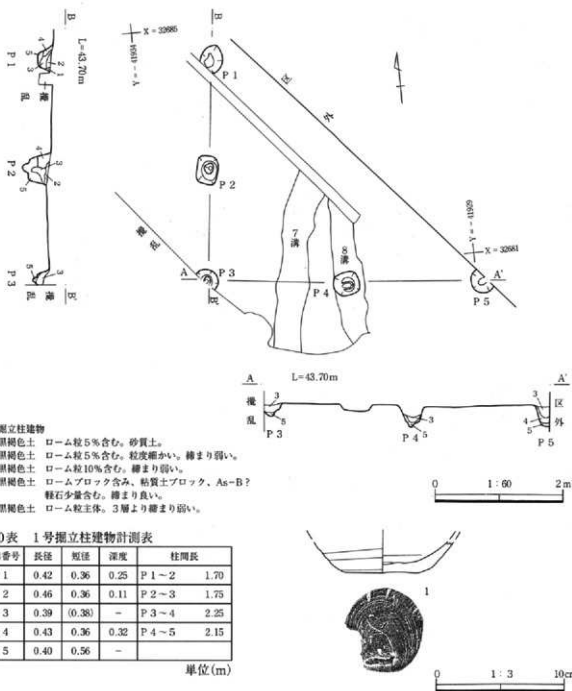
規模 計測不能 P1~P3間 3.50m(調査区内)

調査区内 P3~P5間 4.40m(調査区内)

柱穴 掘り方の形態は不明。規模は径32~38cm、深さ17~34cmである。

遺物 2号ピットから須恵器環が出土。

所見 調査区外に延びている可能性があり、規模は不明である。出土遺物からは時期を特定できなかった。



第142図 1号掘立柱建物 平・断面図 出土遺物

5. ビット跡(第21表)

本遺跡から4基のビットを検出した。1・2号ビットの平面は円形、3・4号ビットは楕円形である。線路敷設時の土地整備によって、上部からの削平が著しく、浅く掘られたビットは、この時点

で消失してしまったものと推察される。それぞれの形態・規模については一覧表に(第21表)、位置については全体図に掲載した。どのビット跡も出土遺物が少なく、時期を比定するまでには至らなかった。

遺構外出土遺物・遺物観察表

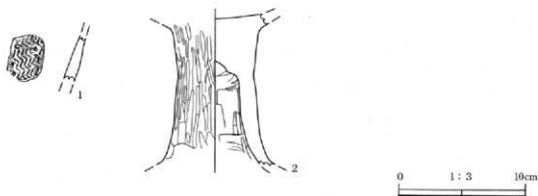
第21表 ビット跡一覧表

番号	ビット番号	位置	形態	規模(m)			出土遺物	備考
				長径	短径	深度		
1	1号ビット	X=32678 Y=-41928	円形	0.40	0.38	0.23		2号ビットと重複、本ビットが新しい。
2	2号ビット	X=32678 Y=-41928	円形	0.39	0.38	0.26		1号ビットと重複、本ビットが古い。
3	3号ビット	X=32712 Y=-41955	(楕円形)	(0.40)	(0.28)	0.38		
4	4号ビット	X=32689 Y=-41939	楕円形	0.46	0.36	0.36	土師器片2点	5号溝と重複。

6. 遺構外出土遺物(第143図、第22表、PL40)

本遺跡から出土した遺構に伴わない遺物を報告する。1は縄文時代早期の砲弾型をした山形押型文土器、2は土師器高坏の脚部である。その他、縄文土器片7点、土師器片、須恵器片多数、陶器片5点が出土しているが、小片のため図化できなかった。長

期に亘る遺構が存在していたことも推察されるが、調査区が狭く、さらに上部からの攪乱や削平によって遺構の遺存状態が悪いことなどから、今回の調査では、明確に時代を決定付けられる遺構の存在は明らかにできなかった。



第143図 遺構外 出土遺物

第22表 三島木遺跡遺物観察表

4号土坑

検出番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第133図 P.L.40	1	土師器 坏	覆土 ほぼ定形	口径 12.5 底径 6.1 高さ 4.5	①粗・細砂粒多量 ②酸化褐 ③橙色	外面口縁部噴撫で、胴～底部荒削り。内面口縁～底部噴撫で。内外面に油塗着。	平安時代
第133図 P.L.40	2	土師器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 (11.0) 底径 (7.0) 高さ 2.2	①微砂粒少量 ②酸化褐 ③橙色	口縁～胴部上位噴撫で、胴部下位～底部荒削り。内面口縁～底部回転撫で。	

7号土坑

検出番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第136図 P.L.40	1	縄文 深鉢	覆土 胴～底部	口径 - 底径 8.4 高さ (9.8)	①粗・細砂粒多量 ②酸化褐 ③灰白色	原形R.Lの半部斜縄文を縦位に施した後、凹縁を2条垂下させる。内外面とも無地のところは磨いたような面。	縄文時代中期後半

4号溝

採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	材料 重量(g)	器形・技法の特徴	備 考
第138図 P.L.40	1	金属 製品 埋管	覆土 扉首	長さ 6.7 高さ 1.5 幅(内径)0.9 小口径 0.6	真鍮 4.9	穴無欠。先端部上方に溝曲。全体錆び付いて緑青で覆われる。中央上部印きによってつぶれ痕。	江戸時代前期

5号溝

採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第138図 P.L.40	1	須恵器 壺	覆土 胴部片	口径 - 底径 (7.1) 高さ (7.1)	①粗・細砂粒多量 ②還元焰 ③灰オリーブ	紐作り段印き成形。外面は平行印きとカキ目条痕。	

6号溝

採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第140図 P.L.40	1	須恵器 壺	覆土 胴部	口径 - 底径 - 高さ (4.6)	①粗・細砂粒多量 ②還元焰 ③灰色	紐作り段成形。外面平行印き。内面青海波紋。	

7号溝(1号畑)

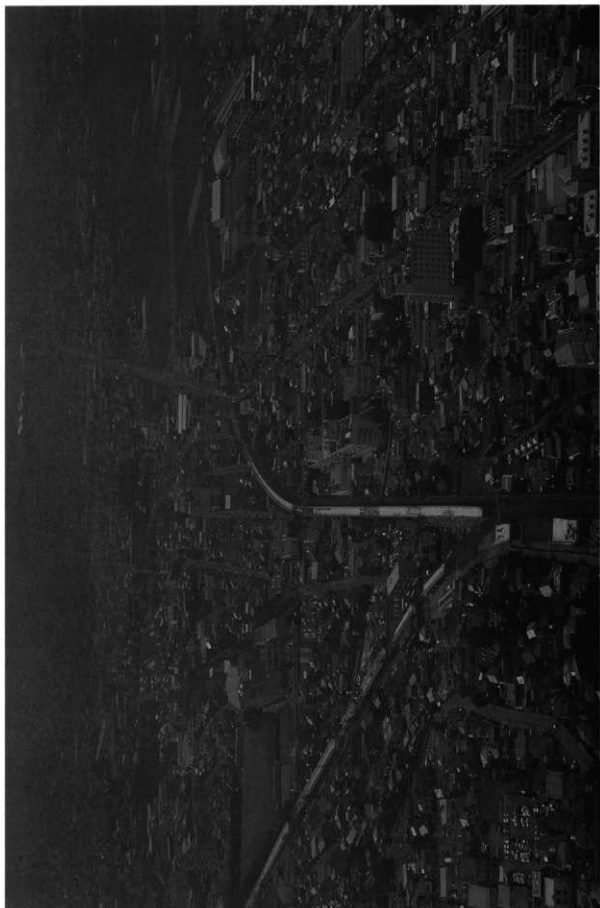
採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第141図 P.L.40	1	須恵器 杯	覆土 胴部下端～底部 1/6	口径 - 底径 (6.8) 高さ (1.5)	①粗砂粒少量 ②還元焰 ③橙色	外面胴部下端回転撫で、底部回転糸切り。内面胴部下端～底部回転撫で。	
第141図 P.L.40	2	須恵器 壺	覆土 口径部下端～胴 部上端破片	口径 - 底径 - 高さ (4.1)	①粗・細砂粒多量 ②還元焰 ③灰色	轆轤整形。頸部は貼付。内外面口径部下端～胴部下端回転撫で。	

1号掘立柱建物

採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第142図 P.L.40	1	須恵器 杯	覆土 胴部下位～底部 3/4	口径 - 底径 6.0 高さ (2.5)	①粗・細砂粒多量 ②還元焰 ③灰色	轆轤整形。右回転。外面胴部下位回転撫で、底部回転糸切り。内面胴部下位～底部回転撫で。	

遺構外

採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第143図 P.L.40	1	縄文 漆鉢	覆土 胴部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.6)	①粗・細砂粒多量 ②還元焰 ③にぶい褐色	胎土に角閃石・石英・チャートが多い。瘤弾型の山形押型土器。	群馬県文化財調査事業団・報告集332集「渡志江中原遺跡」参照 縄文時代早期
第143図 P.L.40	2	土師器 高坏	覆土 底部～脚部上位 4/5	口径 - 底径 - 高さ (12.0)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③にぶい褐色	坏部底磨磨き。外面磨削りの後、下に向かって撫で。脚部内面段り目。磨削り後、右回りに撫で。外面底部磨磨き。脚部上位磨削り後磨磨き。内面脚部上位段り目。	5世紀前半



城ノ内遺跡

第5節 城ノ内遺跡

I. 遺跡の概要

城ノ内遺跡は金山丘陵の南西に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である「城ノ内遺跡」および「大鳥城跡」の西辺部に位置する。本遺跡から、竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡3棟、溝跡9条、土坑跡28基、ビット跡63基を検出した。竪穴住居跡2軒、及び土坑跡・ビット跡の多くは遺物を伴わず、重複関係からも時期を正確に特定するには至っていないものの、他の遺構との関係から、検出遺構の多くは古墳時代と中世の2つの時期に集中すると推察される。

古墳時代

本調査で検出した遺構の内、調査時の観点から竪穴住居跡4軒、土坑跡10基、溝跡1条が古墳時代に属するものと考えられる。竪穴住居跡では、良好な状態での遺物の出土例は少ないものの、1号住居では祭祀に伴うものと思われるミニチュアの手捏ね土器、器台といった遺物が出土している。また、5号住居は竈と床下土坑があり、古墳時代中期のものであると考えられる。特筆する遺構としては、10号土坑を挙げることができる。この土坑は、北側三分の一が後世の土坑により壊された状態で検出された。平面形状は楕円形で、掘り方は底面近くをややオーバーハング気味に掘られている。埋土中からはほぼ完全な形の甕・壺・器台等の土器器が出土していることから、土器を埋納した遺構である可能性も考えられる。しかし、細かく割れた状態で出土した遺物も多数見られることから、本土坑の性格付けに関しては更に検討を必要とする。

奈良・平安時代

この時期の遺物は調査区全域から出土しているものの、遺構としては掘立柱建物跡1棟と中世大鳥城跡(第2表、56)に伴う堀に併走する形で切られた4号(旧)溝のみが検出された。この溝に関しては、自然河川の様相を呈し、遺物の中には古墳時代のもの

も多数出土していることから、起源はさらに遡るものと思われる。

中・近世

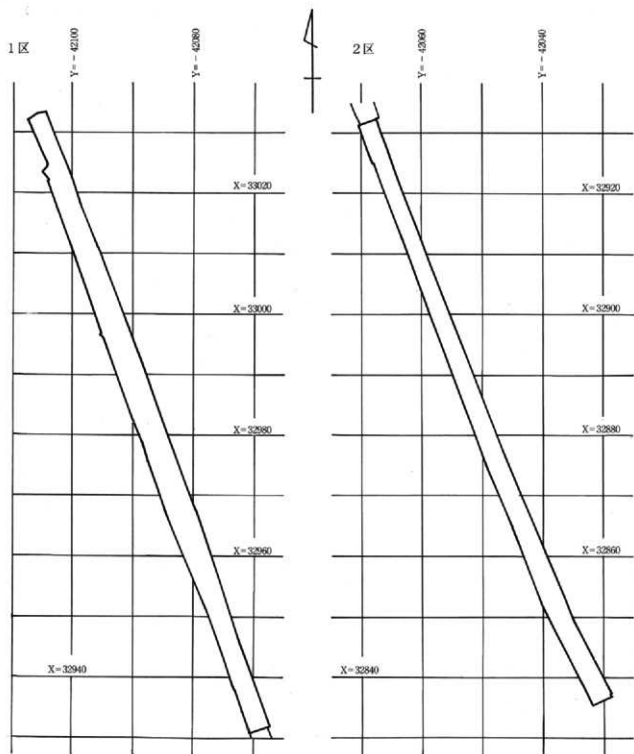
土坑跡2基、掘立柱建物跡2棟、溝跡7条、いくつかのビットがこの時代に属するものであると推察される。9号土坑は平面が楕円形で、断面がフラスコ型で、1m程の深さがある。石臼の破片と同時に板碑の破片も出土しており、土坑墓の可能性も考えられる。また、当初円形に掘られた井戸跡とされていた15号土坑からも板碑の破片が多く出土していることから、その性格付けについての検討を要する。溝遺構については、太田市史(中世編)の大鳥城概略図と照らし合わせてみると、大鳥城に伴う堀と考えられる4～6号溝がある。同じく何らかの区画を表すと思われるものが1号溝。さらに流路が蛇行している2号溝があり、いずれもほぼ同時期のものと思われるかわらけ・内耳土鍋等が出土している。4号溝と5号溝は形態が異なり、検出時の規模で5号溝は上幅約5m、下幅約3m、深さ約1m、断面が逆台形の典型的な堀の様相を呈するのに対し、4号溝は上幅約3m、下幅約2m、深さ約0.5mで検出時の規模とはいえ、城の堀としてはかなり浅く、また底面は小区画水田のように畦状障壁が見られることから、堀としての機能や障子堀との関係が注視される。なお、埋土から近世と思われる溝も2条検出されたが、いずれも性格は不明である。また、検出されたビット跡を検討した結果、間隔や深さ、4号溝との関係から2棟の掘立柱建物と認識するに至った。

その他、掘立柱建物跡や欄列跡の一部であろうと思われるビット跡もあるが、調査範囲が狭いために確実な遺構として捉えることはできなかった。

城ノ内遺跡位置図



第144図 城ノ内遺跡調査区位置図



第145図 城ノ内遺跡調査区座標設定図

1区縦立柱建物跡

II. 遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

1号住居(第146・147図、第28表、PL42・47)

位置 1区 X=33004-008 Y=-42094-096

重複遺構 12号土坑と重複する。本遺構は12号土坑より古い。

形態 調査区北側に位置し、住居西壁が調査区域内にある。調査できたのが、全体の四分の一だけなので全形は不明である。

方位 N-14°-W

規模 4.36×(2.1)m 調査区内

面積 (8.87)m² 調査区内

壁高 0.3m

床面 上部から削平され、遺存状態は良くない。掘り方から2cm~4cm程にぶい黄褐色土で埋土を施し床面を構築している。床面でピット2基と土

坑2基を検出。掘り方面は多少の凸凹はあるが、概ね平坦である。

ピット P1 32×28cm、深さ17cm

P2 32×24cm、深さ15cm

土坑 1土坑 74×45cm、深さ4cm(一部38cm)

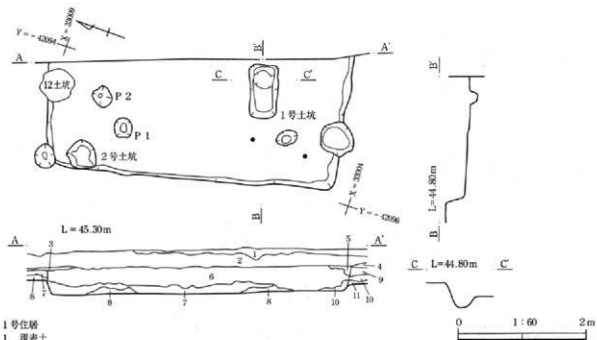
底面は概ね4cmの深さで長方形。2土坑 45×45cm、深さ16cmのほぼ円形。

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認、調査区外に位置すると考えられる。

遺物 1の土師器甕、2の土師器手捏ね土器が出土。その他、土師器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 埋土の状況と出土遺物から古墳時代前期の住居の可能性がある。



1号住居

1 現表土

2 As-A 混土

3 黒褐色土 白色粒子、炭を含む。鉄分層あり。

4 暗褐色土 As-B, As-A?, 白色鉱物(FP)を含む黒褐色土。表面上ロームブロックは極めて少なく、下層面に沿うように、As-Bと思われる軽石が多く見られる。軟土均一。密で硬く締まる。

5 黒褐色土 As-B, 焼土。炭を含む。硬く締まった土。

6 黒色土 FP白色鉱物(径3-5mm)、As-C?混土、焼土、炭低層に見られる。やや粘性を帯びた土。

7 黒色土 ロームブロック混13層。FP(径3mm)見られる。13層に比べると締まりが強い。

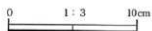
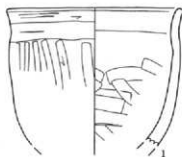
8 ソフトローム

9 黒色土 As-B, As-A?, 白色鉱物(FP)を含む黒褐色土。焼土・炭少量含む。硬く締まる。

10 黒褐色土 As-B, As-A?, 白色鉱物(FP)を含む。ローム粒10%含む。やや粘性を帯びる。

11 黒褐色土 18層に似たロームブロック主体の層。

第146図 1区1号住居 平・断面図



第147図 1区1号住居 出土遺物

2号住居(第148・149図、第28表、PL42・47)

位置 1区 X = 32990 - 994 Y = -40088 ~ 092

重複遺構 2・3号溝と13号土坑と重複する。本遺構が一番古い。

形態 調査区域にあるため、全形は不明である。調査区内の状況から長方形であろうと推察される。

方位 N - 24° - W

規模 4.4 × (2.56)m 調査区内

面積 (10.34)㎡ 調査区内

壁高 計測不能

床面 後世の削平により、遺存状態は良くない。多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。掘り方は確認できなかった。

柱穴 調査区内では未確認

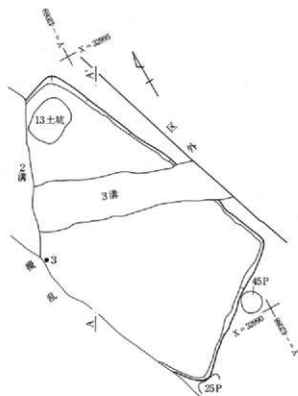
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

遺物 1の土師器坏、2・3の土師器甕が出土。その他、土師器片が出土。小片のため図化できなかった。

所見 埋土の状況と出土遺物から、古墳時代前期の

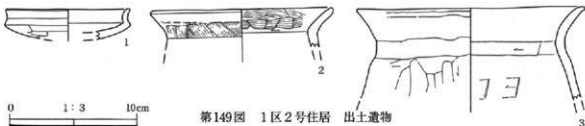


2号住居

- 1 黒褐色土 白色鉱物(FP)が全面に5%程見られ、As-C?やローム粒を少量含む。全体的に鉄分変色が見られる。締まり良い。
- 2 黒色土 ロームブロック(径2mm)が見られ、1層との境に沿うように薄層が見られるなど、人為的敷土。住居の貼り床。
- 3 黒褐色土 ロームブロック15%含む白色鉱物含む。やや締まり弱い。
- 4 黒褐色土 ロームブロック、白色粒子を含む、締まった土。
- 5 黒褐色土 4層よりもロームブロック多い。(φ30~50mm5%)



第148図 1区2号住居 平・断面図



第149図 1区2号住居 出土遺物

住居の可能性がある。

3号住居(第150図、PL42)

位置 1区 X = 32980 ~ 983 Y = - 42082 ~ 083

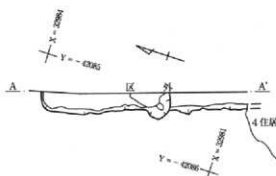
重複遺構 4号住居と重複する。土層断面の切り合い状況から4号住居より古い。

形態 調査区境にあるため、全形は不明である。

方位 N - 20° - W

規模 (3.26) × (0.38)m 調査区内

面積 (1.10)m² 調査区内



3号住居

- 1 黒褐色土 焼土ブロック(径10~20mm)、青灰色シルト質粘土ブロック(径10mm)、ローム粒、灰色鉱物As-B?を含む、硬く締った土。
- 2 黒褐色土 As-B質土。白色靱子焼土を含む粘り良い土。
- 3 黒色土 As-B、As-A?, 白色鉱物の塵土。ロームブロック(径5mm)が底面に多く見られる。又焼土・炭も見られる。粘性を帯びた土。

第150図 1区3号住居 平・断面図

時期を特定することはできなかった。

4号住居(第151図、PL42)

位置 1区 X = 32970 ~ 976 Y = - 42081 ~ 085

重複遺構 3号住居と重複し、本遺構の方が新しい。

形態 4号住居は、東側が調査区外にあるため、全形は不明である。

方位 N - 22° - W

規模 4.68 × (2.7)m 調査区内

壁高 計測不能

床面 上部からの削平と攪乱により、遺存状態はあまり良くない。掘り方から20cm程黒褐色土で床を形成している。

柱穴 調査区内では未確認

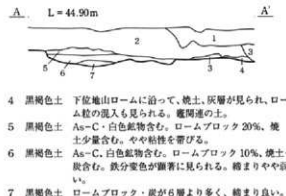
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認、調査区外に位置すると思われる。

遺物 なし

所見 出土遺物もなく、遺構も遺存状態が良くなく



- 4 黒褐色土 下位地山ロームに沿って、焼土、灰層が見られ、ローム粒の混入も見られる。遮断面の土。
- 5 黒褐色土 As-C・白色鉱物含む。ロームブロック20%、焼土少量含む。やや粘性を帯びる。
- 6 黒褐色土 As-C、白色鉱物含む。ロームブロック10%、焼土・炭含む。鉄分変色が顕著に見られる。粘りやや弱い。
- 7 黒褐色土 ロームブロック・炭が6層より多く、粘り良い。

面積 (3.49)m² 調査区内

壁高 0.3m

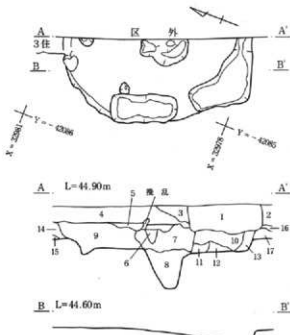
床面 上部からの削平を受け、遺存状態はあまり良くない。中央部にある土坑は、4号住居が放棄され完全に埋没してから掘られた後世の土坑である。床面は概ね平坦である。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認、調査区外に位置すると考えられる。



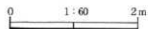
4号住居

- 1 黒色土 ロームブロック(径3mm)20%、黒色土ブロック5%、As-B、As-Cの混土。白色鉱物(FP)含む。粘性を帯びた土。
2 黒褐色土 1層と同質。色調は明るい。

遺物 土師器片13点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物もなく、遺構も遺存状態が良くなく時期を特定することはできなかった。

- 3 上層土 雑乱土。
4 黒褐色土 焼土ブロック(径10-20mm)、青灰色シルト質粘土ブロック(径10mm)、ローム粒、灰色鉱物As-B?を含む。硬く締った土。
5 黒褐色土 As-B、As-A?白色鉱物の混土。ロームブロックの層層が見られる。焼土ブロック10%と多く含む硬く締った土。
6 黒色土 9層と同質。
7 黒褐色土 混入物は9層と同じ。色調が明色で粘性は低く、締まり弱い。
8 黒褐色土 ロームブロック20%、白色粒子を含む粘質土。
9 黒色土 As-B、As-A?、白色鉱物の混土。ロームブロック(径5mm)が底面に多く見られる。又焼土、炭も見られる。粘性を帯びた土。
10 黒褐色土 ロームブロック20%、黒色土ブロック5%、白色粒子を含む。粘質土。
11 黒褐色土 13層と同質。
12 黒褐色土 ロームブロック主体。
13 黒褐色土 ロームブロック(径4mm)20%、As-C?、白色鉱物を含む。締まり弱い。
14 黒色土 As-B混土。白色鉱物・焼土・ローム粒含む。締まり良い。
15 黒褐色土 下位地山ロームに沿って、焼土、灰層が見られ、ローム粒の混入も見られる。竈関連?
16 暗褐色土 下層ロームを多く含む。
17 ソフトローム



第151図 1区4号住居 平・断面図

5号住居(第152・153図、第28表、PL42・47・48)

位置 1区 X=32970~976 Y=-42081~085

重複遺構 なし

形態 後世の擾乱によって、全形は不明である。

方向 N-22°-W

規模 4.68×(2.7)m 調査区内

面積 (12.77)m² 調査区内

壁高 計測不能

床面 掘り方より2cm~8cm程ロームブロックと黒褐色土の埋土を施し床面を構築。床面にピット3基を確認。床面は、多少の凹凸はあるものの、概ね平坦である。

ピット P1 36×30cm、深さ 26cm

P2 38×32cm、深さ 26cm

P3 56×37cm、深さ 24cm

貯蔵穴 竈の南側の土坑は貯蔵穴と思われる

128×111cm、深さ 25cm

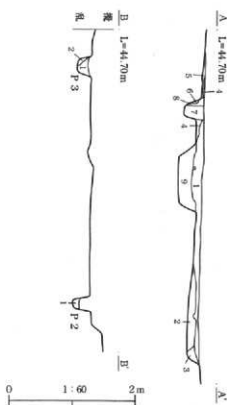
周溝 調査区内では未確認

竈 煙道部53cm、袖幅50cm、燃焼部不明。27号ピットによって壊されているため、遺存状態は良くない。

遺物 1の土師器杯、2~4のS字状口縁台付甕、5~7の土師器甕、8の土師器瓶、9・10の器台が出土。その他、土師器片多数出土。小片のため図化できなかった。

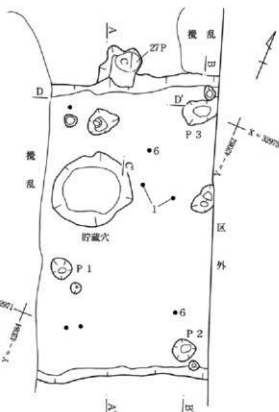
所見 出土遺物と埋土の状況から、古墳時代後期に

彫穴住居跡

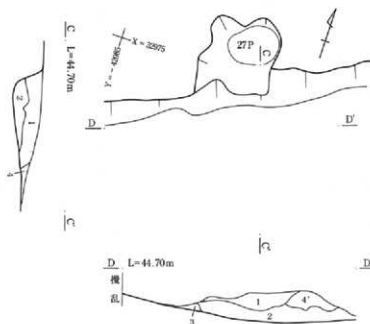


5号住居

- 1 黒灰色土 やや砂質。白色鉱物(FP)含む。締まり良い。
- 2 明黄褐色土 ローム主体。黒褐色土が混入。やや硬質。床面の可能性あり。
- 3 におい黄褐色土 ロームブロック多く、白色鉱物僅かに含む。
- 4 灰黄褐色土 ローム小ブロックと黒褐色土が均等に含む。非常に硬質で、雑土を多く含む。
- 5 明黄褐色土 ローム主体。黒褐色土僅かに含む焼土ブロック(径20mm)多く含む。



- 6 黄褐色土 ローム主体。黒褐色土(径10mm)が全体の40%位含む。
- 7 褐色土 やや砂質。As-B混土?。白色鉱物(FP?)少し含む。
- 8 黒褐色土 ロームブロック(径10mm)10%含む。焼土、白色鉱物(FP?)少量含む。
- 9 におい黄褐色土 径10-100mmのロームブロック(径10-100mm)と黒褐色土が均等に混じり、白色鉱物(FP?)少量含む。硬質。(貯蔵穴)



5号住居跡

- 1 におい黄褐色土 黒褐色土にロームブロック50%含む。径5mmの白色バミヌ(FP?)少量。焼土ブロック(径10-50mm)10%含む。硬質。
- 2 灰黄褐色土 黒褐色土にロームブロック30%含む。
- 3 灰黄褐色土 2層と同質。ロームブロック20%含む。
- 4 黒褐色土 ローム主体。黒褐色土10%含む。
- 4' 黒褐色土 ローム主体。黒褐色土5%含む。



第153図 1区5号住居 出土遺物

竪穴住居跡

比定される。

6号住居(第154図、第28表、PL43・48)

位置 1区 X = 32982 - 983 Y = - 42089 ~ 090

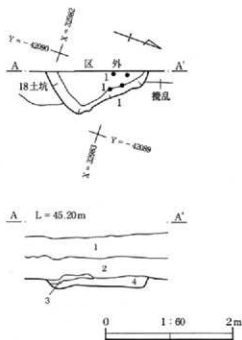
重複遺構 18号土坑と重複する。本遺構の方が新しい。

形態 調査区境にコーナー部分だけ検出されただけで、全形は不明である。

方位 N - 46° - W

規模 (1.3) × (0.64)m 調査区内

面積 (0.71)m² 調査区内



第154図 1区6号住居 平・断面図 出土遺物

2. 土坑跡

本遺跡から28基の土坑跡を検出した。同一面上での遺構調査であるため明確な時期判定は困難であるが、埋没土の土質・色調及び遺物の検討、さらに住居等の遺構の埋没土との比較などから、古墳時代以降に属するものと推察した。出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。また、水田耕作、線路敷設時の土地整備により、上部からの削平が著しく、竪穴住居跡の床面まで削平され、遺存状態が良くないことから、掘り込みの浅い土坑は、この時点で消失してしまったも

壁高 0.16m

床面 上部から削平と擾乱により、遺存状態はあまり良くない。掘り方は概ね平坦である。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

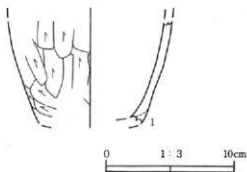
竈 調査区内では未確認

遺物 1の土師器妻出土。その他、土師器片、縄文土器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と埋土の状況から平安時代に比定さ

6号住居

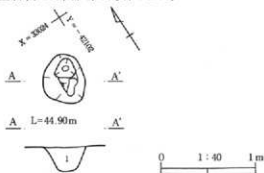
- 1 黒褐色土 As-B混土。白色鉱物、ローム粒、焼土少量含む。空隙を伴うバサバサした土。
- 2 黒色土 As-B混土。白色鉱物、ローム粒、焼土、炭を1層より多く含む。粒子は均一で締まり良い。
- 3 黒色土 As-C? 軽石、白色鉱物(FP)、焼土を含む。やや粘性を帯びた土。
- 4 黒褐色土 ロームブロック(径20mm)20%以上、As-C? 軽石、白色鉱物(FP)、焼土含む。粘性の低い土。



のと推察される。土坑は大きく分類

すると、円形、楕円形、隅丸長方形、不整形に分けることができた。5・11・12・16号土坑は円形である。3・15・18・20・25~27・29・30号土坑は楕円形である。6・7・13・19・23・28号土坑は隅丸長方形である。4・8~10・14・17・21・22号土坑は不整形である。24号土坑は調査区外にあるため全形は不明である。それぞれの形態・規模については一覧表(第23表)、遺構図に掲載してある。特徴的なものについては、以下に詳述する。

3号土坑(第155図、第23表、PL43)



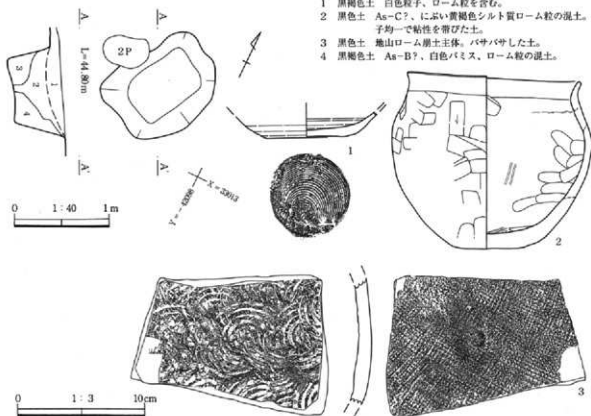
3号土坑

1 褐色土 ロームブロック(径3~5mm)多く含む、白色パミス(FP)径0.1~1mm少し含む。締まり良い。

第155図 1区3号土坑 平・断面図

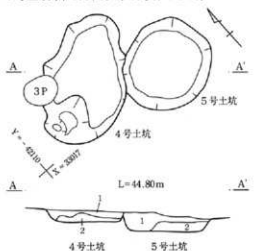
6号土坑(第157図、第23・28表、PL43・48)

調査区北側に位置する。隅丸長方形である。底面は、ほぼ平坦である。埋土は、上層は黒色土でローム粒・ブロックを含む。下層は、黒褐色土で地山ロームを含む。1は須恵器杯、2は土師器小型甕、3は須恵器甕である。その他、土師器片多数出土しているが、小片のため図化できなかった。



第157図 1区6号土坑 平・断面図 出土遺物

4・5号土坑(第156図、第23表、PL43)



4号土坑

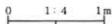
1 黒褐色土 白色パミス(FP?)径1mm、ロームブロック少量含む。締まり良い。

2 灰黄褐色土 シルト質、ローム40%の混土。

5号土坑

1 黒褐色土 白色パミス(FP?)径1mm、ロームブロック少量含む。締まり良い。

2 にぶい黄褐色土 ローム60%の混土。



第156図 1区4・5号土坑 平・断面図

6号土坑

1 黒褐色土 白色粒子、ローム粒を含む。

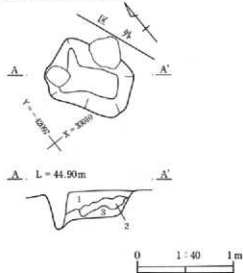
2 黒色土 As-C?, にぶい黄褐色シルト質ローム粒の混土。粒子均一で粘性を帯びた土。

3 黒色土 地山ローム類土主体。バサバサした土。

4 黒褐色土 As-B?, 白色パミス、ローム粒の混土。

土坑跡

7号土坑(第158図、第23表)



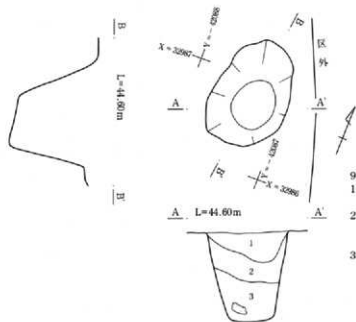
7号土坑

- 1 黒褐色土 におい黄褐色シルト質ローム、焼土、炭、As-C?、FP?を含む。粘性の低い土。
- 2 黒褐色土 におい黄褐色シルト質ローム主体。
- 3 黒褐色土 地山。

第158図 1区7号土坑 平・断面図

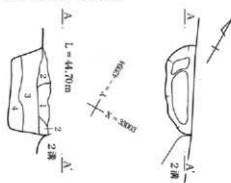
9号土坑(第160・161図、第23・28表、PL43・48・49)

調査区のはほぼ中央に位置する。遺構外に延びているため全形は不明である。断面は、丸フラスコ型である。埋土は2層に分けられ、上層はロームブロック、焼土粒を含む黒褐色土、下層は粘性を帯びた締



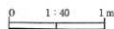
第160図 1区9号土坑 平・断面図

8号土坑(第159図、第23表)



8号土坑

- 1 黒褐色土 As-C?、白色鉱物(FP?)、を含む。斑状鉄分変色が見られ、ローム粒、焼土を少し含む。締まり良い。
- 2 黒褐色土 2層と同じ混入物。鉄分変色は見られず、色調は暗色。
- 3 黒色土 As-B?、As-C?軽石、白色鉱物(径5mm)ローム粒含む。上半部は特に鉄分変色が顕著。粘性を帯びた土。
- 4 黒色土 As-B?、As-C?軽石、白色鉱物(径5mm)ローム粒含む。ロームブロック10%含む。粘性を帯びた土。

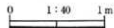


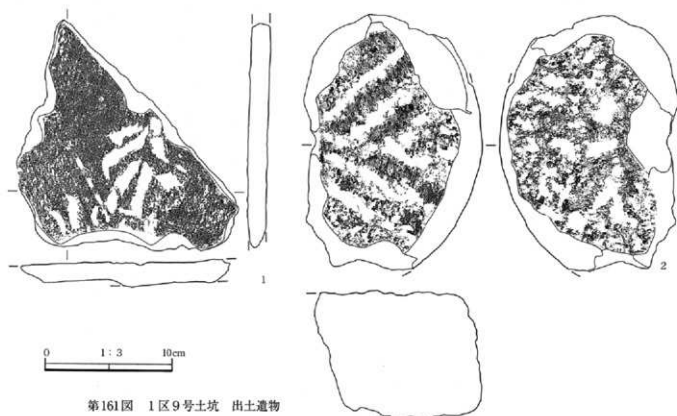
第159図 1区8号土坑 平・断面図

まりの弱い黒色土である。1は阿弥陀三尊種子の板破片、2は粉挽き白である。その他、土師器片多数、須恵器片2点が出土しているが、小片のため図化できなかった。

9号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック混土。白色粒、焼土含む。ブロック混じりとはいえず密に締まっている。
- 2 黒褐色土 As-B?混土。焼土、白色粒を少し含む。土壌に沿って酸化鉄変色が顕著に見られる。粒子均一で密に締まる。
- 3 黒色土 As-B?混土。ローム粒を含む。粘性はあるが締まり弱い。

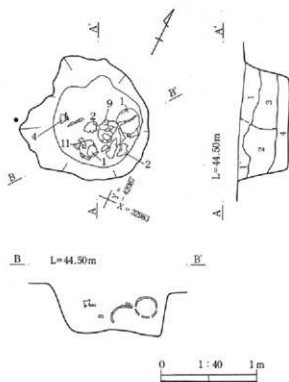




第161図 1区9号土坑 出土遺物

10号土坑(第162・163図、第23・28表、PL43・49・50)

調査区のほぼ中央に位置する。平面上は西側に突出部をもつ円形である。底面は、ほぼ平坦である。埋土は、北側が締まりの弱い黒褐色土で、遺物が多数出土した南側は粘性を帯びた黒色土である。遺物は主に東側の覆土から古墳時代前期の土師器が出土した。1は土師器単口縁台付甕、2～4はS字状口縁台付甕、5・7は土師器甕、6・10は土師器壺、8・9はほぼ完形の土師器壺、11はほぼ完形の土師器器台である。その他、土師器片多数出土しているが、小片のため図化できなかった。出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

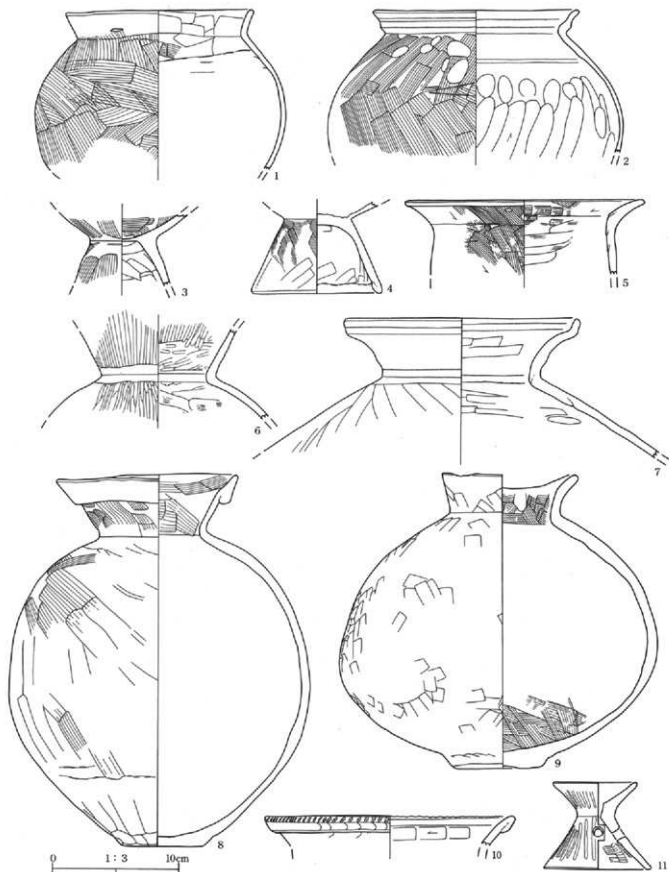


10号土坑

- 1 黒褐色土 地山ブロック、白色粒(As-C?)含む。やや粘性を帯びる。
- 1' 黒褐色土 1層+黒色土ブロックの混土。空隙の多い締まりの弱い土。
- 2 黒色土 As-C軽石、ローム粒含む。1層より白色粒少ない。やや粘性を帯びた土。
- 3 黒褐色土 薄板状ロームブロック、白色粒含む。As-C混じる。やや締まり弱い土。
- 4 黒色土 2層に似る。

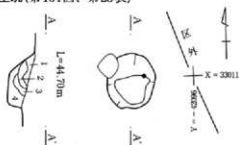
第162図 1区10号土坑 平・断面図

土坑葬



第163图 1区10号土坑 出土遗物

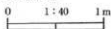
11号土坑(第164図、第23表)



第164図 1区11号土坑 平・断面図

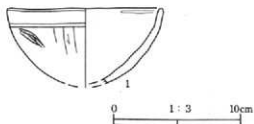
11号土坑

- 1 黒褐色土 焼土、炭、ロームブロック(径10mm)、白色鉱物少し含む。締まり良い。
- 2 黒褐色土 にぶい黄褐色ロームブロック主体。焼土、白色鉱物少し含む。1層より締まり弱い。
- 3 暗褐色土 焼土、炭、白色鉱物5%含む。締まり良い。
- 4 黒褐色土 ロームブロック、焼土ブロック混じり。炭、白色鉱物少し含む。やや粘性を帯びた土。



12号土坑(第165図、第23・28表、PL50)

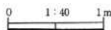
調査区の北側に位置する。ほぼ円形を呈する。底面は、ほぼ平ら。埋土は2層に分けられ、上層はローム粒・ロームブロックを含む締まりの良い黒色土で、下部はロームブロックを含む粘性を帯びた黒褐色土である。1は土師器片である。その他、土師器片出土しているが、小片のため図化できなかった。



第165図 1区12号土坑 平・断面図 出土遺物

12号土坑

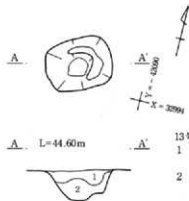
- 1 黒色土 ローム粒、白色鉱物少し含む。密に締まる。
- 2 黒色土 1層+にぶい黄褐色シルト質ローム(径20mm)、粒子のバラツキあり。締まり良い。
- 3 黒褐色土 ロームブロック含む。特に底面付近に酸化鉄変色が見られる。やや締まり弱い。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを含む。やや締まった土。
- 5 黒色土 4層+ロームブロック主体。
- 6 黒色土 1層と混入物同じ。粘性を帯びた硬い土。



13号土坑(第166・167図、第23・28表、PL50)

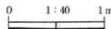
調査区の中央やや北側に位置する。隅丸長方形である。底面は円形で、ほぼ平坦である。東側にテラスをもつ2段に掘られている。埋土は2層に分けられ、上層は白色粒子ロームブロックを含む炭と焼土

を含む粘性を帯びた黒褐色土で、下層はロームブロック主体の粘質黒褐色土である。1は須恵器甕、2は土師器片、3は土師器蓋である。



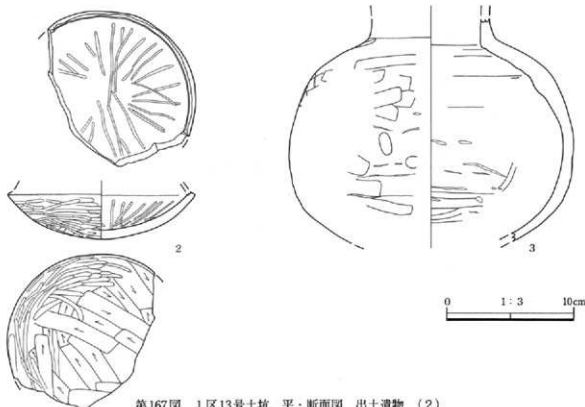
13号土坑

- 1 黒褐色土 As-B混土。ロームブロック(径30mm)、ローム粒15%、焼土、炭含む。やや粘性を帯びた硬い土。
- 2 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒主体。粒子不均一。締まり弱い。



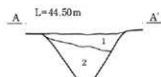
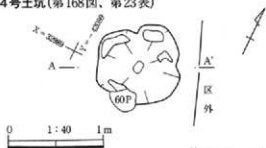
第166図 1区13号土坑 平・断面図 出土遺物(1)

土坑跡



第167図 1区13号土坑 平・断面図 出土遺物 (2)

14号土坑(第168図、第23表)



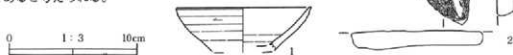
14号土坑

- 1 黒褐色土 As-C? 凝土。ローム粒、焼土、炭含む。粒子バラツキあり。鉄分変色見られ、密に締まる。
- 2 黒色土 1層より焼土、炭半分以下と少なく、他は1層と同じ。

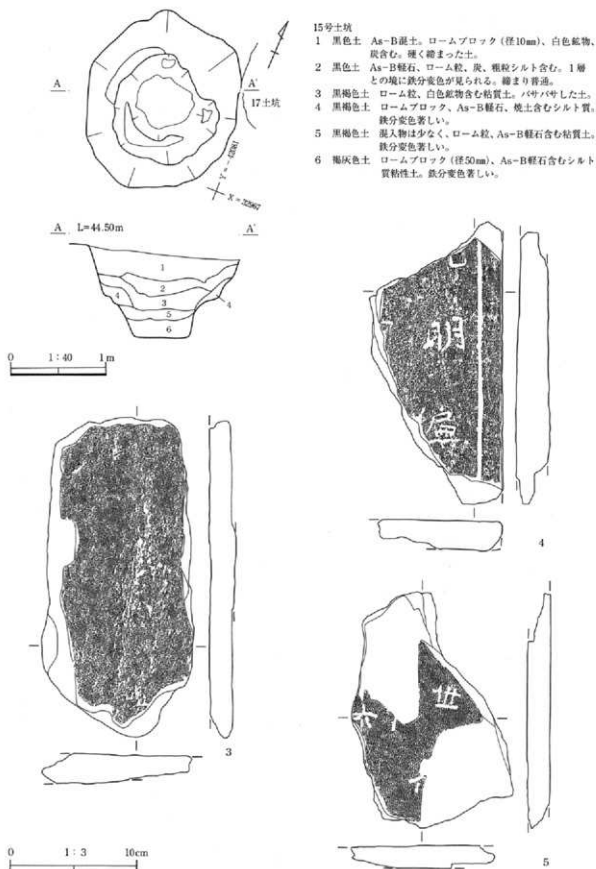
第168図 1区14号土坑 平・断面図

15号土坑(第169～171図、第23・28表、PL43・50・51)

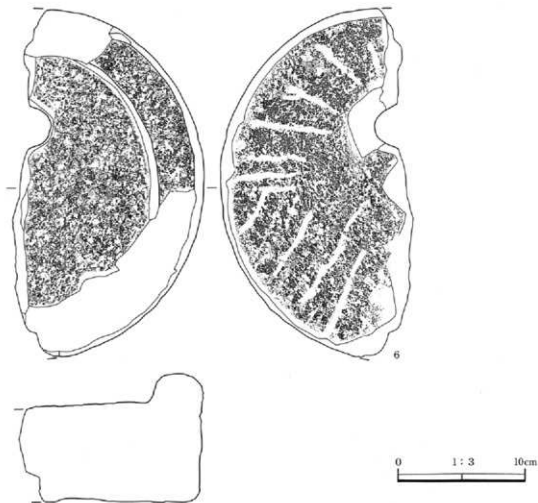
調査区中央やや南側に位置する。底面は、ほぼ平坦である。埋土は2層に分けられ、上層はロームブロックと焼土粒を含む締まりの良い黒色土、下層はロームブロックと焼土粒を含む粘質の黒褐色土である。1はかわらけ、2～5は板碑、6は粉挽き臼である。その他、土師器片多数出土しているが、小片のため図化できなかった。出土遺物の状態から、中世の遺構であると考えられる。



第169図 1区15号土坑 出土遺物 (1)

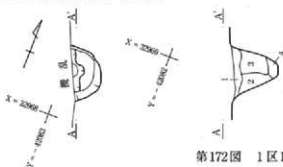


第170図 1区15号土坑 平・断面図 出土遺物(2)



第171図 1区15号土坑 出土遺物 (3)

16号土坑(第172図、第23表)



第172図 1区16号土坑 平・断面図

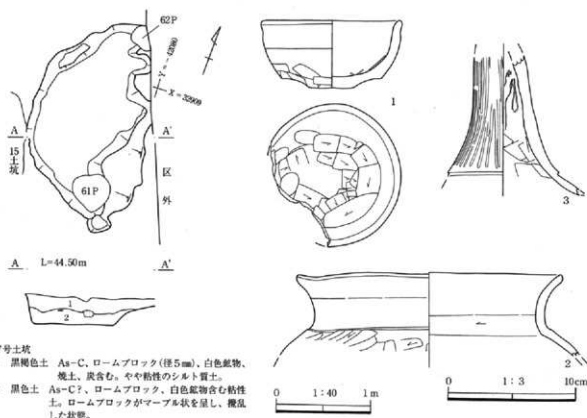
16号土坑

- 1 黒色土 As-B混土。ローム粒、白色鉱物含む。
- 2 赤黒色土 ロームブロック、As-B軽石、白色鉱物含む。やや粘性を帯びた、空隙のあるバサバサした土。
- 3 黒色土 混入物は2層と同じだが、ロームブロックは見られない。空隙はなく粘性を帯びたシルト質土。
- 4 黒色土 2層と同様な性質。

17号土坑(第173図、第23・28表、PL51)

調査区中央やや南側に位置し、15号土坑、61・62号ビット重複する。本遺構が一番古いと思われる。不整形である。底面は、ほぼ平坦である。埋土は2層に分けられ、上層はロームブロックと炭、焼土を含むシルト質の黒褐色土。間に薄い炭の層を挟ん

で、下層はロームブロックが攪拌された状態の黒色土である。1は土師器環、2は土師器甕口縁片、3は土師器高坏脚部である。その他、土師器片60点、須恵器片1点、陶磁器片1点が出土しているが、小片のため図化できなかった。



17号土坑

- 1 黒褐色土 As-C、ロームブロック(径5mm)、白色鉱物、焼土、炭含む。やや粘性のシルト質土。
- 2 黒色土 As-C?、ロームブロック、白色鉱物含む粘性土。ロームブロックがマーブル状を呈し、攪乱した状態。

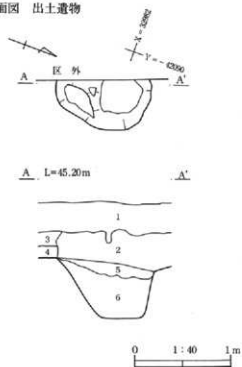
第173図 1区17号土坑 平・断面図 出土遺物

18号土坑(第174・175図、第23・28表、PL43・44・51)

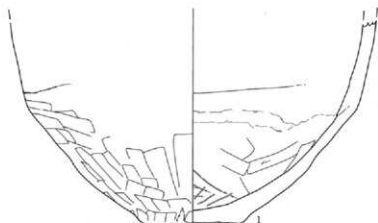
調査区中央部西境に位置し、西側が調査区外にあるため全形は不明である。底面は平坦である。埋土は2層に分けられ、上層はロームブロック、白色粒子、焼土を含む粘性の低い黒色土で、下層は白色粒子、ローム粒、焼土を含む粘性を帯びた黒色土である。1は土師器甕である。その他、土師器片16点、縄文土器片1点が出土しているが、小片のため図化できなかった。

18号土坑

- 1 黒褐色土 As-B混土。ローム粒、白色鉱物、焼土を少量含む。空隙を伴うバサバサした土。
- 2 黒色土 As-B混土(濃い)。ローム粒、白色鉱物、焼土、炭を1層より多く含む。粒子均一。締まり良い。
- 3 黒褐色土 白色粒子、ローム粒、焼土粒を含む。締まりのよい土。
- 4 におい黄褐色土 ソフトロームと灰黄褐色粘質ローム主体の混土。
- 5 黒褐色土 As-C?軽石、白色鉱物(FP)、ローム粒、締まり弱い。
- 6 黒褐色土 As-C?軽石、白色鉱物(極小FP)、ロームブロック(径10mm)10%、黒色土塊、炭含む。締まり弱い。中層以下ローム流れ込み層見られる。



第174図 1区18号土坑 平・断面図



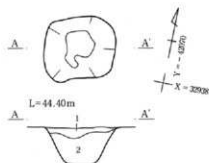
第175図 1区18号土坑 出土遺物

19号土坑(第176図、第23・28表、PL44・51)

調査区南に位置する。平面は隅丸長方形で、断面は逆台形、底面は平坦である。埋土は2層に分けられ、上層はロームブロック、白色粒子を僅かに含む黒褐色土、下層はロームブロックを40%、白色粒子を僅かに含む灰黄褐色土である。1は土師器坏である。その他、土師器坏片、壺片が1点ずつ出土しているが、小片のため図化できなかった。



第176図 1区19号土坑

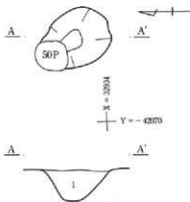


19号土坑

- 1 黒褐色土 ローム、白色バミス僅かに含む、やや砂質。
2 灰黄褐色土 ローム40%、白色バミス僅かに含む。

0 1:40 1m

20号土坑(第177図、第23表、PL44)



20号土坑

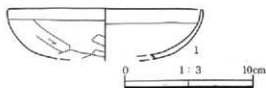
- 1 黒褐色土 ローム粒(径1~3mm)10%含む、白色バミス(FP?)、炭化材、焼土僅かに含む。

0 1:40 1m

第177図 1区20号土坑 平・断面図

21号土坑(第178・179図、第23・28表、PL51)

調査区南側やや中央よりに位置する。4号溝と重複し、上部消失している。本遺構が古いと考えられる。平面形は不整形で、底面は、3ヶ所ビット状に掘削されている。埋土は、炭化材、焼土粒を僅かに含むやや粘質の黒色土である。1・2は土師器坏、3は土師器壺である。その他、土師器片153点、須恵器片8点が出土しているが、小片のため図化できなかった。

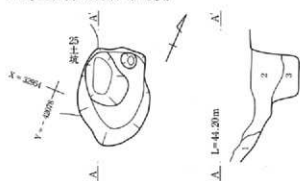


第178図 1区21号土坑 出土遺物 (1)

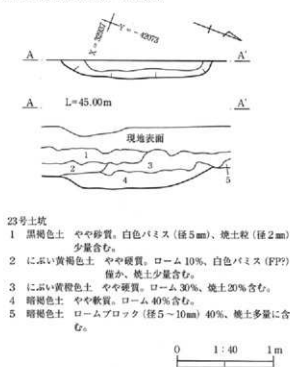
21号土坑(第178・179図、第23・28表、PL51)



22号土坑(第180図、第23表)



23号土坑(第181図、第23表)



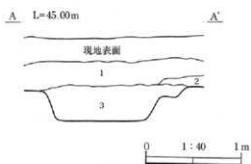
24号土坑

- 1 黒褐色土 やや砂質。白色バミス(径5mm)、焼土粒(径2mm)少量含む。
2 にぶい黄褐色土 やや硬質。ローム10%、白色バミス僅か、焼土少量含む。
3 にぶい黄褐色土 ϕ 5~10cmのロームブロック40%含む。焼土を多く含む。

第182図 1区24号土坑 平・断面図



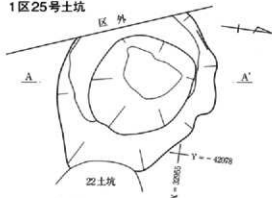
第181図 1区23号土坑 平・断面図



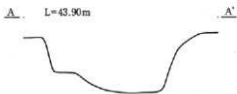
第182図 1区24号土坑 平・断面図

土坑跡

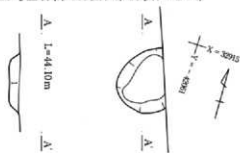
1区25号土坑



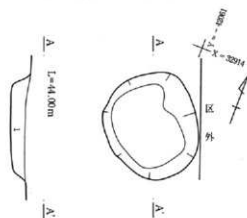
(第183図、第23表、PL44)



2区26号土坑(第183図、第23表、PL44)



2区27号土坑(第183図、第23表、PL44)



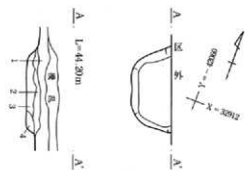
2区26号土坑

1 黒色土 白色鉱物(FP?)を含み、ロームブロックの混土。

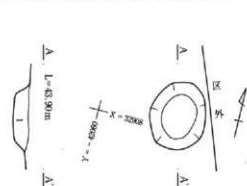
2区27号土坑

1 黒色土 白色鉱物(FP?)を含み、ロームブロックの混土。

2区28号土坑(第183図、第23表)



2区29号土坑(第183図、第23表、PL44)



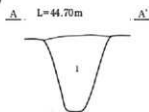
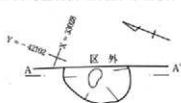
2区28号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色微粒、焼土少量含む。粘性あり。
- 2 黒褐色土 ロームブロック(径20mm)含む。鉄分変色見られる。粒子不均一。
- 3 黒色土 ロームブロック、焼土ブロック含む。
- 4 黒色土 混入物少ない、粘質土。

2区29号土坑

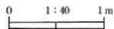
1 黒色土 白色鉱物(FP?)を含み、ロームブロックの混土。

1区30号土坑(第183図、第23表、PL44)



1区30号土坑

1 黒色土 As-C?, 白色鉱物等含む粘土。



第183図 1区25・30号土坑・2区26～29号土坑 平・断面図

第23表 土坑跡一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	主軸方向	規模(m)			出土遺物	備考
					長径	短径	深度		
1	3号土坑	1区X=33023 Y=-42102	楕円形	N-31°-E	(0.5)	0.44	0.26	土師器片10点	
2	4号土坑	1区X=33017 Y=-42098	不整形	N-50°-E	1.38	0.88	0.11	土師器片26点	
3	5号土坑	1区X=33017 Y=-42098	ほぼ円形	N-45°-E	0.98	0.9	0.16	土師器片5点	
4	6号土坑	1区X=33013 Y=-42098	隅丸長方形	N-30°-E	1.13	(0.8)	0.5	完形土師器小豆壺、土師器片106点、須恵器片2点	
5	7号土坑	1区X=33010 Y=-42096	隅丸長方形	N-31°-W	0.94	0.66	0.17	土師器片3点	
6	8号土坑	1区X=33003 Y=-42093	不整形	N-30°-W	0.94	(0.32)	0.35		
7	9号土坑	1区X=32986 Y=-42086	不整形	N-7°-E	1.16	0.82	1.9	土師器片57点、須恵器片2点、板碑、粉挽き臼	中世
8	10号土坑	1区X=32983 Y=-42087	不整形	N-82°-E	1.3	1.28	0.5	完形土師器帯2点、土師器片211点、石1点、縄文土器片1点	
9	11号土坑	1区X=33011 Y=-42096	円形	N-S	0.58	0.5	0.02	土師器片4点	
10	12号土坑	1区X=33009 Y=-42095	円形	N-53°-E	0.56	0.52	0.22	土師器片3点	
11	13号土坑	1区X=32994 Y=-42090	隅丸長方形	N-59.5°-E	0.71	0.54	0.31	土師器片35点	
12	14号土坑	1区X=32989 Y=-42089	不整形	N-67°-E	0.86	0.82	0.54	土師器片2点、石1点	
13	15号土坑	1区X=32967 Y=-42081	楕円形	N-18.5°-W	1.86	1.58	0.73	土師器片144点、須恵器片5点、板碑、粉挽き臼、石38点	中世
14	16号土坑	1区X=32968 Y=-42082	(円形)	N-20°-W	0.58	(0.28)	0.46	土師器片15点	
15	17号土坑	1区X=32967 Y=-42080	不整形	N-20.5°-W	2.1	1.2	0.4	土師器片71点、須恵器片1点、陶器片1点	
16	18号土坑	1区X=32981 Y=-42089	(楕円形)	N-15°-E	0.98	(0.52)	0.63	土師器片25点、縄文土器片1点	
17	19号土坑	1区X=32937 Y=-42070	隅丸長方形	N-73°-E	0.76	0.64	0.38	土師器片3点	
18	20号土坑	1区X=32934 Y=-42068	楕円形	N-26°-W	0.83	0.6	0.31		
19	21号土坑	1区X=32957 Y=-42076	不整形	E-W	1.78	0.76	1.05	土師器片158点、須恵器片6点、石3点	
20	22号土坑	1区X=32954 Y=-42077	不整形	N-20°-W	1.03	(0.68)	0.27		
21	23号土坑	1区X=32937 Y=-42072	(隅丸長方形)	N-20°-W	1.6	(0.2)	0.44		
22	24号土坑	1区X=32934 Y=-42071	不明	(N-19°-W)	1.58	(0.54)	0.34		
23	25号土坑	1区X=32954 Y=-42078	楕円形	N-20°-E	1.1	0.98	0.72		
24	26号土坑	2区X=32914 Y=-42061	(楕円形)	N-54°-W	0.62	(0.52)	0.12		
25	27号土坑	2区X=32912 Y=-42060	楕円形	N-43°-W	1.12	0.98	0.1		
26	28号土坑	2区X=32912 Y=-42060	(隅丸長方形)	N-22°-W	0.88	0.42	0.1		
27	29号土坑	2区X=32908 Y=-42059	楕円形	N-5°-E	0.72	0.6	0.15		
28	30号土坑	1区X=33027 Y=-42102	(楕円形)	N-25°-W	0.7	(0.4)	0.8		

3. 溝跡

本遺跡1・2区から、9条の溝跡を検出した。溝跡についても時期不明のものが多く、埋土からの出土遺物は、古墳時代から近・現代のものまで混在している。1・3・5・6・8号溝は南北に走行する溝で、2・4・7・9号溝は南北に走行する溝である。殆ど時間差のない溝が重複していて、遺物も小片が少数出土しただけなので、どちらの遺構に伴う

ものか、選別できなかった。2・3号溝跡が堅穴住居跡を掘り壊していることや、他遺構との堀土の比較、さらに、出土遺物などから考えて、中世から近世までの溝跡が大半であると推察される。4・5号溝については出土した板碑や五輪塔などから、大鳥城の堀である可能性が高いと思われる。4号溝の北端に障子堀の一部と思われる長方形の掘り込みも検出された。

溝跡

1号溝(第184図、PL45)

位置 1区X = 33015 ~ 017 Y = -42097 ~ 101

1区北側に位置する。

重複遺構 なし

走向 西から東(N-74°-W)

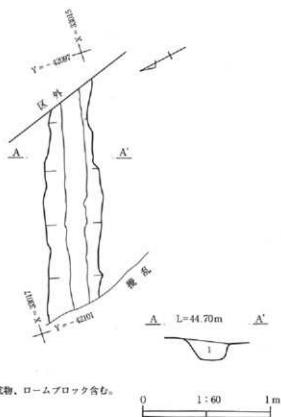
形態 直線的で、断面は逆台形状である。底面の標高差から考えて、水流は西側から、東側へ流れていたと考えられる。

規模 検出全長 3.32m 上幅 0.60~0.92m

底幅 0.28~0.32m 深さ 0.34~0.39m

遺物 土師器片が出土。古墳から平安時代にかけての遺物であるが、摩耗が激しい。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況から、長くて中世から近世に利用されたと考えられる。また、土師器片は混入の遺物の可能性が高い。



1号溝

1 黒色土 As-B, As-A, 白色底物、ロームブロック含む。
鉄分変色が顕著。

第184図 1区1号溝 平・断面図

2号溝(第185・186図、第28表、PL45・51)

位置 1区X = 32990 ~ 3004 Y = -42090 ~ 094

1区中央部に位置する。

重複遺構 2号住居、1号掘立柱建物、3号溝と重複する。本遺構は2号住居と3号溝より新しく、1号掘立柱建物よりも古い。

走向 北から南(N-3°-E)

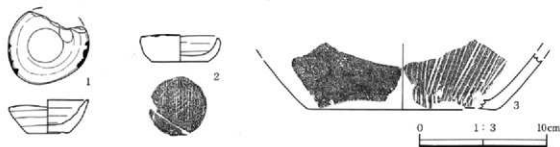
形態 流路は蛇行していて、断面は緩やかな傾斜をもつ逆台形である。底面の標高差から考えて、水流は調査区北側から南側に流れていたと考えられる。

規模 検出全長 11.2m 上幅 0.86~1.9m

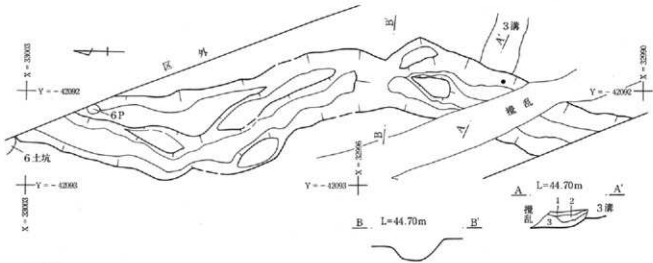
底幅 0.34~0.56m 深さ 0.08~0.30m

遺物 1・2のかわけ、3の近世の軟質陶器折り鉢、4・5の軟質陶器内耳鍋が出土。その他、縄文土器片、須恵器片、土師器片多数、内耳鍋、かわらけ出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況から、中世から近世にかけての溝と考えられる。須恵器片、土師器片については、割れ口も表面も摩耗していることから混入と考えられる。



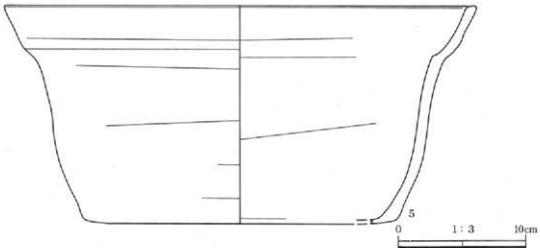
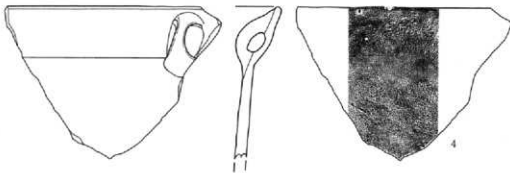
第185図 1区2号溝 出土遺物(1)



2号溝

- 1 黒色土 As-B混土。ローム粒1%、白色鉱物、炭含む。硬く締まった土。
- 2 黒色土 As-B混土。混入物は1層と同じ。縦縞状に鉄分変色見られる。1層より柔らかい。
- 3 黒色土 As-B混土だが、1・2層と比べ細粒シルト質を呈し、締まりも弱い。

0 1:80 2m



第186図 1区2号溝 平・断面図 出土遺物 (2)

溝跡

3号溝(第187図、第28表、PL45・52)

位置 1区X = 32992~993 Y = -42089~091

1区中央部に位置する。

重複遺構 2号住居、2号溝と重複する。本遺構は

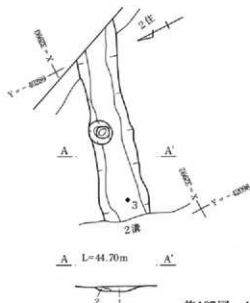
2号住居より新しく、2号溝より古い。

走向 西から東(N-72°-W)

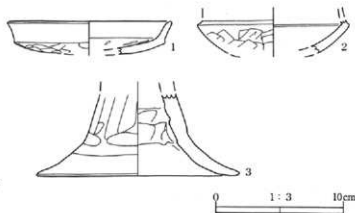
形態 直線的で、断面は皿状である。

規模 検出全長 2.86m 上幅 0.54~0.78m

底幅 0.30~0.52m 深さ 0.02~0.11m



第187図 1区3号溝 平・断面図 出土遺物



3号溝

- 1 灰褐色土 ロームブロック、5層混じりのシルト質土。白色鉱物、As-C?含む締まった土。
2 黒褐色土 混入物は4層と同じ。粘性を帯びた土。鉄分紫色なし。

4号溝(第188~190図、第28表、PL45・52)

位置 1区X = 32951~968 Y = -42076~081

1区南側に位置する。

重複遺構 21・22・25号土坑、53・54号ピットと重複。

走向 北から南(N-10°-E)

形態 直線的で、北端に障子堀の痕跡と思われる長方形の掘り込みを検出した。一部分の検出であり、全形がつかめないため、障子堀と断定することはできなかった。新旧2条の堀である。東側の古い堀を西側の新しい堀がさらに深く掘り込んでいる。

規模 検出全長 8.44m 上幅 3.30~5.46m

底幅 1.58~3.70m 深さ 0.88m

遺物 1の土師器甕、2の須恵器壺、3の須恵器甕、4の須恵器小型壺、5の須恵器平瓶、6の陶器碗、

遺物 1・2の土師器坏、3の土師器高坏が出土。

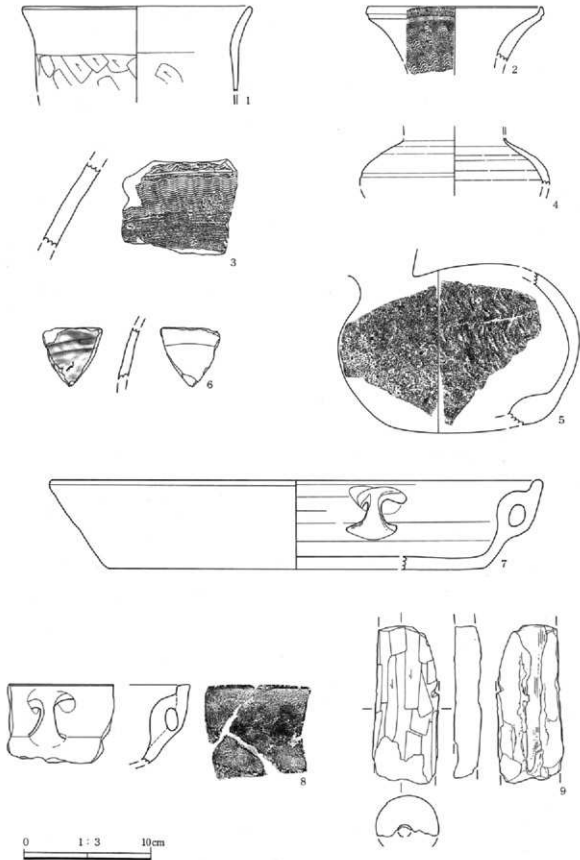
その他、平安時代の須恵器片2点、土師器片43点が出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況から、中世から近世にかけての溝と考えられる。須恵器片、土師器片については、割れ口も表面も摩耗していることから混入と考えられる。

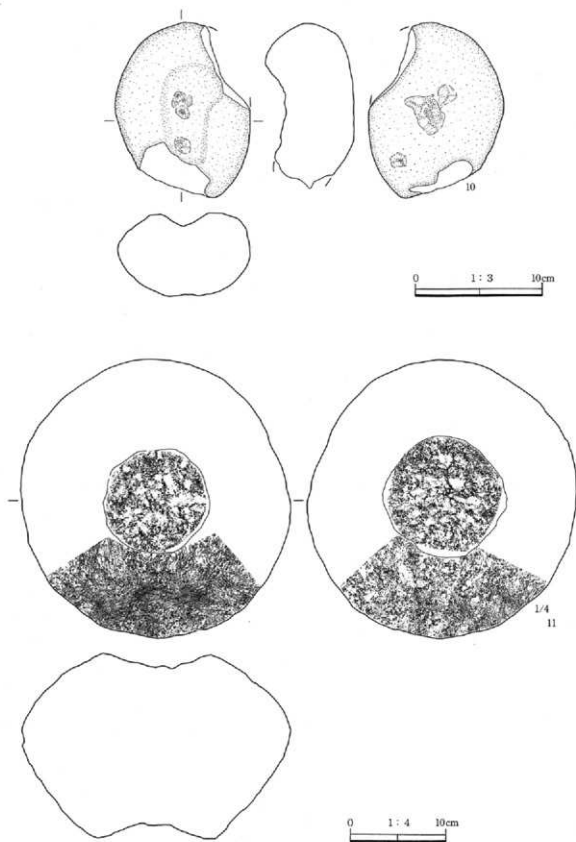
7・8の軟質陶器焙烙、9の羽口、10の軽石鉢、11の五輪塔水輪、12の五輪塔空・風輪が出土。その他、縄文土器片1点、土師器片多数、須恵器片多数、軟質陶器片、陶磁器片等出土。小片のため図化できなかった。縄文土器片、須恵器片、土師器片については、割れ口も表面も摩耗していることから混入と考えられる。

所見 太田市史通史編(中世)の大高城概略図・埋土の状況・出土遺物などから、大高城の堀と考えられる。調査区外で5・6号溝と繋がっていると考えられる。

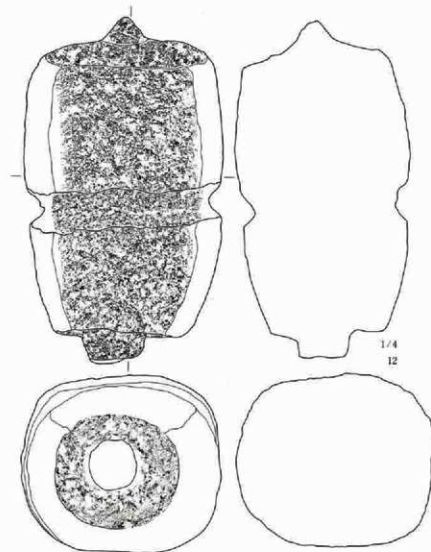
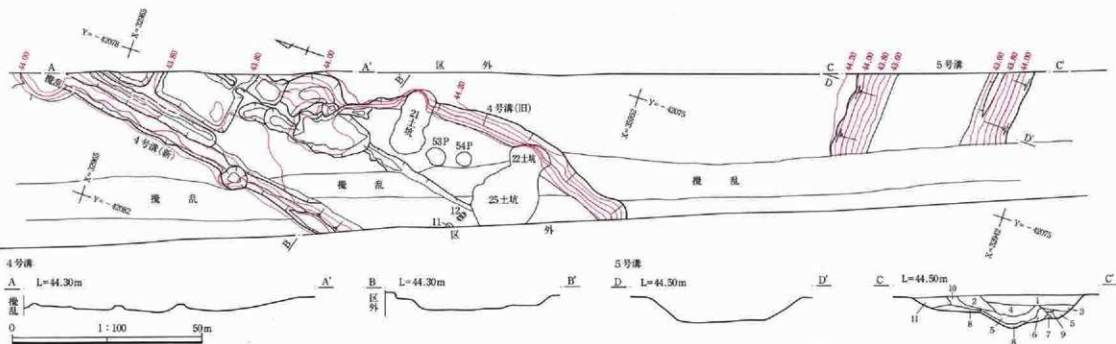
2区6号溝(第191図、PL45)



第188图 1区4号溝 出土遺物 (1)



第189图 1区4号溝 出土遺物 (2)



5号溝(第190図、第28表、PL45・53)

位置 1区 X=32942~947 Y=-42701~704

1区南側に位置する。

重複遺構 なし

走向 西から東(N-2°-E)

形態 直線的で、断面は皿状である。

規模 検出全長 2.08m 上幅 4.10~4.20m

底幅 2.18~2.31m 深さ 0.70m

遺物 1の土師器釜が出土。その他、須恵器片、土師器片多数出土。いずれも摩耗が激しく小片のため図化できなかった。

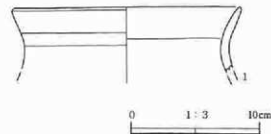
所見 太田市史通史編(中世)の大鳥城概略図、埋土の状況、出土遺物などから、大鳥城の堀と考えられる。調査区外で4・6号溝と繋がっていると考えられる。

0 1:4 10cm

5号溝

- 黒褐色土 As-A軽石、ローム粒、炭等含む。圃場整備水田耕作土。鉄分層2層介在。
- 暗褐色土 As-A軽石、ロームブロック(径30mm)50%、白色炭物含む。粒子和平。粘まりや弱い。
- 黒褐色土 As-A軽石?、As-B軽石?、白色炭物、ローム粒少量含むシルト質土。上層に流れ込み見られる。
- 黒褐色土 As-A軽石?、As-B軽石?、白色炭物、ロームブロック(径30mm)20%含む。粘まりや弱い粘性土。
- 黒色土 As-A軽石?、As-B軽石?、白色炭物、ロームブロック(径10mm)10%含む。粘性を帯びた土。断面に灰色粘土ブロックが見られる。
- 黒褐色土 As-A軽石?、As-B軽石?、白色炭物、ロームブロック(径10mm)50%含む。
- 黒色土 As-A軽石?、As-B軽石?、ロームブロック(径5mm)極少量含む。粘性を帯びた粘まりの強い土。
- 黒褐色土 As-B軽石?、白色炭物、褐色粘土ブロック(径10mm)2%含む。粘性に富む。
- 黒褐色土 3層→ロームブロックφ20mm以上5%含む灰色粘土ブロック20mm以上5%含むやや粘性を帯びた黒褐色土。
- 黒色土 As-A軽石?、As-B軽石?、白色炭物、ローム粒、炭少量含む。B組土。
- 黒褐色土 As-A軽石?、As-B軽石?、白色炭物、ローム粒5%、炭含む。攪乱受ける。

5号溝



位置 2区 X=32906~907 Y=-42058~061

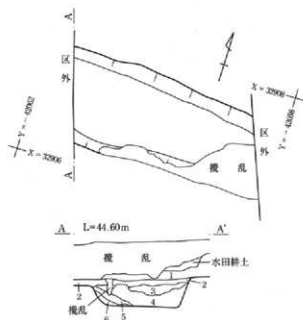
2区北側に位置する。

重複遺構 なし

走向 (E-W)東から西

形態 直線的で、断面は皿状である。調査範囲が狭いために、水流の方向は不明である。

規模 検出全長 3.04m 上幅 (1.26)~1.48m



第191図 2区6号溝 平・断面図

位置 2区 X=32901~902 Y=-42059

2区北側に位置する。

重複遺構 8号溝と重複。遺構平面確認と土層断面の観察により本遺構が、8号溝より古い。

走向 (N-87°-E)

形態 直線的で、断面は東壁が垂直に立ち上がっており、東壁底に向かって西壁からなだらかに掘られている。検出されたのが一部分だけなので溝の全形は不明である。

規模 検出全長 0.60m 上幅 (0.48m)

底幅 0.20~0.26m 深さ 0.10m

遺物 なし

所見 出土遺物からは時期を特定することはできなかった。埋土の状況から比較的新しい溝と推察される。

2区8号溝(第192図、PL45)

底幅 (0.86~1.24)m 深さ (0.49)m

遺物 なし

所見 太田市史通史編(中世)の大鳥城概略図、埋土の状況、出土遺物などから、大鳥城の堀と考えられる。調査区外で4・5号溝と繋がっていると考えられる。

2区7号溝(第192図、PL45)

2区6号溝

- 1 黒褐色土 As-B混土(淡)、褐色土ブロック(径5mm)、焼土、黒色結晶灰を含む。締まり良い。
- 2 黒褐色土 As-B混土(淡)、褐色土ブロック(径5mm)、焼土、1層に比べ極少量、As-B?
- 3 黒褐色土 As-B混土、黄褐色粘質ロームブロック混土、白色鉱物、焼土少量含む程度。粒子不均一。締まり差。
- 4 黒色土 As-B混土、褐色土ブロック(径50mm)、白色鉱物含む黒色シルト質粘土。底面に薄く粘土層が見られる。
- 5 黒褐色土 As-B混土。ローム粒、ロームブロック、細砂粒を含む。シルト質土。
- 6 黒褐色土 地山ローム単塊土+黒色粘質土。As-B、細砂粒を含む。

0 1:60 2m

位置 2区 X=32900~901 Y=-42055~059

2区北側に位置する。

重複遺構 7号溝と重複。遺構平面確認と土層断面の観察により本遺構が、7号溝より新しい。

走向 (N-87°-W)西から東

形態 攪乱によって寸断され全形は不明。直線的で、断面は逆台形状である。

規模 検出全長 (3.24m) 上幅 0.54~0.60m

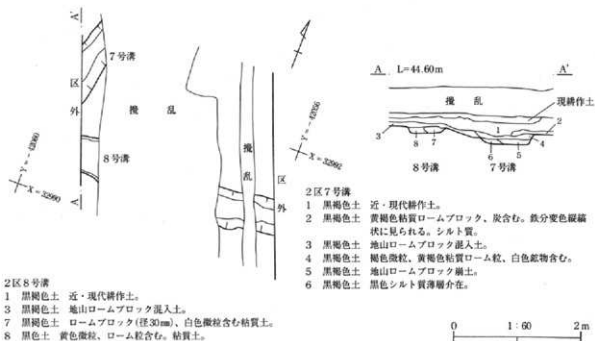
底幅 0.21~0.50m 深さ 0.05m

遺物 なし

所見 出土遺物からは時期を特定することはできなかった。埋土の状況から比較的新しい溝と推察される。

2区9号溝(第193図、PL46)

溝跡



第192図 2区7・8号溝 平・断面図

位置 2区X=32874~877 Y=-42049~050

2区北側に位置する。

重複遺構 なし

走向 北から南(N-2°-E)

形態 攪乱によって寸断され全形は不明である。直

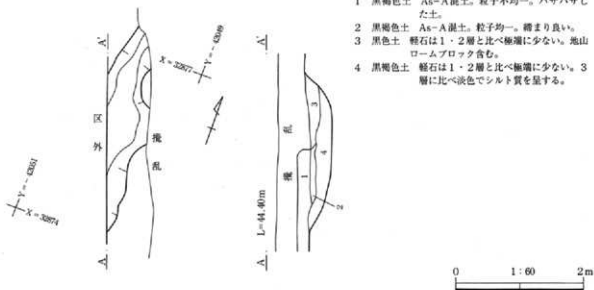
線の、断面は皿状である。

規模 検出全長 1.80m 上幅 不明

底幅 0.10~0.56m 深さ 0.19m

遺物 なし

所見 埋土の状況から比較的新しい溝と推察される。



第193図 2区9号溝 平・断面図

4. 掘立柱建物跡

本遺跡から3棟の掘立柱建物跡を検出した。1号掘立柱建物は調査区内の出土形態から、縦3本、横3本の9本柱の建物跡と推察される。2・3号掘立柱建物は、中世大島城の出城、大島城の堀と考えら

1号掘立柱建物(第194図、第24・28表、PL46・53)

位置 1区X=32995~300 Y=-42091~094

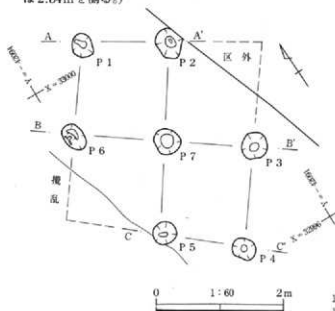
重複遺構 2号溝と重複する。本遺構が古い。

形態 調査区外に延びるため全形は不明である。(調査区内では3間×3間)

方位 計測不能

規模 計測不能

(調査区内P2~P5間は2.96m、P3~P6間は2.84mを測る。)



第24表 1号掘立柱建物計測表

遺構番号	長径	短径	深度	柱間長
P1	0.38	0.32	0.36	P1~P2 1.38
P2	0.46	0.42	0.48	P2~P7 1.40
P3	0.40	0.38	0.40	P3~P4 1.60
P4	0.36	0.32	0.56	P4~P5 1.30
P5	0.38	0.36	0.54	P5~P7 1.46
P6	0.36	0.34	0.42	P6~P7 1.44
P7	0.40	0.38	0.32	

単位(m)



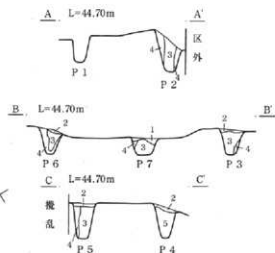
第194図 1区1号掘立柱建物 平・断面図 出土遺物

れる4号溝と主軸方向が、ほぼ一致することから、大島城とはほぼ同時期に堀の外に建っていた建物の跡と推察される。この付近にピットが集中して存在していることから、何回も立て替えが行われていたことも推察される。

柱穴 規模は径32cm~46cm、深さ32cm~56cm。

遺物 P2から1の土師器杯が出土。その他、P2~P5・P7から土師器片、須恵器杯片が出土。小片のため図化できなかった。

所見 調査区外に延びている可能性があり、規模は不明である。出土遺物からは時期を特定できなかった。



1号掘立柱建物

- 1 黒色土 ロームブロック混じり、As-B?含む。全体にシルト質を呈し、締まり良い。ロームブロックは塊状状態を呈す。
- 2 黒色土 1層と同じ。酸化鉄分変色顕著。
- 3 黒色土 地山ロームブロック(径30mm)、白色粒含む。As-B軽石は表面上見られない。粘性を帯びた締まりの弱い土。
- 4 黒褐色土 ロームブロック主体。混入物は1層と同じ。粘性の低いバサバサした土。
- 5 黒色土 ロームブロック(径30mm)、白色パミス、炭含む。

掘立柱建物跡

2号掘立柱建物(第195図、第25表、PL46)

位置 1区 X = 32975 ~ 980 Y = -42083 ~ 085

重複遺構 4号住居と重複する。本遺構の方が新しい。

形態 調査区外に延びるため全形は不明である。(調査区内では2間×1間)

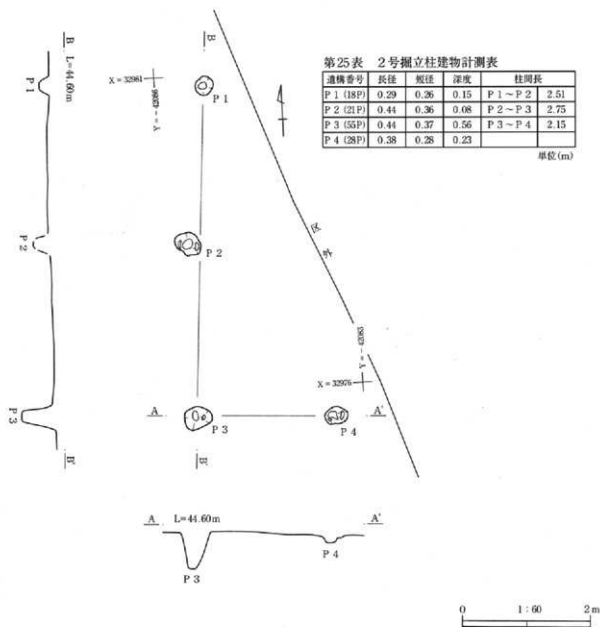
方位 計測不能

規模 計測不能(調査区内P1~P2間は2.51m、P2~P3間は2.75m、P3~P4間は2.15mである。)

柱穴 規模は径26cm~44cm、深さ8cm~56cm。

遺物 P2(21P)から土師器甕片、P4(28P)から土師器坏・甕片、P3(55P)から土師器坏・甕片が出土。小片のため図化できなかった。

所見 調査区外に延びている可能性があり、規模は不明である。出土遺物は摩耗していることから時期を特定できない。4号溝の走行に本遺構の一辺(18P~55P)の走行に近いことからほぼ同時期中世の掘立柱建物ではないかと推察される。



第195図 1区2号掘立柱建物 平・断面図

3号掘立柱建物(第196図、第26表、PL46)

位置 1区 X = 32976 ~ 982 Y = -42083 ~ 086

重複遺構 4号住居と重複する。本遺構の方が新しい。

形態 調査区外に延びるため全形は不明である。(調査区内では2間×1間)

方位 計測不能

規模 計測不能(調査区内P1~P2間は2.85m、

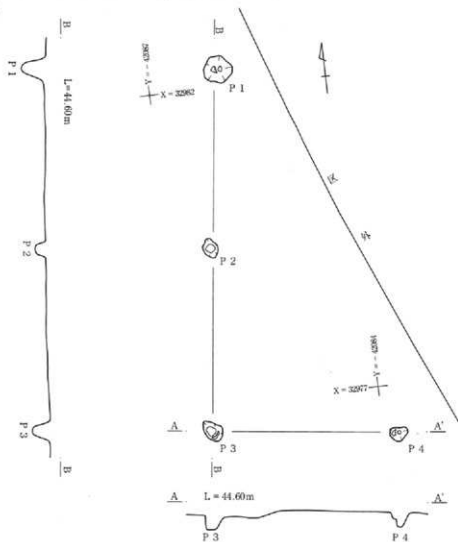
P2~P3間は2.85m、P3~P4間は3.00m

である。)

柱穴 規模は径21cm~48cm、深さ18cm~77cm

遺物 P3(32P)から土師器残片が出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物は摩耗していることから時期を特定できなかった。4号溝の走行に本遺構の一边(31P~32P)の走行が近いことからほぼ同時期中世の掘立柱建物ではないかと推察される。



第26表 3号掘立柱建物計測表

遺構番号	長径	短径	深さ	柱間長
P1 (31P)	0.44	0.43	0.77	P1~P2 2.85
P2 (17P)	0.32	0.26	0.18	P2~P3 2.85
P3 (32P)	0.46	0.33	0.30	P3~P4 3.00
P4 (63P)	0.29	0.21	0.24	

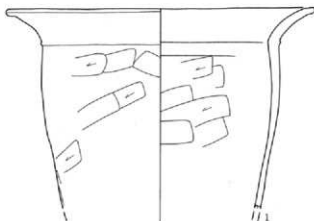
単位(m)

ピット跡

5. ピット跡

本遺跡から63基のピット跡を検出した。出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。調査時に掘立柱建物跡として確認されたピット跡と、整理時点の検討から掘立柱建物跡、欄列跡等への柱穴に変更されたピット跡がある。水田耕作、線路敷設時の土地整備により、上部からの削平が著しく、掘削深度の浅いピット跡

51号ピット(第197図、第27・28表、PL53)



は、この時点で消失してしまったものと推察される。ピット跡については様々な形態・様相を呈するため、それぞれの形態・規模については一覧表に掲げ、位置については遺跡全体図の中に提示した。1～3号掘立柱建物と同様の時期と想定されるが、出土遺物が少なく時期を特定するまでには至らなかった。51号ピットからは1の土師器甕、53号ピットからは1の須恵器蓋が出土した。

53号ピット(第197図、第27・28表、PL53)



0 1:3 10cm

第197図 1区51・53号ピット 出土遺物

第27表 ピット跡一覧表

番号	ピット番号	位置	形態	規模(m)			出土遺物	備考
				長径	短径	深度		
1	1号ピット	X=33018 Y=-42098	不整形	0.25	0.22	0.18		
2	2号ピット	X=33013 Y=-42098	不整形	0.48	0.32	0.50	土師器片1点、陶磁器片1点	
3	3号ピット	X=33017 Y=-42100	不整形	0.38	0.30	0.32		4号土坑重複、本ピットが新しい。
4	4号ピット	X=33012 Y=-42097	円形	0.24	0.22	0.30		
5	5号ピット	X=33009 Y=-42095	円形	0.38	0.34	0.45	土師器片3点	
6	6号ピット	X=33002 Y=-42902	楕円形	0.24	0.18	0.26		
7	7号ピット	X=33010 Y=-42097	円形	0.30	0.28	0.20	土師器片2点	
8	8号ピット	X=32988 Y=-42088	円形	0.34	0.32	0.34		
9	9号ピット	X=32987 Y=-42089	楕円形	0.40	0.24	0.40		
10	10号ピット	X=32986 Y=-42089	不整形	0.54	0.38	0.52	土師器片17点	
11	11号ピット	X=32986 Y=-42088	不整形	0.40	0.34	0.40	土師器片1点	
12	12号ピット	X=32985 Y=-42086	円形	0.44	0.38	0.48	土師器片3点	
13	13号ピット	X=32982 Y=-42088	円形	0.35	0.28	0.40		
14	14号ピット	X=32981 Y=-42087	不整形	0.24	0.20	0.20		
15	15号ピット	X=32980 Y=-42086	不整形	0.30	0.20	0.13		
16	16号ピット	X=32980 Y=-42086	楕円形	0.20	0.18	0.16	土師器片2点	
17	17号ピット	X=32979 Y=-42086	不整形	0.32	0.26	0.18		3号掘立柱建物P2に変更。
18	18号ピット	X=32980 Y=-42085	円形	0.29	0.26	0.11		2号掘立柱建物P1に変更。
19	19号ピット	X=32980 Y=-42085	不整形	0.28	0.25	0.27	土師器片3点	
20	20号ピット	X=32978 Y=-42086	不整形	0.32	0.28	0.24		

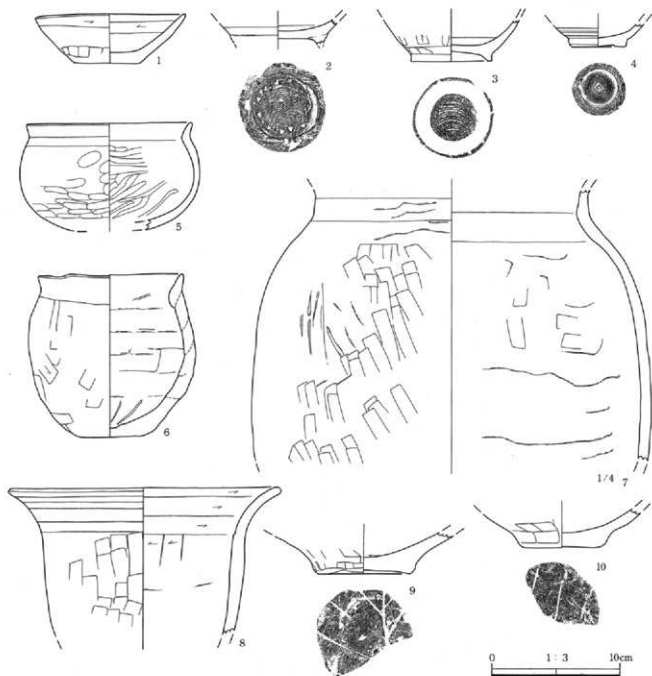
21	21号ピット	X = 32978 Y = - 42086	不整形	0.44	0.36	0.08	土師器片3点	2号掘立柱建物P2に変更。
22	22号ピット	X = 32978 Y = - 42086	楕円形	0.44	0.34	0.31		
23	23号ピット	X = 32976 Y = - 42085	円形	0.34	0.32	0.39		
24	24号ピット	X = 32988 Y = - 42089	不整形	0.42	0.30	0.14	土師器片13点	
25	25号ピット	X = 32989 Y = - 42090	不整形	0.43	0.34	0.40	土師器片25点	
26	26号ピット	X = 32978 Y = - 42085	不整形	0.36	0.28	0.25	土師器片1点	
27	27号ピット	X = 32975 Y = - 42084	不整形	0.44	0.28	0.54	土師器片3点	5号住居の礎を掘り壊している。
28	28号ピット	X = 32975 Y = - 42083	楕円形	0.38	0.28	0.23	土師器片6点	2号掘立柱建物P4に変更。
29	29号ピット	X = 32988 Y = - 42087	不整形	0.22	(0.18)	0.11		
30	30号ピット	平面図なし						
31	31号ピット	X = 32982 Y = - 42086	不整形	0.44	0.43	0.77		3号掘立柱建物P1に変更。
32	32号ピット	X = 32977 Y = - 42087	楕円形	0.48	0.33	0.30	土師器片1点	3号掘立柱建物P3に変更。
33	33号ピット	X = 32981 Y = - 42087	不整形	0.33	0.18	0.16	土師器片3点	
34	34号ピット	X = 32985 Y = - 42088	不整形	0.26	0.18	0.30		
35	35号ピット	X = 32985 Y = - 42087	不整形	0.28	0.24	0.32		
36	36号ピット	X = 32984 Y = - 42086	円形	0.22	0.19	0.24		
37	37号ピット	X = 32983 Y = - 42086	楕円形	0.66	0.54	0.34		
38	38号ピット	X = 32969 Y = - 42084	円形	0.36	0.31	0.44	土師器片12点	
39	39号ピット	X = 32975 Y = - 42088	楕円形	0.34	0.29	0.40	土師器片4点、須恵器片1点	
40	40号ピット	X = 32976 Y = - 42087	楕円形	0.24	0.22	0.14	土師器片13点	
41	41号ピット	X = 32979 Y = - 42088	不整形	0.22	0.12	0.20	土師器片2点	
42	42号ピット	X = 32979 Y = - 42088	不整形	0.20	0.18	0.14	土師器片2点、須恵器片1点	
43	43号ピット	X = 32984 Y = - 42088	円形	0.20	0.18	0.20		
44	44号ピット	X = 32988 Y = - 42090	不整形	0.26	0.20	0.17	土師器片2点	
45	45号ピット	X = 32990 Y = - 42089	円形	0.36	0.34	0.12	土師器片1点	
46	46号ピット	X = 32985 Y = - 42090	楕円形	0.30	0.16	0.12		
47	47号ピット	X = 32967 Y = - 42091	円形	0.24	0.22	0.12		
48	48号ピット	X = 32969 Y = - 42081	不整形	0.60	0.52	0.32	土師器片28点	
49	49号ピット	X = 32969 Y = - 42081	不整形	0.35	(0.29)	0.25	土師器片2点	
50	50号ピット	X = 32935 Y = - 42069	楕円形	0.35	0.33	0.30		
51	51号ピット	X = 32964 Y = - 42076	不整形	0.68	0.50	0.31	土師器片57点、須恵器片2点	
52	52号ピット	X = 32977 Y = - 42084	円形	0.34	0.32	0.38	土師器片4点	
53	53号ピット	X = 32956 Y = - 42078	不整形	0.52	0.48	0.73	土師器片55点、須恵器片1点	
54	54号ピット	X = 32956 Y = - 42078	楕円形	0.40	0.37	0.25		
55	55号ピット	X = 32976 Y = - 42086	楕円形	0.44	0.37	0.56	土師器片11点	2号掘立柱建物P3に変更。
56	56号ピット	X = 32963 Y = - 42082	(楕円形)	(0.46)	0.46	0.66	土師器片27点	
57	57号ピット	X = 32976 Y = - 42086	円形	0.29	0.29	0.32	土師器片3点	
58	58号ピット	X = 32922 Y = - 42065	楕円形	0.30	0.22	0.28	土師器片2点	
59	59号ピット	X = 32922 Y = - 42065	楕円形	0.49	0.36	0.30	土師器片1点	
60	60号ピット	X = 32988 Y = - 42088	不整形	0.30	0.24	0.27		
61	61号ピット	X = 32967 Y = - 42080	不整形	0.40	0.39	0.14		
62	62号ピット	X = 32969 Y = - 42080	不整形	0.27	(0.18)	不明		
63	63号ピット	X = 32976 Y = - 42083	不整形	0.29	0.21	0.24		3号掘立柱建物P4に変更。

遺構外出土遺物

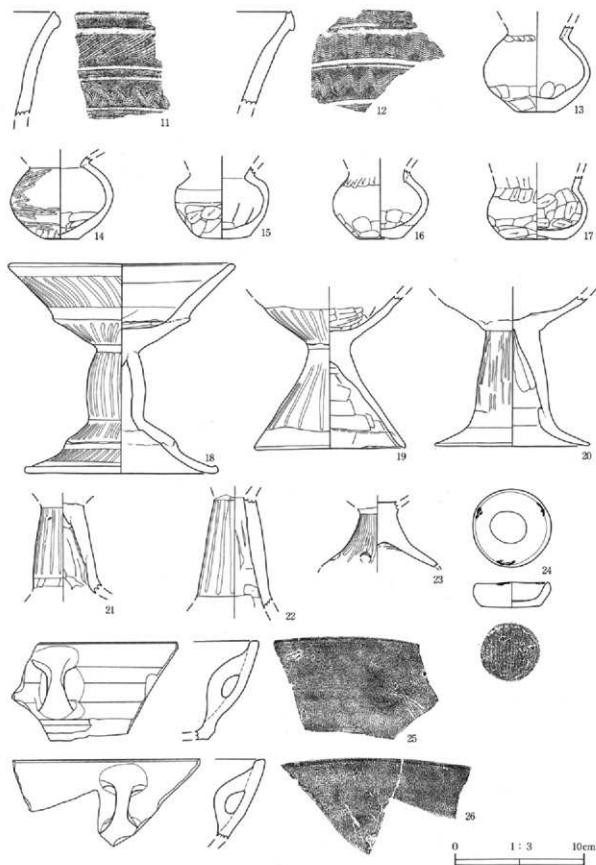
6. 遺構外出土遺物(第198～200図、第28表、PL46・53)

1区で出土した遺構に伴わない遺物を報告する。
1は須恵器坏、2・3は須恵器碗、4は陶器碗、5
は土師器小型壺、6は土師器小型壺、7～10は土
師器甕、11・12は須恵器甕、13～17は土師器埴
18～23は土師器高坏、24はかわらけ、25・26は
焙烙、27は須恵器横瓶、28は縄文時代縦型石匙で

ある。その他、縄文土器片、土師器片、須恵器片、
陶器片が多数出土しているが、小片のため図化でき
なかつた。周辺に長期に亘る遺構が存在する可能性
があるが、調査区が狭く、上部から擾乱や削平を受
け遺存状態が良くなく、周辺のどちら側にも、どんな
時代の遺構があるかは現時点では不明である。

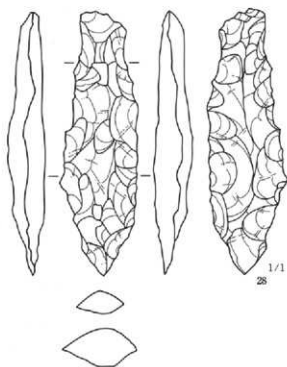
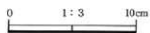
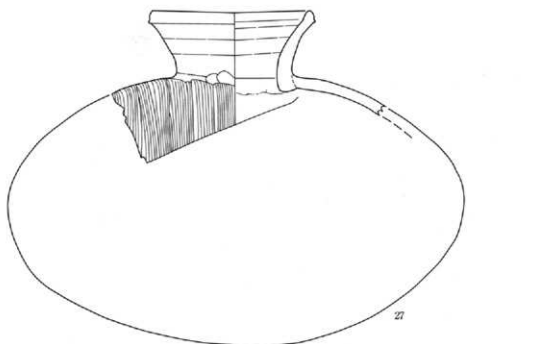


第198図 遺構外 出土遺物 (1)



第199図 遺構外 出土遺物 (2)

遺構外出土遺物



第200図 遺構外 出土遺物 (3)

第28表 城ノ内遺跡遺物観察表

1区 1号住居

検出番号 写真図版	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第147回 P.L.47	1	土師器 罍	覆土 口縁～胴部 1/4	口径 14.0 底径 - 高さ 10.9	①粗・細砂粒多量 ②酸化焼 ③黒褐色	外面口縁部横撫で、胴部縦瓦割り、一部輪 横撫で。内面口縁部横撫で、胴部縦撫で。	古墳時代前期
第147回 P.L.47	2	土師器 手捏土器	覆土 口縁～胴部 一部欠損	口径 4.5 底径 4.2 高さ 3.9	①粗・細砂粒少量 ②酸化焼 ③にぶい黄褐色	外面口縁～胴部指撫で、一部指頭痕。内面 口縁～底部指撫で、指頭痕。	古墳時代前期

1区 2号住居

検出番号 写真図版	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第149回 P.L.47	1	土師器 杯	覆土 口縁～胴部片	口径 (9.8) 底径 - 高さ (2.3)	①粗・細砂粒多量 ②酸化焼 ③暗褐色	外面口縁部横撫で、胴部縦磨り。内面口縁 ～胴部横撫で。内外面に油煙付着。	古墳時代前期
第149回 P.L.47	2	土師器 罍	覆土 口縁～胴部 1/4	口径 (14.6) 底径 - 高さ (3.1)	①粗・細砂粒多量 ②酸化焼 ③にぶい褐色	外面口縁～胴部引込、横撫で、一部指頭痕。 内面口縁部横撫で、胴部横撫で。	古墳時代前期
第149回 P.L.47	3	土師器 罍	覆土 口縁～胴部 上位1/3	口径 (18.1) 底径 - 高さ (9.3)	①粗・細砂粒多量 ②酸化焼 ③にぶい褐色	外面口縁部横撫で、一部輪横撫で、胴部上位 縦瓦割り。内面口縁部横撫で、胴部上位 横撫で。	古墳時代前期

1区 5号住居

検出番号 写真図版	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第153回 P.L.47	1	土師器 杯	覆土 口縁～胴部片	口径 (10.2) 底径 (7.4) 高さ (3.2)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焼 ③にぶい黄褐色	外面口縁部横撫で、胴部縦磨り。内面口縁 ～胴部横撫で。内面に油煙付着。	古墳時代後期6世紀 の杯。№6・8の罍 と同時期か
第153回 P.L.47	2	土師器 S字状口 鉢付台	覆土 口縁～胴部 上端片	口径 (10.8) 底径 - 高さ (3.5)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焼 ③にぶい褐色	外面口縁部横撫で、胴部上端斜め刷毛目。 内面口縁部横撫で、胴部上端横撫で。	4世紀前半
第153回 P.L.47	3	土師器 S字状口 鉢付台	覆土 口縁～胴部 上位1/6	口径 (12.0) 底径 - 高さ (6.7)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焼 ③にぶい褐色	外面口縁部横撫で、胴部上位斜め刷毛目。 内面口縁部横撫で、胴部上端一部輪横撫で、指 頭痕、胴部上位横撫で。	4世紀後半
第153回 P.L.47	4	土師器 S字状口 鉢付台	覆土 口縁～胴部 上位1/4	口径 (13.4) 底径 - 高さ (3.4)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焼 ③にぶい褐色	外面口縁部横撫で、胴部上端斜め刷毛目。 内面口縁部横撫で、胴部上端一部指頭痕、輪 横撫で、縦撫で。	4世紀後半
第153回 P.L.47	5	土師器 罍	覆土 口縁～底部 1/3	口径 (19.8) 底径 7.8 高さ (28.9)	①粗・細砂粒多量 ②酸化焼 ③褐色	外面口縁部横撫で、胴部縦磨り。内面口縁 部横撫で、胴～底部縦撫で。内外面に油煙 付着。	古墳時代前期
第153回 P.L.48	6	土師器 罍	覆土 口縁～胴部 1/2～底部	口径 18.3 底径 5.6 高さ (32.0)	①粗・細砂粒多量 ②酸化焼 ③にぶい褐色	外面口縁部横撫で、胴部縦瓦割り。内面口 縁部横撫で、胴部縦撫で。外面に油煙付着。	古墳時代後期6世紀 ? №6の罍と同時 期か
第153回 P.L.47	7	土師器 罍	覆土 口縁下位～ 胴部1/4	口径 - 底径 - 高さ (17.0)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焼 ③にぶい赤褐色	外面口縁部下位横撫で、胴部横瓦割り。一 部指頭痕、輪横撫で。内面口縁部下位横撫で、 胴～底部縦撫で。	古墳時代
第153回 P.L.48	8	土師器 罍	覆土 口縁～底部 1/2	口径 26.0 底径 7.4 高さ 25.3	①粗・細砂粒多量 ②酸化焼 ③にぶい褐色	外面口縁部横撫で、一部輪横撫で、胴部縦瓦 割り。内面口縁部横撫で、胴部縦瓦割り。 縦撫で、縦撫で。	古墳時代後期6世紀 ? №6の罍と同時 期か
第153回 P.L.47	9	土師器 器台	覆土 口縁～脚部 上端3/4	口径 (5.1) 底径 - 高さ (3.3)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焼 ③にぶい黄褐色	底部地成り穿孔。脚部円形透かしは2ヶ所 確認。外面口縁～胴部横撫で、脚部側り後撫で、 内面口縁～底部横撫で、脚部一部指頭痕。	古墳時代前期
第153回 P.L.47	10	土師器 器台	覆土 口縁～脚部 上位2/3	口径 - 底径 - 高さ (5.3)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焼 ③にぶい褐色	底部地成り穿孔。脚部円形透かし3ヶ所 確認。外面脚部上位横撫で。内面底部横撫で、 脚部上半横撫で。	古墳時代前期

遺物観察表

1区 6号住居

神田番号 写真図版	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第154図 P.L.48	1	土師器 罌	覆土 胴部下位 1/4	口径 - 底径 (4.0) 高さ 8.0	①粗・細砂粒多量 ②酸化鉛 ③橙色	外面胴部下位縁角削り、胴部下端斜め削り。内面撫で。	古墳時代?

1区 6号土坑

神田番号 写真図版	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第157図 P.L.48	1	須恵器 坏	覆土 胴部下端～底 部	口径 - 底径 6.4 高さ (1.9)	①粗・細砂粒多量 ②還元鉛 ③灰白色	外面胴部下端回転撫で、底部回転赤切り。内面胴部下端～底部回転撫で。	
第157図 P.L.48	2	土師器 小型罌	覆土 ほぼ完形	口径 13.6 底径 3.7 高さ 14.0	①粗・細砂粒多量 ②酸化鉛 ③橙色	外面口縁部横撫で、胴～底部角削り。内面口縁部横撫で、胴～底部撫で、一部指撫で、指頭痕・輪積痕あり。内外面に油煙付着。	5世紀後半
第157図 P.L.48	3	須恵器 罌	覆土 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (10.1)	①粗・細砂粒多量 ②還元鉛 ③灰白色	外面格子状鼓足痕。内面に青海波文。外面格子状叩き目。	

1区 9号土坑

神田番号 写真図版	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量(g)	特徴	備 考
第161図 P.L.48	1	石製品 板碑	覆土 上部片	長さ 17.6 幅 16.4 厚さ 1.9	緑色片岩 800	石灰の点状模様。表面に赤研砂りのキリーク種子下部・葉形(葉形)の上部が残る。河浜陀三邊種子板碑。	中世
第161図 P.L.49	2	石製品 粉挽き臼	覆土 下白 1/3	長さ 20.0 幅 13.7 厚さ 10.0	粗粒輝石安山岩 3500	目の粗い石材。目は4分割、縦溝4本。下面にも目が割られている。6分割、縦溝4本。上臼の転用か?	中世

1区 10号土坑

神田番号 写真図版	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第163図 P.L.49	1	土師器 台付罌	覆土 口縁～胴部 中央4/5	口径 (14.8) 底径 - 高さ 12.5	①微・細砂粒少量 ②酸化鉛 ③にぶい橙色	外面口縁部は横撫で、胴～胴部中央斜め刷毛目。内面口縁部横撫で、胴部上端刷毛目、胴部上位～中央指撫で、一部指頭痕。内外面に油煙付着。	古墳時代前期
第163図 P.L.49	2	土師器 S字状口 縁台付罌	口縁～胴部 上位1/3	口径 (16.0) 底径 - 高さ (11.3)	①微・細砂粒少量 ②酸化鉛 ③にぶい橙色	外面口縁部横撫で、胴部上位斜め刷毛目。内面口縁部横撫で、胴部上位指撫で、一部指頭痕。内外面に油煙付着。	古墳時代前期
第163図 P.L.49	3	土師器 S字状口 縁台付罌	覆土 胴部下端～脚 部上位3/4	口径 - 底径 - 高さ (5.5)	①微・細砂粒少量 ②酸化鉛 ③にぶい黄橙色	内面胴部下端～底部刷毛目、内面棒状工具による撫で、内外面に油煙付着。	古墳時代前期
第163図 P.L.49	4	土師器 S字状口 縁台付罌	覆土 胴部下端～脚 部	口径 - 底径 10.4 高さ (7.1)	①微・細砂粒少量 ②酸化鉛 ③にぶい黄橙色	脚部刷毛目後撫で、内面脚部指撫で、一部指頭痕。	古墳時代前期
第163図 P.L.49	5	土師器 罌	覆土 口縁～胴部 上端片	口径 19.0 底径 - 高さ (6.9)	①微・細砂粒少量 ②酸化鉛 ③褐色	胴部は貼付。外面口縁～胴部上端刷毛目。内面口縁部刷毛目、胴部上端刷毛目後指撫で、内外面に油煙付着。	古墳時代前期
第163図 P.L.49	6	土師器 罌	覆土 口縁下位～ 胴部上端1/4	口径 - 底径 - 高さ (6.7)	①微・細砂粒少量 ②酸化鉛 ③にぶい橙色	胴部は貼付。外面口縁部見寄き、胴部横撫で、胴部上端見寄き。内面口縁部見寄き。胴部は棒状工具による撫で、一部指頭痕。内外面に油煙付着。	古墳時代前期
第163図 P.L.49	7	土師器 罌	覆土 口縁～胴部 上位1/3	口径 (18.6) 底径 - 高さ (10.4)	①微・細砂粒少量 ②酸化鉛 ③にぶい黄橙色	胴部は貼付。外面口縁部上位横撫で、口縁部下位～胴部横撫で、胴部上位斜め削り。内面口縁部上位横撫で、口縁部下位～胴部見寄きで、胴部上位指撫で、一部指頭痕。内外面に一部油煙付着。	古墳時代前期
第163図 P.L.49	8	土師器 罌	覆土 ほぼ完形	口径 14.4 底径 6.4 高さ 29.4	①細砂粒多量 ②酸化鉛 ③明黄褐色	折り返し口縁。胴部で接合。外面口縁部上位横撫で、口縁部下位～胴部刷毛目後撫で、内面口縁部刷毛目後撫で、胴～底部横撫で。	古墳時代前期

1区 10号土坑

検出番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第163回 P.L.50	9	土師器 甕	覆土 ほぼ定形	口径 10.7 底径 6.7 高さ 23.1	①細砂粒多量 ②酸化塩 ③棕色	外面口縁部刷毛目焼撫で、胴部は焼磨き。 内面口縁部上位横撫で、口縁部下位刷毛目。 胴部上位撫で、胴部下位～底部刷毛目。	古墳時代前期
第163回 P.L.50	10	土師器 甕	覆土 口径部1/3	口径 (8.9) 底径 - 高さ (1.3)	①微・細砂粒少量 ②酸化塩 ③にぶい黄褐色	口唇部刷毛目焼撫で、折り返し口縁外側 左方向撫で。内面左方向に重撫で。	古墳時代前期
第163回 P.L.50	11	土師器 甕台	覆土 ほぼ定形	口径 6.1 底径 6.5 (脚 高さ 6.8	①微・細砂粒少量 ②酸化塩 ③にぶい黄褐色	底部焼成前穿孔。胴部の内形透かしの3ヶ所 確認。外面口縁～胴部撫で後見磨き。内面 口縁～底部撫で、脚部刷毛目焼撫で。	古墳時代前期

1区 12号土坑

検出番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第165回 P.L.50	1	土師器 杯	覆土 杯～底部 1/5	口径 (12.3) 底径 - 高さ (6.0)	①細砂粒多量 ②酸化塩 ③明赤褐色	外面口縁部横撫で、胴～底部周回り後撫で。 内面口縁部横撫で。	

1区 13号土坑

検出番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第166回 P.L.50	1	須恵器 類	覆土 口縁片	口径 - 底径 - 高さ (4.5)	①微砂粒少量 ②還元塩 ③灰色	内外面口縁部は回転撫で。	
第167回 P.L.50	2	土師器 坏	覆土 胴～底部 2/3	口径 - 底径 - 高さ (3.5)	①- ②- ③-	外面胴～底部焼磨り。内面胴～底部横撫で 後見磨き。	6世紀後半
第167回 P.L.50	3	土師器 甕	覆土 口縁下位～胴部 1/3	口径 - 底径 - 高さ (17.6)	①細砂粒多量 ②酸化塩 ③にぶい褐色	胴部で接合。外面口縁部下位横撫で、胴部 横撫で、一部刷毛目～指頭痕。内面口縁部下 位横撫で、胴部横撫で、一部刷毛目。	

1区 15号土坑

検出番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第169回 P.L.50	1	土師器 かわらけ	覆土 口縁～体部片 1/4	口径 (5.3) 底径 - 高さ (3.9)	①細砂粒多量 ②酸化塩 ③淡黄色	右回転刷毛目整形。	胎土に角閃石あり 中世
第169回 P.L.50	2	石製器 板碑	覆土 破片	長さ 15.5 幅 10.4 厚さ 1.5	緑色片岩 360	碑面磨成のため、種子等はみられない。裏 面縁に横方向の磨痕あり。	中世
第170回 P.L.50	3	石製器 板碑	覆土 破片	長さ 24.9 幅 11.9 厚さ 2.3	緑色片岩 1170	碑面に傷痕の「世・穴」が残る。No. 4の 板碑と同一個体。	中世
第170回 P.L.50	4	石製器 板碑	覆土 破片	長さ 21.3 幅 9.9 厚さ 2.4	緑色片岩 860	碑面に傷痕の「光の一部・明・漏の一部」 が残る。表面磨痕あり。No. 3の板碑と同 一個体。	中世
第170回 P.L.50	5	石製器 板碑	覆土 破片	長さ 18.4 幅 11.5 厚さ 1.8	黒色片岩 600	碑面に「二月日」の供養日付あり。	中世
第171回 P.L.51	6	石器 特製焼き白	覆土 上白 平欠	長さ 27.3 幅 14.8 厚さ 10.1	粗粒輝石安山岩 4200	残存部に浅き手構造なし。供給口と芯棒受 けの孔が半分残る。下面の目は4分銅、面 積は6本で接合部は磨削している。	中世

遺物観察表

1区 17号土坑

採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第173図 P.L.51	1	土師器 環	覆土 口縁～底部 3/4	口径 11.1 底径 8.0 高さ 5.3	①微砂粒少量 ②酸化塩 ③にぶい褐色	外面口縁部横撫で、胴部指撫で、底部荒削り後指撫で。内面口縁部横撫で、胴～底部見撫で。	
第173図 P.L.51	2	土師器 甕	覆土 口縁～胴部 上端1/3	口径 (21.0) 底径 - 高さ (6.4)	①微砂粒少量 ②酸化塩 ③にぶい黄褐色	外面口縁部横撫で、胴部上端荒削り。内面口縁部横撫で、胴部上端見撫で。	古墳時代後期
第173図 P.L.51	3	土師器 高環	覆土 胴部4/5	口径 - 底径 - 高さ (11.9)	①微砂粒少量 ②酸化塩 ③にぶい褐色	外面胴部上位見撫で、胴部下位撫で。内面胴部上位見撫で、一部輪横撫、胴部下位撫で。	

1区 18号土坑

採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第175図 P.L.51	1	土師器 甕	覆土 胴部中央～ 底部3/4	口径 - 底径 7.4 高さ 16.0	①微砂粒少量 ②酸化塩 ③褐色	内面胴部中央～底部見撫で、一部輪横撫が残る。	古墳時代前期

1区 19号土坑

採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第176図 P.L.51	1	土師器 環	覆土 口縁～底部 1/5	口径 (11.0) 底径 - 高さ (3.0)	①微砂粒少量 ②酸化塩 ③にぶい褐色	外面口縁部横撫で、胴～底部荒削り。内面口縁～胴部横撫で、底部見撫で。内外面に油塗付着。	6世紀末

1区 21号土坑

採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第178図 P.L.51	1	土師器 環	覆土 口縁～胴部 1/5	口径 (15.4) 底径 - 高さ (3.9)	①細・粗砂粒少量 ②酸化塩 ③褐色	外面口縁部横撫で、胴部荒削り。内面口縁～胴部上位横撫で、胴部下位撫で。	8世紀前半
第179図 P.L.51	2	土師器 環	覆土 口縁～底部 2/3	口径 (10.0) 底径 (6.4) 高さ 4.5	①細・微砂粒少量 ②酸化塩 ③にぶい褐色	外面口縁部横撫で、胴部指撫で、指頭部、底部木葉痕。内面口縁～底部横撫で、底部に胴部との接合痕あり。底部見撫で。	
第179図 P.L.51	3	土師器 甕	覆土 口縁～胴部上 位1/5	口径 (9.5) 底径 - 高さ (6.5)	①細・微砂粒少量 ②酸化塩 ③褐色	外面口縁部横撫で、一部指頭部、胴部上端見撫削り。内面口縁部横撫で、胴部上端見撫で、一部輪横撫。	平安時代

1区 2号溝

採掘番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第185図 P.L.51	1	土器 かわらけ	覆土 一部欠損	口径 6.3 底径 3.1 高さ 2.6	①細・微砂粒少量 ②酸化塩 ③にぶい褐色	灯明皿。右回転轆轤整形。口縁部に黒色テール状の付着物2カ所。底部は回転切り後に整形。	中世
第185図 P.L.51	2	土器 かわらけ	覆土 ほぼ整形	口径 (6.1) 底径 4.5 高さ (2.1)	①細・微砂粒少量 ②酸化塩 ③にぶい褐色	轆轤整形。回転方向不明。外面底部は圧痕。	中世
第185図 P.L.51	3	軟質陶器 すり鉢	覆土 胴部下端～底 部	口径 - 底径 (15.0) 高さ (4.4)	①細・微砂粒少量 ②還元 ③灰黄色	すり目は7本の歯で施染。断面中心黒褐色。内面使用痕あり。	中世
第186図 P.L.51	4	軟質陶器 内耳鍋	覆土 口縁、胴部片	口径 - 底径 - 高さ (12.0)	①細・微砂粒少量 ②還元 ③暗灰黄色	轆轤整形。回転撫で。内耳部分に指による調整痕。断面中心黒褐色、外側暗灰黄色。	15世紀
第186図 P.L.51	5	軟質陶器 内耳鍋	覆土 口縁～底部 1/4	口径 (32.6) 底径 - 高さ 17.1	①細・微砂粒少量 ②焼し ③黒褐色	轆轤整形。回転撫で。(底部型作り、胴～口縁部縦作り成形後、轆轤整形)。底部丸底。	16世紀

1区 3号溝

採回番号 写真図版	番号	類別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第187回 P.L.52	1	土師器 坏	覆土 口縁~底部 1/6	口径 (13.0) 底径 - 高さ (2.5)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面口縁部横撫で、胴~底部削り。内面 口縁部横撫で、胴~底部撫で後放射状暗文。 内外面に油塗付着。	
第187回 P.L.52	2	土師器 坏	覆土 体部片	口径 - 底径 - 高さ (2.5)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面体部削り。内面削り?後、横撫で。 後くびれくっきり。	
第187回 P.L.52	3	土師器 高坏	覆土 脚部	口径 - 底径 (16.0) 高さ (6.4)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③浅黄褐色	脚部下に向かって、削り。胴部横撫で。 脚裏面左回りに螺旋状輪積み重ねみ上げた 状態で残。(巻き上げ)。	6世紀後半

1区 4号溝

採回番号 写真図版	番号	類別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第188回 P.L.52	1	土師器 甕	覆土 口縁~胴部 上端	口径 (18.2) 底径 - 高さ (6.7)	①細・微砂粒多量 ②酸化焰 ③褐色・黒斑	外面口縁部横撫で、胴部上端削り。内面 内面口縁部横撫で、胴部上端横撫で。	古墳時代後期
第188回 P.L.52	2	須恵器 苎	覆土 口縁部片 1/4弱	口径 (13.6) 底径 - 高さ (4.3)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	口縁内面に右回転轆轤成形。口縁部外面 に波状文。内面回転撫で。	
第188回 P.L.52	3	須恵器 甕	覆土 頸部片	口径 - 底径 - 高さ -	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	外面に17本の歯を持つ歯で波紋。2本の波 状紋の間に1本条線。内面に自然釉付着。(内 面回転撫で)。	
第188回 P.L.52	4	須恵器 小型甕	覆土 胴部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.7)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③にぶい赤褐色	右回転轆轤成形。	古墳時代後期
第188回 P.L.52	5	須恵器 平瓶?	覆土 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (11.9)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③灰キリブ	内面に当て具痕。外面に自然釉が厚く付着。	
第188回 P.L.52	6	陶器 不明	覆土 体部片	口径 - 底径 - 高さ (4.1)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	轆轤整形。回転方向不明。内面灰釉。	古瀬戸
第188回 P.L.52	7	軟質陶器 始治	覆土 口縁~底部片 1/4	口径 (38.6) 底径 (29.6) 高さ 7.0	①細・微砂粒多量 ②焼し ③黒褐色	轆轤整形。回転撫で。(底部型作り、胴~口 縁部巻上げ成型後、轆轤整形)。胴部に左回 転成形痕あり。内耳部分外側に突出。	中世
第188回 P.L.52	8	軟質陶器 始治	覆土 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (6.2)	①細・微砂粒少量 ②焼し ③黒褐色	轆轤整形。回転撫で。(底部型作り、胴~口 縁部巻上げ成型後、轆轤整形)。	中世
第188回 P.L.52	9	(土製品) 羽口	覆土 脚部 縦割り片	外径 5.0 内径 1.1 高さ (12.0)	①粗・細砂粒多量 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	図面下方に2次的な加熱による還元焼成痕 あり。図内傾上方縦方向に条痕、下方横 方向に条痕あり。	
採回番号 写真図版	番号	類別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量(g)	特徴	備 考
第189回 P.L.52	10	石器 磨石鉢	覆土	長さ 13.8 幅 10.6 厚さ 7.0 凹み 1.1	経石 485	表面中央に楕円形の凹みが穿たれている。 表面は磨き面が残る。	H-r-FP 磨石?
第189回 P.L.52	11	石器 五輪塔	覆土 木輪	縦 21.8 幅 21.3 厚さ 14.5	粗粒輝石安山岩 8100	全体に荒い彫痕が残る。上面と下面に全体 に荒い彫痕が残る。縁から中央に向かって 全体的に凹む。	中世
第190回 P.L.52	12	石器 五輪塔	覆土 空・風輪	長さ 27.1 幅 15.7 厚さ 13.7	粗粒輝石安山岩 8000	全体に荒い彫痕が残る。空輪と風輪の間に 彫痕が残る。	中世

遺物観察表

1区 5号溝

採回番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第190図 P.L.53	1	土師器 罍	覆土 口縁部片	口径 (9.0) 底径 - 高さ (5.2)	①粗・微砂粒少量 ②酸化塩 ③にぶい黄褐色	内外面口縁部横撫で。(胴体は口縁部のみ)。	古墳時代後期

1区 1号掘立柱建物

採回番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第194図 P.L.53	1	土師器 坏	口縁部下位～ 胴部1/6	口径 (12.6) 底径 (10.6) 高さ (2.0)	①粗・微砂粒少量 ②酸化塩 ③灰褐色	外面口縁部下位横撫で、胴部巻削り。内面口縁部横撫で、胴部撫で。	P2から出土

1区 51号ピット

採回番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第197図 P.L.53	1	土師器 罍	覆土 口縁～胴部 上位1/6	口径 (24.4) 底径 - 高さ (15.8)	①微・細砂粒多量 ②酸化塩 ③黄褐色	外面口縁部横撫で、胴部上面横巻削り。胴部上位斜め磨削り。内面口縁部横撫で、胴部上位磨削り。	奈良・平安時代

1区 53号ピット

採回番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第197図 P.L.53	1	須恵器 甕	覆土 天井部～口縁 部1/6	口径 (10.0) 底径 - 高さ (2.3)	①微砂粒少量 ②還元塩 ③灰黄色	轆轤整形。外面天井部上位回転磨削り。天井部下位～口縁部回転撫で。内面天井部～口縁部回転撫で。	8世紀

遺構外

採回番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第198図 P.L.53	1	須恵器 坏	覆土 口縁～底部 4/5	口径 11.9 底径 5.1 高さ 3.9	①粗・微砂粒多量 ②酸化塩 ③橙褐色	轆轤整形。外面口縁～胴部回転撫で、底部撫で。内面口縁～底部回転撫で。	平安時代後期
第198図 P.L.53	2	須恵器 碗	覆土 胴下位～高台 部上位3/4	口径 - 底径 (7.0) 高さ (1.6)	①粗・微砂粒少量 ②酸化塩 ③明褐色	右回転、轆轤整形。外面胴部下位は回転撫で、底部回転糸切り後高台貼付。内面胴部下位～底部回転撫で。	
第198図 P.L.53	3	須恵器 碗	覆土 胴下位～高台 部3/4	口径 (10.7) 底径 6.4 高さ (3.2)	①粗・微砂粒少量 ②還元塩 ③にぶい黄褐色	右回転、轆轤整形。外面胴部下位回転撫で、底部回転糸切り後高台貼付。内面胴部下位～底部回転撫で。内外面に油煙付着。	
第198図 P.L.53	4	陶器 碗	覆土 高台部	口径 - 底径 4.2 高さ (1.8)	①微砂粒少量 ②還元塩 ③灰白色	右回転轆轤整形。右回転巻削りによる高台削り出し。内面黒色鉄銹。天目。	瀬戸・美濃
第198図 P.L.53	5	土師器 小型罍	覆土 口縁～底部 1/4	口径 (13.2) 底径 - 高さ (8.5)	①粗・微砂粒多量 ②酸化塩 ③橙褐色	内外面口縁部横撫で、胴～底部磨削り。	
第198図 P.L.53	6	土師器 小型罍	覆土 口縁～底部 1/2	口径 (11.5) 底径 4.8 高さ 12.8	①粗・微砂粒多量 ②酸化塩 ③にぶい橙褐色	口縁部横撫で、胴～底部磨削り。内面口縁部横撫で、胴～底部磨削り。胴部に輪痕。外面に油煙付着。二次炎を受けている。	5世紀後半
第198図 P.L.53	7	土師器 罍	覆土 口縁部下位～ 胴部中央1/4	口径 (28.5) 底径 - 高さ -	①粗・微砂粒多量 ②酸化塩 ③にぶい橙褐色	外面口縁部下位撫で、胴部磨削り。内面口縁部下位撫で、胴部横撫で、一部輪横撫で。	
第198図 P.L.53	8	土師器 罍	覆土 口縁～胴部上 位片	口径 (21.8) 底径 - 高さ (11.3)	①粗・微砂粒少量 ②酸化塩 ③橙褐色	外面口縁部横撫で、胴部上位横巻削り。内面口縁部横撫で、胴部上位磨削り。	奈良・平安時代

遺構外

採回番号 写真図版	番号	種別 砂椋	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第198回 P.L.53	9	土師器 甕	覆土 胴部下端～底 部2/3	口径 (14.2) 底径 (7.0) 高さ (3.0)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③淡黄色	外面胴部下端撫で、底部木葉状。内面胴部 下端～底部指撫で。	
第198回 P.L.53	10	土師器 甕	覆土 胴部下端～底 部1/2	口径 - 底径 (5.8) 高さ 3.0	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	底部外面木葉状。外面胴部下端荒削り、底 部木葉状。胴部下端～底部指撫で。	
第199回 P.L.53	11	須恵器 甕	覆土 口縁片	口径 - 底径 - 高さ (8.3)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	右回転轆轤整形。胴部外面に平行条線で区 切り、波状文と斜め条線あり。	
第199回 P.L.53	12	須恵器 甕	覆土 口縁片	口径 - 底径 - 高さ (8.4)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③黄灰色	左回転轆轤整形。胴部外面に平行条線で区 切り、波状文あり。口唇部波状文あり。胴 部内部にぶい橙色。	
第199回 P.L.53	13	土師器 埴	覆土 口縁部下端～ 底部	口径 - 底径 3.2 高さ (7.0)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部貼付。外面口縁部下端～胴部中央腹磨 き、胴部下位側磨削り。内面口縁部下端撫 で、胴～底部指撫で。	5世紀前半
第199回 P.L.53	14	土師器 埴	覆土 胴部～底部	口径 - 底径 2.3 高さ (6.4)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部貼付。外面胴～胴部腹削り後腹磨き、 底部撫で。内面胴部撫で、胴～底部指撫 で、一部指磨削。	5世紀前半
第199回 P.L.53	15	土師器 埴	覆土 胴部～底部	口径 - 底径 2.6 高さ (5.7)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部貼付。外面胴部上位腹削り後撫で、胴 部下位～底部腹削り。内面胴～底部指撫 で、一部指磨削。	5世紀前半
第199回 P.L.53	16	土師器 埴	覆土 胴部～底部	口径 - 底径 3.1 高さ (5.5)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部貼付。外面胴～胴部中央腹削り後腹磨 き、胴部下位～底部腹削り。内面胴～底部 撫で。	5世紀前半
第199回 P.L.53	17	土師器 埴	覆土 口縁部下位～ 底部4/5	口径 - 底径 2.3 高さ (5.0)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部接合。外面口縁部下位～胴部上端腹削 り後腹磨き、胴部中央～底部腹削り。内面 口縁部撫で、胴～底部撫で。	5世紀前半
第199回 P.L.54	18	土師器 高坏	覆土 口縁～脚部 3/4	口径 (17.9) 底径 (15.2) 高さ 16.5	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	底部及び脚部下位は接合。外面口縁部横撫 で、胴～脚部撫で後腹磨き、脚部下端撫 で。内面口縁部横撫で、胴～脚部撫で。	裾部の段は上部接合 面を斜めに横撫で整 形後接合
第199回 P.L.54	19	土師器 高坏	覆土 胴～脚部 3/4	口径 - 底径 (12.0) 高さ (12.0)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	底部と脚部は接合。外面胴～脚部腹削り後 腹磨き、胴部下端撫で。内面胴～底部撫 で、脚部腹撫で。	古墳時代前期
第199回 P.L.54	20	土師器 高坏	覆土 坏・胴一部欠 損	口径 - 底径 (12.2) 高さ (11.7)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③橙色	脚部腹削り後腹磨き。胴裏縁目あり。 裾部横撫で。	古墳時代前期
第199回 P.L.54	21	土師器 高坏	覆土 胴部下位～ 脚部 2/3	口径 - 底径 - 高さ (7.5)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③橙色	底部と脚部接合。外面胴部下位撫で、脚部 上位腹削り後腹磨き、脚部下端撫で。内 面胴～底部撫で、脚部上位撫で、脚部下 位撫で、脚部下端撫で。	古墳時代前期
第199回 P.L.54	22	土師器 高坏	覆土 脚部上位	口径 - 底径 - 高さ (8.9)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③橙色	外面脚部上位撫で後腹磨き。内面脚部上位 指撫で。	古墳時代前期
第199回 P.L.54	23	土師器 高坏	覆土 脚部上位	口径 - 底径 - 高さ (5.0)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	脚部に2孔?。外面脚部上位腹磨き。内面 脚部上位腹撫で。	古墳時代前期
第199回 P.L.54	24	土器 かわらけ	覆土 ほぼ正形	口径 5.7 底径 4.6 高さ 2.0	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤整形。回転方向不明。口縁部に黒色ク ール状の付着物3ヶ所。底部内面指磨削、 外面圧痕。	古墳時代前期

遺物観察表

遺構外

探区番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法の特徴	備 考
第199図 P.L.54	25	土器 管塔	覆土 胴部片	口径 - 底径 (22.2) 高さ (7.8)	①細・微砂粒少量 ②焼し ③黒褐色	轆轤整形。回転製で。(底部型作り、胴-口縁部巻上げ成型後、轆轤整形)。	15世紀
第199図 P.L.54	26	土器 管塔	覆土 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (6.7)	①細・微砂粒少量 ②焼し ③黒褐色	轆轤整形。回転製で。	15世紀
第200図 P.L.54	27	須恵器 横板	覆土 口縁~胴部 上位1/2	口径 12.5 底径 - 高さ (12.0)	①粗・細砂粒多量 ②還元焼 ③灰黄色	胴部接合。外面口縁部回転製で、胴部上位指撫で、内面口縁部回転製で、胴部上位指撫で、一部指頭痕。	奈良時代
探区番号 写真図版	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量(g)	特徴	備 考
第200図 P.L.54	28	石器 石匙	覆土 完形	長さ 6.9 幅 2.4 厚さ 1.0	ホルンフェルス 13.1		縄文時代早期

報告書抄録

書名ふりがな	つかばたけいせき、みやうちいせき、いなりまえいせき、みしまぎいせき、じょうのうちいせき
書名	塚田遺跡、宮内遺跡、稲荷前遺跡、三島本遺跡、城ノ内遺跡
副書名	東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅱ
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	360
編著者名	塚山邦幸 / 渡辺弘幸
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20060131
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2

遺跡名ふりがな	つかばたけいせき
遺跡名	塚田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしおおあぎにしほんちよう
遺跡所在地	群馬県太田市大字西本町
市町村コード	10205
遺跡番号	T-0406
北緯(日本測地系)	361720
東経(日本測地系)	1392206
北緯(世界測地系)	361731
東経(世界測地系)	1392154
調査期間	20010928-20011228
調査面積	1316
調査原因	太田駅付近連続立体交差化
種別	集落
主な時代	古墳 / 奈良・平安 / 中近世
遺跡概要	包含層-古墳-土器 / 集落-奈良・平安-竪穴住居7+側立柱建物1+欄列2+土坑13+ピット40+溝1-土器+鉄器 / 集落-中・近世-溝2+井戸1+土坑1-土器+陶磁器
特記事項	特になし

遺跡名ふりがな	みやうちいせき
遺跡名	宮内遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしおおあぎほんちよう、はまちよう
遺跡所在地	群馬県太田市大字本町、浜町
市町村コード	10205
遺跡番号	0381
北緯(日本測地系)	361727
東経(日本測地系)	1392244
北緯(世界測地系)	361738
東経(世界測地系)	1392232
調査期間	20000619-20001231 / 20030203-20030303
調査面積	1193
調査原因	太田駅付近連続立体交差化
種別	集落
主な時代	古墳 / 奈良・平安 / 中近世
遺跡概要	包含層-縄文-縄文土器+石器 / 集落-古墳-竪穴住居18+竪穴伏遺構1+土坑36+ピット+土器+石器 / 集落-奈良・平安-側立柱建物2+欄列2-土器 / 集落-中・近世-土坑46+溝6-土器+陶磁器
特記事項	特になし

道路名ふりがな	いなりまえいせき
道路名	稲荷前道路
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしおおあざにしほんちょう
道路所在地	群馬県太田市大字西本町
市町村コード	10205
道路番号	0382
北緯(日本測地系)	361730
東経(日本測地系)	1392215
北緯(世界測地系)	361741
東経(世界測地系)	1392203
調査期間	20000701 - 20001106
調査面積	60
調査原因	太田駅付近連続立体交差化
種別	気落
主な時代	古墳・奈良・平安/中近世
道路概要	気落-平安-住居1+土器/集落-近世-土坑1+溝1-陶磁器
特記事項	特になし

道路名ふりがな	みしまぎいせき
道路名	三島本道路
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしおおあざにしほんちょう
道路所在地	群馬県太田市大字西本町
市町村コード	10205
道路番号	0383
北緯(日本測地系)	361737
東経(日本測地系)	1392238
北緯(世界測地系)	361748
東経(世界測地系)	1392146
調査期間	20001101 - 20010331
調査面積	466
調査原因	太田駅付近連続立体交差化
種別	気落
主な時代	古墳・奈良・平安/中近世
道路概要	集落-縄文-土坑1-縄文土器/集落-奈良・平安-住居1+土坑1+溝3-土器+鉄器/集落-中・近世-掘立柱建物1+溝5+ビット-土器+陶磁器
特記事項	特になし

道路名ふりがな	じょうのうらいせき
道路名	城ノ内道路
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしおおあざおおしまち
道路所在地	群馬県太田市大字大島町
市町村コード	10205
道路番号	0193
北緯(日本測地系)	361730
東経(日本測地系)	1392253
北緯(世界測地系)	361756
東経(世界測地系)	1392141
調査期間	20001101 - 20010331
調査面積	990
調査原因	太田駅付近連続立体交差化
種別	城館
主な時代	古墳・奈良・平安/中近世
道路概要	集落-古墳-竪穴住居4+土坑28+溝1+ビット-土器+石器/集落-奈良・平安-竪穴住居2+溝1+ビット-土器/集落-中・近世-掘立柱建物3+溝7+ビット-土器+陶磁器+石製品
特記事項	大島城の堀(障子堀?)

【 写 真 图 版 】



塚畑遺跡全景（東から）



塚畑遺跡1号住居全景（南から）



塚畑遺跡2号住居全景（北から）



塚畑遺跡2号住居竈全景（西から）



塚畑遺跡2号住居竈遺物出土状況（西から）



塚畑遺跡4号住居遺物出土状況（南から）



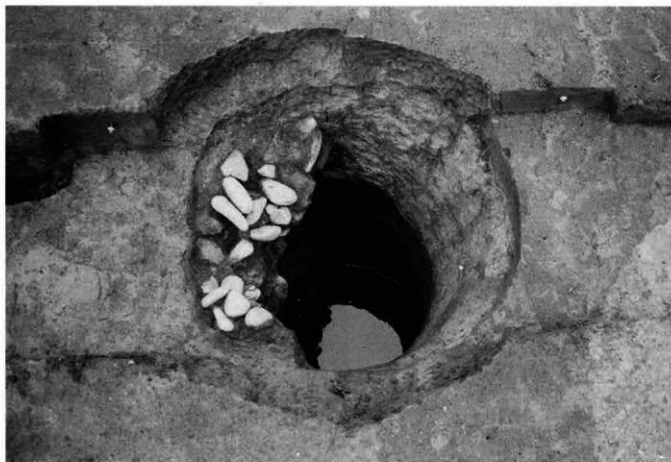
塚畑遺跡4号住居竈全景（西から）



塚畑遺跡6号住居全景 (西から)



塚畑遺跡7号住居全景 (南から)



塚畑遺跡1号井戸全景 (南から)



塚畑遺跡4号土坑全景 (南から)



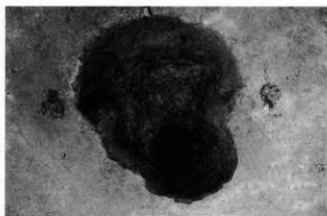
塚畑遺跡1号掘立柱建物P3・1号掘列P3全景 (北から)



塚畑遺跡12号土坑全景 (南から)



塚畑遺跡13号土坑全景 (北から)



塚畑遺跡16号土坑全景 (南から)

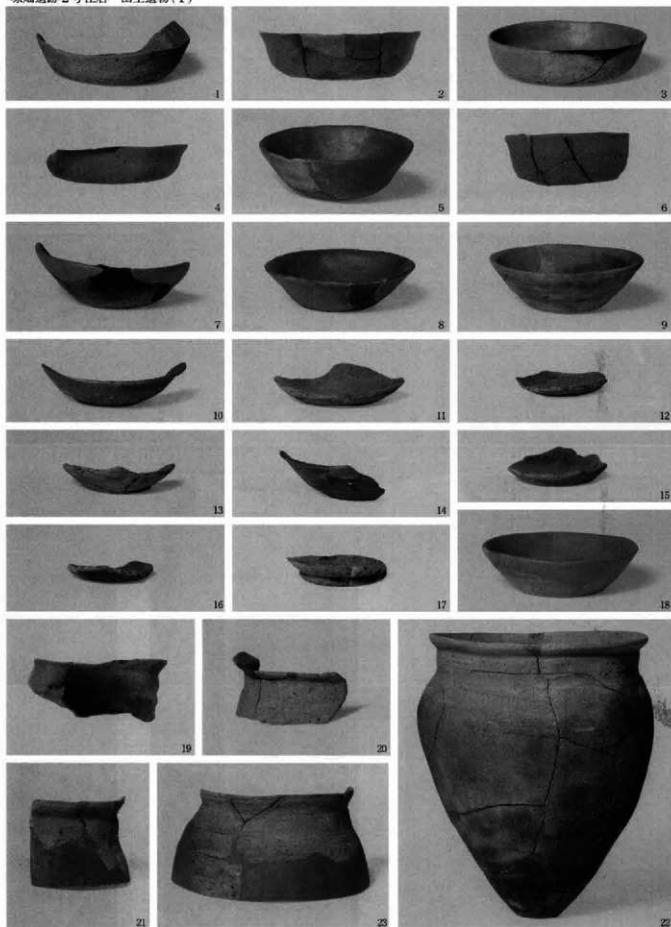


塚畑遺跡19号土坑遺物出土状況 (北から)

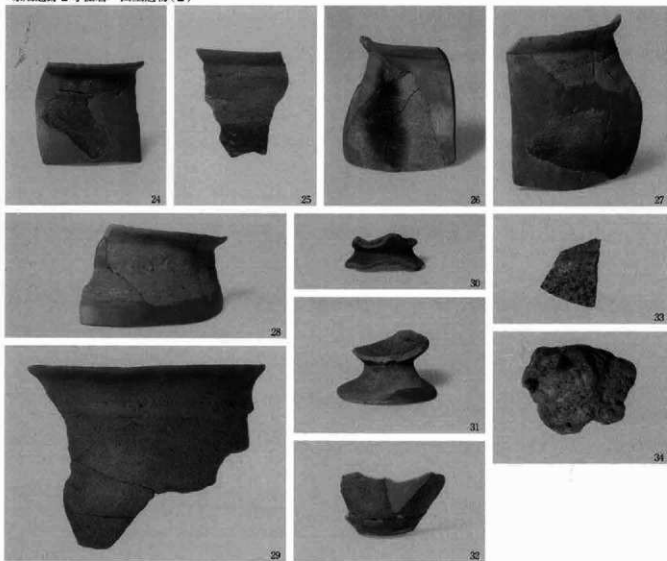


塚畑遺跡3・4号溝全景 (南から)

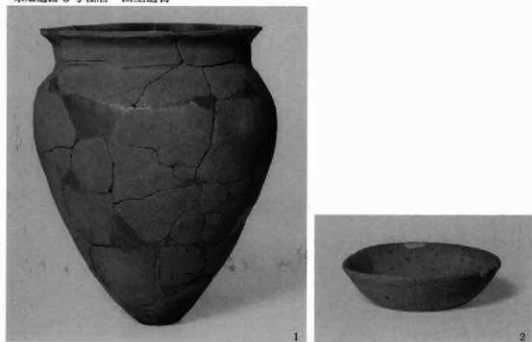
塚畑遺跡2号住居 出土遺物(1)



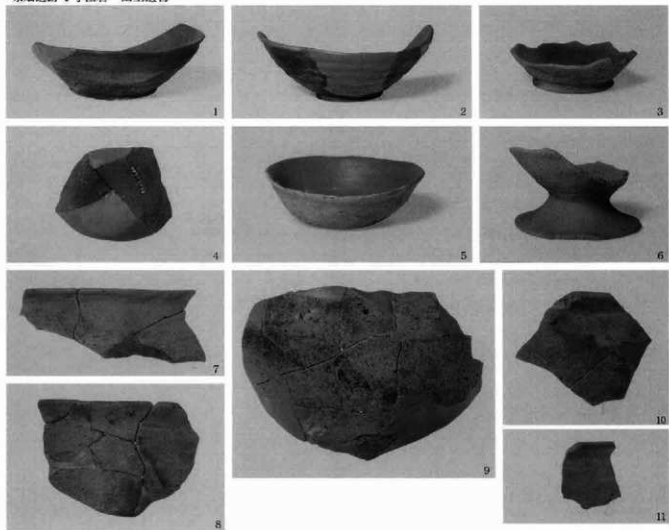
塚畑遺跡2号住居 出土遺物(2)



塚畑遺跡3号住居 出土遺物



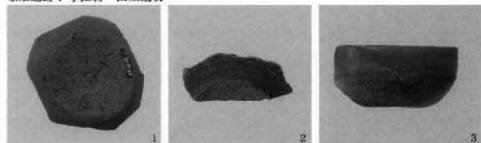
塚畑遺跡4号住居 出土遺物



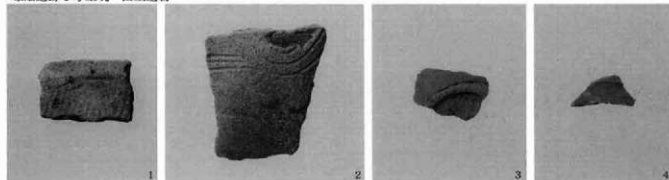
塚畑遺跡6号住居 出土遺物



塚畑遺跡7号住居 出土遺物



塚畑遺跡1号土坑 出土遺物

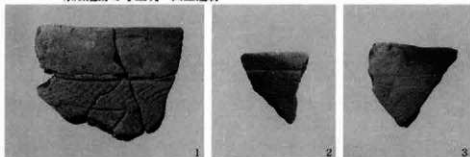


PL 8

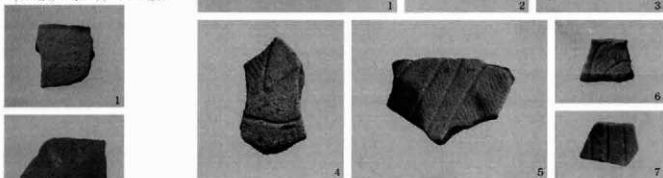
塚畑遺跡3号土坑 出土遺物



塚畑遺跡4号土坑 出土遺物



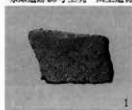
塚畑遺跡9号土坑 出土遺物



塚畑遺跡19号土坑 出土遺物



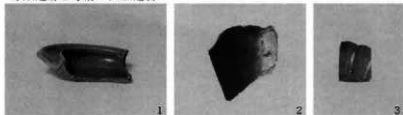
塚畑遺跡20号土坑 出土遺物



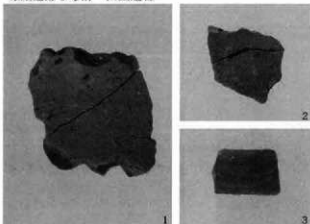
塚畑遺跡1号溝 出土遺物



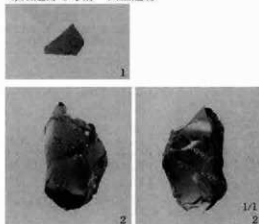
塚畑遺跡2号溝 出土遺物



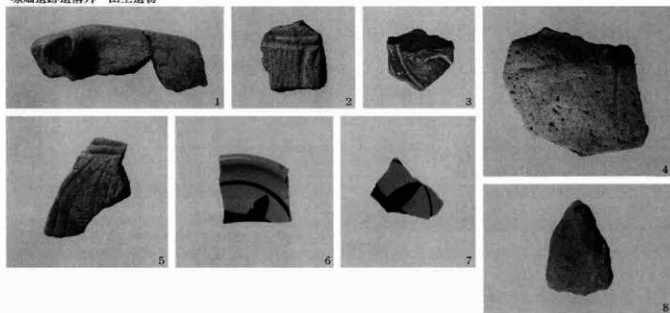
塚畑遺跡3号溝 出土遺物



塚畑遺跡4号溝 出土遺物



塚畑遺跡遺構外 出土遺物

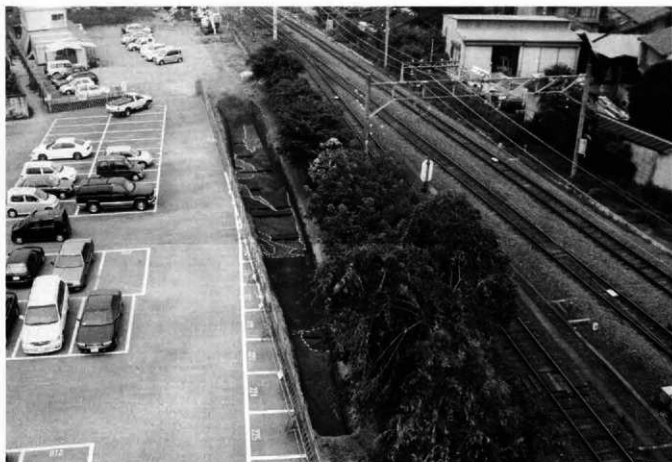




宮内遺跡周辺全景（西から）



宮内遺跡周辺全景（東から）



宮内遺跡東側全景（東から）



宮内遺跡中央部全景（西から）



宮内遺跡西側全景（東から）



宮内遺跡1区1号住居全景（北東から）



宮内遺跡1区1号住居遺物出土状況（北東から）



宮内遺跡1区1号住居遺物出土状況（南東から）



宮内遺跡1区1号住居掘り方全景（北東から）



宮内遺跡1区2・3号住居遺物出土状況 (南東から)



宮内遺跡1区2号住居掘り方全景 (南東から)



宮内遺跡1区4号住居全景 (南東から)



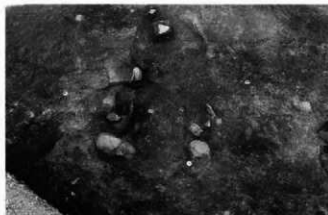
宮内遺跡1区5号住居掘り方全景 (東から)



宮内遺跡1区6号住居全景 (南東から)



宮内遺跡1区6号住居掘り方全景 (南東から)



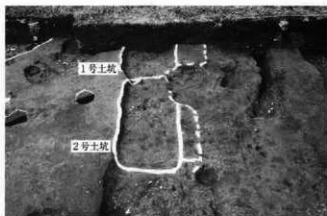
宮内遺跡1区6号住居遺物出土状況 (南東から)



宮内遺跡1区6号住居掘り方全景 (南東から)



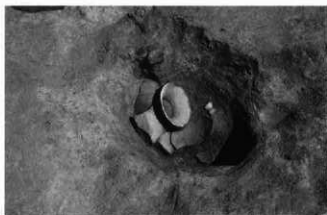
宮内遺跡1区1号堅穴状遺構全景（東から）



宮内遺跡1区1～3号土坑全景（南から）



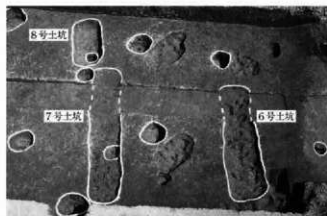
宮内遺跡1区4号土坑全景（南西から）



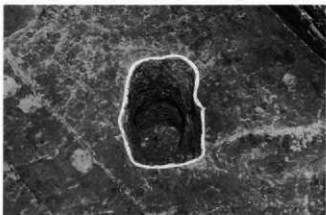
宮内遺跡1区5号土坑遺物出土状況（南から）



宮内遺跡1区5号土坑全景（北から）



宮内遺跡1区6～8号土坑全景（南から）



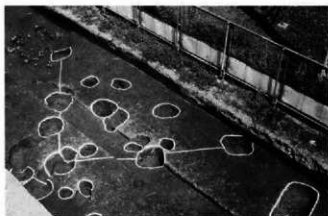
宮内遺跡1区9号土坑全景（南から）



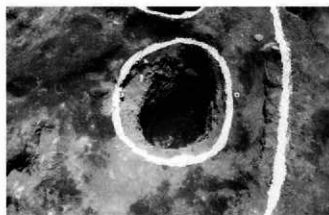
宮内遺跡1区10号土坑全景（南から）



宮内遺跡1区1・2号溝全景（東から）



宮内遺跡1区1号掘立柱建物全景（南東から）



宮内遺跡1区32号ピット全景（北から）



宮内遺跡1区33号ピット遺物出土状況（北から）



宮内遺跡1区35号ピット遺物出土状況（北西から）



宮内遺跡1区35号ピット全景（北西から）



宮内遺跡1区縄文包含層全景（南から）



宮内遺跡2区全景（東から）



宮内遺跡2区1号住居全景（北から）



宮内遺跡2区1号住居掘り方全景（北から）



宮内遺跡2区1号住居掘り方全景 (南から)



宮内遺跡2区1号住居内1号土坑全景 (南から)



宮内遺跡2区2号住居遺物出土状況 (東から)



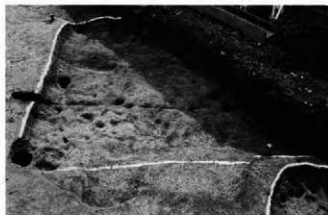
宮内遺跡2区2号住居全景 (北西から)



宮内遺跡2区2号住居掘り方全景 (北西から)



宮内遺跡2区3号住居全景 (西から)



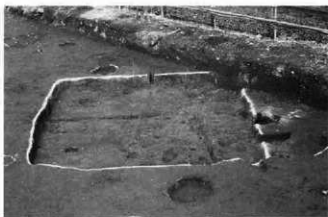
宮内遺跡2区3号住居掘り方全景 (西から)



宮内遺跡2区3号住居遺物出土状況 (西から)



宮内遺跡2区4・5号住居全景 (南東から)



宮内遺跡2区4・5号住居掘り方全景 (南東から)



宮内遺跡2区4・5号住居遺物出土状況 (南東から)



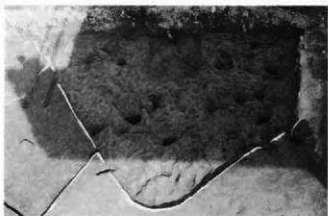
宮内遺跡2区4号住居全景 (南から)



宮内遺跡2区4号住居貯蔵穴全景 (南から)



宮内遺跡2区6号住居全景 (南東から)



宮内遺跡2区6号住居掘り方全景 (南から)



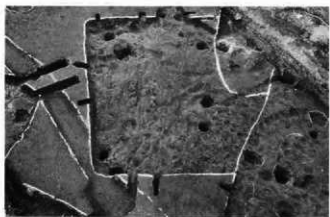
宮内遺跡2区7号住居全景 (南から)



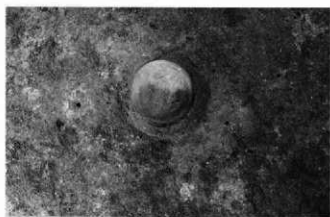
宮内遺跡2区7号住居掘り方全景 (南から)



宮内遺跡2区8号住居全景 (東から)



宮内遺跡2区8号住居掘り方全景 (東から)



宮内遺跡2区8号住居遺物出土状況 (東から)



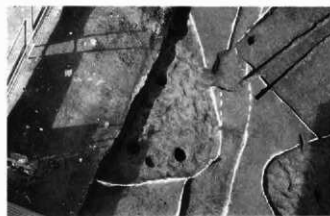
宮内遺跡2区8号住居電全景 (東から)



宮内遺跡2区8号住居掘り方全景 (東から)



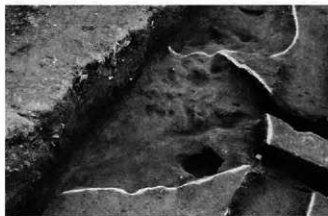
宮内遺跡2区9号住居全景 (東から)



宮内遺跡2区9号住居掘り方全景 (東から)



宮内遺跡2区10号住居全景（東から）



宮内遺跡2区10号住居掘り方全景（東から）



宮内遺跡2区10号住居遺物出土状況（東から）



宮内遺跡2区11号住居竈全景（南から）



宮内遺跡2区12号住居全景（北から）



宮内遺跡2区12号住居掘り方全景（北から）



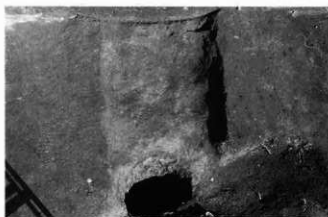
宮内遺跡2区12号住居竈全景（南から）



宮内遺跡2区12号住居竈掘り方全景（南から）



宮内遺跡2区1号土坑全景 (南から)



宮内遺跡2区2号土坑全景 (南から)



宮内遺跡2区4号土坑全景 (西から)



宮内遺跡2区5号土坑全景 (南から)



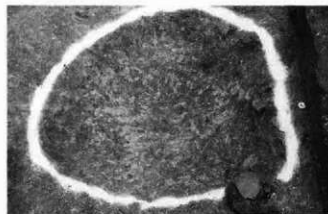
宮内遺跡2区5号土坑遺物出土状況 (東から)



宮内遺跡2区6号土坑全景 (南から)



宮内遺跡2区7号土坑全景 (南から)



宮内遺跡2区8号土坑全景 (南から)



宮内遺跡2区9号土坑遺物出土状況 (南から)



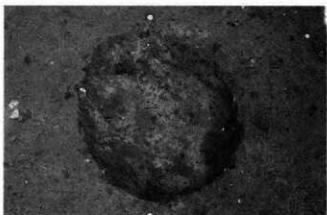
宮内遺跡2区10号土坑全景 (東から)



宮内遺跡2区11号土坑全景 (西から)



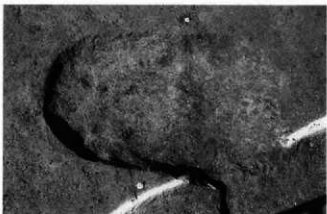
宮内遺跡2区12号土坑全景 (東から)



宮内遺跡2区13号土坑全景 (西から)



宮内遺跡2区14号土坑全景 (西から)



宮内遺跡2区15号土坑全景 (南から)



宮内遺跡2区16号土坑全景 (南から)



宮内遺跡2区1号溝全景 (南から)



宮内遺跡2区2号溝全景 (南から)



宮内遺跡2区4号溝全景 (東から)

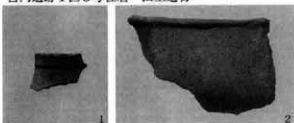
宮内遺跡1区1号住居 出土遺物



宮内遺跡1区2号住居 出土遺物



宮内遺跡1区3号住居 出土遺物



宮内遺跡1区5号住居 出土遺物



宮内遺跡1区6号住居 出土遺物



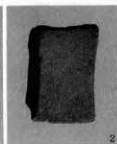
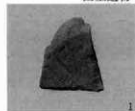
宮内遺跡1区1号壁穴状遺構 出土遺物

宮内遺跡1区2号土坑
出土遺物宮内遺跡1区4号土坑
出土遺物

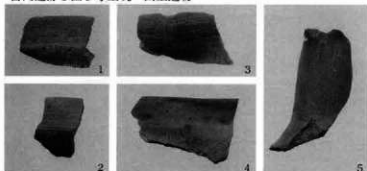
宮内遺跡1区5号土坑 出土遺物



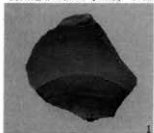
宮内遺跡1区3号土坑 出土遺物

宮内遺跡1区7号土坑
出土遺物宮内遺跡1区8号土坑
出土遺物

宮内遺跡1区9号土坑 出土遺物



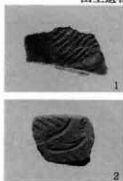
宮内遺跡1区10号土坑 出土遺物



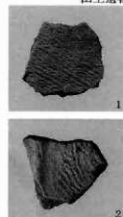
宮内遺跡1区1号溝 出土遺物



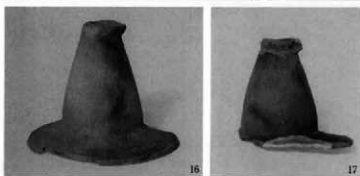
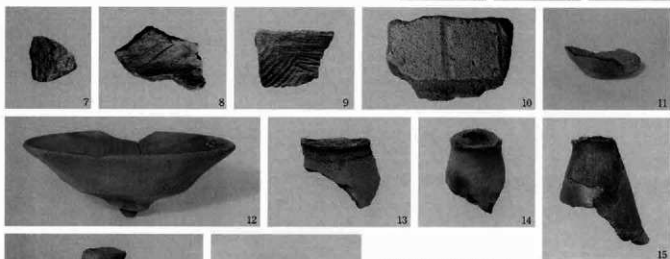
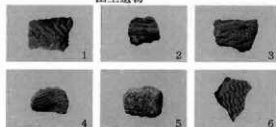
宮内遺跡1区1号柵列 出土遺物



宮内遺跡1区2号柵列 出土遺物



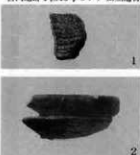
宮内遺跡1区35号ピット 出土遺物



宮内遺跡1区7号ピット 出土遺物



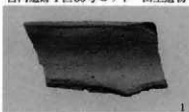
宮内遺跡1区16号ピット 出土遺物



宮内遺跡1区29号ピット 出土遺物



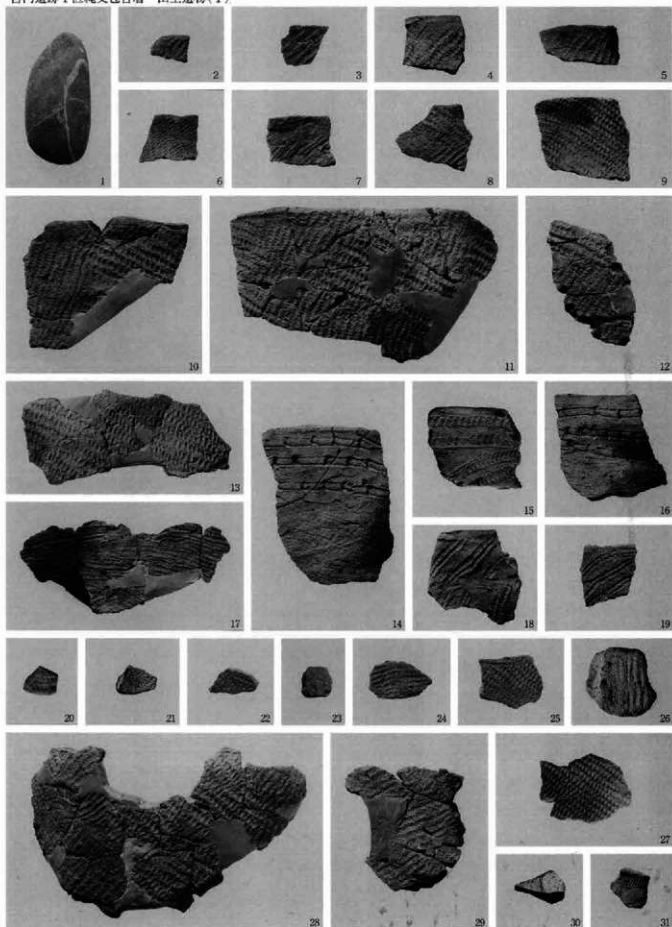
宮内遺跡1区36号ピット 出土遺物



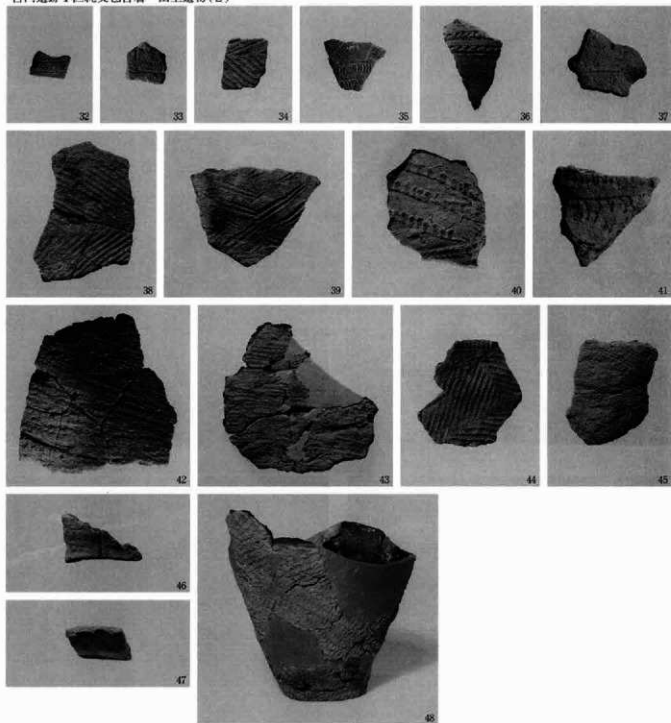
宮内遺跡1区48号ピット 出土遺物



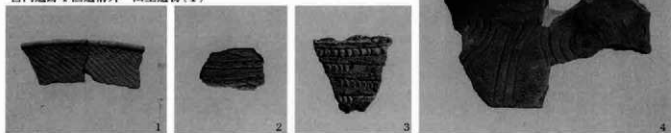
宮内遺跡1区縄文包含層 出土遺物(1)



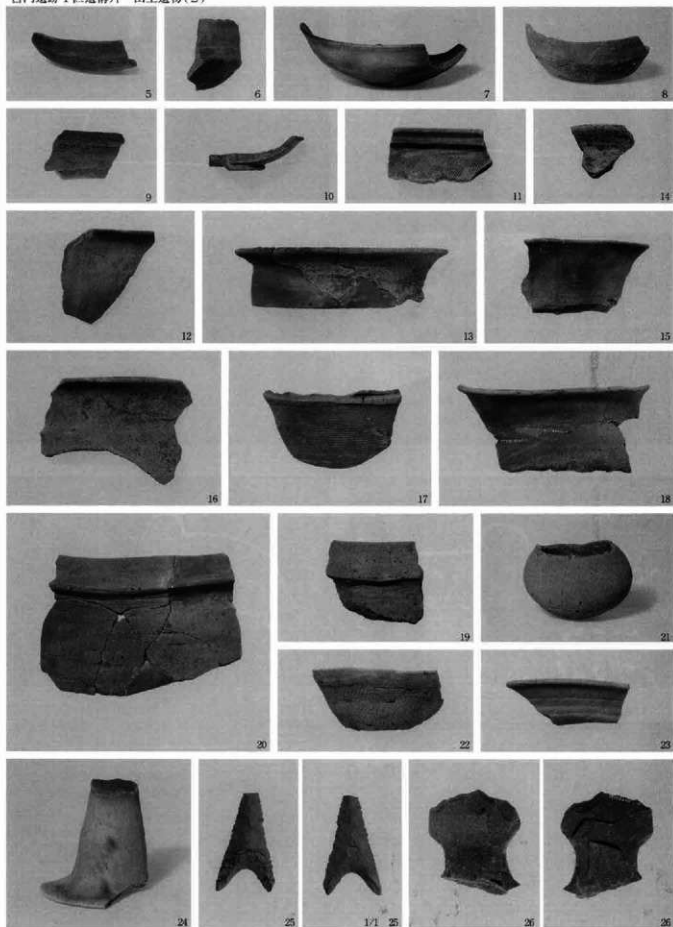
宮内遺跡1区縄文包含層 出土遺物(2)



宮内遺跡1区遺構外 出土遺物(1)

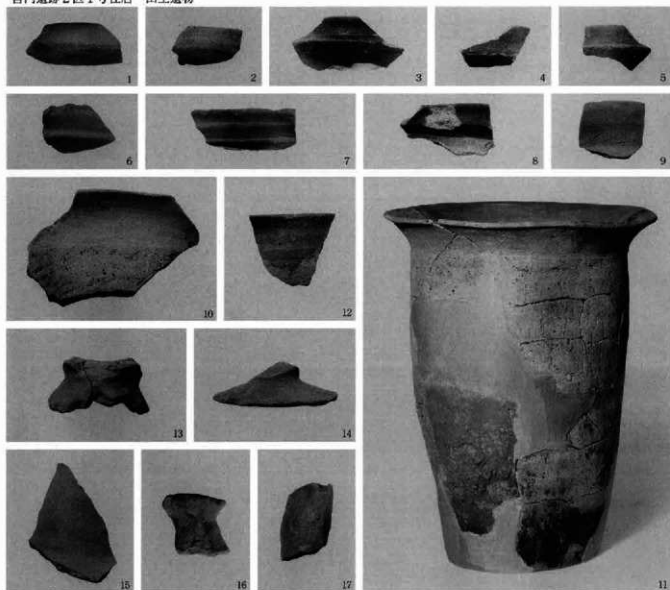


宮内遺跡1区遺構外 出土遺物(2)

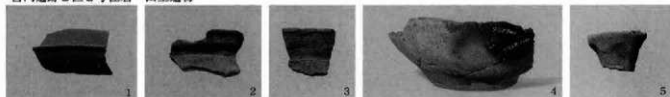


PL30

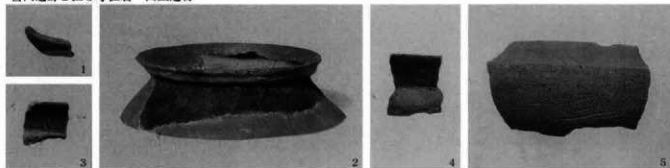
宮内遺跡2区1号住居 出土遺物



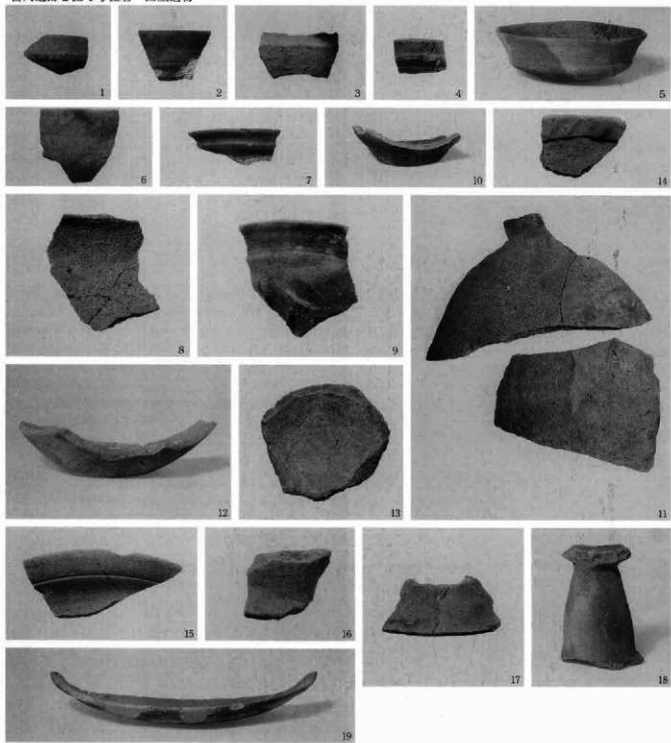
宮内遺跡2区2号住居 出土遺物



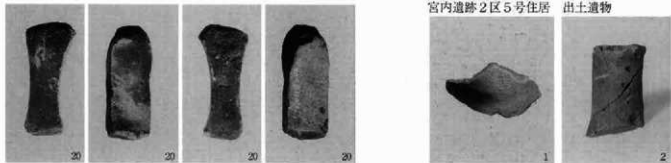
宮内遺跡2区3号住居 出土遺物



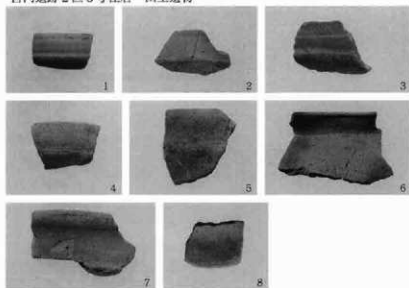
宮内遺跡2区4号住居 出土遺物



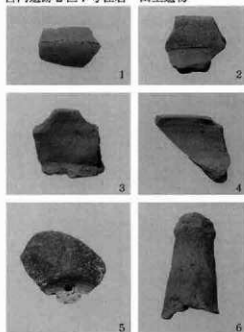
宮内遺跡2区5号住居 出土遺物



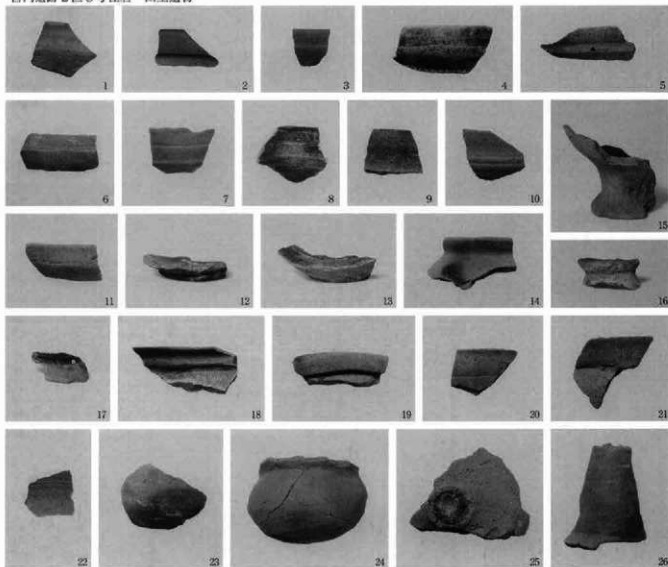
宮内遺跡2区6号住居 出土遺物



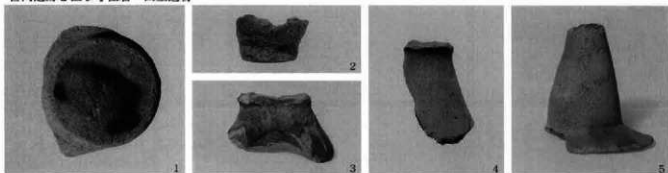
宮内遺跡2区7号住居 出土遺物



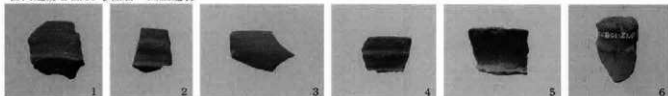
宮内遺跡2区8号住居 出土遺物



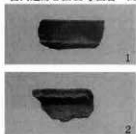
宮内遺跡2区9号住居 出土遺物



宮内遺跡2区10号住居 出土遺物



宮内遺跡2区12号住居 出土遺物



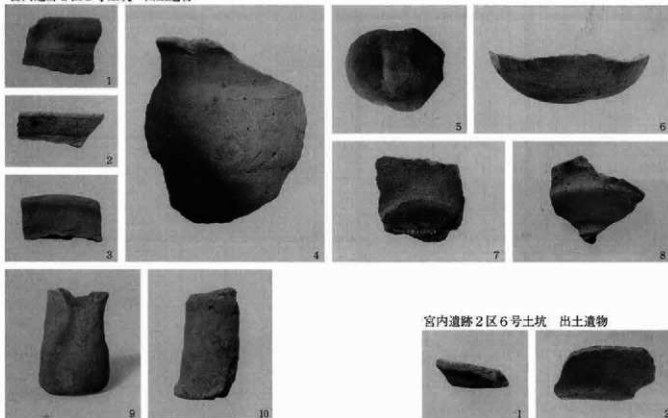
宮内遺跡2区3号土坑 出土遺物



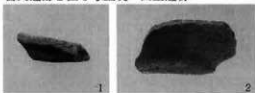
宮内遺跡2区4号土坑 出土遺物



宮内遺跡2区5号土坑 出土遺物



宮内遺跡2区6号土坑 出土遺物



宮内遺跡2区9号土坑 出土遺物



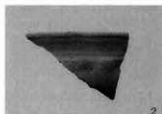
宮内遺跡2区10号土坑 出土遺物



宮内遺跡2区11号土坑 出土遺物



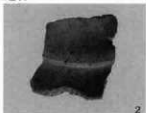
宮内遺跡2区1号溝 出土遺物



宮内遺跡2区2号溝 出土遺物



宮内遺跡2区4号溝 出土遺物



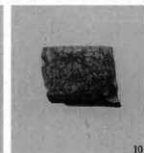
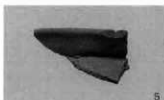
宮内遺跡2区5号ピット 出土遺物



宮内遺跡2区グリッド 出土遺物



宮内遺跡2区遺構外 出土遺物





稲荷前遺跡全景（西から）



稲荷前遺跡1号住居全景（東から）



稲荷前遺跡1号住居全景（西から）



稲荷前遺跡1号土坑全景（南から）

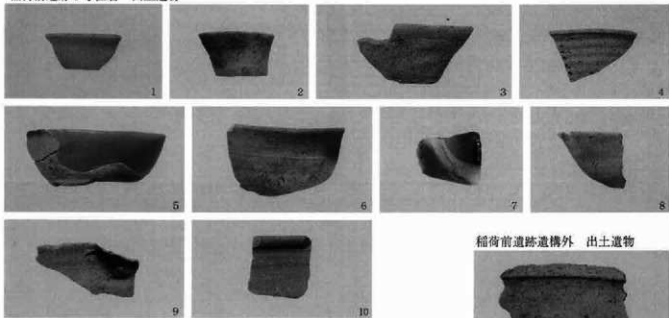


稲荷前遺跡1号溝全景（南から）



稲荷前遺跡 作業風景

稲荷前遺跡1号住居 出土遺物



稲荷前遺跡遺構外 出土遺物





三島木遺跡東側全景（北から）



三島木遺跡西側全景（南東から）



三島木遺跡1号住居掘り方全景 (西から)



三島木遺跡1号土坑全景 (東から)



三島木遺跡3号土坑遺物出土状況 (南から)



三島木遺跡4号土坑遺物出土状況 (南から)



三島木遺跡4号土坑全景 (南から)



三島木遺跡5号土坑全景 (北西から)



三島木遺跡6号土坑全景 (北西から)



三島木遺跡7号土坑全景 (南から)



三島木遺跡1・2・3号溝全景（西から）



三島木遺跡4・5号溝全景（西から）



三島木遺跡6号溝全景（東から）



三島木遺跡7・8号溝全景（北から）



三島木遺跡1号掘立柱建物全景（西から）



三島木遺跡1号掘立柱建物P2土層断面（西から）



三島木遺跡1号掘立柱建物P5土層断面（西から）



三島木遺跡東側全景（東から）

三島木遺跡4号土坑 出土遺物



三島木遺跡4号溝 出土遺物



三島木遺跡5号溝 出土遺物



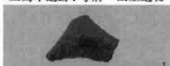
三島木遺跡6号溝 出土遺物



三島木遺跡7号土坑 出土遺物



三島木遺跡7号溝 出土遺物



三島木遺跡1号掘立柱建物 出土遺物



三島木遺跡遺構外 出土遺物





城ノ内遺跡北側全景（北から）



城ノ内遺跡北側全景（南から）



城ノ内遺跡1区1号住居掘り方全景（西から）



城ノ内遺跡1区2号住居掘り方全景（西から）



城ノ内遺跡1区3号住居掘り方全景（西から）



城ノ内遺跡1区4号住居掘り方全景（西から）



城ノ内遺跡1区5号住居掘り方全景（西から）



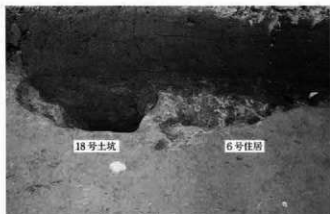
城ノ内遺跡1区5号住居掘り方全景（南西から）



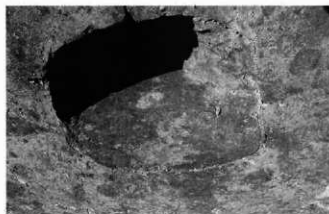
城ノ内遺跡1区5号住居掘り方全景（南から）



城ノ内遺跡1区5号住居貯蔵穴全景（西から）



城ノ内遺跡1区6号住居・18号土坑全景（東から）



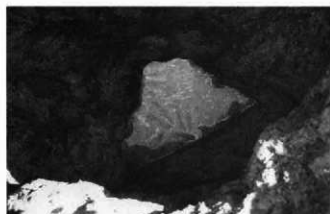
城ノ内遺跡1区3号土坑全景（南から）



城ノ内遺跡1区4・5号土坑全景（南から）



城ノ内遺跡1区6号土坑遺物出土状況（西から）



城ノ内遺跡1区9号土坑遺物出土状況（東から）



城ノ内遺跡1区9号土坑全景（北から）



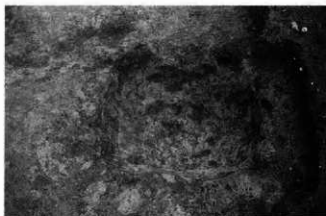
城ノ内遺跡1区10号土坑遺物出土状況（北から）



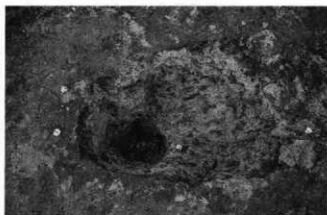
城ノ内遺跡1区15号土坑全景（西から）



城ノ内遺跡1区18号土坑全景 (東から)



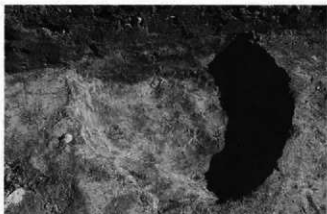
城ノ内遺跡1区19号土坑全景 (北から)



城ノ内遺跡1区20号土坑(含50号ピット)全景 (西から)



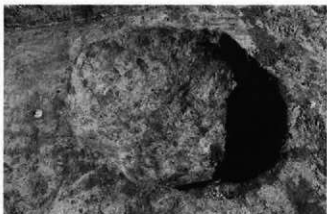
城ノ内遺跡1区25号土坑全景 (東から)



城ノ内遺跡2区26号土坑全景 (西から)



城ノ内遺跡2区27号土坑全景 (西から)



城ノ内遺跡2区29号土坑全景 (西から)



城ノ内遺跡1区30号土坑全景 (西から)



城ノ内遺跡1区1号溝全景 (西から)



城ノ内遺跡1区2号溝全景 (西から)



城ノ内遺跡1区3号溝全景 (西から)



城ノ内遺跡1区4号溝全景 (南から)



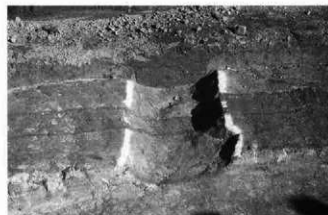
城ノ内遺跡1区5号溝全景 (西から)



城ノ内遺跡1区6号溝全景 (西から)



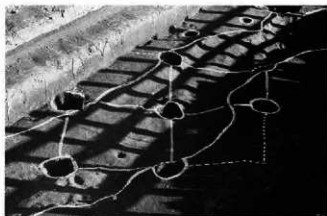
城ノ内遺跡1区7号溝全景 (北から)



城ノ内遺跡1区8号溝全景 (西から)



城ノ内道跡1区9号溝全景 (北から)



城ノ内道跡1区1号掘立柱建物全景 (北から)



城ノ内道跡1区2・3号掘立柱建物全景 (西から)

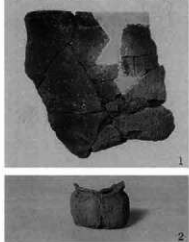


城ノ内道跡1区遺構外遺物出土状況 (西から)

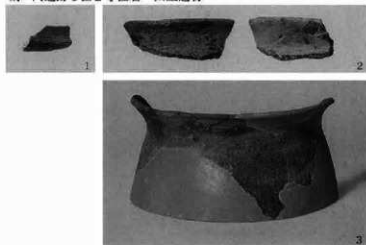


城ノ内道跡北側全景 (北から)

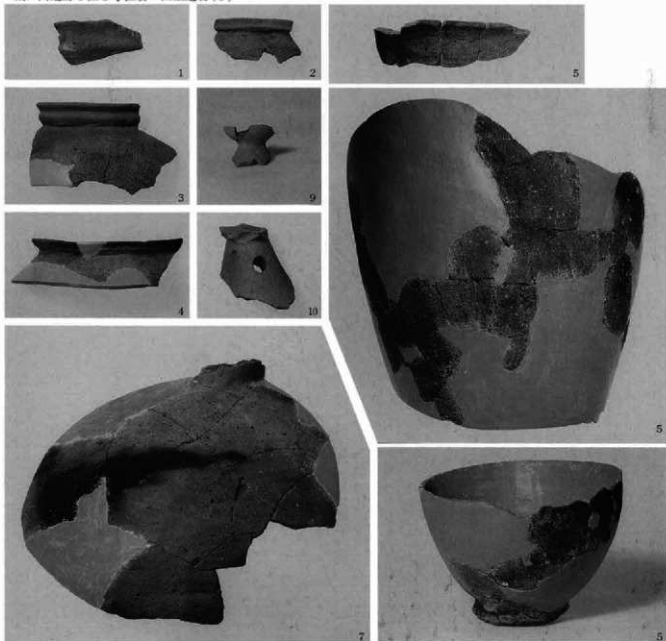
城ノ内遺跡1区1号住居 出土遺物



城ノ内遺跡1区2号住居 出土遺物



城ノ内遺跡1区5号住居 出土遺物(1)



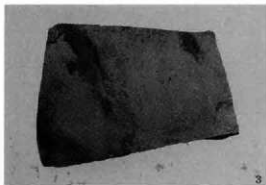
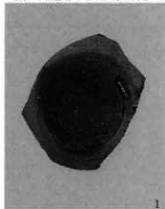
城ノ内遺跡1区5号住居 出土遺物(2)



城ノ内遺跡1区6号住居 出土遺物



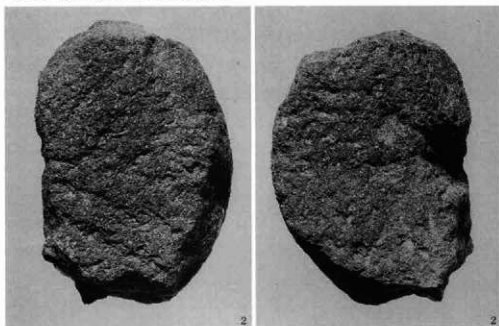
城ノ内遺跡1区6号土坑 出土遺物



城ノ内遺跡1区9号土坑 出土遺物(1)



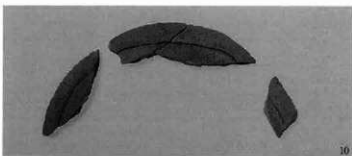
城ノ内遺跡1区9号土坑 出土遺物(2)



城ノ内遺跡1区10号土坑 出土遺物(1)



城ノ内遺跡1区10号土坑 出土遺物(2)



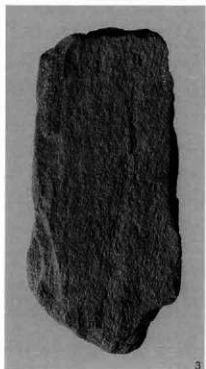
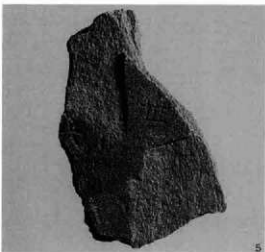
城ノ内遺跡1区12号土坑 出土遺物



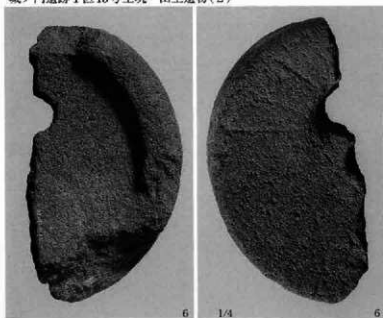
城ノ内遺跡1区13号土坑 出土遺物



城ノ内遺跡1区15号土坑 出土遺物(1)



城ノ内遺跡1区15号土坑 出土遺物(2)



城ノ内遺跡1区17号土坑 出土遺物



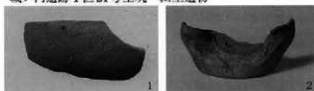
城ノ内遺跡1区18号土坑 出土遺物



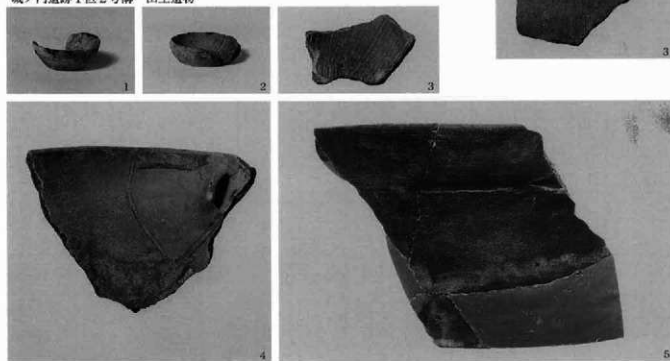
城ノ内遺跡1区19号土坑 出土遺物



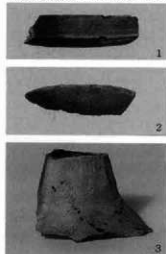
城ノ内遺跡1区21号土坑 出土遺物



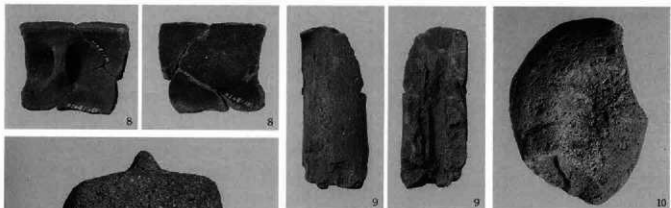
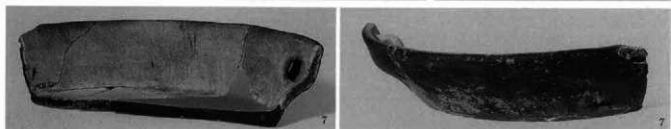
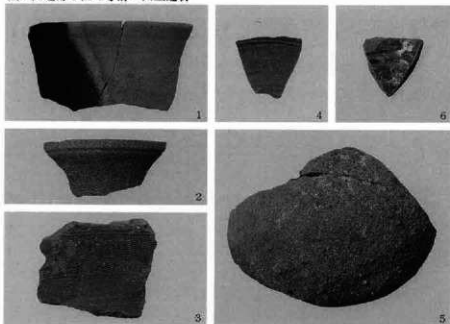
城ノ内遺跡1区2号溝 出土遺物



城ノ内遺跡1区3号溝 出土遺物



城ノ内遺跡1区4号溝 出土遺物



城ノ内遺跡1区5号溝 出土遺物



1

城ノ内遺跡1区51号ピット 出土遺物



1

城ノ内遺跡1区53号ピット 出土遺物



1

城ノ内遺跡1区1号掘立柱建物 出土遺物



1

城ノ内遺跡遺構外 出土遺物(1)



1



3



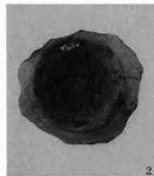
4



6



8



2



5



9



10



1/4

7



11



12



13



14



15

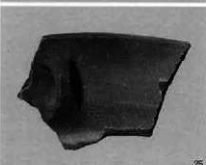
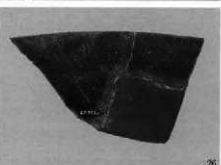


16



17

城ノ内遺跡遺構外 出土遺物(2)



財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告書第360集

塚畑・宮内・稲荷前・三島木・城ノ内遺跡

東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近
連続立体交差事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集

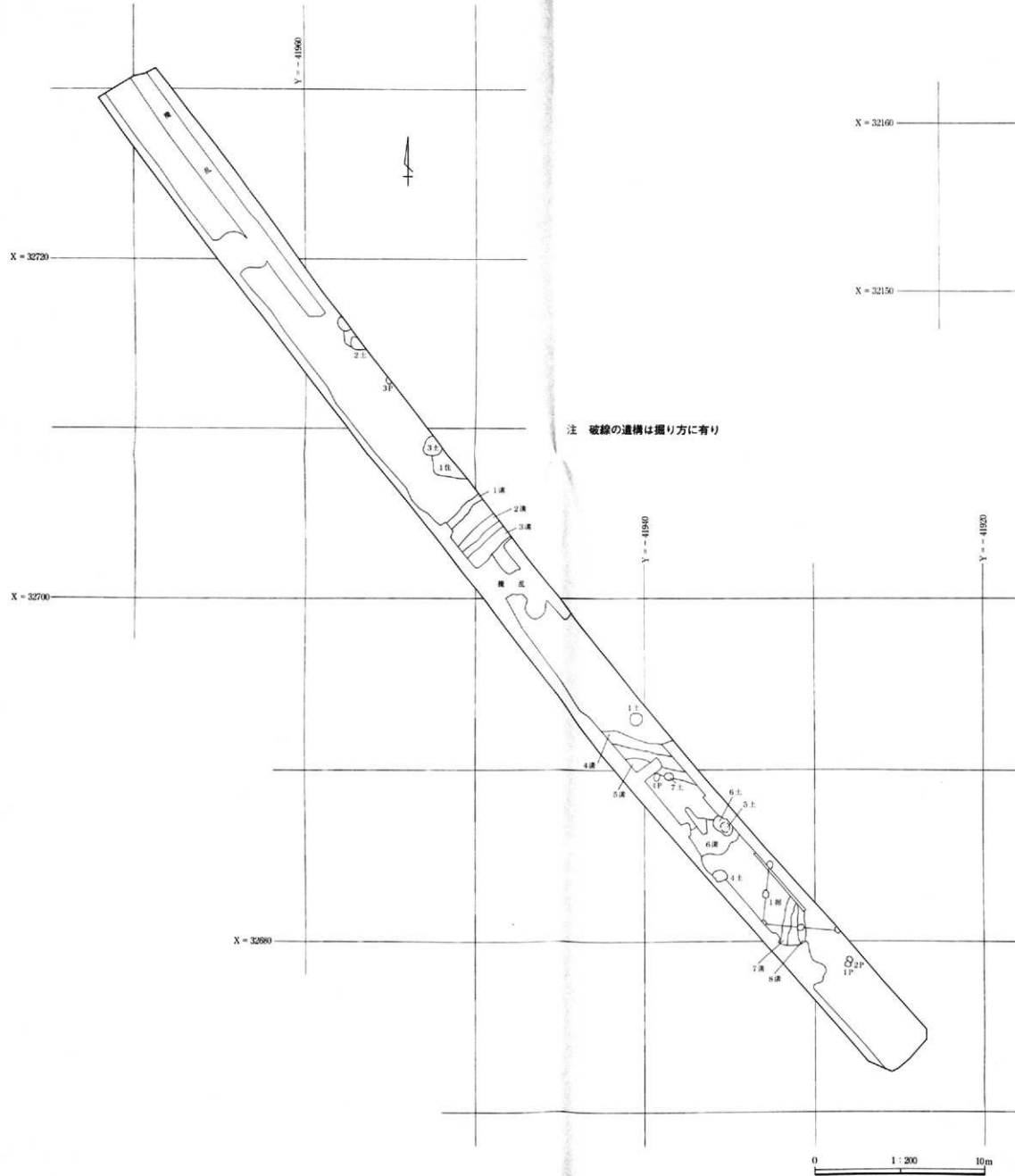
平成18年(2006年)1月24日 印刷
平成18年(2006年)1月31日 発行



発行／編集 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511 (代表)
URL <http://www.gunmaibun.org/>

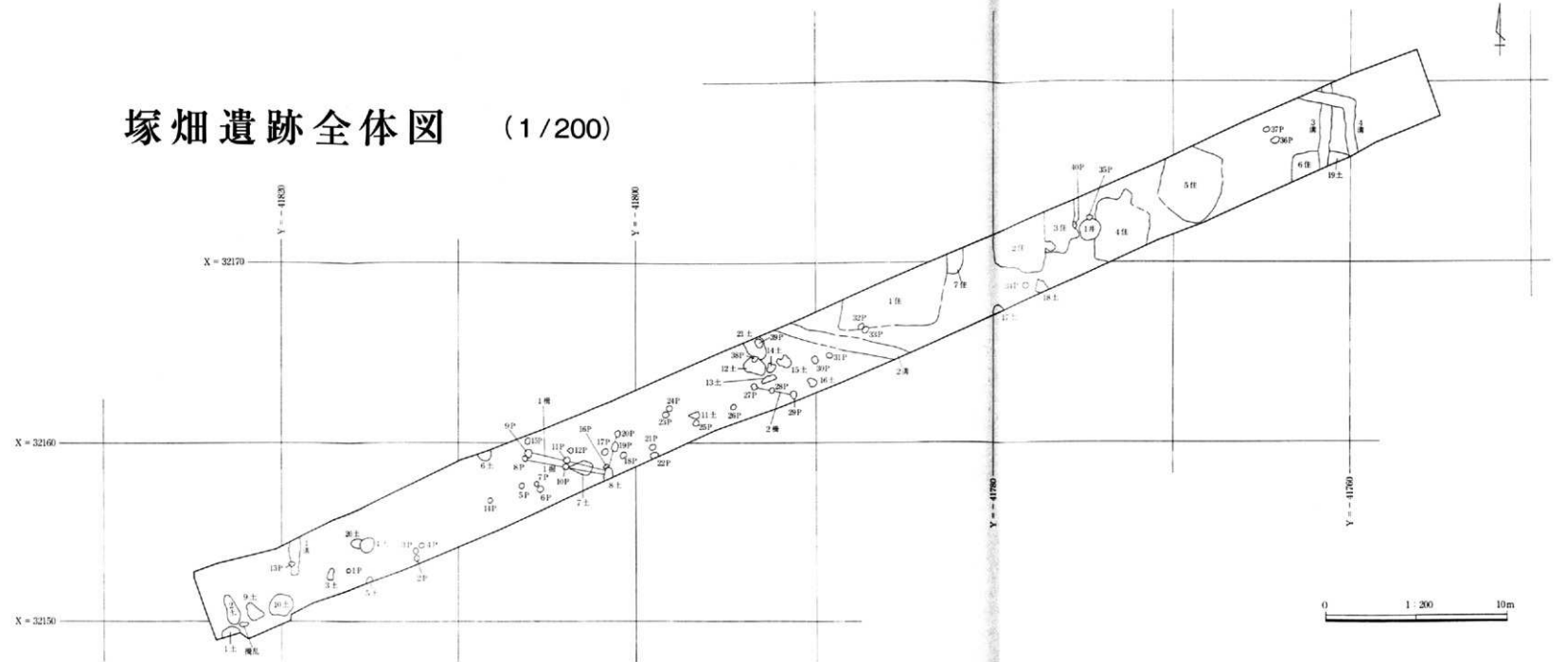
印刷／日本特急印刷株式会社

三島木遺跡全体図 (1/200)

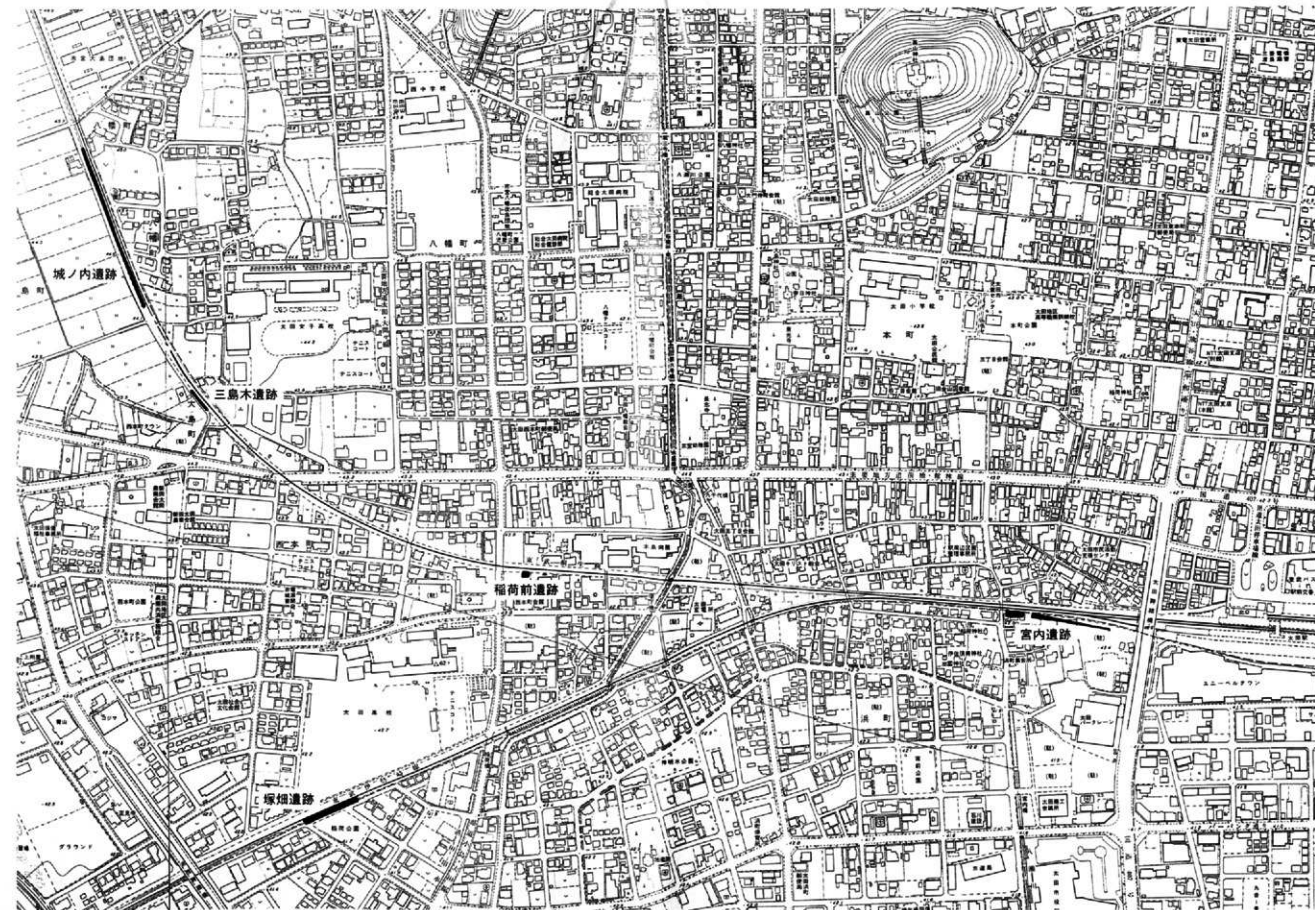


注 破線の遺構は掘り方に有り

塚畑遺跡全体図 (1/200)

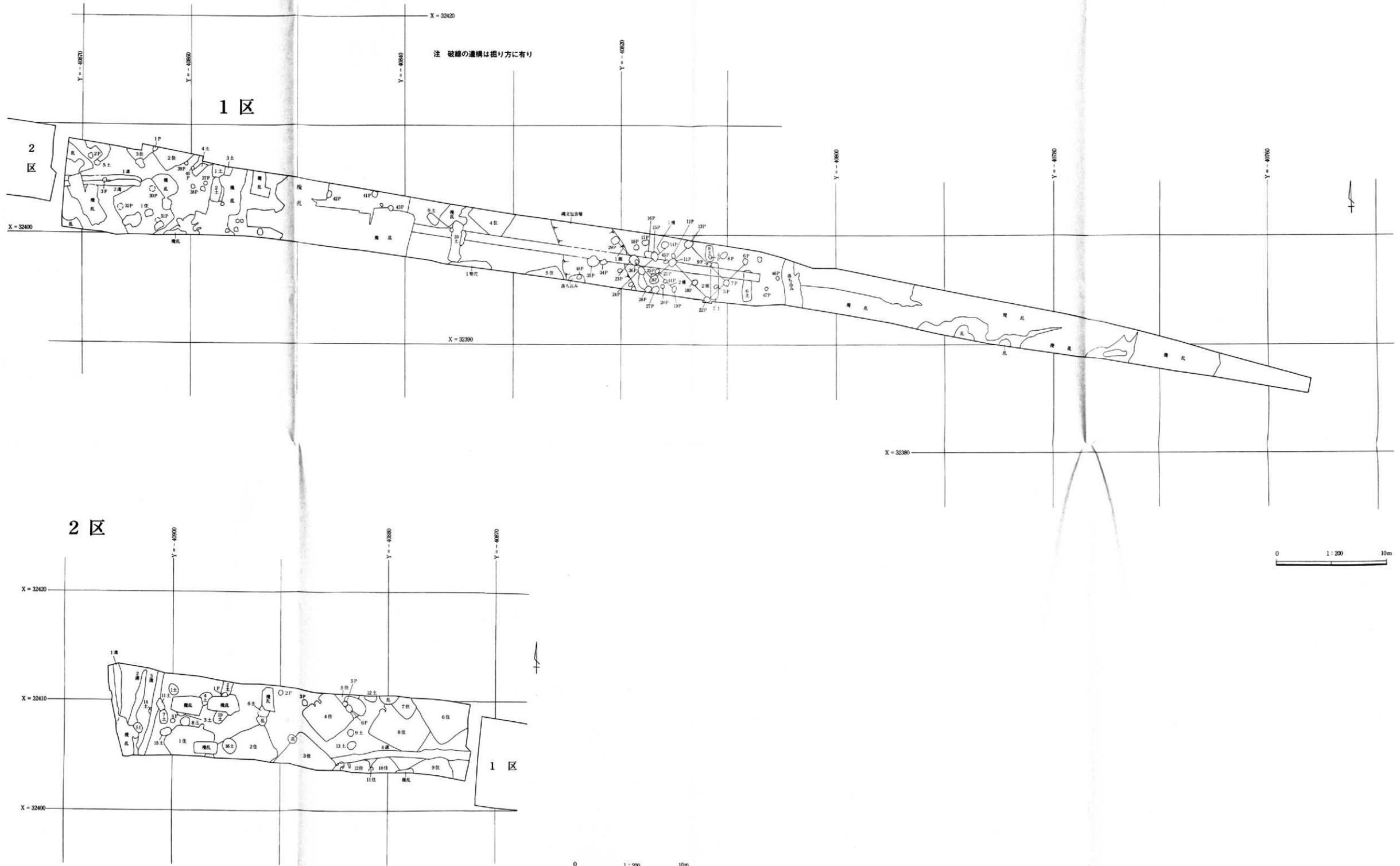


遺跡位置図 (1/5,000)



付 図 2

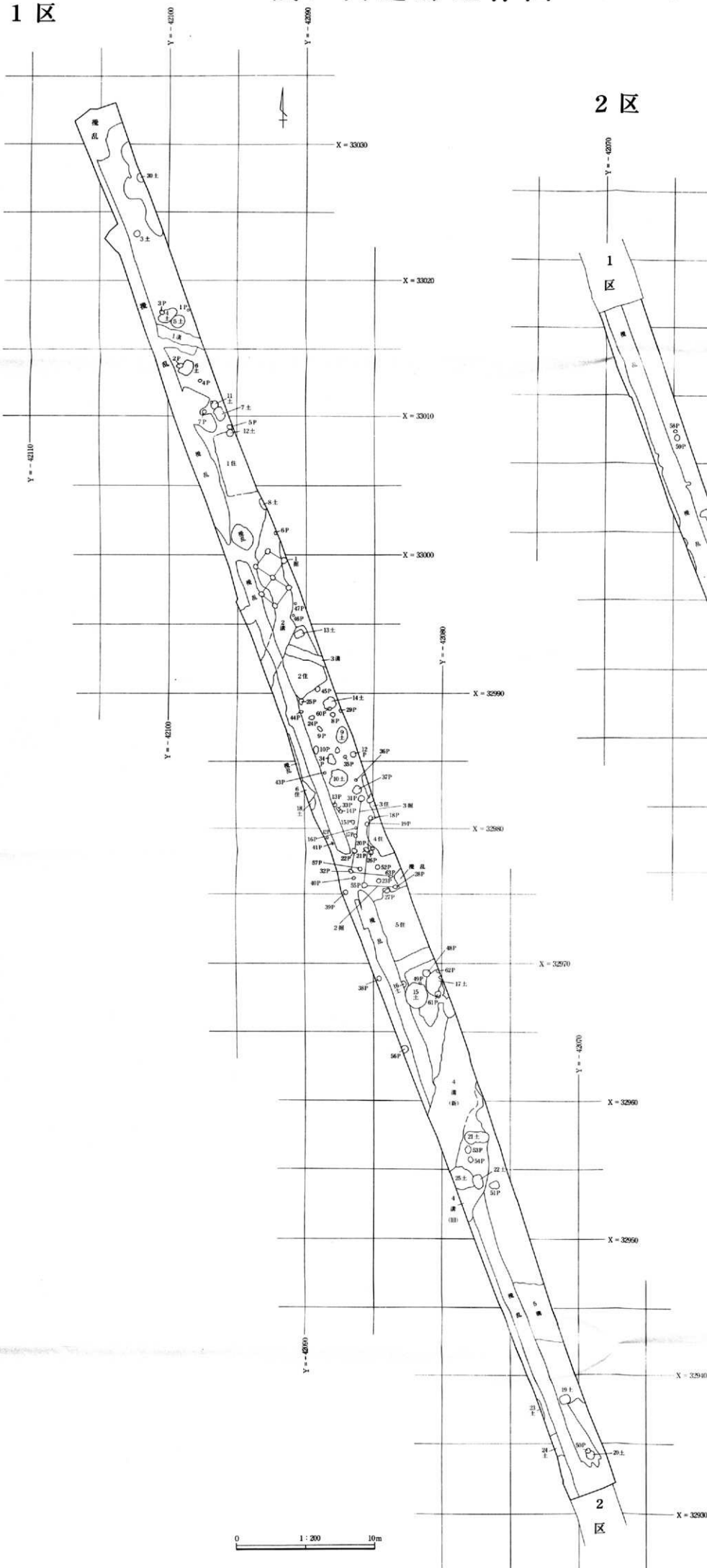
宮内遺跡全体図 (1/200)



付図 3

城ノ内遺跡全体図 (1/200)

1 区



2 区

